



R291.033-081ウ  
\*1200800312642\*

R291.033  
081  
⑤



始





331-455

R 291.033  
O. 81

太田為三郎編

上卷

帝國地名辭典

東京 三省堂發兌

明治  
45 7. 24  
騰求



鐘

指

洪

亦

指洪亦

鐘

鐘



## 序

明治維新以來交通機關の發達と共に我邦内地の人文は時々刻々に進歩して推移變遷の急激なること眞に驚くべきものあり輓近に至りては更に加ふるに臺灣・樺太・朝鮮等新領土の増加を以てす此等各地方の山川・湖海・道路・氣候・政治・産業・交通沿革等の一斑を知得するは即ち我日本の状態に精通する所以にして確實なる常識を養ふの根源亦實に此に存す

然るに從來我邦の地誌なるものを見るに往々甚しく浩漭過ぎて閱覽に便ならず精確にして而かも容易に其要を得べきもの甚少なく多忙繁劇を極むる今日頗る物足らぬ心地せらる

帝國圖書館司書官太田爲三郎氏は篤學の士なり夙に此の闕を補はんことを期し公務の餘暇を以て地名辭書の編纂に著手し殆んど爲めに寢食を忘れて拮据盡瘁すること此に十五年稿を改むること三回にして竟に本書を完成せりと聞く我邦學術の爲めに寄與する所の至大なる固より予の言を待たざる所なり予



や久しく乏を地方行政の職に受く是を以て我邦各地方の地理實狀を知悉するに利便多き本書の刊行を喜ぶこと殊に切なるものあり因て著者の需に應じ聊か一言して以て之が序に充つ

明治四十五年六月

床次竹二郎識す

## 序

辭書の多く出づるは其の邦の文化を測るべき尺度なり、渺茫として際涯なき學界に群籍を聚めて之を討窺するは學者の業なり、一般世人が日常普通の所要を辨ずるは蓋し之を辭書に俟たざるべからず、我が邦近年文運駁々として進み、辭書の出版日に盛んとなり、或は百科辭書あり、或は各種専門の辭書あり、續々世に現はれて世人の知識を増進せしむるは、是れ洵に國家の慶事と謂ふべし、而してこゝに其の一として本書の發行を見る、思ふに歐米各國には既に幾多の人名地名の辭書あり、詳密簡疎各特色あるものあるに拘らず、我が邦にては其の數未だ甚だ少し、殊に地名の辭書に至りては曩に吉田博士の大著ありしも、これ寧ろ大地誌と謂ふべくして、辭書の體にあらず、殊に其の記事過去に詳なるを長所とし、之を地名字書として見んに頗る現今に疎なるの憾あり、其の後此の種の書の世に出でたるもの絶無にはあらざれども、而も未だ完備の域に達するや遠し、然るに近年地理研究の氣運漸く盛にして、各地方に地誌の編纂續々として起り、地名を簡便に搜索するの書を需むること日一日より急にして、社會が此種の書を欲すること蓋し大早の雲霓を望む如きものあり、偶、太田爲三郎氏の新著此の際に出づ、以て世の希望を充たすに足らんか、本書は吉田博士地名辭書の長を採り、更



に多く日常有要なる事項と説明とを加へ之を五十音順に排列して簡便に地名を搜索し得べき方針を採れり是れ大いに余が意を得たるものと謂ふべし氏は久しく東京帝國圖書館にありて、廣く新古の地誌を涉獵し或は之を實地に質し、拮据正に十數年の日子を費して此の大編を成す其の世を裨益すること蓋し頗る大なるものあらんこゝに新に我が主宰する歴史地理學會の研究と密接の關係ある著書の現はれたるを喜び一言を卷首に題す。

明治四十五年五月

日本歴史地理學會長 侯爵 蜂須賀茂韶

## 序

舊知太田爲三郎氏此頃帝國地名辭書の著述を完成し之を余に示さる。乃ち親しく披閱するに堂々一千八百餘頁に亘り無慮四萬有餘の地名を網羅せるは誠に得難き大著なりとす。是れ既往十五年間の日子を費したる獨力研究の餘に成れる好産物にして、此間氏は帝國圖書館の司書官として常に書中の人となり其書庫中に於ける豊富なる材料を採擇するの自由を有せり。隨て集むる所の地名は極めて夥しく、又之に加へたる説明記述も頗る親切なり。曩に世に出でたる吉田氏の地名辭書と比するに其主意組織を異にせる近代の良書にして世人が迂闊に看過する地名に對しても大なる注意を促し、我國民の地理的知識に偉大の新貢獻をなすを認む。

抑、我國の地名が難訓の物たるやアメリカ及びイギリス等の地名よりも遙に卓んで、小山、大山の如きも共に少くも二様の訓み方あり、神戸、別府の如きは少くも三つの讀み方あり、然して世人往々當て訓みと音讀にて相傳へ地名の價値を認めざる事多し。太田氏の書は特に此點に重きを置きたるが如し、又最も精確なる資料統計によりて各地の人情風俗習慣、物産生業等の説明記述を懇切に挿入せられたるは實用の博大を稱讚するに足るべし。余は此書の舊知によりて大成



せられたるを喜びて不文を列ぬる事斯の如し。

明治四十五年五月

神保小虎

### 叙言

頃日三省堂主人より太田氏帝國地名辭典の試刷若干頁を寄せられ、所見を問ひて叙言を徴せらる。蓋此種の編摩に於いて、余に多少の經歷あり了解あるを想ひ、以て一日の長ありと爲し、偶爾之を依囑せらるゝに至る者歟。聞く、太田氏は博洽敏給、夙に帝國圖書館に官仕して令名あり、公務の餘暇、筆を本稿に屬せらるゝこと實に十有五年と、惟ふに既に聰明の資あり、之に加ふるに、寶典秘冊、左右源に逢ふの便宜を占めらる。其材料の取捨、引用の選擇、一に囊中の物を探るに同じからむ。是れ決して、世上尋常操觚者流の企及すべき所に非ず、製作の完好、望みて知るべき也。

因りて又惟ふに、余の前年地書の事に従ふや、朝夕専心、春秋易へず、深く非才の失計を知ると雖、中途に止め難く、厚顔呵氣して僅に一局を結べり。時に舊編を執り之を檢閲するに、心頗飽かず。或は人に譏られ、或は他の怒を引く、皆其故あり。余に於いて偏に忸怩を加へしのみ。去年遂に紙型版の焚滅に會ふ、亦天人の誅伐、當に然るべき者なり。而も今や太田氏の好著の新に出づるあり、代謝の命數昭々たり、復奚ぞ疑はむ。

夫輿地の書冊は容易の業ならず、國郡固より沿革の迹ある多く、山川必滄桑の變



を免れず、則故を温ねて今を知り東に徴して西に推するに非れば、辭典の効用立たず。其天然門に山野河海土石氣候あり、人文門に政治産業交通築造あり、之を實際の存在に考へ之を日新の科學に問ひ、彼此異同の對校、長短體裁の刪定、其艱難煩勞は意料の外に在り。余無似と雖、這般の消息に親驗したれば、坐に太田氏の大業に想ひ及ぼして、其體様は全く異なりと雖、境遇の同情に勝へざる者あり。編摩の事、豈容易ならむや。

今の太田氏の大業は、全帝國の地名を排布して現在の稱呼に因り、解説詳明にして花實具備す。其昭代の政教文運の上に裨益するの功は、固より余輩の贅語に待たず。余は、余の前年刊行の書中に、或は缺き或は謬れる幾多の事項が、斯の新書に由りて補正せらるゝを見て、私心最も致謝寄懷の義あるを知る。則其一言を召さるゝに會へば、不文を以て辭すべからず、卑衷を宣べて之を送ると云ふ爾。請ふ、太田氏も之を納れさせたまへ。

明治壬子の歲六月

吉田東伍書

### 小評

曩に吉田東伍君の地名辭書の成るや、當時余之を評して曰く、余輩はさきに本書一部を以てよく史的の説明を施したる日本各國の地誌を盡く座右に備ふるものと謂ふを得べしと言へり。今にして思ふに、こは著者が舊材料の上に更に精緻なる研究を施されたることを看過したるの言なりき。古蹟を知らんとするものに取りては現在のあらゆる地誌を座右に備ふるも、なほ一部の本書あるに如かざるなり。本書は現在の地誌中、余輩が以て古蹟研究上参考となすに足るべしと思考する材料を殆ど網羅しつくし、更に國史記録古文書等に徴してこれが新研究を加へられたるものなり。……余輩國史地理の研鑽に従事するものが過去に於て既に益を本書に得たるところ少からず。將來益、本書に依頼して、一は以て數多の書籍を繙讀涉獵するの勞を省き、一は以て既往の蒙を啓き研究上の好指針を得べき事の多かるべきを疑はずと、此の言や、今に至りてなほ自ら欺かざるものとして、深く該書の價值を認め、該書によりて多大の利便を得つゝあるなり。然れども、該書は其の實一の大沿革地誌と稱すべきものにして、地名辭書の體にあらず。固より其の完全なる地名索引は、以て其の辭書としての用を辨ずるにりとはいへども、而も其の索めて得べき所多くは所謂古蹟の部類に屬



にして、現在地理上の解説の如きは初より該書の主とする所にあらずれば余輩は、該書を得たる當時に於て既に、其の學界を益する事の多きを喜と共に、更に一層世間的に、該書と並びて現在地理上の解説を施したる良地名書の出でて、彼此相俟ちて過去より現在に涉り、我が大日本帝國地理の知識を完全に供給するあらんことを望むや切なりき。爾來こゝに五閱年、今や始めて太田爲三郎君の本書を見るを得たり。

太田君は多年職を帝國圖書館に奉じ、周ねく新古の地誌を搜索涉獵することに於て最も多くの便宜を有し、所謂地の利を得たるの人なり。而して其の精力の衆に勝れたることは、嘗て著されたる隨筆索引に該書は之を本書に比するに、其の勞十が一にも及ばざるものなれども、||によりて、既に世に認められたるの人なり。今や太田君其の絶倫の精力と絶好の地の利とを以て、公務の餘暇を殆ど本書の編纂にのみ費し、拮据まさに十五年、こゝにはじめて本書を成せるなりと云ふ。本書の價值、此の一事のみを以てするも尙ほ之を察することを得ん。

今本書を採りて之を吉田君の辭書に比するに、本書は其の名の如く地名を五十音順に排列し、一々之が解説を施せる點に於て先づ其の體を異にす。余輩は吉田君の辭書が、一地方に關して纏まりたる知識を與ふる點に於て其の長を認むるも、各地に散在せる同一地名を通じて或る意義ある知識を求むる點に於ては、常

# 欠



# 欠

## 帝國地名辭典 卷上

### ア

ア(阿)【熊本】肥後國天草郡の村。白三三。  
ア(安威)【大阪】攝津國三島郡の村。古の安威郷の一部。大字安威に阿威、山塞あり。藤原鎌足の舊墳にて、方三町許、一堆の丘なり。上に石窟露ぼる。俗に將軍塚と呼ぶ。後大和國多武峰に改葬す。又式内阿爲神社あり。日苗森明神といふ。白二二。  
ア(藍)【兵庫】攝津國有馬郡の村。白三三。  
ア(阿井)【島根】出雲國仁多郡の村。郡の西南なる一山谷に在り。和名抄阿位郷の遺稱なり。大字上阿井町は備後街道に當り。郵便局あり。松江市より一三三。一〇町。此より南、中國山脈を踰ゆれば、備後國新市驛に出て、四すれば飯石郡吉田に至る。白二六。

アイ(阿)【島根】出雲國仁多郡の村。郡の西南なる一山谷に在り。和名抄阿位郷の遺稱なり。大字上阿井町は備後街道に當り。郵便局あり。松江市より一三三。一〇町。此より南、中國山脈を踰ゆれば、備後國新市驛に出て、四すれば飯石郡吉田に至る。白二六。  
アイ(阿井)【島根】出雲國仁多郡の村。郡の西南なる一山谷に在り。和名抄阿位郷の遺稱なり。大字上阿井町は備後街道に當り。郵便局あり。松江市より一三三。一〇町。此より南、中國山脈を踰ゆれば、備後國新市驛に出て、四すれば飯石郡吉田に至る。白二六。  
アイ(阿井)【島根】出雲國仁多郡の村。郡の西南なる一山谷に在り。和名抄阿位郷の遺稱なり。大字上阿井町は備後街道に當り。郵便局あり。松江市より一三三。一〇町。此より南、中國山脈を踰ゆれば、備後國新市驛に出て、四すれば飯石郡吉田に至る。白二六。

アイウチ(相内)【青森】陸奥國北津輕郡の村。大字相内は十三湯の北に在り。小泊街道の一小站とす。郵便局あり。白三三。  
アイオイ(相生)【群馬】上野國山田郡の村。白三三。六。●【岐阜】美濃國郡上郡の村。白三三。八。●【徳島】阿波國那賀郡の村。白三三。九。●【香川】讃岐國大川郡の村。白三三。九。●【愛媛】伊豫國喜多郡の村。白三三。七。●【山梨】甲斐國東八代郡の村。白三三。九。●【滋賀】近江國甲賀郡の村。野洲川の水源地にして、是より東、伊勢國三重郡菟野、水澤に出づるを鮎川越と云ふ。古城址あり。足利義政の庶子大河原又太郎此に居り。大河原谷を領せり。織田氏の時亡ぶ。白三三。四。  
アイカ(秋鹿)【島根】出雲國八束郡の村。宍道湖の北岸に沿ひ。平田街道に當り。警察分署郵便局等あり。松江市より四二里半。大字大垣に式内神社あり。大字岡本に多太神社あり。白三三。二。  
アイカ(鮎川)【滋賀】近江國甲賀郡の村。野洲川の水源地にして、是より東、伊勢國三重郡菟野、水澤に出づるを鮎川越と云ふ。古城址あり。足利義政の庶子大河原又太郎此に居り。大河原谷を領せり。織田氏の時亡ぶ。白三三。四。  
アイカ(秋鹿)【島根】出雲國八束郡の村。宍道湖の北岸に沿ひ。平田街道に當り。警察分署郵便局等あり。松江市より四二里半。大字大垣に式内神社あり。大字岡本に多太神社あり。白三三。二。  
アイカ(鮎川)【滋賀】近江國甲賀郡の村。野洲川の水源地にして、是より東、伊勢國三重郡菟野、水澤に出づるを鮎川越と云ふ。古城址あり。足利義政の庶子大河原又太郎此に居り。大河原谷を領せり。織田氏の時亡ぶ。白三三。四。

アイカ(秋鹿)【島根】出雲國八束郡の村。宍道湖の北岸に沿ひ。平田街道に當り。警察分署郵便局等あり。松江市より四二里半。大字大垣に式内神社あり。大字岡本に多太神社あり。白三三。二。  
アイカ(鮎川)【滋賀】近江國甲賀郡の村。野洲川の水源地にして、是より東、伊勢國三重郡菟野、水澤に出づるを鮎川越と云ふ。古城址あり。足利義政の庶子大河原又太郎此に居り。大河原谷を領せり。織田氏の時亡ぶ。白三三。四。  
アイカ(秋鹿)【島根】出雲國八束郡の村。宍道湖の北岸に沿ひ。平田街道に當り。警察分署郵便局等あり。松江市より四二里半。大字大垣に式内神社あり。大字岡本に多太神社あり。白三三。二。  
アイカ(鮎川)【滋賀】近江國甲賀郡の村。野洲川の水源地にして、是より東、伊勢國三重郡菟野、水澤に出づるを鮎川越と云ふ。古城址あり。足利義政の庶子大河原又太郎此に居り。大河原谷を領せり。織田氏の時亡ぶ。白三三。四。

アイ

アイウ

アイカ

アイ















アオキ

郡の村、白三三、須波村と高根島との間の海峡。一に大木迫門と云ふ潮流稍急にして、逆潮には通船難し。

アオク(青島) 【長野】信濃國北安曇郡美麻村の大字、青木湖の東なる山中にして、姫谷川より長野市に出づる街道に當る。郵便局あり、長野市より八里。

アオクツレトウケ(青嶺峠) 信濃遠江の界に在る峠、高三六八〇尺、信濃國下伊那郡遠山地方より、遠江の水窪地方に出づる山路にして、頗る險峻なり。戦國の頃、武田氏南侵の軍路たり。

アオクラ(青倉) 【群馬】上野國北甘樂郡の村、白三三、【慶手】陸中國上野伊那郡の村、白三三、【静岡】駿河國志太郡の村、郵便局あり、白三三、【富山】越中國東礪波郡の村、白三三、【宮崎】日向國宮崎郡の村、白三三、【肥前】肥前國北松浦郡の島屋鹿村を距る海上十町、周圍一里八町、古名を南島と云へり。此島と鷹島との間を青島水道と云ひ、島の南角と星鹿村との間を津崎水道と呼ぶ。共に伊萬里海の航路とす。●伊豫國喜多郡の島、長濱町に屬す。周圍一里二町。●日向國宮崎郡青島村折生迫の東北七八町に在る島、一帯の砂路を以て相通じ、滿潮の時は孤立して

島となる。周圍一里傾斜せる成層岩より成り、沿岸は怪奇奇石に富み、島中檳榔樹多し。中に廟あり、彦火々出見尊、豐玉姬命、瓊主翁を合祀す。伊東義祐永祿五年此處を過ぎて詠める、薄霧のたへまを見れば秋風に、残る檜や青島の松。

アオシマイ(蒼瑠) 【北海】北見國斜里郡の村、瀧澤沼の濱に在りて、北海岸路の驛次たり。網走郡瀧澤村より二里八分、アオシマイノセト(青島瀬戸) 肥前國伊萬里郡の一角、鷹島南西角附近の魚田、島と青島伊豆島との間に在り。伊豆島より東南東に向ひて、幾と二連の間淺瀬續延し、又青島北端の白岩鼻より東方約四連の地に大野瀬あり、船舶は魚田島に近く航するを常とす。

アオスギシヨウシ(青杉城址) 【島根】濱原を見よ。アオタ(青田) 【福島】岩代國安達郡の村、白三三、【京都】山城國磯原郡の村、延喜式内の古社、粟神、社あり、村名蓋し此より出づ。白三三、【大阪】河内國中河内郡堅上村の大字、大和川に臨み、龜瀨越の山中に在り。延喜式内の古社、金山神社あり、八大金剛童子と號す。

アオチ(青地) 【滋賀】近江國栗太郡の舊庄名、中世佐々木氏の裔青地氏の居所なり、今志津村及治田村に分屬す。アオツ(青津) 【福島】岩代國河沼郡に在りし舊組名、二十六村を總べしが、現今廣

アオシ

郡九倉村の東に在る荒原、今牧場となし、軍馬を育成す。

アオノヤマ(青野山) 石見國鹿足郡の山、津和野町の東に聳ゆ、高四〇九〇尺、一に香山と呼ぶ。

アオハカ(青墓) 【岐阜】青墓を見よ。アオハタキ(青葉瀧) 【奈良】大和國山邊郡東里村大字下笠間の山間に在る瀧、名張川に瀉出す、高五丈五尺幅五尺。

アオバヤマ(青葉山) 陸前國仙臺郡の所在地、●若狭國大飯郡丹後國加佐郡に跨る山、一に彌山といふ、高二三三三尺、安山岩より成れる死火山にして、満山樹木繁茂し、北方より望めば雙峯を顯はし、晴天には約二十里外より認め得べし、双子山又若狭富士と稱す、其南麓を吉坂嶺といふ。

アオハラ(青原) 【島根】石見國鹿足郡の村、津和野川の西岸を占め、山陰街道に當り、其驛を青原といふ、郵便局あり、四に餘れば木部村、東南に赴けば日原驛に達す、横田驛より一里二四町、津和野町へ五里二町、白三三、アオハラトウケ(青原峠) 攝津國有馬郡小野村より丹波國多紀郡小枕に通ずる山路。

アオホリ(青堀) 【千葉】上總國君津郡の村、白三三、【新潟】越後國四頸郡の村、親不知の東なる海岸なり、延喜式の滄海驛に當り、式内青海神社あり、郵便局

アオト

湖川西の二村となる。廣瀬村の大字に青津の名存す。戦國の頃、蘆名氏の臣生江氏の居りし館址あり。

アオト(青戸) 【東京】武藏國南葛飾郡龜青村の大字、中川に沿ひ水戸街道の南に在る。俗に青戸左衛門藤綱の居所と傳ふれども、一説に藤綱は上總國青戸庄を領し、其在名を名乗りしといへば、此所は其領地なるべしと云ふ、近年に至り史學者中に、藤綱の存在を疑ふ者あり。

アオト(青砥) 【神奈川】武藏國都築郡中里村の大字、もと青戸に作る。土人は青砥藤綱の住地なりと稱す。

アオトノイリエ(青戸入江) 若狭國に在る入江、小濱灣を見よ。アオトリ(青島) 【埼玉】武藏國に在りし地名、源平盛衰記に、源賴朝義仲を追て引返せし時、武藏國月田川のはた、青島野に陣を取て云々と見え、古く聞えし地名なり、今武藏國比企郡野木村の大字に下青島あり、上青島の名は近世所見なしと雖ども、隣村唐子村大字石橋に宿青島、内青島の字あり、青島の一部ならんといふ一説、青島はもと青島居に作る、伊古神社の島居ありし所なり。

アオナエ(青苗) 【北海】後志國興部郡興尻村の大字、興尻島の南西隅に位し、青苗灣に臨む、此灣は北及西の風には、島中第一の好錨地とす。

アオナエサキ(青苗岬) 【北海】青根岬を見よ。

アオナ

アオナミ(青波) 【滋賀】近江國犬上郡の村、産根停車場所在地なり、白三三、アオヌマ(青沼) 【長野】信濃國南佐久郡の村、白三三、アオネ(青根) 【神奈川】相模國津久井郡の村、白三三、●宮城、陸前國栗田郡の温泉場、川崎村に屬し、藏王火山の麓に在り、遠刈田温泉場より一里一三町、白石停車場より六里餘、浴室六、泉源三所、鹽類泉にして無色透明、温度攝氏四五度、往時仙臺侯屢來浴し、青根御殿(今不忘閣)あり、浴客一年五萬人に上る。

アオネサキ(青根岬) 【北海】後志國興部郡興尻島の南角、又青苗岬ともいふ。水路志云、青苗岬は興尻島の南端なる最低角にして、約一里南方に斗出し、礁脈之を圍繞す。岬端より南方約四連の間、岩礁斗出し、殆ど低潮に洗ふ、夫より尙六連は淺水にして、最外端に水深二尋の孤立暗岩あり、室津島は青苗岬より二連二連の一簇岩なり、其北面に位するを森磯島といひ、高二六呎にして、巖中の最高なり、該最高岩より東方西方及南方へ險惡地擴延す。該巖岩と青苗岬の二尋點瀨との間は、幅約八連、船舶の通過すべき處にあらず。

アオネタケ(青根嶽) 相模國津久井郡に在る山、郡の西南を屏障し、西は大群山、南は丹澤山に至る、高二八三八尺、仲夏に至らざれば雪消えず、又補平といふ。

アオノ(青野) 【愛知】三河國碧海郡に在りし村、明治三十九年六ツ美村に入る。●静岡、駿河國駿東郡靈根村の大字、愛靈山の麓に在り、東鑑に見ゆる阿野法橋全成の居りし阿野の轉訛せるならんといふ、全成の住院と傳ふる大泉寺は浮島村大字井出に在り。●岐阜、美濃國不破郡青墓村の大字、古青野が原と呼びし地なり、延元元年北畠顯家奥州勢を以て、足利勢を破りし所とす。此地に國分寺址あり、今金銀山(眞言宗小刹)あり、古の堂宇は、仁和三年燒失し、其礎は今の門前の地なりと云ふ。正徹の慰草に、青野が原に出たれば、國の堺はるかに、南の方ばるばると山も見えず、命あらば花にかへらむ、夏草の、青野が原をけふは行くとも、又魏孝の覽富士記に、青野が原とがやに、鹿のね遙に聞ゆ、鹿そなく青野が原の青つづら、くるもしられぬ妻をうらみて、●岡山、備中國後月郡の村、白三三、アオノゴウ(青郷) 【福井】若狭國大飯郡の村、古の阿遠郷の遺稱にして、高濱村の西なる海岸なり、關屋川此處に至り、地中を潜行して海に出づ。大字日置に大成寺あり、觀應二年華陽和尚(足利尊氏)の同胞の開基といふ、臨濟宗の名刹なり、大字中山に中山寺あり、養老三年泰澄大師の開基といふ、古義眞言宗にして馬頭觀音を本尊とす、白三三、アオノハラ(青野原) 【兵庫】播磨國加西

あり、此地より出づる石灰岩は細粒緻密、煤炭期のフズリナ種に屬す、近年之を燒て盛にセメントを製出する、白三三、アオミガワ(青海川) 【新潟】越後國中頸城郡米山村の大字、米山山腹の一驛にして、近年其下に北越鐵道の停車場を設く、其海上には無數の岩礁横はり、所謂福浦八景あり、風指の勝地とす。

アオミカワ(青海川) 越後國西頸城郡の川、水源、大ヶ岳雪倉倉谷の谿谷、青海村に至り海に入る。

アオミツ(青海郡) 【愛知】三河國十郡の一、四境東は額田、幡豆二郡、北は四加茂郡、西北は尾張國知多、愛知二郡、西及南は衣浦、多摩郡の一部、面積一八方里、行政上、知立、刈谷、高濱、矢作、安城、新川、大濱の七町及依佐美、明治櫻井、六ツ美、上郷、高岡、富士松、旭、柳尾の九村に分ち、郡役所を知立町に置く。白三三、アオミツ(青海郡) 地勢本郡は國の西南部を占め、第四紀古層の高地より成り、もと水利甚だ悪しきを以て、安城、原等原野多く、海岸地方の外は、發展極めて遅かりしが、維新後、明治用水の開通以來、荒蕪の地良田となるもの多く、産業頗る發達して、今は三河國中第一の實力を有するに至れり。産業は農を第一とし、工業、水産之に次ぐ。農産物は米を第一とし、收穫二六萬石、一反の收穫殆ど四石に及ぶものあり、其他大豆、落花生、甘藷等あり、蠶業亦行はれ、繭收穫一萬八千石に及ぶ、工業、品

は木綿織物を第一とし、一年産額一三六萬圓に達す、其他生絲、瓦煉、陶器、酒、大濱地方等、水産物は衣ヶ浦の魚類を主とし、價格一〇萬圓に及ぶ、又櫻井、一六町あり、道路は東海道郡を北西に斜通し、矢作、知立の二宿を貫き、鐵道は其南に殆ど并行し、刈谷、安城の二驛あり、碧海は姓氏録に青海に作る。和名抄は阿乎美と註し、智立、桑女(采女の誤)、利部、依網、鷲取、谷部、大市、碧海、檜、若見、河内、櫻井、太岡、藤野の一四郷及驛家に分ち、今不明のもの多し、後世幡豆郡の大川、大濱二郷本郡に入り、藤野郷は加茂郡に入る。

アオモリケン(青森縣) 本州最北端の縣、四境、南は岩手、秋田の二縣、東は太平洋、西は日本海、北は津輕海峽を隔て、北海道の渡島半島に對す。東經一三九度五四分、一四一度三三分、北緯四〇度二一分、一四一度三一分、東西五八里七町、南北四三三二町、面積八七一一方里四五。行政上、青森、弘前の二市及東津輕、西津輕、中津輕、南津輕、北津輕、上北、下北、三市の八郡に分ち、縣廳を青森市に置く、白三三、四六七、二六二、

地勢、地形、下北津輕の二半島、兩角の如く、長く左右に斗出して、其間に青森灣を擁し、奥羽脊梁山脈の中央を南北に互り、地勢を東西に分ち、東部は北下北、三市の三郡にして、太平洋海岸に沿ひて長く連り多くは廣漠たる原野を成し、

アオノ

アオノ

アオミ

アオメ







アカイ

アカイケガワ(赤池川) 豊前國に在る彦山川の一名。
アカイケタンザン(赤池炭山) 豊前國田川郡上野村外二村に亘る炭山。金田驛へ東一哩中泉驛へ二哩直方驛へ四哩を隔つ。明治四十一年に於ける鐵道二三八、八四五九坪、使用鐵道夫九八二人、女工四六二人、産額一七、五七二九佛噸、價五二萬六千圓(本邦鐵業一斑)。

アカイシ(赤石) 【北海】後志國奥尻郡奥尻村の大字。●【北海】後志國古宇郡神恵内村の大字、アイヌ名フレシユマ、大岩の義。古墳の北一里餘の漁村なり。●【巖手】陸奥國紫波郡の村、日詰停車場所在地。合三七七。●【青森】陸奥國西津輕郡の村、合三七七。

アカイシガワ(赤石川) 陸奥國西津輕郡に在る川。水源、羽後國界なる泊岳。北東流して赤石村に至り、日本海に入る。流程一四里。

アカイシコウザン(赤石鑛山) 陸奥國和賀郡湯田村に在る鑛山。槻澤川の溪間に位し、澤内村大字新町より一里を隔つ。地質は流紋岩より成り、無數の細鍾をなし、其露頭は過酸化鐵礦に變質し、其一部は雲母鐵礦に屬す。明治四十一年の採掘面積九、四五四〇坪、採鐵高六、八三七〇貫、製出額九九七九(四九八七圓)、銀一一一(一、一七四圓)なり。

アカイシヤマ(赤石山) 信濃國下伊奈郡

アカイ

駿河國安倍郡に跨る山。海拔二、二〇七尺。大井、天龍二川の分水嶺にして、山脈南北に延き、北は釜澤岳間ノ山荒川岳、三ツ峯岳及仙丈ヶ岳等となり、南は大無間山及黒帽子山等となる。信濃諏訪湖畔より遠江日根まで約四〇里、富士帯と木曾山脈との中間に延長す。是を赤石山脈といふ。

赤石山の記(小島島水、山岳) 第一卷一號、赤石山系(中村新太郎、山岳) 第四卷二號、北面より遠望したる赤石山系(成瀬、山岳) 第二卷三號、アカイダケ(關井、山岳) 駿城國石城郡に在る山。赤井岳又阿加井岳に作る、平町の北方に當り、高二四〇六尺。阿武隈山脈の一峯にして、夏井川其麓を流る。山中に有名なる常福寺(薬師堂)あり。

アカイワ(赤岩) 【樺太】大泊支廳長濱出張所管内に在る瀧場亞庭灣の東岸に位す。舊稱フレツマ。同名の岬あり。●【埼玉】武藏國北葛飾郡松伏領村の大字。古利根川に沿ふ。天正の頃は宿驛にて赤岩新宿と稱せしこと、大泉院文書等にて知らる。其頃は築田氏の所領なりしと云ふ。●【宮城】陸奥國本郡松岩村の大字。中世熊谷直實の嫡流此所に居り、桃生本吉二郡の内を領す。貞治年中葛西氏の臣となり、葛西氏亡び、伊達氏に仕へ、代々郡宰たり。●【福島】岩代國信夫郡庭坂村に在る鐵道奥羽本線の驛。庭坂驛より四哩八、板谷驛へ四哩四。

アカイ

アカイワゲン(赤岩嶺) 【岡山】備前國六郡の一。四境東は和氣郡西は御津郡、南は上道郡、北は美作國勝田・久米の二郡。面積二一、四三三、行政上、四高月高陽鳥取上西山、輕部、備前、周田、山方、仁堀、布部、美竹、五城、高城、佐伯、北佐伯、本佐伯、上石生、豊田、小野田、可真、太田、吉岡、物理、瀧瀬の二四村に分ち、郡役所を輕部村に置く。合四三三。地勢、本郡は東大川、西大川に夾まれたる地にして、北境は山岳起伏すれど、東大川の沿岸及砂川の流域は平坦肥沃にして耕作に適す。山岳は東北に大玉山、其北に稻藁山あり、南部に城段山、高倉山あり、美作國境には龍天山、大平山あり、河流は左右に二大河を控へ、中央に砂川あり、道路は美作別街道岡山より來り、澤原佐伯を経て和氣郡に入る。鐵道は山陽線郡の東南隅を通過し、萬富瀨戸の二驛を経て上道郡に入る。農産物は米、麥、粟、甘藷、桃、梨、柿、葡萄、繭、工産物は織物を第一とし、其他瓦、清酒、醬油、刺煙草あり、薪炭材一〇萬圓に及ぶ。本郡は上古磐城縣の域内なりしが、國郡制の際赤坂郡となり、後赤坂郡を置き、又藤原の西郡を割きて磐城郡を置き、明治三十三年赤坂磐城の二郡を合し、赤坂郡の新稱を立つ。

アカウシガタケ(赤牛ヶ岳) 越中國上新川郡に在る山。藥師岳に隣れる石山にして、赤緒草木を生ぜず。

アカウシカサキ(赤牛ヶ崎) 【福井】若狭國大飯郡の岬。一に赤栗崎に作る。小濱灣の西側に突出す。其岬邊に一大岩あり、赤色を呈す。

アカウ

アカウラ(赤浦) 【樺太】敷香支廳大泊出張所管内東海岸の漁村。舊稱アカラ。
アカウラ(阿賀浦) 【新潟】越後國中蒲原郡の村。合二五九。
アカエ(赤江) 【島根】出雲國能義郡の村。合二五九。●【宮崎】日向國宮崎郡の村。大淀川の河口南岸に沿ひ、赤江港に瀕す。港内は泥沙堆塞し、大船を入るゝ能はず。主なる輸出品は米、生絲、木材、輸入品は砂糖、酒、煙草、炭、服、食鹽、石油とす。縣立農學校農事試験場あり。合二五九。

アカエカワ(赤江川) 日向國に在る大淀川の一名。
アカオ(赤尾) 【滋賀】近江國伊香郡伊香具村の大字。戰國の頃淺井亮政の兄政政居り、赤尾駿河守と稱せり。其子美作守清綱は淺井三傑の一人にて、號名あり。

アカオ(赤尾) 【兵庫】赤穂を以て見よ。
アカオ(英) 【兵庫】播磨國飾磨郡の村。古の英賀郷の一部なり。飾磨町の西、夢前川の河口に在り、英賀神社あり、伊和大神の子阿賀比古阿賀比賣二神を祀る。大字中濱に古城址あり、赤松の幕下三木通近より九代通秋までの居城と云ふ。天正八年羽柴氏に亡はさる。合三三三。
アカオカ(赤岡) 【高知】土佐國香美郡の町。徳島南街道に當り、高知を距る五里一町。郡中第一の繁華の地にして、郡役所警察署、區裁判所、郵便局等あり、手結崎の隆に泊地あり。合三三三。
アカオギ(赤尾木) 【鹿児島】大隅國大島

アカウ

アカキ

アカキコ(赤城湖) 大塚を見よ。
アカキサン(赤城山) 上野國利根郡多二郡に跨る火山。榛名、妙義と併稱して、上野三山と呼ぶ。南は關東平野に向ひて長く裾野を引き、西は利根川を隔てて榛名山と相對し、北は日光火山脈に連る。山谷は二重式火山を成し、外輪山は黒檜山(六、二四七尺)、駒ヶ岳(五、三九二尺)、五輪嶺(五、〇五九尺)、野坂峠(五、五七五尺)を連れて、一線を劃し、其間中に舊火口あり、稍東南に偏して、地蔵山(六、〇七六尺)の中央火口あり。火口原の大部分は、今水を湛へて赤城湖となり、其他は新阪、愛宕の如き豁谷を成す。赤城湖(俗稱大沼)は東西一五町、南北九町、周圍一里二町、曲玉狀を成し、餘水は西南隅に決し、野坂峠の西に於て外輪山を破り、沼尾川となりて利根川に入る。湖の東岸に近く、小島ヶ島と呼ぶ一小島あり。湖畔に赤城神社あり。湖水は冬季凍結せる厚さ數尺に及ぶを以て、伐採して盛に東京地方に輸送す。又夏季は湖面の氣候寒冷なるを以て、水蒸氣凝結して、屢霧の鎖す所となる。小沼は赤城湖の東南、地蔵山の東麓に在り。東西二町、南北三町、周圍九町。此湖は寄生的に噴出せる火口に、水の満へたるものにして、之を繞れる長七郎山、小地蔵山は其火口壁なり。荒山の西南に鍋割山あり。前橋市より望みて最前面に横はる。高四八九〇尺。是れ荒山の椿岩流の積きなりとす。又鍋割山の北、沼尾火

アカキコ(赤城湖) 大塚を見よ。
アカキサン(赤城山) 上野國利根郡多二郡に跨る火山。榛名、妙義と併稱して、上野三山と呼ぶ。南は關東平野に向ひて長く裾野を引き、西は利根川を隔てて榛名山と相對し、北は日光火山脈に連る。山谷は二重式火山を成し、外輪山は黒檜山(六、二四七尺)、駒ヶ岳(五、三九二尺)、五輪嶺(五、〇五九尺)、野坂峠(五、五七五尺)を連れて、一線を劃し、其間中に舊火口あり、稍東南に偏して、地蔵山(六、〇七六尺)の中央火口あり。火口原の大部分は、今水を湛へて赤城湖となり、其他は新阪、愛宕の如き豁谷を成す。赤城湖(俗稱大沼)は東西一五町、南北九町、周圍一里二町、曲玉狀を成し、餘水は西南隅に決し、野坂峠の西に於て外輪山を破り、沼尾川となりて利根川に入る。湖の東岸に近く、小島ヶ島と呼ぶ一小島あり。湖畔に赤城神社あり。湖水は冬季凍結せる厚さ數尺に及ぶを以て、伐採して盛に東京地方に輸送す。又夏季は湖面の氣候寒冷なるを以て、水蒸氣凝結して、屢霧の鎖す所となる。小沼は赤城湖の東南、地蔵山の東麓に在り。東西二町、南北三町、周圍九町。此湖は寄生的に噴出せる火口に、水の満へたるものにして、之を繞れる長七郎山、小地蔵山は其火口壁なり。荒山の西南に鍋割山あり。前橋市より望みて最前面に横はる。高四八九〇尺。是れ荒山の椿岩流の積きなりとす。又鍋割山の北、沼尾火

アカキコ(赤城湖) 大塚を見よ。
アカキサン(赤城山) 上野國利根郡多二郡に跨る火山。榛名、妙義と併稱して、上野三山と呼ぶ。南は關東平野に向ひて長く裾野を引き、西は利根川を隔てて榛名山と相對し、北は日光火山脈に連る。山谷は二重式火山を成し、外輪山は黒檜山(六、二四七尺)、駒ヶ岳(五、三九二尺)、五輪嶺(五、〇五九尺)、野坂峠(五、五七五尺)を連れて、一線を劃し、其間中に舊火口あり、稍東南に偏して、地蔵山(六、〇七六尺)の中央火口あり。火口原の大部分は、今水を湛へて赤城湖となり、其他は新阪、愛宕の如き豁谷を成す。赤城湖(俗稱大沼)は東西一五町、南北九町、周圍一里二町、曲玉狀を成し、餘水は西南隅に決し、野坂峠の西に於て外輪山を破り、沼尾川となりて利根川に入る。湖の東岸に近く、小島ヶ島と呼ぶ一小島あり。湖畔に赤城神社あり。湖水は冬季凍結せる厚さ數尺に及ぶを以て、伐採して盛に東京地方に輸送す。又夏季は湖面の氣候寒冷なるを以て、水蒸氣凝結して、屢霧の鎖す所となる。小沼は赤城湖の東南、地蔵山の東麓に在り。東西二町、南北三町、周圍九町。此湖は寄生的に噴出せる火口に、水の満へたるものにして、之を繞れる長七郎山、小地蔵山は其火口壁なり。荒山の西南に鍋割山あり。前橋市より望みて最前面に横はる。高四八九〇尺。是れ荒山の椿岩流の積きなりとす。又鍋割山の北、沼尾火

アカキ

アカキコ(赤城湖) 大塚を見よ。
アカキサン(赤城山) 上野國利根郡多二郡に跨る火山。榛名、妙義と併稱して、上野三山と呼ぶ。南は關東平野に向ひて長く裾野を引き、西は利根川を隔てて榛名山と相對し、北は日光火山脈に連る。山谷は二重式火山を成し、外輪山は黒檜山(六、二四七尺)、駒ヶ岳(五、三九二尺)、五輪嶺(五、〇五九尺)、野坂峠(五、五七五尺)を連れて、一線を劃し、其間中に舊火口あり、稍東南に偏して、地蔵山(六、〇七六尺)の中央火口あり。火口原の大部分は、今水を湛へて赤城湖となり、其他は新阪、愛宕の如き豁谷を成す。赤城湖(俗稱大沼)は東西一五町、南北九町、周圍一里二町、曲玉狀を成し、餘水は西南隅に決し、野坂峠の西に於て外輪山を破り、沼尾川となりて利根川に入る。湖の東岸に近く、小島ヶ島と呼ぶ一小島あり。湖畔に赤城神社あり。湖水は冬季凍結せる厚さ數尺に及ぶを以て、伐採して盛に東京地方に輸送す。又夏季は湖面の氣候寒冷なるを以て、水蒸氣凝結して、屢霧の鎖す所となる。小沼は赤城湖の東南、地蔵山の東麓に在り。東西二町、南北三町、周圍九町。此湖は寄生的に噴出せる火口に、水の満へたるものにして、之を繞れる長七郎山、小地蔵山は其火口壁なり。荒山の西南に鍋割山あり。前橋市より望みて最前面に横はる。高四八九〇尺。是れ荒山の椿岩流の積きなりとす。又鍋割山の北、沼尾火

アカキコ(赤城湖) 大塚を見よ。
アカキサン(赤城山) 上野國利根郡多二郡に跨る火山。榛名、妙義と併稱して、上野三山と呼ぶ。南は關東平野に向ひて長く裾野を引き、西は利根川を隔てて榛名山と相對し、北は日光火山脈に連る。山谷は二重式火山を成し、外輪山は黒檜山(六、二四七尺)、駒ヶ岳(五、三九二尺)、五輪嶺(五、〇五九尺)、野坂峠(五、五七五尺)を連れて、一線を劃し、其間中に舊火口あり、稍東南に偏して、地蔵山(六、〇七六尺)の中央火口あり。火口原の大部分は、今水を湛へて赤城湖となり、其他は新阪、愛宕の如き豁谷を成す。赤城湖(俗稱大沼)は東西一五町、南北九町、周圍一里二町、曲玉狀を成し、餘水は西南隅に決し、野坂峠の西に於て外輪山を破り、沼尾川となりて利根川に入る。湖の東岸に近く、小島ヶ島と呼ぶ一小島あり。湖畔に赤城神社あり。湖水は冬季凍結せる厚さ數尺に及ぶを以て、伐採して盛に東京地方に輸送す。又夏季は湖面の氣候寒冷なるを以て、水蒸氣凝結して、屢霧の鎖す所となる。小沼は赤城湖の東南、地蔵山の東麓に在り。東西二町、南北三町、周圍九町。此湖は寄式的に噴出せる火口に、水の満へたるものにして、之を繞れる長七郎山、小地蔵山は其火口壁なり。荒山の西南に鍋割山あり。前橋市より望みて最前面に横はる。高四八九〇尺。是れ荒山の椿岩流の積きなりとす。又鍋割山の北、沼尾火

アカキコ(赤城湖) 大塚を見よ。
アカキサン(赤城山) 上野國利根郡多二郡に跨る火山。榛名、妙義と併稱して、上野三山と呼ぶ。南は關東平野に向ひて長く裾野を引き、西は利根川を隔てて榛名山と相對し、北は日光火山脈に連る。山谷は二重式火山を成し、外輪山は黒檜山(六、二四七尺)、駒ヶ岳(五、三九二尺)、五輪嶺(五、〇五九尺)、野坂峠(五、五七五尺)を連れて、一線を劃し、其間中に舊火口あり、稍東南に偏して、地蔵山(六、〇七六尺)の中央火口あり。火口原の大部分は、今水を湛へて赤城湖となり、其他は新阪、愛宕の如き豁谷を成す。赤城湖(俗稱大沼)は東西一五町、南北九町、周圍一里二町、曲玉狀を成し、餘水は西南隅に決し、野坂峠の西に於て外輪山を破り、沼尾川となりて利根川に入る。湖の東岸に近く、小島ヶ島と呼ぶ一小島あり。湖畔に赤城神社あり。湖水は冬季凍結せる厚さ數尺に及ぶを以て、伐採して盛に東京地方に輸送す。又夏季は湖面の氣候寒冷なるを以て、水蒸氣凝結して、屢霧の鎖す所となる。小沼は赤城湖の東南、地蔵山の東麓に在り。東西二町、南北三町、周圍九町。此湖は寄式的に噴出せる火口に、水の満へたるものにして、之を繞れる長七郎山、小地蔵山は其火口壁なり。荒山の西南に鍋割山あり。前橋市より望みて最前面に横はる。高四八九〇尺。是れ荒山の椿岩流の積きなりとす。又鍋割山の北、沼尾火

アカキ

アカキコ(赤城湖) 大塚を見よ。
アカキサン(赤城山) 上野國利根郡多二郡に跨る火山。榛名、妙義と併稱して、上野三山と呼ぶ。南は關東平野に向ひて長く裾野を引き、西は利根川を隔てて榛名山と相對し、北は日光火山脈に連る。山谷は二重式火山を成し、外輪山は黒檜山(六、二四七尺)、駒ヶ岳(五、三九二尺)、五輪嶺(五、〇五九尺)、野坂峠(五、五七五尺)を連れて、一線を劃し、其間中に舊火口あり、稍東南に偏して、地蔵山(六、〇七六尺)の中央火口あり。火口原の大部分は、今水を湛へて赤城湖となり、其他は新阪、愛宕の如き豁谷を成す。赤城湖(俗稱大沼)は東西一五町、南北九町、周圍一里二町、曲玉狀を成し、餘水は西南隅に決し、野坂峠の西に於て外輪山を破り、沼尾川となりて利根川に入る。湖の東岸に近く、小島ヶ島と呼ぶ一小島あり。湖畔に赤城神社あり。湖水は冬季凍結せる厚さ數尺に及ぶを以て、伐採して盛に東京地方に輸送す。又夏季は湖面の氣候寒冷なるを以て、水蒸氣凝結して、屢霧の鎖す所となる。小沼は赤城湖の東南、地蔵山の東麓に在り。東西二町、南北三町、周圍九町。此湖は寄式的に噴出せる火口に、水の満へたるものにして、之を繞れる長七郎山、小地蔵山は其火口壁なり。荒山の西南に鍋割山あり。前橋市より望みて最前面に横はる。高四八九〇尺。是れ荒山の椿岩流の積きなりとす。又鍋割山の北、沼尾火

アカキコ(赤城湖) 大塚を見よ。
アカキサン(赤城山) 上野國利根郡多二郡に跨る火山。榛名、妙義と併稱して、上野三山と呼ぶ。南は關東平野に向ひて長く裾野を引き、西は利根川を隔てて榛名山と相對し、北は日光火山脈に連る。山谷は二重式火山を成し、外輪山は黒檜山(六、二四七尺)、駒ヶ岳(五、三九二尺)、五輪嶺(五、〇五九尺)、野坂峠(五、五七五尺)を連れて、一線を劃し、其間中に舊火口あり、稍東南に偏して、地蔵山(六、〇七六尺)の中央火口あり。火口原の大部分は、今水を湛へて赤城湖となり、其他は新阪、愛宕の如き豁谷を成す。赤城湖(俗稱大沼)は東西一五町、南北九町、周圍一里二町、曲玉狀を成し、餘水は西南隅に決し、野坂峠の西に於て外輪山を破り、沼尾川となりて利根川に入る。湖の東岸に近く、小島ヶ島と呼ぶ一小島あり。湖畔に赤城神社あり。湖水は冬季凍結せる厚さ數尺に及ぶを以て、伐採して盛に東京地方に輸送す。又夏季は湖面の氣候寒冷なるを以て、水蒸氣凝結して、屢霧の鎖す所となる。小沼は赤城湖の東南、地蔵山の東麓に在り。東西二町、南北三町、周圍九町。此湖は寄式的に噴出せる火口に、水の満へたるものにして、之を繞れる長七郎山、小地蔵山は其火口壁なり。荒山の西南に鍋割山あり。前橋市より望みて最前面に横はる。高四八九〇尺。是れ荒山の椿岩流の積きなりとす。又鍋割山の北、沼尾火

アカキコ(赤城湖) 大塚を見よ。
アカキサン(赤城山) 上野國利根郡多二郡に跨る火山。榛名、妙義と併稱して、上野三山と呼ぶ。南は關東平野に向ひて長く裾野を引き、西は利根川を隔てて榛名山と相對し、北は日光火山脈に連る。山谷は二重式火山を成し、外輪山は黒檜山(六、二四七尺)、駒ヶ岳(五、三九二尺)、五輪嶺(五、〇五九尺)、野坂峠(五、五七五尺)を連れて、一線を劃し、其間中に舊火口あり、稍東南に偏して、地蔵山(六、〇七六尺)の中央火口あり。火口原の大部分は、今水を湛へて赤城湖となり、其他は新阪、愛宕の如き豁谷を成す。赤城湖(俗稱大沼)は東西一五町、南北九町、周圍一里二町、曲玉狀を成し、餘水は西南隅に決し、野坂峠の西に於て外輪山を破り、沼尾川となりて利根川に入る。湖の東岸に近く、小島ヶ島と呼ぶ一小島あり。湖畔に赤城神社あり。湖水は冬季凍結せる厚さ數尺に及ぶを以て、伐採して盛に東京地方に輸送す。又夏季は湖面の氣候寒冷なるを以て、水蒸氣凝結して、屢霧の鎖す所となる。小沼は赤城湖の東南、地蔵山の東麓に在り。東西二町、南北三町、周圍九町。此湖は寄式的に噴出せる火口に、水の満へたるものにして、之を繞れる長七郎山、小地蔵山は其火口壁なり。荒山の西南に鍋割山あり。前橋市より望みて最前面に横はる。高四八九〇尺。是れ荒山の椿岩流の積きなりとす。又鍋割山の北、沼尾火

アカキ

アカキコ(赤城湖) 大塚を見よ。
アカキサン(赤城山) 上野國利根郡多二郡に跨る火山。榛名、妙義と併稱して、上野三山と呼ぶ。南は關東平野に向ひて長く裾野を引き、西は利根川を隔てて榛名山と相對し、北は日光火山脈に連る。山谷は二重式火山を成し、外輪山は黒檜山(六、二四七尺)、駒ヶ岳(五、三九二尺)、五輪嶺(五、〇五九尺)、野坂峠(五、五七五尺)を連れて、一線を劃し、其間中に舊火口あり、稍東南に偏して、地蔵山(六、〇七六尺)の中央火口あり。火口原の大部分は、今水を湛へて赤城湖となり、其他は新阪、愛宕の如き豁谷を成す。赤城湖(俗稱大沼)は東西一五町、南北九町、周圍一里二町、曲玉狀を成し、餘水は西南隅に決し、野坂峠の西に於て外輪山を破り、沼尾川となりて利根川に入る。湖の東岸に近く、小島ヶ島と呼ぶ一小島あり。湖畔に赤城神社あり。湖水は冬季凍結せる厚さ數尺に及ぶを以て、伐採して盛に東京地方に輸送す。又夏季は湖面の氣候寒冷なるを以て、水蒸氣凝結して、屢霧の鎖す所となる。小沼は赤城湖の東南、地蔵山の東麓に在り。東西二町、南北三町、周圍九町。此湖は寄式的に噴出せる火口に、水の満へたるものにして、之を繞れる長七郎山、小地蔵山は其火口壁なり。荒山の西南に鍋割山あり。前橋市より望みて最前面に横はる。高四八九〇尺。是れ荒山の椿岩流の積きなりとす。又鍋割山の北、沼尾火

アカキコ(赤城湖) 大塚を見よ。
アカキサン(赤城山) 上野國利根郡多二郡に跨る火山。榛名、妙義と併稱して、上野三山と呼ぶ。南は關東平野に向ひて長く裾野を引き、西は利根川を隔てて榛名山と相對し、北は日光火山脈に連る。山谷は二重式火山を成し、外輪山は黒檜山(六、二四七尺)、駒ヶ岳(五、三九二尺)、五輪嶺(五、〇五九尺)、野坂峠(五、五七五尺)を連れて、一線を劃し、其間中に舊火口あり、稍東南に偏して、地蔵山(六、〇七六尺)の中央火口あり。火口原の大部分は、今水を湛へて赤城湖となり、其他は新阪、愛宕の如き豁谷を成す。赤城湖(俗稱大沼)は東西一五町、南北九町、周圍一里二町、曲玉狀を成し、餘水は西南隅に決し、野坂峠の西に於て外輪山を破り、沼尾川となりて利根川に入る。湖の東岸に近く、小島ヶ島と呼ぶ一小島あり。湖畔に赤城神社あり。湖水は冬季凍結せる厚さ數尺に及ぶを以て、伐採して盛に東京地方に輸送す。又夏季は湖面の氣候寒冷なるを以て、水蒸氣凝結して、屢霧の鎖す所となる。小沼は赤城湖の東南、地蔵山の東麓に在り。東西二町、南北三町、周圍九町。此湖は寄式的に噴出せる火口に、水の満へたるものにして、之を繞れる長七郎山、小地蔵山は其火口壁なり。荒山の西南に鍋割山あり。前橋市より望みて最前面に横はる。高四八九〇尺。是れ荒山の椿岩流の積きなりとす。又鍋割山の北、沼尾火

アカキコ(赤城湖) 大塚を見よ。
アカキサン(赤城山) 上野國利根郡多二郡に跨る火山。榛名、妙義と併稱して、上野三山と呼ぶ。南は關東平野に向ひて長く裾野を引き、西は利根川を隔てて榛名山と相對し、北は日光火山脈に連る。山谷は二重式火山を成し、外輪山は黒檜山(六、二四七尺)、駒ヶ岳(五、三九二尺)、五輪嶺(五、〇五九尺)、野坂峠(五、五七五尺)を連れて、一線を劃し、其間中に舊火口あり、稍東南に偏して、地蔵山(六、〇七六尺)の中央火口あり。火口原の大部分は、今水を湛へて赤城湖となり、其他は新阪、愛宕の如き豁谷を成す。赤城湖(俗稱大沼)は東西一五町、南北九町、周圍一里二町、曲玉狀を成し、餘水は西南隅に決し、野坂峠の西に於て外輪山を破り、沼尾川となりて利根川に入る。湖の東岸に近く、小島ヶ島と呼ぶ一小島あり。湖畔に赤城神社あり。湖水は冬季凍結せる厚さ數尺に及ぶを以て、伐採して盛に東京地方に輸送す。又夏季は湖面の氣候寒冷なるを以て、水蒸氣凝結して、屢霧の鎖す所となる。小沼は赤城湖の東南、地蔵山の東麓に在り。東西二町、南北三町、周圍九町。此湖は寄式的に噴出せる火口に、水の満へたるものにして、之を繞れる長七郎山、小地蔵山は其火口壁なり。荒山の西南に鍋割山あり。前橋市より望みて最前面に横はる。高四八九〇尺。是れ荒山の椿岩流の積きなりとす。又鍋割山の北、沼尾火

アカキ

アカキコ(赤城湖) 大塚を見よ。
アカキサン(赤城山) 上野國利根郡多二郡に跨る火山。榛名、妙義と併稱して、上野三山と呼ぶ。南は關東平野に向ひて長く裾野を引き、西は利根川を隔てて榛名山と相對し、北は日光火山脈に連る。山谷は二重式火山を成し、外輪山は黒檜山(六、二四七尺)、駒ヶ岳(五、三九二尺)、五輪嶺(五、〇五九尺)、野坂峠(五、五七五尺)を連れて、一線を劃し、其間中に舊火口あり、稍東南に偏して、地蔵山(六、〇七六尺)の中央火口あり。火口原の大部分は、今水を湛へて赤城湖となり、其他は新阪、愛宕の如き豁谷を成す。赤城湖(俗稱大沼)は東西一五町、南北九町、周圍一里二町、曲玉狀を成し、餘水は西南隅に決し、野坂峠の西に於て外輪山を破り、沼尾川となりて利根川に入る。湖の東岸に近く、小島ヶ島と呼ぶ一小島あり。湖畔に赤城神社あり。湖水は冬季凍結せる厚さ數尺に及ぶを以て、伐採して盛に東京地方に輸送す。又夏季は湖面の氣候寒冷なるを以て、水蒸氣凝結して、屢霧の鎖す所となる。小沼は赤城湖の東南、地蔵山の東麓に在り。東西二町、南北三町、周圍九町。此湖は寄式的に噴出せる火口に、水の満へたるものにして、之を繞れる長七郎山、小地蔵山は其火口壁なり。荒山の西南に鍋割山あり。前橋市より望みて最前面に横はる。高四八九〇尺。是れ荒山の椿岩流の積きなりとす。又鍋割山の北、沼尾火

アカキ

アカキコ(赤城湖) 大塚を見よ。
アカキサン(赤城山) 上野國利根郡多二郡に跨る火山。榛名、妙義と併稱して、上野三山と呼ぶ。南は關東平野に向ひて長く裾野を引き、西は利根川を隔てて榛名山と相對し、北は日光火山脈に連る。山谷は二重式火山を成し、外輪山は黒檜山(六、二四七尺)、駒ヶ岳(五、三九二尺)、五輪嶺(五、〇五九尺)、野坂峠(五、五七五尺)を連れて、一線を劃し、其間中に舊火口あり、稍東南に偏して、地蔵山(六、〇七六尺)の中央火口あり。火口原の大部分は、今水を湛へて赤城湖となり、其他は新阪、愛宕の如き豁谷を成す。赤城湖(俗稱大沼)は東西一五町、南北九町、周圍一里二町、曲玉狀を成し、餘水は西南隅に決し、野坂峠の西に於て外輪山を破り、沼尾川となりて利根川に入る。湖の東岸に近く、小島ヶ島と呼ぶ一小島あり。湖畔に赤城神社あり。湖水は冬季凍結せる厚さ數尺に及ぶを以て、伐採して盛に東京地方に輸送す。又夏季は湖面の氣候寒冷なるを以て、水蒸氣凝結して、屢霧の鎖す所となる。小沼は赤城湖の東南、地蔵山の東麓に在り。東西二町、南北三町、周圍九町。此湖は寄式的に噴出せる火口に、水の満へたるものにして、之を繞れる長七郎山、小地蔵山は其火口壁なり。荒山の西南に鍋割山あり。前橋市より望みて最前面に横はる。高四八九〇尺。是れ荒山の椿岩流の積きなりとす。又鍋割山の北、沼尾火

アカキ

アカキコ(赤城湖) 大塚を見よ。
アカキサン(赤城山) 上野國利根郡多二郡に跨る火山。榛名、妙義と併稱して、上野三山と呼ぶ。南は關東平野に向ひて長く裾野を引き、西は利根川を隔てて榛名山と相對し、北は日光火山脈に連る。山谷は二重式火山を成し、外輪山は黒檜山(六、二四七尺)、駒ヶ岳(五、三九二尺)、五輪嶺(五、〇五九尺)、野坂峠(五、五七五尺)を連れて、一線を劃し、其間中に舊火口あり、稍東南に偏して、地蔵山(六、〇七六尺)の中央火口あり。火口原の大部分は、今水を湛へて赤城湖となり、其他は新阪、愛宕の如き豁谷を成す。赤城湖(俗稱大沼)は東西一五町、南北九町、周圍一里二町、曲玉狀を成し、餘水は西南隅に決し、野坂峠の西に於て外輪山を破り、沼尾川となりて利根川に入る。湖の東岸に近く、小島ヶ島と呼ぶ一小島あり。湖畔に赤城神社あり。湖水は冬季凍結せる厚さ數尺に及ぶを以て、伐採して盛に東京地方に輸送す。又夏季は湖面の氣候寒冷なるを以て、水蒸氣凝結して、屢霧の鎖す所となる。小沼は赤城湖の東南、地蔵山の東麓に在り。東西二町、南北三町、周圍九町。此湖は寄式的に噴出せる火口に、水の満へたるものにして、之を繞れる長七郎山、小地蔵山は其火口壁なり。荒山の西南に鍋割山あり。前橋市より望みて最前面に横はる。高四八九〇尺。是れ荒山の椿岩流の積きなりとす。又鍋割山の北、沼尾火

アカキ

アカキコ(赤城湖) 大塚を見よ。
アカキサン(赤城山) 上野國利根郡多二郡に跨る火山。榛名、妙義と併稱して、上野三山と呼ぶ。南は關東平野に向ひて長く裾野を引き、西は利根川を隔てて榛名山と相對し、北は日光火山脈に連る。山谷は二重式火山を成し、外輪山は黒檜山(六、二四七尺)、駒ヶ岳(五、三九二尺)、五輪嶺(五、〇五九尺)、野坂峠(五、五七五尺)を連れて、一線を劃し、其間中に舊火口あり、稍東南に偏して、地蔵山(六、〇七六尺)の中央火口あり。火口原の大部分は、今水を湛へて赤城湖となり、其他は新阪、愛宕の如き豁谷を成す。赤城湖(俗稱大沼)は東西一五町、南北九町、周圍一里二町、曲玉狀を成し、餘水は西南隅に決し、野坂峠の西に於て外輪山を破り、沼尾川となりて利根川に入る。湖の東岸に近く、小島ヶ島と呼ぶ一小島あり。湖畔に赤城神社あり。湖水は冬季凍結せる厚さ數尺に及ぶを以て、伐採して盛に東京地方に輸送す。又夏季は湖面の氣候寒冷なるを以て、水蒸氣凝結して、屢霧の鎖す所となる。小沼は赤城湖の東南、地蔵山の東麓に在り。東西二町、南北三町、周圍九町。此湖は寄式的に噴出せる火口に、水の満へたるものにして、之を繞れる長七郎山、小地蔵山は其火口壁なり。荒山の西南に鍋割山あり。前橋市より望みて最前面に横はる。高四八九〇尺。是れ荒山の椿岩流の積きなりとす。又鍋割山の北、沼尾火



【大阪】河内國南河内郡の村金剛山の西麓なり。大字水分に建、水分神社あり、延喜式内の古社にして、天水分神を祀る。楠木正行の書せる額を藏す。本殿の南に楠木社あり、後醍醐天皇の楠木正成を祀り給ひし所といふ。境内に龜井園伽非二泉あり、水分の上方に赤坂城址あり、二箇所に分れ、大字桐山に在るを赤坂といひ、大字森屋の東南に在るを赤坂といひ、相距る十五町許り城地三方は山岳屏立し、東條川其下を流れ、北面の一方僅に徑路を通じ、要害の地なり。元弘元年楠木正成之に據て、北條氏の軍を支へ、正平年中正儀亦此地に據て北朝の軍を拒げり、今楠氏の第址と稱する所三あり、切山、森屋の畑神社附近、下赤坂城門の古址はなり、共に楠屋敷と呼ぶ。合三三三。

の町舊中山道の一驛にして、垂井の東北一里半、岐阜市を距る五里二四町、郵便局あり、石灰及石細工を産し、又石仙燒及温古燒といへる陶器を出す。石細工は文政初年谷鼎といへる者の試刻より起り、爾來漸く聲價を増し、明治三十三年同業二一四戸産額十二萬圓に上れりといふ。製品は文房具、風鏡、置物、機織物、磁器、茶器等にして、其他建築用及電氣用石材あり、赤坂石細工の名頗る聞ゆ。此地に明星輪寺、俗稱赤坂虚空藏あり、金生山の東面に位し、堂宇莊嚴なり。堂後に孤岩ガマノノ岩、鏡岩、行燈岩、神樂岩、屏風岩、雌雄岩、鑄鑿岩等異様の岩石多し、毎年初午の日を以て御園を取るを例とし、當日賽者群集す。合三三三。

川鎮區の南端を流る。明治四十一年鎮區二〇二、二〇九六坪、使用積夫九三二人、女工六〇五人、産出額一、六四六一佛噸、價格三八萬圓、本邦礦業一斑。

陰鐵道停車場あり、鳥取驛より三六哩五燒燗の名産あり。合三三三。

出して波濤を防ぐ。輸出三一三、八三九二圓、輸入二二四、六一七二圓。主なる輸出品は米、漆、清酒、漆、帆布等にして、輸入品は米、砂糖、石炭、素地、石材なり。市街の北に城址あり、山に倚り、江に臨み、方八町許、舊名を丸塚といふ。元和三年小笠原忠貞の築きし所、寛永九年松平重直、同十八年大久保忠季、慶安二年松平忠國、貞享元年本多政利を経て、天和二年松平直明、越前秀康の孫、八萬石之を領し、明治維新に至る。廢藩後其一部を公園となし、藩祖松平直明を祀れる明石神社あり。社の四邊は老樹茂り、數十株の櫻樹を交へ、頗る風致あり。停車場は城の舊郭内に在り、市街の東を大蔵谷といふ。昔の赤石驛にして、納租の庫ありし地なり。平經正一ノ谷敗後此處にて自殺せる事、平家物語に見ゆ。又後漢獻帝の後胤阿多倍王、大化年中本邦に歸化し、此處に居住し、子孫大藏を以て姓とせる事、筑前原田系譜に記す。明石城に就きては、林崎村を見よ。大蔵谷に丸神社あり、別當を月照寺といふ。元和年中明石築城の時此處に移す。昔は丸塚といふもの城中に在りしといふ。境内に龜ノ井、首杖櫻、林春齋撰文の碑あり。又「たこつば」はかなきゆめをなつのくさ(芭蕉の句碑あり。按ずるに、明石浦に入丸を祀るは「ほのくさ」の歌ありて、後世之を歌神と崇むるに因る。然れども此歌を入丸の作とする事疑あり。小野篁の作といふ説も

あり、稻爪神社も大蔵谷に在り、越智登野なる者南壁と戦ひ、伊豫の三島明神を祈りて功ありしを以て、此處に勧請すといふ。按ずるに、稻爪は稻積にして、大蔵谷納租の庫なるべし。明石河口の東を當津といふ。月山と呼ぶ丘あり、海峽に臨み、眺望よし。其西畔を王子といふ。俗に億計弘計二皇子の潜居ありし地といへど、據る處なし。縣社岩屋神社は我町に在り、延喜式の額賀多々神社とあるものにして、俗に岩屋惠比壽と稱し、伊非諾尊、伊非冊尊、大日靈命、月讀命、素戔嗚尊、蛭子の六座を合祀し、陰曆九月十三日を例祭とす。善樂寺は法道上人開基本尊地藏尊、平清盛國守たりし頃諸堂を再興し、寺田を寄せたり。寺内に明石入道の墓と稱するものあり。こは源語に因りて好事家の設けしものなるべし。光明寺は鍛冶町に在り、堂宇宏壯、明治十八年行在所となれり。合三三三。

し、北境に神出山あり、山下より加古郡の東北に互れる地は、即ち古の印南野とす。又播磨の國境に接して泰山寺山あり、四南部は平野、海濱に沿ひ、國道貫通す。河流は明石川、西岡川あり。陸路は中國街道神戸市より來り、明石町、大久保村を経て加古郡に入る。又明石町より東北に向ひ、播磨國に通ずる有馬道あり。鐵道は山陽線神戸市より來り、略中國街道に沿うて走る。物産は農工共に豊富、農産物二五萬圓あり。米一二萬石を主とし、其他大豆、蘿蔔、煙草(赤阪煙草と稱す)あり。工業物總計二九七萬圓、酒一三九萬圓を最とし、其他醬油、織物、瓦、陶磁器、燐寸、製糖品なり。又明石珠は三府、神戸、名古屋へ販賣し、神戸よりは清國へ輸出す。古屋へ販賣し、神戸よりは清國へ輸出す。明石綿布は古來其名高けれど、今は殆ど産出なし。水産は漁獲物二五萬圓、飯蠟及鯛を有名とす。明石は古赤石、又明石に作る。蓋し赤石の地は、賀古、印南、美濃の地を總稱せるもの、如し。其名義は海中に赤石あるに由るといへども、詳かならず。和名抄、葛江、明石、住吉、神戸、色美、垂見の六郷に分つ。

アカシカイキヨウ(明石海峽) 播磨國明石浦と淡路國江崎との間に在る海峽。其間約二哩。播磨灘の東口、瀬戸内海の一關門にして、一に明石瀬戸とも稱す。瀬戸の北岸には舞子濱、鳥崎、明石町あり。南岸には淡路の岩屋、江崎、繪島等あり。潮流は不定にして、濃濁は東流す。明石町の附近は其交會點なるを以て激湍を起す。深六八畝、瀬戸内海の最深處たり。此海峽古は赤石門又は明の大門と呼び、北岸の明石浦、南岸の松帆浦、岩屋浦、繪島磯等と共に、古來多く詞藻に入る。粟島に、き渡らむと思へども、赤石の門涙未だきわげり(萬葉集)ともし、火の明の大門に、入りて、きわかれなむ家のあたり見す(同)。有明の月のあかしの浦風に、波はかりこそよると見えしか(金葉集、平忠盛)。



アカシ

沖ノ島と相對す。  
アカシマ(阿嘉島) 琉球國島尻郡慶良間群島の一。又赤島に作る。渡嘉敷島の西。座間味島の南西に横はる。周圍二里二八丁。白元(阿嘉島)。水路志云二島より成る。北島は大にして、高六四一呎。二島の間は於ける東面に和船の泊地あり。

アカタ

此地に真工を出せしは、真鐵鑛を出せしに因る。日野郡の鐵は古來精良を以て聞ゆ。瑞仙寺あり。山名教之建立。竺翁和尚の開基。白(六〇)。(岡山)美作國眞庭郡に在りし村。明治三十五年八束村に入る。伯耆國境に接し、高田川の上流に沿ふ。其首邑を上長田といひ、郵便局あり。是より伯耆國倉吉町に通ずる徑路あり。險峻を極む。●(宮崎)日向國延岡町の舊名。アカタ(赤田) ●(宮崎)日向國南那賀郡の村。白(五七)。

アカタ

は久賀村といひ、香妻郡に屬せしが、明治二十九年利根郡に入る。  
アカタニ(赤谷山) 美濃國飛騨二國に跨れる山。吉田川と馬瀬川との分水界をなす。山勢北に延び、龍ヶ峯、森茂山、天生峰より金剛堂山に至りて、越中の低野に下る。

アカツ

の村北陸街道の一驛にして、郵便局あり。鹽産驛の北三里半。白(四七)。(英城)常陸國東茨城郡河和田村の大字。鐵道水戸線の停車場なり。水戸驛へ三哩五六鎮附近に有名なる水戸の好文亭あり。  
アカツカ(明塚) ●(島根)石見國邑智郡吉郷村の大字。江ノ川に臨む。南北朝の頃佐和氏の據りたる鼓ヶ瀧城址あり。  
アカツカ(曉霞) ●(高知)土佐國香美郡の村。白(七七)。

アカシマ(阿嘉島) 琉球國島尻郡慶良間群島の一。又赤島に作る。渡嘉敷島の西。座間味島の南西に横はる。周圍二里二八丁。白元(阿嘉島)。水路志云二島より成る。北島は大にして、高六四一呎。二島の間は於ける東面に和船の泊地あり。

アカスカ(赤須賀) ●(三重)伊勢國桑名郡の村。白(三七)。

アカタ(赤田) ●(新潟)越後國刈羽郡中通村の大字。此地の臭水谷に炭酸泉出づ。浴會の設あり。上杉四家老の一人齋藤下野守朝信の居りし城址あり。又當國巡禮六番の札所。玉山寺あり。

アカタ(英田) ●(大阪)河内國中河内郡の村。古の英田郷の一部にして、玉串川の岸に沿ふ。白(三六)。

アカタ(赤谷) ●(新潟)越後國北蒲原郡の村。五頭山と二王子嶽との谷間に在りて、加治川の上流に當る。郵便局あり。此地は舊會津領にして、小川庄に屬せり。新發田より會津に出づる山路を赤谷越といふ。戰國の頃、新發田因幡守を援けしが、上杉景勝の隔る所となる。白(四七)。

アカタニ(赤谷) ●(新潟)越後國北蒲原郡の村。五頭山と二王子嶽との谷間に在りて、加治川の上流に當る。郵便局あり。此地は舊會津領にして、小川庄に屬せり。新發田より會津に出づる山路を赤谷越といふ。戰國の頃、新發田因幡守を援けしが、上杉景勝の隔る所となる。白(四七)。

アカタニ(赤谷) ●(新潟)越後國北蒲原郡の村。五頭山と二王子嶽との谷間に在りて、加治川の上流に當る。郵便局あり。此地は舊會津領にして、小川庄に屬せり。新發田より會津に出づる山路を赤谷越といふ。戰國の頃、新發田因幡守を援けしが、上杉景勝の隔る所となる。白(四七)。

アカツカ(赤塚) ●(東京)武蔵國北豐島郡の村。大字赤塚は今上下に分れ、板橋町より入間郡川越町に向ふ驛路に當る。此地戰國の頃、千葉氏の城寨あり。天正年中廢城となる。阿彌陀堂(俗に大堂)は昔時七堂伽藍の大刹にして、泉福真福の二寺別當たりしが、後廢頗し。眞福寺のみ殘るといふ。白(五七)。

アカツカ(赤塚) ●(東京)武蔵國北豐島郡の村。大字赤塚は今上下に分れ、板橋町より入間郡川越町に向ふ驛路に當る。此地戰國の頃、千葉氏の城寨あり。天正年中廢城となる。阿彌陀堂(俗に大堂)は昔時七堂伽藍の大刹にして、泉福真福の二寺別當たりしが、後廢頗し。眞福寺のみ殘るといふ。白(五七)。

アカツカ(赤塚) ●(東京)武蔵國北豐島郡の村。大字赤塚は今上下に分れ、板橋町より入間郡川越町に向ふ驛路に當る。此地戰國の頃、千葉氏の城寨あり。天正年中廢城となる。阿彌陀堂(俗に大堂)は昔時七堂伽藍の大刹にして、泉福真福の二寺別當たりしが、後廢頗し。眞福寺のみ殘るといふ。白(五七)。

アカツカ(赤塚) ●(東京)武蔵國北豐島郡の村。大字赤塚は今上下に分れ、板橋町より入間郡川越町に向ふ驛路に當る。此地戰國の頃、千葉氏の城寨あり。天正年中廢城となる。阿彌陀堂(俗に大堂)は昔時七堂伽藍の大刹にして、泉福真福の二寺別當たりしが、後廢頗し。眞福寺のみ殘るといふ。白(五七)。

アカツカ(赤塚) ●(東京)武蔵國北豐島郡の村。大字赤塚は今上下に分れ、板橋町より入間郡川越町に向ふ驛路に當る。此地戰國の頃、千葉氏の城寨あり。天正年中廢城となる。阿彌陀堂(俗に大堂)は昔時七堂伽藍の大刹にして、泉福真福の二寺別當たりしが、後廢頗し。眞福寺のみ殘るといふ。白(五七)。

アカツカ(赤塚) ●(東京)武蔵國北豐島郡の村。大字赤塚は今上下に分れ、板橋町より入間郡川越町に向ふ驛路に當る。此地戰國の頃、千葉氏の城寨あり。天正年中廢城となる。阿彌陀堂(俗に大堂)は昔時七堂伽藍の大刹にして、泉福真福の二寺別當たりしが、後廢頗し。眞福寺のみ殘るといふ。白(五七)。

アカツカ(赤塚) ●(東京)武蔵國北豐島郡の村。大字赤塚は今上下に分れ、板橋町より入間郡川越町に向ふ驛路に當る。此地戰國の頃、千葉氏の城寨あり。天正年中廢城となる。阿彌陀堂(俗に大堂)は昔時七堂伽藍の大刹にして、泉福真福の二寺別當たりしが、後廢頗し。眞福寺のみ殘るといふ。白(五七)。

アカツカ(赤塚) ●(東京)武蔵國北豐島郡の村。大字赤塚は今上下に分れ、板橋町より入間郡川越町に向ふ驛路に當る。此地戰國の頃、千葉氏の城寨あり。天正年中廢城となる。阿彌陀堂(俗に大堂)は昔時七堂伽藍の大刹にして、泉福真福の二寺別當たりしが、後廢頗し。眞福寺のみ殘るといふ。白(五七)。

アカツカ(赤塚) ●(東京)武蔵國北豐島郡の村。大字赤塚は今上下に分れ、板橋町より入間郡川越町に向ふ驛路に當る。此地戰國の頃、千葉氏の城寨あり。天正年中廢城となる。阿彌陀堂(俗に大堂)は昔時七堂伽藍の大刹にして、泉福真福の二寺別當たりしが、後廢頗し。眞福寺のみ殘るといふ。白(五七)。

アカツカ(赤塚) ●(東京)武蔵國北豐島郡の村。大字赤塚は今上下に分れ、板橋町より入間郡川越町に向ふ驛路に當る。此地戰國の頃、千葉氏の城寨あり。天正年中廢城となる。阿彌陀堂(俗に大堂)は昔時七堂伽藍の大刹にして、泉福真福の二寺別當たりしが、後廢頗し。眞福寺のみ殘るといふ。白(五七)。

アカツカ(赤塚) ●(東京)武蔵國北豐島郡の村。大字赤塚は今上下に分れ、板橋町より入間郡川越町に向ふ驛路に當る。此地戰國の頃、千葉氏の城寨あり。天正年中廢城となる。阿彌陀堂(俗に大堂)は昔時七堂伽藍の大刹にして、泉福真福の二寺別當たりしが、後廢頗し。眞福寺のみ殘るといふ。白(五七)。

アカツカ(赤塚) ●(東京)武蔵國北豐島郡の村。大字赤塚は今上下に分れ、板橋町より入間郡川越町に向ふ驛路に當る。此地戰國の頃、千葉氏の城寨あり。天正年中廢城となる。阿彌陀堂(俗に大堂)は昔時七堂伽藍の大刹にして、泉福真福の二寺別當たりしが、後廢頗し。眞福寺のみ殘るといふ。白(五七)。

アカツカ(赤塚) ●(東京)武蔵國北豐島郡の村。大字赤塚は今上下に分れ、板橋町より入間郡川越町に向ふ驛路に當る。此地戰國の頃、千葉氏の城寨あり。天正年中廢城となる。阿彌陀堂(俗に大堂)は昔時七堂伽藍の大刹にして、泉福真福の二寺別當たりしが、後廢頗し。眞福寺のみ殘るといふ。白(五七)。

アカツカ(赤塚) ●(東京)武蔵國北豐島郡の村。大字赤塚は今上下に分れ、板橋町より入間郡川越町に向ふ驛路に當る。此地戰國の頃、千葉氏の城寨あり。天正年中廢城となる。阿彌陀堂(俗に大堂)は昔時七堂伽藍の大刹にして、泉福真福の二寺別當たりしが、後廢頗し。眞福寺のみ殘るといふ。白(五七)。

アカツカ(赤塚) ●(東京)武蔵國北豐島郡の村。大字赤塚は今上下に分れ、板橋町より入間郡川越町に向ふ驛路に當る。此地戰國の頃、千葉氏の城寨あり。天正年中廢城となる。阿彌陀堂(俗に大堂)は昔時七堂伽藍の大刹にして、泉福真福の二寺別當たりしが、後廢頗し。眞福寺のみ殘るといふ。白(五七)。

アカツカ(赤塚) ●(東京)武蔵國北豐島郡の村。大字赤塚は今上下に分れ、板橋町より入間郡川越町に向ふ驛路に當る。此地戰國の頃、千葉氏の城寨あり。天正年中廢城となる。阿彌陀堂(俗に大堂)は昔時七堂伽藍の大刹にして、泉福真福の二寺別當たりしが、後廢頗し。眞福寺のみ殘るといふ。白(五七)。

アカツカ(赤塚) ●(東京)武蔵國北豐島郡の村。大字赤塚は今上下に分れ、板橋町より入間郡川越町に向ふ驛路に當る。此地戰國の頃、千葉氏の城寨あり。天正年中廢城となる。阿彌陀堂(俗に大堂)は昔時七堂伽藍の大刹にして、泉福真福の二寺別當たりしが、後廢頗し。眞福寺のみ殘るといふ。白(五七)。

アカツカ(赤塚) ●(東京)武蔵國北豐島郡の村。大字赤塚は今上下に分れ、板橋町より入間郡川越町に向ふ驛路に當る。此地戰國の頃、千葉氏の城寨あり。天正年中廢城となる。阿彌陀堂(俗に大堂)は昔時七堂伽藍の大刹にして、泉福真福の二寺別當たりしが、後廢頗し。眞福寺のみ殘るといふ。白(五七)。

# 欠

アカツカ(赤塚) ●(東京)武蔵國北豐島郡の村。大字赤塚は今上下に分れ、板橋町より入間郡川越町に向ふ驛路に當る。此地戰國の頃、千葉氏の城寨あり。天正年中廢城となる。阿彌陀堂(俗に大堂)は昔時七堂伽藍の大刹にして、泉福真福の二寺別當たりしが、後廢頗し。眞福寺のみ殘るといふ。白(五七)。

アカツカ(赤塚) ●(東京)武蔵國北豐島郡の村。大字赤塚は今上下に分れ、板橋町より入間郡川越町に向ふ驛路に當る。此地戰國の頃、千葉氏の城寨あり。天正年中廢城となる。阿彌陀堂(俗に大堂)は昔時七堂伽藍の大刹にして、泉福真福の二寺別當たりしが、後廢頗し。眞福寺のみ殘るといふ。白(五七)。

アカツカ(赤塚) ●(東京)武蔵國北豐島郡の村。大字赤塚は今上下に分れ、板橋町より入間郡川越町に向ふ驛路に當る。此地戰國の頃、千葉氏の城寨あり。天正年中廢城となる。阿彌陀堂(俗に大堂)は昔時七堂伽藍の大刹にして、泉福真福の二寺別當たりしが、後廢頗し。眞福寺のみ殘るといふ。白(五七)。



# 欠

芝領七千石を領し、陣屋を此所に構ふ。寛政四年右近將監の時即あり、所領を収め、陣屋を毀たる。

**アガヤマ** (阿我山) 【三重】伊賀國名賀郡神戶村の字、我山にも作る。もと芝實僧開基の觀音堂ありしが、天正年中兵火の爲に燒失すと云ふ。高山宗興入道の墓あり。

**アカユ** (赤湯) 【山形】羽前國東置賜郡の町、陸羽街道の一驛にして、温泉あるに因り、旅人の宿泊するもの多し。警察分署郵便局、鐵道車庫あり。山形より一九哩、二米澤より一〇哩。温泉は鹽類泉にして、無色透明、溫度華氏一二〇度。四泉あり、大湯丹波湯、甘湯、森の湯と云ひ、宏壯なる浴舎數多あり。町の東北に赤湯沼あり、一に白龍湖と稱し、鮮魚及蘆菜を産し、夏期納涼に宜しと云ふ。六百三三。

【大分】豐後國速見郡の温泉場、御越町大字野田に屬す。俗に血ノ池地獄と呼び、濁土を引ひて、層層を塗れば頗る美なりと云ふ。此泉の左に青緑色の地獄湯あり、紅線相映して頗る奇觀を呈す。

**アカラ** 【樺太】赤浦を見よ。  
**アガリ** (安賀里) 【福井】若狹國遠敷郡瓜生村の大字、小濱町敦賀町間の一驛にして、郵便局あり。三宅村大字日笠より一里、中三方郡十村大字倉見へ一里。

**アガリ** (東) 【沖繩】琉球國島尻郡東海岸の地名、大里佐敷知念玉城の四村を東西間切と云ひ、代官を置きて之を管せしめしと云へり。

**アガリトウケ** (安賀里嶺) 若狹國遠敷三方兩郡界上の山路。

**アガリミチ** (上道) 【鳥取】伯耆國四伯郡の村、合三六八。

**アカル** (赤留) 【福島】岩代國大沼郡赤澤村の大字、高田町の西なる丘上に在り。此より東川村大字輕井澤に出づる山路を赤留峠と云ふ。

**アカワ** (揚川) 【新潟】越後國東蒲原郡の村、合三三三。

**アカワ** (阿川) 【山口】長門國豐浦郡の村の西北端にして、油谷灣の南岸に位置せる小鎮地なり。折紙鼻より東南一哩半とす。郵便局あり、合二六三。

**アガワ** (吾川郡) 【高知】土佐國七郡の一、西境東北は土佐郡、西は伊豫國上浮穴郡、西南は高岡郡、南の一部は海、東西約七里、南北約六里、面積三三万二五行政上、伊野町及八田、弘岡上弘岡中弘岡下、森山、仁四、秋山、四分、芳原、諸木、長濱、御登瀨、浦戸、神谷、三瀬、上八川、下八川、明治、横島、大崎、名野川、池川、富岡、小川、清水の二五村に分ち、郡役所を伊野町に置く。合二八六、八八、六三〇。

地勢、本郡は仁淀川の北岸に位し、延長十數里に亘り、地形頗る崎嶇なり。北より西に至る郡界は山岳高峻なれど、仁淀川本支流の沿岸は田野相連る。山岳は雪光山、聖森、高森の諸山郡境に聳え、黒森山仁淀川の北岸に峙つ。八田村より浦戸灣に通ずる仁淀

川の分水を八田川と云ふ。野中兼山の遺工にして、其灌漑する處千餘町歩に及ぶ。港灣は浦戸港郡の東南端に在り、國內第一の要港にして、其岬角を龍頭岬と云ひ、燈臺あり。道路は宇和嶋街道高知市より來り、伊野町を経て高岡郡高岡町に通ず。又伊野町より分れ、高岡郡日下村、越知村を経て復た本郡に入り、池川村を経て伊豫國上浮穴郡久萬町に通ずるを松山街道と云ふ。其間二十里、阪路險惡にして、車を通せず。産業は農を主とす。工業は土佐紙の製出盛にして、縣下總産額の四分の一を占む。農産物は米、麥、大豆、玉蜀黍、甘藷、蘿蔔、甘蔗、三椏、繭、木材、薪炭材、工産物は和紙、八三萬圓、縣内第三位。其他砂糖等あり。吾川はもと高岡郡の一部なりしを、承和八年分割す。和名抄に伊野、次田、桑原、大野の四郷を載す。されど此四郷の地は、神谷以南十四村に當り、其他仁淀川中游の諸村は郷名を缺く。蓋し當時廢漠の地なりしなるべし。

**アカンカワ** (阿寒川) 【北海】釧路國阿寒郡に在る川、水源、阿寒湖、釧路郡鳥取村を経て釧路川に合す。流程二五里一〇町。兩岸は山脈相迫りて、上流五里の間深谿をなし、一條の細河、河岸に沿うて阿寒湖に至る。急流なるを以て舟楫の利少し。西岸は稍膏腴、新墾の畦圃數里に連る。

**アカン** (阿寒郡) 【北海】釧路國六郡の一、西境東は川上郡、西は白糠、足寄の二郡、北は北見國網走郡、南は釧路郡、面積八七方里餘、釧路支線所管にして、舌辛、徹別、蘇牛、飽別の四村あり。合七四八。地勢、北部高峻險隘なれど、南に赴くに從ひ漸く陸夷し、其盡くる處一帯の芦原を成す。山岳には雌雄の阿寒岳及振別岳あり。河流には阿寒川あり。アイヌ語アカンは桃花魚の産卵する川の義なり。

**アカン** (阿寒湖) 【北海】釧路國阿寒郡に在る湖、雌阿寒雄阿寒二山の間に在り。周圍六里二二町、中に四島あり。下流は阿寒川となる。湖中に「おべらえ」と稱する大魚を産す、長四尺許。其他桃花魚、鮎、父魚、海老等皆此湖の特産なり。

**アカンダキ** (阿寒池) 【北海】釧路國阿寒郡に在る湖、阿寒湖の西岸に在り。高三〇〇間、幅五〇間、北海道第一の大瀧にして、其莊觀紀伊の那智に劣らずと云ふ。

**アカンダケ** (阿寒岳) 【北海】釧路國阿寒郡に在る火山、雌雄二山あり、其間僅に四里中間に阿寒湖及パンケトウ、パンケトウの二沼あり。往昔噴火の際地盤陥没して成れりと云ふ。雄阿寒岳は釧路町を距る二里、山頂まで一里一〇町、美麗なる圓錐形をなし、傾斜頗急にして容易に登るべからず。岳の西麓一里、阿寒湖の南岸に阿寒温泉あり、硫黄泉にして、皮膚病に効ありと云ふ。地僻なるを以て完全なる浴舎なし。雌阿寒岳は白糠、足寄、阿寒三郡に跨り、標高五三三六尺二山の山中、異草奇花多し。

**アキ** (香城) 【奈良】大和國宇陀郡松山町

アカヤ

アカリ

アカン

アカン



邊の地名、延喜式には阿賀に作り、萬葉集に安騎野あり、和名抄に浪坂郷とあるも此地なるべし。

**アキ安藝** 【高知】土佐國安藝郡の町郡内第一の都會にして、室戸崎の西北北二〇里なる沙濱に在り、海岸中最も繁昌の地なり、郡役所、區裁判所、警察署、郵便局、中學校等あり、高知を距る一〇里三〇町、奈半利驛を距る三里半、安藝城址あり、中世安藝(又安喜)氏の居城にして、永祿十二年長曾我部氏に亡ぼさる、安藝氏は蘇我赤兄の後なり、平家物語に安藝太郎實光大力の事見ゆ(八七八)。

**アキ安岐** 【大分】豊後國東國東郡の町、國東半島の東南に在る一市街にして、一小港あるを以て俗に港と呼ぶ、和船の出入多く、青花磁の輸出額年々七〇萬圓に上り、其名頗る高し、郵便局あり、此地に大友能直の第十二子、田原泰廣の築ける安岐城址あり、世襲して十五世に及び、大友親實の亂に亡ぶ、文祿二年豊臣秀吉熊谷直陳に八萬石を與へ、此所に居らしむ、直陳關ヶ原の役大垣城に戦死し、城終に廢す(八三六)。

**アキ阿木** 【岐阜】美濃國惠那郡の村合言、  
**アキワ(秋保)** 【宮城】陸前國名取郡の村、大字湯元、有名なる秋保温泉あり、二口、越街道に當り、名取川の上流に位す、泉質鹽類泉なり、里人名取の御湯と呼ぶ、御湯湯温、澤の湯の三泉あり、仙臺に近き

を以て浴者多く、一年三萬人を下らずと云ふ、湯元より三里に秋保大瀧、又馬場大瀧あり、雄雌二瀧に分れ、雄瀧は直下一六丈、雌は其右に在り(八六六)。

**アキガワ(秋川)** 武藏國西多摩郡の川、水源、檜原村の山中、東流して五日市町を過ぎ、南多摩郡界に至りて多摩川に合す、流程約一里、古名を阿伎流川と云ひ、上流兩岸の地を秋留郷と呼べり、後世略して秋川と呼ぶ。

**アキカワ(安藝川)** 土佐國香美安藝二郡を流る、川、水源、香美郡横山村、流末安藝郡安藝町、流程八里二〇町。  
**アキガワ(安岐川)** 豊後國東國東二郡を流る、川、水源、西國東郡朝田村、流末東國東郡安岐町、流程五里三〇町。

**アキグン(安藝郡)** 【廣島】安藝國七郡の一、四境、東は賀茂郡、北及び西の一部は安佐郡、西の一部は廣島市、西より南は瀬戸内海、屬島は上蒲刈下蒲刈瀬戸、渡子鹿島江田金輪、似島の八島、面積二三万三三三、行政上、海田市、警固屋、戸の三町及び牛田戸坂中山温、高島、中仁保島船越、奥海田畑賀中野下瀬野上瀬野熊野本庄焼山矢野坂大屋、吉浦江田島、渡子島倉崎島下蒲刈島上蒲刈島の二五村に分ち、郡役所を海田市町に置く(四三三)。

斥圃となりしを開墾せるものにて、仁保島比治山等はもと島嶼なりしと云ふ、山岳は北に美濃々宇山東に瀬野山南に灰ノ峯あり、河流は太田川郡の西境を限り、瀬野川即ち海田川郡の中央を西南に流る、又南方に在りて美濃に注ぐものを二河川と云ふ、道路は中國街道賀茂郡より來り、海田市町を経て廣島市に入り、別に海田市町より分れて美市に達する國道あり、鐵道山陽線中國街道に沿ひて賀茂郡より來り、瀬野海田市に車驛を置き、廣島市に至る。本郡は海に沿ひ、北は塞り、南に開き、氣候溫和、土地豐饒、貨物輻輳し、戸口多く、居民農商を營む、殊に漁業の盛なる縣下第一なり、産物の重なるものは漁獲物五〇萬圓あり、特に牡蠣は大阪に輸出し、廣島牡蠣として其名高し、其他米、甘藷、蘿蔔、密柑、夏橙、清酒、醬油等あり、古の安藝郡は境界甚だ廣く、中古割きて安南安北二郡とす。殿島、古書長元永承年間の國宣に其名始めて見ゆ、寛文中安北を高岡郡、安南を安藝郡とす、和名抄漢部彌利、河内、田門、真安藝、船木、義限(限は渡の誤)、安藝、宗山の一〇郷及び驛家を載す。(高知)土佐國七郡の一、四境、東北は阿波國海部郡、西北は香美郡、其餘は太平洋、東西約九里、南北約八里、面積七二万三三三、行政上、安藝町及川北土居井ノ口穴内赤野和食四分馬ノ上畑山、東川、馬路、中山、伊尾木、安田、野北川、奈半利、羽根、吉真

三里二五町、南北六四里二五町、面積九五四方里七六、行政上、秋田市及南秋田北秋田山本、河邊、由利、仙北、平鹿、雄勝の八郡及陸中國鹿角郡に分ち、縣廳を秋田市に置く(八八〇)。

**地勢** 北境には泊岳連山、東境には青梁山脈、南境には島海山嶺、三方峻山を繞らすを以て交通不便、久しく世の風潮に後れたりしが、近年鐵道開通以來、將に面目を一新せんとす。地勢西に向ふて開き、河流皆西走して海に入る。米代能代、御物、子吉の三川を大なりとす。縣の中央より稍西に當り、太平山脈南北に横はるを以て御物川の中流以上は南北に縱谷を作る。もと湖底なりといひ、縣内第一の米産地たり。其他米代川、子吉川の沿岸にも、各多少の平地あり、海岸には能代、土崎、船川、本庄等の諸港あれど、船川港の外、冬季の泊舟に適せず、従て海運充分に發達せず、管内温泉多し、其主なるものを大瀧湯、北秋田湯、櫻の湯、由利郡、泥湯、雄勝郡、小安湯、同、鶴の湯、仙北郡、湯本湯、南秋田郡、蒸の湯、鹿角郡とす。

**氣候** 第七氣候區に屬し、冬季寒氣強く且長く、積雪丈餘に及ぶ所あり、但西に暖流あるを以て、温度割合に高し、秋田市の氣温年平均攝氏一〇度四、最高三五度六、最低零下二四度六、雨量一七七六耗二、風は西若くは北多し。

**産業** 縣下山岳多く、礦物、木材の産海内第一の稱あり、農業は平地殊に御物

川、室戸、津島、佐喜濱、野根、甲浦の二四村に分ち、郡役所を安藝町に置く(八八九)。

地勢、山岳重疊し、平地に乏しく、南に室戸岬あり、海に出づること三里、遙に鹿野岬と對し、南海の望標をなす、岬端に燈臺あり、山岳は室戸岬の北に野根山あり、所謂南帶山脈の脊梁を成し、其高峰を發東森、千本峰、津賀嶺といふ、其脈北に互りて魚梁瀨の諸山と連る。魚梁瀨の高峰を鐘龍嶽、高善嶽、天狗嶽、甚吉嶽といひ、其脈北に走りて、阿波の飯山に連る、河流は安藝、伊能、木、安田、奈半利、野根の五條あり、皆南流して大洋に注ぐ、其最大なるを奈半利川とす、海岸は一帶の沙濱にして、真鍮地なく、僅に佐喜濱、室津、奈半利、安藝の諸港あれども、漁船を泊するに過ぎず、沿岸は漁業盛にして、古來捕鯨を以て名あり、郡中石灰岩に富み多く、石灰を出す、神峰の石食貝の如きは、介殼化石の有名なるものなり、又畑山には寶加磨銅山あり、道路は阿波南街道香美郡より來り、海岸に沿ひて奈半利村に至り、二分し一は野根山を横斷し、一は海岸に沿ひて室戸岬を迂回し、野根村に至りて相合し、阿波海部郡に入る、其間に飛石、別石、呼路、石等の險路あり、寺院は最御崎寺、津照寺、金剛寺あり、皆四國八十八番の札所なり、神社は安田村に神峯神社あり、本郡は物産に富み、水産は縣下第二(八四萬圓)、砂糖は第一位(八萬圓)に在り、主なる物産は米、麥、蕎麥、甘藷、蘿蔔、甘藷

川沿岸に盛にして、米の産額毎年一二〇萬石を下ることなし、畑地は面積三萬六千餘町歩、主に大小豆、馬鈴薯、蘿蔔を作し、其他粟、蕎麥、及特用産なる菜種、麻、藍等あり、蠶絲業は稍盛にして、繭八〇萬圓、生絲七〇萬圓を出す、果實は主として鹿角郡より出づ、木材は秋田市、能代町、土崎港等の製材工場等にて製し、北越北海道及東京、横濱、大阪、遠くは朝鮮に輸出す、林産物三三〇萬圓、畜産は馬を第一とし、其數六萬頭を越ゆ、蠶業は極めて盛にして、試掘地縣下百三十ヶ所、採掘地二百九所、面積三二〇〇萬坪、種類は金銀銅を主とし、其他は鐵、鉛、亞鉛、硫黃、石炭、石油の各種にして、産額九七〇萬圓、鑛山の著名なるは、小坂、荒川、阿仁、椿、院、内尾、去澤等とす、工業品は礦物、殊に秋田八丈著名にして、其他は銀細工、春慶、塗川、漆器、銅鐵器、機械細工、製糖、清酒等なり、水産物は二九萬圓、主なるものは鱈、鯉、鱒、鮭、鱒、八ツ目、鱒等なり。

**商業** 中樞は秋田市、土崎港町なり、殊に土崎港町は仙北米の全部を北海道に輸出する所とす、但由利地方の米は本莊港より輸出す、從來縣下の需要品は東京、其他關西地方より來り、多くは土崎港を経て、秋田市其他に分たれしが、鐵道開通以來、商況稍一變する所あり、港灣輸出總額五〇六萬圓、輸入六六九萬圓にして、輸出品の主なるものは米、穀、魚介、繭織物、木材、礦物、菓細工等にして、輸入品は外

精三極、楠、木材、薪炭材、鮎、鮎、鮎、和紙、生絲、繭織物、砂糖なり、安藝は俗に安喜に作り、中世安藝氏なる豪族居る、和名抄、室津、奈半利、安田、丹生、玉造、黒島、布師、和食の入郷を載す。

**アキコエ(秋越)** 【廣島】安藝國高田郡の村、郵便局あり(八三〇)。  
**アキサト(秋里)** 【鳥取】因幡國氣高郡千代水村の大字、秋里、多番頭師永、高師直次男の草創と傳ふる古城址あり、早くより其子孫此地を領し、秋里氏を稱せり、山名氏守護となるに及びて之に屬し、天正年間、國内毛利氏の領となりし頃、城を法美郡杉崎村(今岩美郡津ノ井村の大字)の妙見山に移し、後復た鳥取城に籠り、當城には羽柴氏、杉原七郎左衛門を置き、伯耆街道を押へたり。

**アキシ(阿岸)** 【石川】能登國鳳至郡に在りし村、明治四十一年、飯地村に合す。  
**アキシノ(秋篠)** 【奈良】大和國生駒郡平城村の大字、秋篠寺あり、寶龜十一年、善珠法師の創建に係る、中世、禪院、修驗道場として、醍醐三寶院に屬す、保延元年、始と魚土となりしが、講堂は創立のまゝにて存す、寺藏の伎藝、天、梵、天、救、脫、菩薩の三木像は、明治三十一年、國寶となる、此地は歌に、外山の里と詠せられたる所なり、西に生駒山あり、秋篠の外山の里やしくるらん、生駒の岳に雲のか、れる(四行)。

**アキシノ(カワ)** 【秋篠川】 大和國生駒郡に在る川、水源、平城村、押熊山、郡の東方を

南流して佐保川に入る、郡山町の東にては大橋川と呼ぶ。

**アキタ(秋田)** 【山梨】甲斐國北巨摩郡の村、郵便局あり(八二六)。  
**アキタグン(秋田郡)** 【秋田】羽後國に在りし郡、明治十一年分ちて南北二郡とす(南秋田郡)及北秋田郡を見よ。  
**アキタケン(飽田郡)** 【熊本】肥後國に在りし郡、明治二十九年廢して飽田郡に入る。四境、北は玉名、南は山本二郡、東は舊合志郡、東南は舊託麻郡、南は下益城、宇土二郡、西は舊海行、行政上、小島町及池田、花園、河内、高橋、横手、春日、古町、川口、走湯、船津、白濱、川尻、龍田、黒葉、清水、川上、視川、寺迫、五町、芳野、松尾、城、山、池、土、島崎、白坪、力合、八分、藤宮、中、緑、鎌、堀、内、田、中、島、中、原、沖、新、奥、古、閑、海、路、口、濱、田、並、建、白、石、島、口、の、四、〇、村、に、分、て、り、飽田は和名抄安岐多と註し、天田、立田の誤なるべし、殖木、下田、宮前、巖、養、市、田、小垣川、内、水、門、加、藤、私、部、栗、北、の、二、郷、を載す、中世國府を託麻郡より移す、慶長年間、加藤清正熊本城を興し、より、國內重要の地となる、細川氏の時、總高七萬石、軍役高五萬石にして、五町、池田、横手、錢塘の四手水組に分れたり。

**アキタケン(秋田縣)** 奥羽北西部の一縣、四境、北は青森縣、東は岩手縣、東南の一隅は宮城縣、南は山形縣、西は日本海、東經一四〇度〇二分一、四〇度四一分、北緯三八度五八分一、四〇度二三分、東西二

里二五町、南北六四里二五町、面積九五四方里七六、行政上、秋田市及南秋田北秋田山本、河邊、由利、仙北、平鹿、雄勝の八郡及陸中國鹿角郡に分ち、縣廳を秋田市に置く(八八〇)。



國米食鹽油酒砂糖紙類綿布石油等なり而して能代港は輸出入額一四一萬圓、土崎港は八六一萬圓とす。鐵道輸出は其額約一〇萬圓なり。

交通 鐵道延長一四四哩、横手秋田土崎能代大館の諸名邑を連絡し、山形青森二縣に通ず。別に大館町より小阪嶺山に至る私設鐵道又秋田市土崎港間に馬車鐵道あり。航路は土崎港を中心とし、南は日本海沿岸諸港を経て九州、瀬戸内海に至り、北は北海道、樺太に至り、更に津輕海峡を経て太平洋を横濱に達す。

行政及財政 諸税負擔額、國稅二〇一萬圓、縣稅六五萬圓、市町村稅九七萬圓にして、一戸當二八圓五六錢、一人當四圓二二錢。國稅の主なるものは、地租一五一萬圓、所得稅二五萬圓、營業稅二二萬圓、酒稅七一萬圓、鹽業稅一三萬圓、縣歲出九一萬圓、縣吏二九人、郡吏一六二人、市吏六七人、町村吏二二七一人。

文籍 秋田縣統計書、秋田縣史(狩野德藏)、秋田縣案内(安藤和風、木村主一郎、野田三郎)、羽後國土性圖地質調査所(野田三郎)、秋田縣全圖(豐田三郎)等あり。

館町(安六)湯澤町(安六) 名所舊蹟(社寺) 小町塚(雄勝郡小野、泉湯由利郡泉湯、金澤城址(金澤町、男鹿島及八郎湯、南秋田郡、田澤湖仙北郡、千歳公園秋田)、古四王神社(南秋田郡寺内、國幣小社)、七座神社(金澤町、社、愛宕神社湯澤町、社)、天徳寺(南秋田郡旭川、曹洞宗、佐竹氏菩提所、補陀寺(同所、同宗)、光禪寺(由利郡松ヶ崎、同宗))

沿革 明治維新の際久保田(一)に秋田、佐竹氏二十萬石、本莊(六)嶋氏二萬二千石、矢島(生駒氏八千石、後一萬五千石)、餘(龜田(岩城氏、二萬石)、岩崎(佐竹氏分家二萬石)の五藩あり。明治四年廢藩、縣となし、次で合して秋田縣とし、岩手縣に屬せし陸中鹿角郡を本縣に屬せしめ、以て今日に至れり。

文籍 秋田縣統計書、秋田縣史(狩野德藏)、秋田縣案内(安藤和風、木村主一郎、野田三郎)、羽後國土性圖地質調査所(野田三郎)、秋田縣全圖(豐田三郎)等あり。

アキタ(秋田市) 秋田縣の市、佐竹氏二十萬石の舊城下にして、國の中央に位置し、南は太平洋を隔て、河邊郡に界し、東北西三方は田園を以て南秋田郡に接す。旭川の中央を貫流し、川口に於て太平洋と合し、御物川に入る。市街は東西二〇町、南北二八町、町數一六九、旭川を以て東西に分ち、東を内街、西を外街(又單に町と呼ぶ)と稱す。秋田縣廳、歩兵第十六旅團司令部、歩兵第十七聯隊地方裁

判所、區裁判所監獄、稅務監督局、大林區署、市役所警察署、郵便局、師範學校、中學校、高等女學校、工業學校、圖書館等あり。合(三)内、内街は舊士族町にして、中通手形保戸野、檜山の四郷あり、其殷賑なるを廣小路通、長町通、根小屋町通池永小路通、牛島橋通とす。外街は南工業の中心にして、土崎港町と鐵道馬車往復あり。本町五丁目より北を上通南を下通と稱し、大通には通町通、大町通、茶町通、五丁目通、馬喰町通等あり。藩政の頃は、大町は免服太物、茶町は茶紙、砂糖、油類を賣賣し、鍛冶町、大工町、馬喰町等、各其職業によりて町名を有せしが、近年は異職相交錯するに至れり。市の位置は太平洋山脈御物川流域を控へ、日本海に近く、生産物に富めども、近年迄交通不便なるを以て、唯一地方の中心たるに過ぎざりしが、鐵道の開通と共に、形勢漸く一變せん

とす。停車場は城の東南赤湯長沼と云へる新開地に在り。青森より五三三六町、盛岡より三三三三町、東京より一五〇里一町、物産は、穀類八丈、羽二重絹ハンケチ、金銀細工、漆器、漆、漆、漆、漆等あり。此地舊藩政の頃久保田と稱し、人口四万以上ありしも、廢藩と共に常職を失ひし者多くは北海道に移住し、又縣内各嶺山に轉じたる者ありて、一時は二萬五千に下りしが、明治三十一年兵營を置き、三十五年鐵道羽線開通以來漸く挽回の勢あり。秋田城址は、もと神明山又

は箭留山と云ひ、後失止城、葛根城、葦城など、稱せり。慶長八年佐竹義宣當藩より移封せらるゝに及び、其臣達谷政光、梶原美濃に命じて築かしめ、九年八月城功、平地より高さ一丈餘、木丸二ノ丸、帶郭、別郭、北ノ丸、兵庫、曲輪、上中城、下中城、及外郭に分れたり。明治維新後陸軍省所管に歸し、明治十三年火災に罹り、二十三年佐竹家へ拂下げられ、今市有となり、其大部は公園、千秋園となれり。公園には遊藝場、佐竹別墅、縣立圖書館、記念公會堂、武德殿等あり。本丸址には縣社秋田神社あり、佐竹義宣を祀る。城池の堀手に唐見殿(一)に堀見田あり。もと佐竹侯の別墅にして、林石の美を以て知られ、殊に大磐石燈籠は甚だ有名なり。初夏躰躰の美觀あり。今一市人の有となる。藩士平澤平角(喜三)の堀田記あり。宇寺町に誓願寺(佐竹義宣の建立)及光明寺(北條時頼の創建と傳ふ)あり。

共(淨土宗)の大刹なり。佐竹氏累代の香華院天徳寺は市の東方、城下に在り。曹洞宗にして、藩政の頃は隆盛を極めしが今は僅に佛殿、庫裡、佐竹氏廟三門を存するのみ。當地の方言は他地方の者に解し難きもの多し。之を詠める俚語に、秋田言葉云ふならば、アレサあばい(左様ならに、おらやんだ私厭だ)、がつ(香物にばつ、子供に、火もつけ、火を持って來い)、姉ちや(姉さん)、ちや向け(ちや向け)ばくまけな(嘘をつくな)。

島より蒲刈、大崎の諸島東は伊豫宮崎、大下瀬戸の邊に至る。灘の西北に、奥海、島嶼あり。主要航路は灘の東なる釣島海峽より、來島海峽并に大下瀬戸を通過す。

アキノ(秋野) 【新湯】越後國中魚沼郡の村、郵便局あり。合三三。

アキノ(秋野) 【奈真】大和國吉野郡の村、合三三。

アキノ(秋野) 【奈真】大和國吉野郡の村、郵便局あり。合三三。

文籍 秋田縣案内(山方石之助、野田三郎)

田市統計一斑(秋田市役所)

アキタ(秋田市) 秋田縣の市、佐竹氏二十萬石の舊城下にして、國の中央に位置し、南は太平洋を隔て、河邊郡に界し、東北西三方は田園を以て南秋田郡に接す。旭川の中央を貫流し、川口に於て太平洋と合し、御物川に入る。市街は東西二〇町、南北二八町、町數一六九、旭川を以て東西に分ち、東を内街、西を外街(又單に町と呼ぶ)と稱す。秋田縣廳、歩兵第十六旅團司令部、歩兵第十七聯隊地方裁

アキタ(秋田市)

秋津といひ、東村山村の大字なり。其間を流るる、堀川といふ。兩地共に不動堂あり。●【茨城】常陸國行方郡の村、合三三。●【奈良】大和國南葛城(舊葛上)郡の村、孝安天皇秋津島宮の址あり。孝昭、孝安二帝の都城にして、秋津島の名より著はれ、終に國號となる。村名も亦、いに出づ。大字池ノ内に孝昭天皇池心の宮址あり。大倉古原又蓬原といふ。御所町との間に在り。又武内大臣の室の墓あり。或は玉手(掖上)村に在りといふ。合三三。●【愛知】尾張國丹羽郡に在りし村。明治三十九年布袋町及古知野町に分屬す。●【長野】信濃國下内郡の村。合三三。●【和歌山】紀伊國西牟婁郡の地方、秋津川(一)會津川の流域にして、田邊町の北に接す。古は秋津里と稱し、今は上秋津下秋津、秋津川、稻城の四村となる。萬葉集の八咫山、岩倉山も此地に在り。見渡せば、きりめんの山もかすみつ、あきつ、の里は春めきにけり。櫻詞花集、平忠盛、みなつきのころとも見えぬ草葉かな、秋津の里の道の露けき、天木抄法印定圓。●【熊本】肥後國上益城郡の村。合三三。







アキヤ

界に接す。古城址あり。加賀美遠光の長子光朝此に居り、秋山を氏とし、平氏に仕へ子孫代々住せりといふ。●「長野」信濃國下高井郡塚村の字。上野。越後。信濃三國の交界なる幽境にして、中津川魚沼川の谷奥に位し、地勢全く越後國に屬す。東に苗場山(六九七三尺)寶ヶ倉山(七二八尺)南に大倉山(六七八尺)西に岩倉山(八二九九尺)鳥甲山(七二六〇尺)赤倉山(六四六五尺)峙し、小赤澤屋敷和山切明の諸部あり。其作(塚村)の首邑より八里越後の小千谷へ一八里切明及和山に温泉あり。全く別天地をなし、言語風俗大に他に異なるものあり。明治八年より僅に米作をなし、粟及蕨に和して食す。常食は稗粉及山椒の肉住所は杭を樹て、其上部を連繫し、茅を以て之を蔽へるのみ、富める者にあらずれば床を設けず。●「高知」土佐國香川郡の村。仁淀川に近き海村なり。此地昔は岩懸権現祠ありて、岩懸村といへり。村に種間寺あり。四國第三十四番の札所にして、本尾山朱雀庵と號す。本尊は百濟より來りし工匠の造れる薬師如來にして、村上天皇の勅願所たり。宇堂は國守山内忠義の重修に係るといふ。六百八十六。

アキヤ

國柄に、身を秋山や世の中の字院の御狩場よそに見て云々。アキヤマガハ(秋山川) 下野國安蘇郡に在る川。水源、氷室山。南下して、渡良瀬川に入る。下流は佐野町を過ぐるを以て佐野川といふ。流程一四里合流に近き所に馬門越名等の河岸あり。アキユリシマ(一島) 【北海】千島國の島。納沙布岬の東約八里に在り。南側を除くの外周半渾の間に概ね險悪なり。北岸の約中央に沙濱あり、ウツムエと云ふ。島の西端アナマ崎の西二里に險峻あり、中ノ瀬と名く。ユル島と此間との間をユル水道と呼ぶ(水路志)。アキヨシ(秋吉) 【山口】長門國美禰郡の村。桂木山の南麓にして、石川街道に當る。郵便局あり。古名を藤野といふ。往古一面の沼澤なりしより出づといふ。村西に八幡山あり、其質の大理石を出し、美濃の金山山常陸の眞弓山と併稱せらる。此邊の高原を秋吉、壱といひ、第五師團砲兵の發射演習地なり。八幡山の西北に奇窟あり、洞穴と呼び、深き迂曲六町に過ぐといふ。六百七十七。

アキヤ

アキギキカワ(明木川) 長門國阿武郡に在る川。水源、美禰郡界の雲雀山。末は阿武川に入る。アグ(阿宮) 【島根】出雲國簸川郡出西村の大字。又阿具に作る古の河内郷の一部にして、延喜式阿具(又は阿吾)神社あり。アグイ(阿久比) 【愛知】尾張國知多郡の村。郵便局あり。阿久比は尾張國知多郡の舊郡名にして、今阿久比上阿久比、東阿久比の三村に當る。神宮神社あり。延喜式の阿久比神社なりといふ。村内坂部に久松氏の城址あり。久松氏は英比殿の後裔と稱し、本郡の舊族たり。徳川家康の生母の家なれば、松平の姓を賜はり、勢州桑名及遠州久能に分封せらる。六百七十五。

アキヤ

アクタ(悪田) 【新潟】越後國刈羽郡西中通村の大字。鑄石川此處より海に入るを以て悪田川とも呼ぶ。もと渡津なりしが、今橋梁を架す。アクタガワ(芥川) 【大阪】攝津國三島郡の村。高槻町の西北なる一帯にして、芥川貫流す。延喜式阿久刀神社あり。六百七十三。アクタカワ(芥川) 攝津國三島郡に在る川。水源、丹波國南桑田郡田能村。南流して大冠村の西に至り、淀川に注ぐ。流程三里一八町古歌に多く詠じ、専ら落花を詠み合せり。伊勢物語に、芥川といふ川にゐて行ければ草の上に置たりける露を、彼は何ぞとん男に問ひける云々。アクタミ(芥見) 【岐阜】美濃國稲葉郡の村。郵便局あり。六百六十九。アクツ(芋) 【茨城】常陸國東茨城郡の村。中世大徳氏の族此處に住し、阿久津氏を稱す。今尙其館址あり。六百六十六。アクツ(阿久津) 【栃木】下野國鹽谷郡の村。六百五十八。

アキヤ

アグニシマ(粟國) 琉球國島尻郡の村。次條を見よ。アグニシマ(粟國島) 琉球國島尻郡の島。那覇港の西北五〇里に在り。周圍二里一八町。島形略半圓形をなす。此島は鳥島及久米島と共に、琉球列島の内面に沿ふて并列せる火山島の一にして、霧島山、櫻島、海門、硫黄島、口之永真部島及土噶刺七島等と同じ火山系に屬す。島の構造を見るに、本島は海中火山の一片が

海面上に隆起したるものにて、西南隅に最高處(海拔五〇〇尺)あり。是より地勢東北に向て漸下し、北及東の二邊は低き海濱に終り、南岸の西半及西岸の南半は、一〇〇尺乃至四〇〇尺の斷崖をなして海に臨む。此斷崖には火山質の諸層層露出す。即ち第一層(最上層)は綠色安山岩質の集塊凝灰岩にして、甚しく風化すれども長石の斑晶を存し、所々球狀組織を呈す。第二層は白色浮石質の凝灰岩にして、厚き前層に數倍し、西南隅なるマハナの海岸に高三〇〇尺以上の絶壁を成して海に臨む。第三層は拳大乃至頭大の磊磊たる輝石安山岩塊より成れる集塊岩にして、方解石脈に富み、處々に同質の安山岩の層盤を挿む。是等の火山噴出物の累層は北又は北西に向て緩斜し、且南岸なるハンカ―濱は、水深く、新珊瑚礁の發達なきにより、噴火の中心はハンカ―濱沖に在りしもの、如く、本島は初め海底に噴出したる火山の一角海面上に出で、島となり、其外縁即西北側に珊瑚發育して礁を作り、後漸次隆起して、今の島形をなせしことば、島の西南隅高地より西北に向て斜下せる緩斜地が、悉く隆起珊瑚礁より成り、段立的に海に向て漸下せること、沖繩島南部に見る所と異ならざるに徴して知るを得。島内淡水なきを以て、水田を作るを得ず。住民は甘藷を栽培し之を常食とす。又井を穿つも水を得ざるにより、石鑿に雨水を貯て飲料に充

アキヤ

つ、又島内樹木少きを以て蘇鐵の葉を乾かして薪とし、其莖は春きて澱粉を製し、凶年に備ふ。斯く本島は物資乏しきを以て、壯丁は概ね他島に出稼し、女子も那覇首里等に下女として傭はる者多し。島民多くは裸體にして、海濱に漁し、游泳に長ず。家屋は陋隘にして、茅を以て屋根を葺き、其勾配甚急なり。家の周圍には石垣を繞らすこと他島と同じ。部落は東西濱の三所に分れ、立て、粟國の一村となす。郵便局あり。六百五十三(地學雜誌感水鐵五郎氏沖繩觀察談に據る)。

アキヤ

アクネ(阿久根) 【鹿兒島】薩摩國出水郡の村。往時英禰院と呼びし地にして、外洋に面し、其首邑を波留と呼ぶ。郵便局あり。肥後街道に當り、四方驛を距る三里一四町餘。鹿兒島を距る一九里一八町。高松川其傍を過ぎて海に入る。其海口を阿久根港とす。天草及長崎に航する者多く此處に舟を備ふ。海上數箇の小嶼あり。雄島、雌島等と呼ぶ。風景甚だ佳なり。波留の南八町餘にして、數町の鹽田あり。鹹水の自然に湧出するものを汲みて、鹽を製す。英禰院は大字山下に在り。寛元四年鎌倉幕府の命により、成崎成兼下向して此所に居り、英禰院の所司たり。子孫相承し、天文年中出水の島津義虎に屬す。阿久根の七奇といふあり。黒神岩、隔間の鹽濱、大人足跡、廢船、尻無川、小海崎の洞穴、光礁是なり。六百六十六。

アキヤ

アクネ(阿久根) 薩摩國に在る高松川の一名。アクノウラ(鰐浦) 【長崎】肥前國長崎市の字。大字浦上淵に屬す。三菱造船所の機械工場及第二船渠あり。鰐浦工場は徳川幕末の創立に係り、本邦最初の鐵工場たり。アクハラ(阿久原) 【埼玉】武藏國児玉郡若泉村の大字。神流川を隔て、上州鬼石町と相對す。中世武藏牧の一なる、阿久原勅旨牧のありし處といふ。アクミカワ(鰐海川) 三河國に在る豊川の古名。アクミクン(鰐海郡) 【山形】羽後國九郡の一。四境、北は由利郡、東は羽前國最上郡、南は羽前國東田川、西田川二郡、西は日本海。面積三三万五〇五行政上、酒田、松嶺の二町及上郷内郷田澤北俣南平田、東平田北平田中平田西平田鶴渡川原、飛島、上田、本楯、一條、觀音寺大日向、西荒瀬、南遊佐、稻田、西遊佐、遊佐、廣岡川、行高瀬、吹浦の二六村に分ち、郡役所を酒田町に置く。六百六十七。地勢、本郡北は鳥海山、南は最上川を限り、西に開きたる地にして、地勢全く羽前の田川郡と抱擁し、羽後の諸郡と懸絶す。古來田川、出羽(今田川)の二郡と合せて、庄内三郡の稱あり。近年まで田川と共に庄内領たりき。郡の過半は火山岩及第三紀層より成る山嶽丘陵なれども、海岸の地は平夷にして、田圃開けたり。酒田は古來兩羽唯一の商港として名高し、秋田街道は酒田!

アキヤ

藤崎吹浦を経て秋田縣に入る。本郡は縣下に於て東田川郡に次ぐ米産地にして、又水産に富む。主要物産は米(二三萬石)を最とし、其他大豆、蕎麥、馬鈴薯、菜種、繭、漁獲物(二三萬噸)、水産製造物(一〇萬圓)あり。工業は生絲織物、漆器、鐵器、酒類、醬油、味噌等なり。鰐海は稱は、大古阿古の入江ありしより出づといふ。上古高志の深江國に屬し、大化の初越後國に合し、和銅五年出羽國を置くに及び、これに屬せしが如し、貞觀十五年紀に、鰐海郡の節婦褒賞の事あり、郡名の史上に見えし初なり。和名抄安久美と註し、大原鰐海屋代、秋田、井手遊佐雄波、曰理由理、餘戸の九郡を載す。蓋し今の由利郡の南中に互れり。近世私に割て、南を遊佐郡、北を由利郡といへり。寛文年中遊佐を復し、北部に河邊郡の南部を合せ、其まゝ、由利郡と稱し、以て今日に及べり。アクラ(阿蘇) 遠江國磐田郡二俣町の大字。阿倉山、玖延寺あり。舊寺領二十石。永正年中二股長建立、舊稱九洲寺。アクラ(鰐浦) 【岡山】備前國兒島郡甲浦村の大字。佐々木氏の一族鰐浦氏の永く居住せし所として著はる。南北朝の頃備前守信胤あり、天文の頃其族加地氏と争ひて之を逐ひ、其地を領せり。後浦上宗景に屬し、又宇喜多氏に仕へ、西千石餘を領せりといふ。アクラ(鰐等) 【和歌山】紀伊國海草郡の古地名。田倉崎を見よ。

アキヤ

アクニ 二七



アクラ

アクラガワ(阿倉川) 【三重】伊勢國三重郡海蔵村の大字。四日市の北に接す。戦國の時平貞盛の末、館太郎貞治の後裔阿倉氏居る。

アケサ

アケサハノ(上小竹葉野) 攝津國大阪府市南區に在りしといふ地名。生玉の島居より東北をいふ一説には西成郡三番中津村及豊里村の地とす。綱引するみつ

アケハ

アケハル(明治) 【愛媛】伊豫國北宇和郡の村。阿波野。アケハシ 【榑太】明牛を見よ。

アコウ

アコウ(赤穂) 【兵庫】播磨國赤穂郡の町。千種川の西岸に在り。國內西部の名色なり。市街は東西一四町、南北二三町、赤穂

アコウ

アコウ(赤河) 【岐阜】美濃國加茂郡蘇原村の大字。此地に大地古城址あり。遠藤胤直六千五百石を領して此に居り。豊臣氏に屬せり。關ヶ原役西軍に與みし。除封せらるるといふ。

アコウ

アコウガイ(阿糠街) 【臺灣】阿糠廳下の一市街。風山街の東北四里。下淡水溪の岸に近く。港西中里に於ける物貨の中心

アコウ

アコウケン(赤穂郡) 【兵庫】播磨國十三郡の一。西境、東は揖保郡、北は佐用郡、西は備前國和氣郡、南は海而積二〇方里、二

アコウ

アコウシマ(安島) 【福島】岩代國安積郡丸守村に在る。鐵道岩越線の一驛。郡山より七哩二五鐘。

アコウ

アコウ(香郷) 【島根】石見國邑智郡の村。もと香江郷といひ、川本村の東、船瀬川の西に在り。江ノ川の南北兩岸に跨る。郵便局あり。又式内天津神社あり。銅鑛あり。銅ヶ丸といふ。白雲二。

アコウ

アコウ(赤河) 【岐阜】美濃國加茂郡蘇原村の大字。此地に大地古城址あり。遠藤胤直六千五百石を領して此に居り。豊臣氏に屬せり。關ヶ原役西軍に與みし。除封せらるるといふ。

アコウ

アコウケン(赤穂郡) 【兵庫】播磨國十三郡の一。西境、東は揖保郡、北は佐用郡、西は備前國和氣郡、南は海而積二〇方里、二

アコウ

アコウシマ(安島) 【福島】岩代國安積郡丸守村に在る。鐵道岩越線の一驛。郡山より七哩二五鐘。



し、外海風濤強き時、港内至て安全なり。水深一八尋乃至九尋、琉球三真港の一なり。沿岸に石花糖多けれども、那覇港に泊る船舶は常に風濤を此に避く。

【アコノオカノミササキ(安古岡陵)】「奈真」大和國高市郡坂合村の陵、文武天皇の御陵なり。

【アコノトキ(阿古瀧)】大和國吉野郡に在る瀧、天川村大字小笠山に在り、天ノ川に注ぐ、高さ三十丈、幅五間。

【アコメハマ(阿漕)】「福岡」筑前國早良郡建前町の古名。

【アサ(麻)】「香川」讃岐國三豊郡の村、大瀧山の南麓に在り、岩瀧池あり、其水西北流して高瀬川(一に新名川)となる。城址あり、近藤氏の居城にして、天正年中阿波の大西覺養通來りて此城に據るといふ。合三三。

【アサ(厚狭)】「山口」長門國厚狭郡厚四村の大字、中國街道の一驛にして、鐵道山陽線停車場及郵便局あり。延喜式の厚狭驛は、今厚四村の地なりといふ。今川了俊の道行ぶりに、「あさの郡といふ」といふとき、昔し板垣の城と申ける山さほに寺のあるに、今夜はとまりたり」と載す。又宗紙の筑紫紀行に、「里を」といふ宿とかいひて、左に塔婆のなかにみゆる寺あり」と記せる。今宿は即ち厚狭なり。

【アサイ(浅井)】「愛知」尾張國栗原郡の町、明治三十三年町となる。郵便局あり。合三三。【石川】加賀國能登郡苗代村の大

字、今南北の二に分れ、小松町の東南に接す。慶長五年小松大聖寺の諸城西軍に應ぜしかば、前田利長出でて、之を攻め、大聖寺を陥る。既にして敵海路能登に入る。と聞き、速に軍を回せしかば、小松城主丹羽氏の兵出でて、之を要撃す。前田氏の將長連龍返し戦ひ、其九勇士及從卒二十餘人戦死す。之を浅井の戦と呼び、今其地に碑を建つ。【富山】越中國射水郡の村。合三三。

【アサイ(朝比奈)】「山梨」甲斐國山梨郡の村。合三三。

【アサイ(朝比奈)】「千葉」安房國に在りし郡、國の東隅を占め、面積八方里。五、明治二十九年廢して安房郡に合す。朝比奈和名抄阿佐比奈と註す。朝日向の義なりといふ。後私に朝平郡と呼び、丸氏の永く本郡を領するに及び、丸郡の私稱あり。慶安年中復舊せしめ、訛りてアサイ郡と呼べり。和名抄は御原、新田、大瀧、清藤、健田の五郷に分つ。後世安房郡の白濱郷本郡に入る。又健田郷の轉じて平郡に入るとするもの、之を瀧田村に充つ。近年、和名の二町及白濱七浦健田千歲、豊田、丸北三原、南三原、江見の九村に分れたり。

【アサイ(浅井)】「滋賀」近江國に在りし郡、琵琶湖の北畔を占む。其名は續紀神護景雲二年の條に見ゆるを初めとす。和名抄に阿佐井と註し、岡本、田根、湯次、大井、川道、鏡、速水、益田、新居、郡

宇朝日野、野津津の十三郷を載す。後世鹽津郷を西浅井郡と稱し、其餘を東浅井郡と呼びしが、明治二十九年西浅井郡を廢して伊香郡に合せ、今は東浅井郡のみ残る。此鹽津の地は湖水を隔て、東浅井の西北に在り、伊香郡其間に介在し、地形全く懸絶せるに、如何にして一郡とせしむ。

【アサイ(朝比奈)】「静岡」駿河國志太郡の村、和名抄朝比奈郷の遺稱にて、戰國の頃今川氏の將朝比奈泰能等の居りし所とす。此家は俗に堤中納言兼輔の後胤、駿河守公國五男國俊を祖とすといふ。合三三。

【アサイ(朝比奈)】「駿河」駿河國志太郡に在る川瀬川川の支流なり。流程六里。

【アサ(浅井)】「兵庫」播磨國風土記に見ゆる里名。今、揖保郡勝原、大津、旭陽等の諸村の地なり。

【アサ(菅部)】「岡山」備中國上房郡の村、郡の北隅を占め、高梁町を距る北五里二八町、伯耆國日野郡に通ずる街道に當る。郵便局あり。合三三。

【アサ(浅尾)】「山梨」甲斐國北巨摩郡朝神村の大字。一に麻生に作る。今浅尾、浅尾中、浅尾新田の三大字に分る。茅ヶ岳四方の嶺野を占む。東西一里二五町、南北一里、面積二六三町。俗に浅尾原といひ、蘿蔔の名産あり。【岡山】備中國吉備郡に在りし村、明治四十一年總社町に入る。近世浅尾領といへる地なり。慶長十年

安八郡の村。合三三。

【アサ(浅草)】「東京」武藏國東京市の一區、東京市を見よ。【岐阜】美濃國

【アサ(浅草)】「東京」武藏國東京市の一區、東京市を見よ。【岐阜】美濃國

【アサ(浅草)】「東京」武藏國東京市の一區、東京市を見よ。【岐阜】美濃國

【アサ(浅草)】「東京」武藏國東京市の一區、東京市を見よ。【岐阜】美濃國

【アサ(浅草)】「東京」武藏國東京市の一區、東京市を見よ。【岐阜】美濃國

【アサ(浅草)】「東京」武藏國東京市の一區、東京市を見よ。【岐阜】美濃國

【アサ(浅草)】「東京」武藏國東京市の一區、東京市を見よ。【岐阜】美濃國

【アサ(浅草)】「東京」武藏國東京市の一區、東京市を見よ。【岐阜】美濃國

【アサ(浅草)】「東京」武藏國東京市の一區、東京市を見よ。【岐阜】美濃國

【アサ(浅草)】「東京」武藏國東京市の一區、東京市を見よ。【岐阜】美濃國

【アサ(浅草)】「東京」武藏國東京市の一區、東京市を見よ。【岐阜】美濃國

【アサ(浅草)】「東京」武藏國東京市の一區、東京市を見よ。【岐阜】美濃國

【アサ(浅草)】「東京」武藏國東京市の一區、東京市を見よ。【岐阜】美濃國

【アサ(浅草)】「東京」武藏國東京市の一區、東京市を見よ。【岐阜】美濃國

【アサ(浅草)】「東京」武藏國東京市の一區、東京市を見よ。【岐阜】美濃國

【アサ(浅草)】「東京」武藏國東京市の一區、東京市を見よ。【岐阜】美濃國

【アサ(浅草)】「東京」武藏國東京市の一區、東京市を見よ。【岐阜】美濃國

【アサ(浅草)】「東京」武藏國東京市の一區、東京市を見よ。【岐阜】美濃國

【アサ(浅草)】「東京」武藏國東京市の一區、東京市を見よ。【岐阜】美濃國

野井喜久田、豊田、富田、月形、中野の二〇村に分ち、郡役所を郡山町に置く。合三三。八、地勢、本郡は阿武隈川の西岸、脊梁山脈の東側に在り、地勢東に向て低下し、對面原、廣谷原、大藏垣原、大槻原、四十櫃原、牛庭原等第四紀古層の高原連り、水利に乏しく、久しく荒廢に屬せしが、猪苗代湖疏水工事成りしより、俄に開墾せられ、國內屈指の生産地となり、郡山町の如きは繁盛福島市を凌ぐとす。道路は奥羽街道の東端を通じ、鐵道奥羽幹線之に沿うて走り、郡山、白河間に車道を置く。郡の西部には若松、白河間の街道を通じ、三代、福島の小站之に當る。主要なる物産は蠶絲にして、約五〇萬圓の産あり。牧畜亦行はれ、馬約三千頭を牧す、農産は米、麥、甘藷、馬鈴薯、粟等あり。安積は上古の阿武隈國なり、大化改新に郡となり、延喜六年分ちて安達郡を置く、和名抄阿佐加と註し、丸子、小川、茶屋、安積の四郷を載す(諸本多くは錯りて那麻郡に入るべき)。入野、佐戸、芳賀、小野の四郷を掲ぐ、今高山寺本に從ふ。後世丸子、小川の二郷は田村郡(磐城國)に入りしもの、如し。安積山、安積沼、山ノ井等の古蹟存す。

【アサ(浅草)】「東京」武藏國南多摩郡の村。合三三。【山梨】甲斐國北巨摩郡清里村の大字。川又川の水源地なり。此地に玉川、玉淵、玉権現、御玉驛等の地名あり。多摩庄名を起る所なりといふ。【長野】信濃國上水内郡の村。合三三。【福島】磐城國石川郡の村。大字、浅川は棚

陸奥に譲せられし時、五月の節旬に菖蒲を葺かんとして、無かりしかば、此沼の花かつみを採りて之に代へしといふより、古歌多く花かつみを讀み入れたリ。みちのくの安積の沼の花かつみ、かつみる人に戀ひや渡らん(古今集)。

【アサ(浅草)】「東京」武藏國南多摩郡の村。合三三。【山梨】甲斐國北巨摩郡清里村の大字。川又川の水源地なり。此地に玉川、玉淵、玉権現、御玉驛等の地名あり。多摩庄名を起る所なりといふ。【長野】信濃國上水内郡の村。合三三。【福島】磐城國石川郡の村。大字、浅川は棚

【アサ(浅草)】「東京」武藏國南多摩郡の村。合三三。【山梨】甲斐國北巨摩郡清里村の大字。川又川の水源地なり。此地に玉川、玉淵、玉権現、御玉驛等の地名あり。多摩庄名を起る所なりといふ。【長野】信濃國上水内郡の村。合三三。【福島】磐城國石川郡の村。大字、浅川は棚

【アサ(浅草)】「東京」武藏國南多摩郡の村。合三三。【山梨】甲斐國北巨摩郡清里村の大字。川又川の水源地なり。此地に玉川、玉淵、玉権現、御玉驛等の地名あり。多摩庄名を起る所なりといふ。【長野】信濃國上水内郡の村。合三三。【福島】磐城國石川郡の村。大字、浅川は棚

【アサ(浅草)】「東京」武藏國南多摩郡の村。合三三。【山梨】甲斐國北巨摩郡清里村の大字。川又川の水源地なり。此地に玉川、玉淵、玉権現、御玉驛等の地名あり。多摩庄名を起る所なりといふ。【長野】信濃國上水内郡の村。合三三。【福島】磐城國石川郡の村。大字、浅川は棚

【アサ(浅草)】「東京」武藏國南多摩郡の村。合三三。【山梨】甲斐國北巨摩郡清里村の大字。川又川の水源地なり。此地に玉川、玉淵、玉権現、御玉驛等の地名あり。多摩庄名を起る所なりといふ。【長野】信濃國上水内郡の村。合三三。【福島】磐城國石川郡の村。大字、浅川は棚







アサタ

衣を此寺に納むるの慣習ありと云ふ。
●【愛知】尾張國西春日井郡に在りし村
明治三十九年清洲町に合す。●【福岡】
筑後國浮羽郡椿子村の大字。此地に有名
なる古塚二あり相距離約三十間正面に
向ひて兩立し各々一丘を成す。共に石窟
あり窟中大石を疊みて三室とし一は大
石を以て天井を作り二重の室を分ち築
遺甚だ堅牢なり。周囲の石壁に朱を以て
畫ける紋様あり。平田篤胤は古文字の一
種とし其神字日文傳疑字篇中に收めた
れども實は皆殉死を代表せる模様にて
一征矢を負へる軍人の背面一頭槌の
銀三盾の一種を描きたるものと云ふ。
●【大分】豊後西國東郡の村合三三三
アサタ(淺田) 【青森】陸奥國三戸郡の村
合三三三
アサデ(淺田) 【大阪】攝津國三
島郡の和歌の所勢手村金龍山の麓に
在り。●【奈良】大和國高市郡の所高
市町大字尾曾に在り。
アサデ(淺田) 【對馬】國上下二
島の間在る内海。淺海灣又大口灣とも
云ふ。東西約三里南北一里二四町海岸
出入多く碇泊に堪ふるもの十三澳あり。
今海の南岸竹敷に海軍要港を置き全海
其防禦地帯に屬す。灣内水深三〇尋乃至
四〇尋と云ふ。此内海の東部はもと狹隘
なる地頭を以て上下二島を連ね東方外
海と隔りしが寛文十二年開鑿して内外
海を通す其間僅に八間之を大船越の瀬

アサチ

戸と稱す。小汽船又は和船を通すべし西
の灣口は如何なる大艦と雖ども往復す
るを得と云ふ。
アサチ(淺田) 【丹波】國多紀郡に在
る山。日置村に屬し。滿山松樹蔚然とし
て形狀富士山に似たり。昔北麓の村里を
朝路村といひしが大永の頃波多野秀經
城を山下に築き八上高城と云ひ山麓の
村落一都市となりしが慶長年間城を篠
山に移し村も從て衰ふ。
アサツマ(朝妻) 【京都】丹後國與謝郡の
村合三三三
●【奈良】大和國南葛城郡葛
城村の大字。照神天皇の時歸化せる秦始
皇の子孫を置かれし朝津間の地なり。天
武天皇九年朝妻に幸すとあるも此地な
り。●【滋賀】近江國坂田郡入江村の大
字。和名抄朝妻郷の遺稱にして。琵琶湖の
此地に響入するを朝妻の入江と云ふ。往
時は湖東の大港なりしが凡二百年以前
より泊舟不適となり。夫木集に「には
の海や朝つま舟も出にけりつなく水を
風やとくらん。世に淺妻船とて元祿年
中英一蝶の畫けるを傳ふ。其詞に云「あ
だしあだ波よせてはかへる波。朝妻舟の
あさましやああ又あすの夜は誰ときき
りなはしてまくらばつかしいつはり
勝なるわか床の山よしこれとて世
の中」
アサツマ(朝妻山) 大和國南葛城郡
に在る山。葛城村大字朝妻に屬す。
アサト(安里) 【沖繩】琉球國島尻郡眞和

アサナ

志村の大字。首里の西。那覇の北に當る。
縣立高等女學校あり。文正元年尚德王の
創建せし八幡宮及神徳寺あり。
アサナイ(淺内) 【秋田】羽後國山本郡の
村合三三三
アサナイ(麻内) 【樺太】真岡支廳本斗出
張所管内の漁場。舊稱アサナイ。
アサナエ(淺江) 【山口】周防國熊毛郡の
村合三三三
アサナミ(淺海) 【愛媛】伊豫國温泉郡の
村。感智郡菊間村に接せる海村にして。一
角西に斗出し。感智郡の宮崎鼻と相對し
て灘を擁す之を波妻岬と云ふ。中世河
野氏の黨淺海氏の居りし城址あり。村の
西方河岸に巖山あり。波瀆の爲に侵蝕せ
られ頂上に少しく土を戴き小社一座あ
り龍神を祀る千湖の時歩して至るべ
し景色甚だ佳なり。合三三三
アサヌ(淺野) 【栃木】下野國安蘇郡犬
伏町の大字。古城址あり。治承の頃足利
有綱唐澤山の支城として築き其四男廣
綱を置けり。廣綱は阿曾流を氏とし。爾來
子孫此に居り。佐野氏の長臣たりしが佐
野氏と共に亡ぶ。
アサノ(淺野) 【兵庫】淡路國津名郡の村。
播磨灘沿岸の富島浦波二村の間に在り。
歌の名所にして。濱より谷間に入る十町
に淺野瀧あり。高七丈四尺幅二間。四邊
に楓樹多きが故に紅葉の瀧とも云ふ。瀧
下の傍に不動の石像あり。又瀧の上左右
に曠原あり。淺野の原と云ふ。春はまた

アサノ

淺野の雪のむら消に。あさる雉子の跡は
みえたり(千庵)妻こめてきす啼くな
りきのふこそ。雀かくれの草の淺野に
(契沖)瀧の上の淺野の原のあさみとり。
空に霞みて春雨ぞふる(續後拾遺)
「霜枯の淺野の雉子ふみたて。瀧の上
ゆく狩人やたれ」六帖洞院左大臣。合三
三三
●【愛知】尾張國丹羽郡淺淵村の大
字。名古屋市の北西四里に在り。蘇州侯淺
野氏の祖代々此地に居り。長勝に至りて
織田信長に仕へ。長政豊太閤に親任せら
れて。大に家を興せり。●【岐阜】美濃國
土岐郡肥田村の大字。土岐光衡の子淺野
判官光行(後鳥羽院北面の土)の居りし
所なり。●【長野】信濃國上水内郡鳥居
村の大字。千曲川の邊にして。北國街道よ
り分れて。飯山町に至る街道の一小站な
り。●【香川】讃岐國香川郡の村合三三三
アサノ(麻野) 【香川】讃岐國仲多度郡に
在りし村。明治三十四年善通寺町に合す。
アサノ(淺野川) 【加賀】國に在る川。水
源。順ノ尾山。折谷。白見等の諸細流を合
せ。石川。河北二郡の境を成し。金澤市
の東北を貫き。北流して河北海に入る。流
程九里。鮭鱒年魚鱒等を産し。下流は舟
楫の便あり。
アサバ(淺場) 【静岡】遠江國濱名郡の村
合三三三
アサバ(淺羽) 【埼玉】武藏國入間郡坂戸
町の大字。和名抄麻羽郷の遺稱にして。近
世まで庄名に呼べり。東鑑及太平記等に

見えたる淺羽氏は此地の人と云へり。●
【静岡】遠江國磐田郡の舊庄名。登井町の
南。諸井川(原ノ谷川)の東にして。もと三
十三箇村に分れたり。今東淺羽西淺羽
上淺羽の三村となる。東鏡に出でたる淺
羽庄司宗信の宅址は柴村の内に在りし
と云ふ。又安田義定遠江守たりし時。淺羽
庄を領せり。建久四年義定鎌倉幕府の置
を受け没收。加藤次景康之れに代ること
東鏡に見ゆ。徳川氏の初諸井川の要害類
なりしかば。慶長九年代官伊奈氏水路を
變更し。又本多利長横須賀城主たりし時。
長堤を築きしかば。是より水害全く止み
て。三十三村の地一萬石の良田となれり
と云ふ。此處に淺羽三所宮とて。八幡馬
場梅田の三地に八幡宮あり。
アサハタ(麻機) 【静岡】駿河國安倍郡の
村。龍爪山の麓くる所にして。其山を麻機
山と云ふ。又淺畑沼といへる池あり。周圍
四十町。下流巴川となる。池中に蓮あり。
花時頗る美觀なり。麻機山は歌の名所と
して知らる。合三三三。「夜とともにあさは
た山に織るものは。木々のもみぢの錦な
りけり」(讀人不知)
アサハラ(淺原) 【廣島】安藝國佐伯郡の
村合三三三
アサハラ(淺原) 【備中國都窪郡
に在る山道菅生村淺原の北嶺にして。山
平村の福山城址に通す。延元元年足利直
義福山城主大江田式部大輔を討たんと
して。淺原峠より攻掛る。と。太平記に

見ゆ。
アサヒ(淺) 【千葉】安房國安房郡の町。右
名なる七浦漁場の中心にして。最も繁昌
の地とす。警察分署郵便局等あり。北條
町より陸路三里車馬を通す。村内に鑛泉
湧出す。千倉を見よ。淺はもと朝夷に
作り南北に分てり。往古朝夷郡家の在り
し所なり。和田義盛の子朝夷三郎義秀建
曆年中一門敗絶せると。衆を率ゐて走
安房に據るといふ。義秀蓋し邑を此所に
有せしなり。合三三三
アサヒ(旭) 【京都】丹波國南桑田郡の村
合三三三
●【神奈川】武藏國桶狭郡の村
合三三三
●【新潟】越後國東頸城郡の村
合三三三
●【新潟】越後國中頸城郡の村
合三三三
●【新潟】越後國西頸城郡の村
合三三三
●【新潟】越後國南魚沼郡に在りし村。明治三十九年上田村に入
る。●【埼玉】武藏國北葛飾郡の村合三三三
●【千葉】上總國夷隅郡長者町の舊稱。
●【千葉】下總國葛飾郡の村合三三三
●【千葉】下總國印旛郡の村。四ツ街道
停車場及馬渡郵便局あり。合三三三
●【千
葉】下總國海上郡の町。所謂千湯八萬石
南部の一市街にして。近年太田。成田網
戸等の小市街を合同せる新稱なり。鐵道
總武線の停車場あり。本所驛より六一哩
二六鐘。銚子まで一〇哩五一鐘。千湯八萬

石の新町萬歳地方貨物の小集散地なり。
郵便局あり。合三三三
●【茨城】常陸國筑
波郡の村。合三三三
●【愛知】尾張國東春
日井郡の村。明治三十九年印場。新居。八
百の三村を合せし新稱郵便局あり。合三
三三
●【愛知】尾張國知多郡の村。明治三
十九年日長金澤二村を合せし新稱。合三
三三
●【愛知】尾張國丹羽郡に在りし村。
明治三十九年古知野町に入る。●【愛知】
三河國碧海郡の村。明治三十九年志賀
崎伏見屋敷塚の三村を合せし新設。合
三三三
●【愛知】三河國東加茂郡の村。明
治三十九年野見築羽。介木。生駒の四村
を合せし新稱。合三三三
●【山梨】甲斐國
北巨摩郡の村。合三三三
●【滋賀】近江國
神崎郡の村。石塚郵便局あり。合三三三
●【福島】岩代國安達郡の村。百日本郵便局
あり。合三三三
●【福島】岩代國大沼郡の
村。合三三三
●【秋田】羽後國平鹿郡の村
合三三三
●【石川】加賀國石川郡の村。合
三三三
●【鳥取】伯耆國東伯耆郡の村。合三
三三
●【鳥取】伯耆國日野郡の村。合三三
●【愛媛】伊豫國北宇和郡の村。近水郵便局
あり。合三三三
●【高知】土佐國土佐郡の
村。合三三三
●【佐賀】肥前國三養基郡の
村。合三三三
アサヒ(旭日) 【大分】豊後國東國東郡の
村。合三三三
アサヒ(朝日) 【兵庫】但馬國養父郡糸井
村の大字。舊金坑あり。慶長十七年より八
十年間。元和元年より十五年間採掘せる

ことあり。五箇の鑛床ありて。延長二里。
鑛脈は無数の石英脈及粘土脈にして。石
英粗面岩を貫通す。●【茨城】常陸國稻敷
郡の村。合三三三
●【三重】伊勢國三重郡
の村。合三三三
●【愛知】尾張國中島郡の
村。明治三十九年上祖父江。結賀明地。玉
野。大徳の五村を合せし新稱。合三三三
●【愛知】尾張國西春日井郡清洲町の大字。
(高齋寺政所)の母朝日殿といふの生地
と傳ふ。●【静岡】伊豆國賀茂郡の村。合三
三三
●【滋賀】近江國東淺井郡の村。琵琶
湖畔にして。朝日山。山本山。山中山等の稱
ありの麓なり。余吾川此所に至りて。湖水
に注ぐ。其港を尾上淺又は朝日淺と稱
し。竹生島と相對す。郵便局あり。合三三
●【岐阜】飛騨國益田郡の村。甲郵便
局あり。合三三三
●【長野】信濃國東筑摩
郡の村。合三三三
●【長野】信濃國上伊那
郡の村。合三三三
●【福島】岩代國南會津
郡の村。合三三三
●【福島】岩代國丹生郡
の村。日野川の平野を占め。大字。西田中に
郡役所郵便局等あり。又同地に朝日觀音
堂あり。眞言宗にして。福通寺と云ふ。僧泰
澄の造れる古佛を安置す。合三三三
●【富
山】越中國婦負郡の村。合三三三
●【岡山】
備前國邑久郡の村。南海濱に接せる地な
り。大字。片岡に源義經の耶麻片岡八郎の
古郷と云ふ。合三三三
●【大分】豊後國速
見郡の村。合三三三
●【大分】豊後國日田
郡の村。合三三三
●【佐賀】肥前國杵島郡

アサハ

アサヒ

アサナ

アサノ







アサミ(浅見) 【埼玉】武蔵國児玉郡の大...

アサミ(朝美) 【愛媛】伊豫國温泉郡の村...

アサミツ(浅水) 【宮城】陸前國登米郡の...

アサミツ(浅水) 【宮城】陸前國登米郡の...

アサミヤ(朝宮) 【滋賀】近江國甲賀郡の...

アサミツ(浅水) 【青森】陸奥國東津軽郡...

アサモガワ(浅茂川) 【京都】丹後國竹野...

アサマ(朝山) 【島根】出雲國簸川郡の...

アサヤ(浅山) 【安藝】山陽國安芸郡に在る...

アサリ(浅利) 【山梨】甲斐國東八代郡豊...

アサリ(朝里) 【北海】後志國小樽郡の村...

アサライ(浅洗) 【越中】越中府水郡の...

アシウラヤマ(足占山) 【丹後】中郡に在る...

アシオ(足尾) 【栃木】下野國上都賀郡の...

アシオ(足尾) 【栃木】下野國上都賀郡の...

アシオ(足尾) 【栃木】下野國上都賀郡の...

アシカ(浅見) 【埼玉】武蔵國児玉郡の大...

アシカ(浅見) 【埼玉】武蔵國児玉郡の大...

アシカ(浅見) 【埼玉】武蔵國児玉郡の大...

アシカ(浅見) 【埼玉】武蔵國児玉郡の大...



りしが天正十八年小田原と共に落城す。徳川氏に至り、寶永二年戸田大炊頭忠利(二萬一千石)封ぜられ、傳へて明治維新に至る。足利學校はもと下野國都賀郡國府野に在り、其創建年代未詳に詳ならず、昔時國學の遺制なりといひ、小野篁の建設といひ、足利義隆の創設といひ、足利尊氏の草創といひ、諸説一定せず。南北朝の時大に荒廢せしを、貞和年中、足利基氏關東管領となるに及び再興す。應永元年長尾景久地を足利輝(其地足利輝の東岩井村の境なりといふ)に相して之を移す。永享十一年上杉憲實管領となるに及び、足利は其領内にして、且京鎌倉兩公方名字の係る地なれば、特に學校領を寄附し、數部の書籍を明國より求めて納附し、鎌倉圓覺寺の僧快元を聘し、序主とす。憲實子憲忠、其子憲房よく父祖の志を紹ぎ、心を文學に潜め、校舎の規模大に備はる。當時文教衰へ、修學の志ある者、此學校の外他に遡るべきものなきを以て、學徒の笈を負ひて到る者、東西相望む。序主第七世九華は學業最も高く、在序二十年生徒三千人あり。此時代に學校を今の地に移す(永祿年中の事といふ)第九世開室は世に信長と呼ばれ、徳川家康の眷顧を受け、常に其顧問たり。學田百石、書籍二百餘部、活字數萬顆の寄附あり。此活字にて刊行せられたるもの孔子家語、貞觀政要七書の類數部あり。寛文八年廟宇を修理す。此時大名、旗本等書籍、祭器を寄附

する者多し、享保十三年將軍吉宗日光廟參拜の歸途此所を過ぎり、大に其藏書を貴重し、爾後漫に庶人の涉覽を許さず。寶曆四年雷火の爲め庫裏方丈燒失す。安永七年再建、享和二年廟宇修理、今日現存の堂宇は此時の修營に成る。明治維新後藩主戸田氏委任を受け、浮屠氏の手を脱し、更に求道館と稱し、教職を置き、士民を教授す。十四年内務省保存資金を下附し、十五年有志者相謀り、聖廟を修繕し、文庫を再建す。三十六年足利學校遺跡圖書館を設け、古文籍を保存す。校内に孔子の像あり。左に子思孟子、右に曾子顔子の木牌を置き、左の室に小野篁の像あり。町の北裏に饗阿寺あり、眞言宗の檀林にして、足利義隆の創立なり。徳川幕府の時寺領六十石を附す。堂塔は創立當時のものにして、頗る宏壯、東西の唐唐殿門の如きは殊に觀るべし。八雲神社は素盞鳴尊、稻田姫命を祀り、町の總鎮守たり。文籍 足利家内丸山和四郎、習習三、足利大觀、瀧與治、習習三。

して行道山大岩山等起せど、南半は渡真瀬川の貫流する地なるを以て、平野にして豊沃なり。道路は日光舊例幣使街道、福居、桑田を経て東西に通じ、足利町より桐生、館林、佐野、田沼に赴く街道あり。鐵道は兩毛線郡の中央に通じ、小俣山前、足利に車驛を置く。又東武鐵道は東京より來り、足利町に終る。本郡は有名なる農業地にして、産額六〇〇万圓に及び、縣下第一に居る。其他は米三万石、麥七万石等あり。前記、足利は和名抄阿志加々と註し、大窪田部、堤田、土師、餘戸の五郷及驛家を載す。此中、堤田は後上野國山田郡に入りしもの如し。明治二十年山田郡を廢して本郡に合す。アシカゴボ(蘆ヶ久保)【埼玉】武藏國秩父郡の村、横瀬川の船間に在り、外秩父より正丸峠を越えて大宮町に出づる山徑に當る。享保十八年横瀬村より分立すといふ。白(〇)。

アシカラ(足柄)【神奈川】相模國足柄下郡の村、明治四十一年蘆子、二川、久野、富水の四村を合せて新に置く。白(〇)。

アシカラカミ(足柄上郡)【神奈川】相模國八郡の一。四境、東は愛甲中の二郡、北は津久井郡及甲斐國南都留郡、西は駿河國駿東郡、南は足柄下郡、面積二六方里。行政上、中井、曾我、金田、松田、上秦、野川、共和、北足柄、南足柄、福澤、酒田、櫻井、岡本、上中山、世田、中川、玄倉、神樂、山市場、湯川、西谷、寄吉、田島、の二五村に分ち、郡役所を松田村に置く。白(〇)。

と註し、高家櫻井岡本、伴部(伴部の誤、餘戸の五郷及驛家に分つ。後世郡境紛亂し、餘錢郡の中村郷及足柄下郡の足柄郷本郡に入る。

アシカラシモノ(足柄下郡)【神奈川】相模國八郡の一。四境、東は中郡及相模、北は足柄上郡、西は駿河國駿東郡及伊豆國田方郡、面積一四方里一八。行政上、小田原箱根の二町及足柄、豊川、上府中、下府中、下曾我、下中、前羽、酒匂、大窪、湯本、温泉、吉濱、土肥、元箱根、蘆ノ湯、早川、石橋、米神、根府川、江ノ浦、田島、岩、真鶴、福浦、國府津、仙石原、宮城野の二七村に分ち、郡役所を小田原町に置く。白(〇)。

丸入子川、酒匂川、西方の地と推せらる。アシカラヤマ(足柄山) 駿河、相模二國に跨れる山、西は富士山、南は猪鼻嶽より箱根の諸山に連る。高二五〇五尺、酒匂川の

アシカ(蘆川) 大和國生駒郡に在る川、水源、矢田村山中、片桐村に至りて、富ノ小川に會す。●甲斐國西八代郡に在る川、水源、上蘆川村山中、西北流して、千波瀧の水を合せ、笛吹、釜無の二川に合す。流域七里、其水最も清冽なり。流域の上を蘆川郷中を九一色郷、下を市川郷といへり。アシキ(蘆城) 【福岡】往古筑前國に在りし驛名。今筑紫郡御笠村の大字に阿志岐の名存す。但し古の蘆城は御笠村全體に互れるが如し。谿流を蘆城川といふ。寶滿川の上流なり。萬葉集に、太宰少貳石川足人朝臣、遷任鏡子筑前國蘆城驛家と題して、玉くしけ蘆城の川をけふ見れば、萬代までに忘れえぬや。又宗祇の紀行に、「蘆城山と云、蘆路にかゝりぬ、水の縁紅葉の色々面白きわたりなれと、谷嶺けはしく踏所皆岩の棧路なり、心細き勝りて進退の甚さへ思ひ、世の中はあしき山路にのこまのふみも定めぬ身こそ有けれ。

アシカ(蘆川) 大和國生駒郡に在る川、水源、矢田村山中、片桐村に至りて、富ノ小川に會す。●甲斐國西八代郡に在る川、水源、上蘆川村山中、西北流して、千波瀧の水を合せ、笛吹、釜無の二川に合す。流域七里、其水最も清冽なり。流域の上を蘆川郷中を九一色郷、下を市川郷といへり。アシキ(蘆城) 【福岡】往古筑前國に在りし驛名。今筑紫郡御笠村の大字に阿志岐の名存す。但し古の蘆城は御笠村全體に互れるが如し。谿流を蘆城川といふ。寶滿川の上流なり。萬葉集に、太宰少貳石川足人朝臣、遷任鏡子筑前國蘆城驛家と題して、玉くしけ蘆城の川をけふ見れば、萬代までに忘れえぬや。又宗祇の紀行に、「蘆城山と云、蘆路にかゝりぬ、水の縁紅葉の色々面白きわたりなれと、谷嶺けはしく踏所皆岩の棧路なり、心細き勝りて進退の甚さへ思ひ、世の中はあしき山路にのこまのふみも定めぬ身こそ有けれ。

アシキ(安食) 【千葉】下總國印旛郡の町、印旛沼、餘水の將監川と合し、利根川に赴かんとする所に在り。沼及將監川出入の船舶皆此地を過ぐるを以て頗る繁昌す。沼水の將監川と會する所を長門口といひ、長門渡あり。成田鐵道の車驛及郵便局あり。木下町より二里三町成田町へ二

アシキ(蘆川) 大和國生駒郡に在る川、水源、矢田村山中、片桐村に至りて、富ノ小川に會す。●甲斐國西八代郡に在る川、水源、上蘆川村山中、西北流して、千波瀧の水を合せ、笛吹、釜無の二川に合す。流域七里、其水最も清冽なり。流域の上を蘆川郷中を九一色郷、下を市川郷といへり。アシキ(蘆城) 【福岡】往古筑前國に在りし驛名。今筑紫郡御笠村の大字に阿志岐の名存す。但し古の蘆城は御笠村全體に互れるが如し。谿流を蘆城川といふ。寶滿川の上流なり。萬葉集に、太宰少貳石川足人朝臣、遷任鏡子筑前國蘆城驛家と題して、玉くしけ蘆城の川をけふ見れば、萬代までに忘れえぬや。又宗祇の紀行に、「蘆城山と云、蘆路にかゝりぬ、水の縁紅葉の色々面白きわたりなれと、谷嶺けはしく踏所皆岩の棧路なり、心細き勝りて進退の甚さへ思ひ、世の中はあしき山路にのこまのふみも定めぬ身こそ有けれ。

アシキ(安食) 【千葉】下總國印旛郡の町、印旛沼、餘水の將監川と合し、利根川に赴かんとする所に在り。沼及將監川出入の船舶皆此地を過ぐるを以て頗る繁昌す。沼水の將監川と會する所を長門口といひ、長門渡あり。成田鐵道の車驛及郵便局あり。木下町より二里三町成田町へ二



名を載す。和名抄阿之木多と註し、巨野野行奉北桑原川、水俣伴の七郷を載す。天正以前には相良名和の兩氏交々之を領し、後島津氏の押領となり、豊臣秀吉の西征以來小西、加藤二氏を経て細川氏に歸せり。藩政の時高一萬九千石之を六手水組に分てり。

アシタ(足久保) 【静岡】駿河國安倍郡美和村の大字。安倍川の一支出足久保川に沿ふ。此地の茶は足久保茶と稱し、幕府への献上品たりき。此地に足久保觀音堂あり。本尊は行基作七體の一なりと云ふ。

アシタ(富山) 【富山】越中國中新川郡立山村の大字。常願寺川に沿ひ立山登山の路に當る。立山権現の分祠あり。往時は蘆峯寺と呼べる供僧坊ありて、僧舎二十四ありといふ。今も神官を世職とする者數戸あり。

アシタ(飛騨) 【飛騨】越前二國に跨る山。又足倉山に作る。高五二八〇尺。アシタ(葦子) 【神奈川】相模國足柄下郡に在りし村。明治四十一年足柄村に入る。

アシタ(蘆子川) 【相模國】足柄下郡に在る川。水源、箱根明星嶽、流程二里半。流末は小田原町なり。今小田原市街の北部を蘆子といふ。

アシタ(蘆澤) 【福島】磐城國田村郡の村。白土五。

アシタ(葦島) 【保元】物語に源爲朝が征服せりと載せる島。又鬼ヶ島といひ、鬼界島の一名なりといふ。近世青ヶ島を以て之に充つるものあり。

アシタ(足白) 【福岡】筑前國嘉穂郡の村。白土三。

アシタ(足摺岬) 【土佐】國幡多郡の岬。岬趾岬にも作り、又其字音に依りてサダ岬とも呼ぶ。土佐南端の大岬にして、遙に室戸岬と相對し、土佐の大灣を成す。岬上は高陸にして山脈連なり中に樹木繁茂せる圓頂山あり、白皇山と呼ぶ。高一四八〇尺。遠望すれば馬鞍形島の如く、天氣晴明の時は四里内外より見るを得べし。是より西北約一里に今山と呼ぶ高山あり。高二七二〇尺。舟人の好目標なり。岬端は黒色の岩崖にして稍險しく、其附近に數多の露岩暗礁あり。岬上に有名な金剛福寺あり。清松村宇伊佐に屬し、四國第三十八番の札所なり。賽路風曲海岸を繞り、掃石龜鳴、鳴千石、地獄穴、天狗濱等の奇勝あり。又鐘石と唱ふる奇石あり。平にして長三尺許、二箇の狭長なる臺石の上に在り。石にて之を打てば爽高なる音を發す。蓋し福徳鎮ならんといふ。

アシタ(蘆田) 【兵庫】丹波國水上郡の村。郡の北境に接せる一山谷を占め、芦田氏の永く領せし所なり。信濃源氏來持三郎家光、蘆田判官代と稱し、丹波に移り、其子道家丹波牛國の押領使たり。其孫朝家承久の亂に封を失ひ、其子爲家亦井に在り、赤井氏を稱す。基家に至り足利氏に屬し、漸く大なり。天正年中、石衛門直正、惡七郎直照に至り亡ぶ。城址は栗住野に在り。

アシタ(蘆野) 【栃木】下野國那須郡の町。陸羽舊街道の一驛にして警察分署、郵便局等あり。此地は那須氏の長臣蘆野氏時代の居住にして、蘆野日向守盛泰は那須七騎の一に數へられ、那須氏滅亡後も尙此所に居り三千十六石を領し、明治維新に至る。蘆野氏は那須國造奈其別命の裔なり。古は此附近を奈其郷と呼び奈其川の名も亦此に因るといふ。白土六。

アシタ(蘆湖) 【相模國】足柄下郡箱根山頂に在る湖。東西二〇町、南北一里二三町、周圍四里三〇町、深四六尋、形状瓢の如く、底は南に帯は北に向ふ。東南岸に箱根町及元箱根村あり。湖東には冠ヶ嶽、駒ヶ岳、二子山等屹立し、西は足柄連山の麓を繞り、富士山西より其影を湖面に倒映す。地學者は此湖を以て箱根火山の火口丘と外輪山等との間なる凹地、即ち火口原に水の滯溜せるものとす。鱒を産す。

アシタ(蘆山) 【山岳】卷一、第三號及卷三、第三號。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。

アシタ(蘆田) 【蘆田】近江國栗太郡常磐村の大字。一に安食に作る。式内、岐志、呂神社及觀音寺あり。觀音寺は關ヶ原合戦の時、住持程程湖の船司上功ありて、寺領五百六十六石を賜はりしと云ふ。



りて空知川に入る。流程一六里一〇町。  
**アシベツダケ** (蘆別岳) 【北海】石狩國夕  
 張。空知二郡に跨る山。高四二〇〇尺。夕  
 張岳の餘脈にしてシユウパロ川此山に  
 發源す。●【北海】天鹽國天鹽郡に在る  
 山。郡の南部に聳ゆ。  
**アシホ** (兼穂) 【茨城】常陸國新治郡の村  
 台三三六。

**アシマ** (阿島) 【長野】信濃國下伊那郡寄  
 木村の字。天龍川の東岸に沿ひ飯田町の  
 東一里半とて郵便局あり。徳川氏の頃は  
 伊奈三人衆の一人知久氏之に居り、二千  
 七百石(交代寄合に列す)を領し、波合帯  
 川の關所を預り利合村小野川の番所を  
 も管したり。

**アシマノイケ** (蘆間池) 攝津國大阪市南  
 區に在る池。四天王寺の東北。俗に毘沙  
 門池といふ。池畔に淨土宗壽法寺あり。境  
 内楓樹多きを以て紅葉寺といひ、晩秋杖  
 を曳く者多し。又五條神社あり。用明天皇  
 を祀る。浦ちかきあしよの池の水の色  
 は淺みどりにて春は見えける。伊勢。  
**アシミ** (蘆見) 【長崎】對馬國上縣郡琴村  
 の大字。●【福井】越前國大野郡の村。台  
 八三。

**アシミ** (安心院) 【大分】豊前國宇佐郡の  
 村。館川の一支源に沿ひ龍王谷の一部  
 なり。古の倉院を置かれし遺名ならんと  
 いふ。郵便局あり。台三三六。  
**アシモリ** (足守) 【岡山】備中國吉備郡の  
 町。郡の東部足守川の上流に位し。人家川

を挟みて相接す。岡山市を距る四里二〇  
 町。慶長五年木下利定二萬五千石を以て  
 此地に封ぜられ世襲して明治維新に至  
 り。冠城址は大字下足守に。宮地城址は  
 上足守に在り。共に天正十年毛利氏の兵  
 羽柴氏の軍を拒きたる所とす。兼守宮址  
 は應神天皇吉備國御幸の時の行在所な  
 り。足守郷に在りと記す。今其所詳なら  
 ず。郵便局あり。台三三六。●【岡山】中國鐵  
 道の停車場備中國吉備郡高松村に屬す。  
 岡山驛より六哩六四哩。

**アシモリカワ** (足守川) 備中國に在る川  
 大井川。矢部川。板倉川等の異稱あり。水  
 源。吉備郡福谷村の山中。南流して宇井田  
 川。日近川を合せ。足守町を過ぎて都窪郡  
 に入り。備前の笹瀬川と合し。備前備中  
 の界を劃して兒島灣に入る。流程六里一  
 七町。天正十年羽柴秀吉高松城を攻むる  
 時此川を壅ぎて城中に灌ぎ之を陷る。  
**アシヤ** (蘆屋) 【兵庫】攝津國武庫郡精道  
 村の大字。古蹟多し。在原業平此に住みし  
 事伊勢物語に見ゆ。其沿岸を蘆屋浦。又漢  
 人濱といふ。又藤榮屋敷跡と稱するもの  
 あり。諸曲藤榮に月若なる者其家領七百  
 餘町を伯父藤榮に横奪せられ。零落せる  
 を北條時頼之を糾して返し與へしとい  
 ふ。故跡なり。蘆屋城址は蘆屋の北に在り。  
 永正八年河原正頼細川高國の將之に  
 據り。細川尚春此を攻め。合戦の事あり。  
 ●【福岡】筑前國遠賀郡の町。遠賀川の河  
 口に位し。中津街道に當る。川を隔て、

山鹿村と相對し。西北に響灘を控へ。古  
 來泊舟の地として其名著る。東西十  
 一町。南北三町。警察署及郵便局等あり。  
 赤間驛を距る三里二町。福岡市より一  
 二里一八町。此地は古の崗の湊にして  
 神武天皇仲哀天皇の過ぎ給ひし所な  
 り。遠賀川口は幅一哩。水深一尋乃至二  
 尋なれども時々變化あり。小汽船は河口  
 に入りて錨泊す。往時は港灣深く猪熊水  
 巻村邊まで灣入し。大船出入せしが。遠  
 賀川堆沙の爲に埋塞せられ。今は巨船を  
 容るべからず。加ふるに鐵路の開通以來  
 繁盛漸く若松に移り稍衰微の傾あり。  
 往時此地に鑄工あり。其技精巧なりしか  
 ば。朝廷より官を賜はり。菊桐の御紋を御  
 免ありて數代榮へしが。天正頃より漸く  
 衰へ。終に廢絶せり。其跡たる釜を蘆屋釜  
 と稱し。今に至るまで茶人珍重す。台三三  
 〇。●【筑紫】あしやといふ處にて。詠め  
 る筑紫舟うらみをつみて戻るには。あし  
 やにれてもしらねをそみる。(後頼)。「唐  
 土の空もひとつに見ゆるまで。蘆屋の濱  
 にすめる月影」(拾玉集)。

**アシヤ** (安謝) 【神戶】琉球國島尻郡眞和  
 志村の大字。勢理客川の河口に位す。土人  
 はアジャンナ(安謝港)と呼ぶ。琉球近代  
 の詩人平敷朝敏謀反の罪に坐し。雍正  
 十二年此地にて磔殺せらる。  
**アシヤス** (兼安) 【山梨】甲斐國中巨摩郡  
 の村。御料林あり。台三三六。  
**アシヤラサン** (阿蘭羅山) 陸奥國南津輕

郡羽後國北秋田郡に跨る山高三二二一  
 尺。山形卓子の如く。頂上平坦なり。往古  
 は山中に一千の精舎ありしといふ。又正  
 平の末南朝の群臣長慶天皇を奉じ。暫く  
 山中に潜めりとも傳ふ。

**アシヨロ** (足寄) 【北海】釧路國足寄郡の  
 村。本別驛の北五里。利別川の南東二里  
 驛あり。池田驛より二七哩七。郵便局あ  
 り。台三三六。

**アシヨロカワ** (足寄川) 【北海】釧路國足  
 寄郡に在る川。利別川(十勝川の支流)の  
 支流にして。水源。イユマニ山脈。南西流  
 してララン川。イナウカウシナイ川を合せ  
 足寄村に至りて本川に合す。流程一八里  
 一二町。流域に足寄驛の二村あり。

**アシヨロクン** (足寄郡) 【北海】釧路國六  
 郡の一。四境。東南は阿寒。白糠の二郡。南  
 西は十勝國中川郡。北は北見國常呂郡。走  
 の二郡。面積約六九方里行政上。陸別。足  
 寄。利別。蘆野の四村に分ち。釧路支廳の  
 所管とす。台三三六。●【地勢】本郡は概ね山地  
 にして平地少く。山岳は東に雌阿蘇岳。雙  
 立して諸川の源を成し。谿間は極狭にして  
 人跡至らず。住民は唯足寄附近に部落  
 を成すのみ。

ンに至る道路の分岐點たり。  
**アシリコタン** (走古潭) 【北海】走古潭を  
 見よ。

**アシリビラ** 【北海】十勝國河東郡音更村  
 の字。マンネツの北東二里。音更川の左  
 岸に位し。中川郡境に接す。アシリビラは  
 新屋の義なり。  
**アジロ** (網代) 【東京】武藏國西多摩郡増子  
 村の大字。秋川の南岸にして。冷嶺。泉出  
 づ。少量の硫黄分を含み。金創。皮膚病等  
 に効あり。浴舎の設あり。●【長崎】對馬  
 國上縣郡に在りし村。明治四十一年豊崎  
 村に入る。●【静岡】伊豆國田方郡の村  
 伊豆半島東側に小港を擁し。熱海の南方  
 三里に在り。居民多くは漁業に従事す。郵  
 便局あり。港は南西北の三面。山嶺起伏  
 して之を圍み。南西方に八。九哩灣入す。  
 港口は幅約一哩二。港内水深二七乃至  
 二九尋。底質泥沙にして。危険なきも。北東  
 の風に暴露す。京濱及下田。國府津間往復  
 の汽船日々數回寄港す。台三三六。●【岐阜】  
 美濃國本巢郡の村。台三三六。●【鳥取】四  
 幡國岩美郡の漁村。郡の東北に在り。田後  
 灣の西に位す。濱の西に二岩嶼あり。東  
 島。船島といふ。其内方約三町四方を泊舟  
 の地とし。網代港と稱す。港口西に向ひ。  
 北方は岩嶼及岬角によりて障屏せらる。  
 水深六尋。砂底にして。稍東北風を避くる  
 を得。鳥取市の埠頭加蓋港は全く東北  
 風に暴露するを以て。此所に假泊する船  
 舶多し。此灣は大岩村大字大谷の前面に

當るを以て。一に大谷灣といふ。台三三六  
**アジロ** (足代) 【徳島】阿波國三好郡の村  
 台三三六。  
**アジロウ** (網代灣) 對馬國に在る灣上  
 島の東北側に灣入し。北角を嶺崎。南角  
 を嶺崎といふ。灣口は濶き一哩餘に過  
 ぎざれども。水深くして。阻礙なし。沿岸  
 に網代比田。西泊の諸村落あり。  
**アスカ** (飛鳥) 【大阪】河内國南河内郡駒ヶ  
 谷村の大字。駒ヶ谷の東南山中に在り。竹  
 ノ内越の山路は此より磯長村を経て。大  
 和國長尾に出づ。又此より分れて。當麻の  
 北に出づる道あり。穴蟲越といふ。履仲天  
 皇大阪より難を避けて。南路に掛り給ふ  
 事古史に見ゆ。又反正天皇此地に假宮を  
 造り。軍人曾婆理を殺し給ひし事あり。  
 飛鳥郡神社は延喜式安宿郡の大字にて。  
 今。飛鳥の東に在り。天王宮と稱し。供僧  
 坊を常林寺といへり。●【奈良】大和國  
 高市郡の村。和名抄賀美郷の地なり。飛鳥  
 をアスカと訓むは。飛ぶ鳥のあすかとい  
 いふ冠辭に因るといふ。初め允恭。顯宗の  
 二天皇此地に皇居を營み給ひしが。各一  
 代にして止み。推古天皇に及び復た造營  
 あり。爾後一百年京邑たり。持統天皇は藤  
 原に。元明天皇は平城に遷都ありたれど。  
 此地は尙古京と稱し別都たりき。天平實  
 字年中淳仁天皇行幸あり。後荒廢す。飛鳥  
 神社は鳥形山に在り。もと雷岡の三諸に  
 鎮座し。飛鳥神と稱す。延喜式に四座拜大  
 社と稱するものなり。大物主神の子賀夜

奈流美神を祀る。境内伊勢八十末社と稱  
 し。伊勢神宮に擬せる祠あり。又飛鳥井あ  
 り。神武天皇の馬に飲ひ給ひし遺跡とい  
 ふ。酒槽石は本社の南。酒谷に在りて。縦  
 一丈五尺。横五尺。石面に槽溝七條を刻  
 す。本社の酒殿にて醸造の遺器なりと言  
 傳ふ。飛鳥寺は蘇我馬子の本願により。  
 眞神原に興立し。法興寺。又元興寺と號す。  
 養老二年平城の新興寺に併せ。舊地に  
 は別院を建て。本元興寺と稱し。治安年中  
 まで存せり。今安宿院の北に礎石數多あ  
 り。台三三六。●【三重】紀伊國南牟婁郡  
 の村。北山川の支流に沿へる山村なり。郵  
 便局あり。台三三六。

**アスカカワ** (飛鳥川) 大和國高市郡に在  
 る川。水源。稻淵山。飛鳥村を経て北流し。  
 磯城郡に入りて大川に會す。流程八里。  
 「あすか川淵は瀬となる世なりとも。思  
 ひそめてん人は忘れじ」(古今集)。「あす  
 か川七瀬の淀にすむ鳥も。こゝろあれば  
 こそ波たてさらめ」(古今集)。  
**アスカノオカ** (飛鳥岡) 大和國に在る岡  
 市往岡の一名。  
**アスカベケン** (安宿郡) 【大阪】河内國  
 に在りし郡。四境。東は大和國舊葛下郡。  
 西は舊志紀郡。南は舊古市郡。北は舊大縣  
 郡。面積方里七六。石川の東なる狭小地  
 にして。國分。玉手の二村ありしが。明治  
 二十九年廢郡。南河内郡の一部となる。安  
 宿郡古は安宿に作る。和名抄に賀母尾  
 張賀美の三郷を載す。但し賀美郷の地は

近世古市郡に入り。駒ヶ谷村となる。  
**アスカヤマ** (飛鳥山) 武藏國北豐島郡に  
 在る丘。王子町に屬し。東京七公園の一た  
 り。瀧ノ川(石神井川の末)を隔て。王子神  
 社の東南に位す。面積一萬三千五百坪。足  
 立郡の田圃荒川の流雙峰に入り。眺望頗  
 る開豁。且つ丘上櫻樹多く。花時都人士の  
 來遊する者多し。丘側に王子停車場あ  
 り。飛鳥山の稱は。中世領主豐島氏が飛  
 鳥の祠を丘上に置きしより起るといふ。  
 此社は寛永十年王子権現の地内に徙さ  
 る。今地主山と呼ぶ。小高き所に其跡なり。  
 元文中。成島道義碑を立つ。  
**アスカワ** (明川) 【愛知】三河國東加茂郡伊  
 勢神村の大字。信州飯田街道の一小驛に  
 して。郵便局あり。

**アスケ** (足助) 【愛知】三河國東加茂郡の  
 町。信濃より尾張三河に出づる要路に當  
 り。郡役所警察署。稅務署。郵便局等あり。  
 名古屋を距る十二里。岡崎を距る七里六  
 町。足助川東南より來り。此地にて急に西  
 南折して。矢作川に向ふ。河中年魚を産す。  
 又近傍の山中より薪炭を出す。足助は  
 源滿政の裔の居りし所にして。八世の孫  
 賀茂重長の子重秀。足助冠者と稱せり。元  
 弘の亂。足助重範あり。國難に殉ず。興國元  
 年。足助重春。其親王を迎へんとして。果  
 せず。戰國の頃は鈴木氏居る。元龜二年。武  
 田信玄の兵來侵す。城主鈴木重直城を棄  
 て。去り。武田氏其將下條兵衛を置く。天  
 正年中。武田氏の兵撤去するに及び。鈴木

アスカカ  
 アスカカ  
 アスカカ



アスケ

兵復た歸り居りしが、後徳川氏に従ひ東運し城廢す。白三三。
アスケカイトウ(足助街道) 三河國足助町より西南に向ひ岡崎に出る縣道。其間七里半、因て七里街道ともいふ。
アスケカワ(足助川) 三河國に在る川水。源、北設樂東加茂郡界の山間、巴川神尾川瀧脇川等の細流を集め、足助町の東南を過ぎ、西南走して矢作川に合す。流域九里、舟筏を通ぜず。其流域は山岳連り、瘠薄にして耕作開けず人烟稀なり。
アスナ(阿須那) 【鳥根】石見國邑智郡の村。白三三。

アスハ(足次) 【岡山】備中國後月郡に在りし村。明治三十七年芳井村に入る。
アスハカワ(足羽川) 越前國に在る川水。源、今立郡冠ヶ岳、池田谷の諸溪水を合せ北流して淨教寺川、西北向して勝見川を入れ、西流して福井市を貫き、日野川と會して安居川の名あり。末は九頭龍川と共に三國港に至りて海に入る。流域約一七里、福井以下六里半は舟楫の便あり。
アスハゲン(足羽郡) 【福井】越前國八郡の一。四境東は大野郡、南は今立郡、西は丹生郡、北は福井市及吉田郡、西北の一隅は坂井郡、面積九方里、行政上、和田酒生、下字坂上字坂一乗谷東郷上文字下文字、麻生津六條木田社東安居の一三村に分ち、郡役所を木田村に置く。白三三。
アソウ(香巻) 【高知】土佐國高岡郡の村。白三三。

アスハ

川あり其間を貫流して福井市に入り、其附近は平田沃野多し。郡の西境は日野川流るゝも、河岸は丘陵起伏して平ならず。道路は北陸の本道福井より鯖江武生に向ひ、郡の西部を貫通す。別に足羽川に沿ひて大野郡に通ずる街道あり。物産は農産物一五五萬圓、林産物一二萬圓、工業物二〇〇萬圓、主なるものは米、大豆、蘿蔔、繭織物、鹽産物なり。足羽は和名抄安須波と註し、安味、額田、足羽、草原、少名、江上、井手、中野、岡本、江沼の十郷を載す。然れども高山寺本は別に互理郷を載せ、之に大野郡に錯入せし野田上家川合利刈の四郷を合せ、十五郷あり。安味は何時の世にか坂井郡に入り、丹生郡の朝津郷却て本郡に入り、郡の北部、少名川合中野の三郷は別立して吉田郡となる。南部は後世北足南の二郡に分れしが、寛文中年舊に復す。中世變遷極めて多く、其郷名の多くは今其地を失ふ。

アスハヤマ(足次山) 備中國後月郡の西部に在る山。山勢峻秀にして眺望に富む。
アスマ(遊馬) 【埼玉】武藏國北足立郡馬宮村の大字。荒川の東岸に沿ひ、大宮町與野町より川越町に至る道路に當る。津より千手堂といふ。
アスマ(明見) 【山梨】甲斐國南都留郡の村。白三三。
アスマ(明見湖) 甲斐國南都留郡に在る湖。明見村に屬し、周圍三町半。小湖なれど富士八湖の一なり。鯉鮒を産す。

アスリ

アスリ(阿摺) 【愛知】三河國東加茂郡の村。白三三。
アセイリゲン(汗入郡) 【鳥取】伯耆國に在りし郡。四境東は舊八橋郡、西は舊會見郡、南は日野郡、西北は海。面積一一方里。淀江町及宇田川高麗所子庄内御來屋大山名和光徳達阪の九村ありしが、明治二十九年會見郡と合して西伯郡となる。汗入は和名抄安世利と註し、後世アセイリと呼ぶ。同書東積汗入奈和尺度、高住新井の六郷に分てり。
アセカワ(阿瀬川) 【和歌山】紀伊國有田郡の庄名。山保田を見よ。
アセク(朝來) 【京都】丹後國加佐郡の村。大浦村の南志樂村の北なる山中に在り。白三三。

アセシ(淺瀬石) 【青森】陸奥國南津輕郡の村。弘前市を距る四里、戦國の頃南部氏の將千徳大和此に居り、後津輕氏に従ひ、南部の將名松の兵を迎へ、之を破りし事あり。後不軌を謀り誅せらる。白三三。
アセシ(淺瀬石) 陸奥國南津輕郡に在る川。水源、十和湖の西壁を成せる蘆柄膳二山の麓、西北流して黒石川といふ。平川と合し、末は岩木川に入る。流域一里。
アゼナ(呼名) 【三重】志摩國志摩郡の村。白三三。
アゼマチ(畦町) 【福岡】筑前國宗像郡上西郷村の大字。舊福岡街道の宿驛なり。
アソ(阿曾) 【兵庫】播磨國揖保郡埴嶋村の村。白三三。

アソ

大字。阿宗にも作る。鶴の西にして、林田川畔に在り。【三重】伊勢國度會郡瀧原村の大字。鑛泉あり。炭酸性、無色無臭、刺戟性あり。近年墾墾として各地に輸出す。此地熊野街道後驛を距る一里許古和浦を距る三里。山麓に在りて地勢高燥なれど、道路險惡、運輸不便なり。【岡山】備中國吉備郡の村。足守町の南西にして、鐵鍋釜の類を鑄造す。所謂阿曾鑄物是なり。白三三。

アソ(阿蘇) 【千葉】下總國印旛郡の村。白三三。
アソイワヤマ(阿蘇岩山) 【北海】石狩國石狩郡に在る山。石狩厚田二郡の境上を互れる山脈の支脈にして、高一三二〇尺。砂岩、頁岩の互層より成る第三紀層にして、所々に原油を湧出す。小屋、後別ボロカシラツカリ、望來古潭等はなり。
アソウ(麻生) 【神奈川】武藏國都築郡柿生村の大字。谷本の北にして、南多摩郡及橋樹郡界に接す。川和の北三里。【茨城】常陸國行方郡の町。郡の南部霞ヶ浦に臨み、水戸を距る南一三三、一六町、潮来町の西北二里六町。前に信太浮島を臨み、風景佳し。郡役所警察署、區裁判所、郵便局等あり。此地は和名抄行方郡麻生の本郷なり。中世大棟氏行方の族此所に居り、麻生氏を稱す。慶長九年新庄直頼に麻生及石橋三萬石を賜ふ。元和四年直矩に至り、嗣なく除封。更に其族直時に此地一萬石を賜はり、世襲して明治維新に至る。白三三。

アソウ

アソウ(阿曾布) 【岐阜】飛騨國吉城郡の村。白三三。
アソウ(香巻) 【高知】土佐國高岡郡の村。白三三。
アソウ(助生) 【愛知】三河國西加茂郡に在りし村。明治三十九年三好村に入る。
アソウサン(麻生山) 播磨國飾磨郡に在る山。四郷村に屬す。平野に起りて海島狀を成し、舟子目標となす。高約六〇〇尺。播磨小宮土と稱す。山頂に麻生権現あり。
アソウダ(淺宇田) 【三重】伊賀國阿山郡小田村の字。古は伊賀郡大内郷に屬し、安佐小田村と呼べり。行基開創の九品寺、四十九院といふ。ありしが、今廢す。

アソウダ(麻生田) 【愛知】三河國寶飯郡に在りし村。明治三十九年豊川町に入る。
アソウツ(麻生津) 【福井】越前國足羽郡の村。古の朝津郷の遺稱にして、朝六川と日野川との間に位し、其主色を淺水と稱す。一小市街を成し、郵便局あり。白三三。
アソウツ(淺津) 【鳥取】伯耆國東伯郡の村。白三三。
アソウツ(浅水川) 越前國に在る川。朝六川を見よ。
アソウノサト(安相里) 【兵庫】播磨國飾磨郡の地名。和名抄の周知郷に當り、今系引、八木白濱、鹿野村の汎稱なり。
アソウバ(朝生原) 【千葉】上總國市原郡白鳥村の大字。養老川上流の岸に沿ひ、夷

アソカ

隅郡界に接す。と麻生原に作る。寶林寺は里見義興の女種姫尼となりて、夫正木太郎を弔ひし古蹟と傳ふ。
アソカワ(安曾川) 大和國吉野郡の川水。源、笠倉山南麓、南流して北山川に入る。
アソゲン(安蘇郡) 【栃木】下野國八郡の一。四境東は下部賀郡、北は上部賀郡及上野國勢多山田二郡、西は足利郡、南は上野國邑樂郡、東西四里、南北八里、面積二三方里。行政上、佐野郡米、夫伏田沼高生の五町及植野、常盤、水室、野上三好新倉飛駒、赤見旗川の二〇村に分ち、郡役所を佐野町に置く。白三三。
アソゲン(安蘇郡) 地勢、郡の北半は山岳、南半は河流多く、平坦肥沃にして、田圃相連る。山岳は根本山、十二嶽、水室山等あり。河流は秋山川、野上川、彦間川等此に發し、南流して渡良瀬川に入る。道路は日光舊例幣使街道佐野町を通過し、又佐野より館林、葛生各地に至る街道あり。鐵道は兩毛線佐野町を通過し、佐野鐵道佐野町を起點とし、南は越名北は葛生に至る。本郡は縣内に於て、足利に次ぐ、機業地にして、織物七八万圓を産す。其他繭三千石及米、大豆、馬鈴薯等を産す。和名抄安蘇郡、多意部麻績の四郷を載す。此中麻績は今小見の稱を遺せど、其他は詳ならず。慶安元年六十二村、貞享年中八十五村ありたり。

アソゲン(阿蘇郡) 【熊本】肥後國十二郡の一。四境東は豊後國直入郡及日向國西臼杵郡、南は上益城郡、西は菊池郡、北は

アソク

豊後國日田郡東四一〇里三〇町、南北一六里三三町、面積八二方里五〇。行政上、宮地内牧、高森、馬見原の四町及中連、古城、坂梨、山田、南小國、北小國、尾ヶ石、黒川、錦野、野尻山、西草部、白水色見、長陽、久木野、波野、永水、産山、菅尾、柏小峯の二村に分ち、郡役所を宮地町に置く。白三三。
アソク(阿蘇郡) 地勢、本郡は有名なる阿蘇火山集のある所にして、九州脊梁の中部を成し、九州中部の諸川皆源を此に發し、四方に向ひて放流す。土地高峻、寒氣烈し。中央は原野廣漠、所々短矮の草木あるに過ぎず。所謂阿蘇野にして、土地荒瘠、耕作の便に乏し。郡内は大別して三とす。一は阿蘇火口原にして、阿蘇五岳南北の二谷、阿蘇谷、南郷谷、之に屬し、周圍は阿蘇外輪山を以て圍まれ、二谷の水は西に至りて相會し、立野の火口湖に決潰して西奔す。此二谷は郡中比較的肥沃の地にして、郡の稻田は主に此に在り。就中阿蘇谷は稻田多く、餘水の遺溜するありて、湿地多く、南郷谷は白川の南岸は稻田あり。北岸は水利に乏しく、畑地多し。宮地、高森の二市街此所に在り。二は小國谷といひ、阿蘇外輪山の北側に傾斜する荒原にして、澗水北流し、筑後川の水源を成す。人烟稀少、豊後に通ずる別路僅に通ず。三は阿蘇外輪山の臺地にして、緩なる傾斜を成して、豊後日向に向ひ、澗水豊後に入るものは大野川となり、日向に入るものは五ヶ瀬川となる。日向に接して馬見

原町あり。郡中温泉水多く、阿蘇火口原に在るを地獄湯ノ木垂玉湯ノ谷の諸泉とし、小國谷に在るを黒川ノ瀧ノ寺ノ原、杖立の諸泉とす。就中湯ノ谷杖立の二泉最も著る。物産、本郡は縣下に於て、牧畜最も盛にして、牛一萬七千頭、馬一萬六千頭あり。農産は米一四萬石を最とし、其他麥、大豆、粟、玉蜀黍、甘藷、桑種、大麻、楮皮等あり。繭は五萬圓、木材は一〇萬圓なり。阿蘇は王古阿蘇國と稱し、合志、菊池、山鹿、山本等を合せ、一國とせらる。如く、其名風に景行紀に見ゆ。和名抄衣尻阿蘇波良、知保の四郷を載す。細川氏の時高六千石、軍役高五千石。内牧、坂梨、布田、高森、馬場、北里、菅尾、久住、野尻の九手水組あり。阿蘇は神武天皇の孫、建磐龍命(神八井耳命)の子、孫繁行せる所にして、崇神天皇の時國遣に補す。後阿蘇大宮司と稱し、祭典を掌り、中世以降、兵馬の事を兼、菊池氏と相並びて、國內の名家たり。天正以來全く武門を脱し、専ら祭典を職とし、今に續四第一の舊家なり。

アソコ

アソコ(阿蘇郷) 【大阪】和泉國泉南郡の村。貝塚町、岸和田町の間に在り。津田川に沿ふ。村内に阿蘇神社あり。白三三。
アソサン(阿蘇山) 肥後國阿蘇郡に在る著名の火山。二に雲生岳、又赤膚山といひ、支那人之を封じて壽安鎮國山とす。其裾野は肥後豊後二國に跨り、東西約一二里、南北約一里半。面積約四四二方里。九州中部の大川は皆源を此山に發し、

原町あり。郡中温泉水多く、阿蘇火口原に在るを地獄湯ノ木垂玉湯ノ谷の諸泉とし、小國谷に在るを黒川ノ瀧ノ寺ノ原、杖立の諸泉とす。就中湯ノ谷杖立の二泉最も著る。物産、本郡は縣下に於て、牧畜最も盛にして、牛一萬七千頭、馬一萬六千頭あり。農産は米一四萬石を最とし、其他麥、大豆、粟、玉蜀黍、甘藷、桑種、大麻、楮皮等あり。繭は五萬圓、木材は一〇萬圓なり。阿蘇は王古阿蘇國と稱し、合志、菊池、山鹿、山本等を合せ、一國とせらる。如く、其名風に景行紀に見ゆ。和名抄衣尻阿蘇波良、知保の四郷を載す。細川氏の時高六千石、軍役高五千石。内牧、坂梨、布田、高森、馬場、北里、菅尾、久住、野尻の九手水組あり。阿蘇は神武天皇の孫、建磐龍命(神八井耳命)の子、孫繁行せる所にして、崇神天皇の時國遣に補す。後阿蘇大宮司と稱し、祭典を掌り、中世以降、兵馬の事を兼、菊池氏と相並びて、國內の名家たり。天正以來全く武門を脱し、専ら祭典を職とし、今に續四第一の舊家なり。



放射状を成して四方に流下す。豊後の大野川、大山川(筑後川の支流、肥後の菊池川、白川、緑川、日向の五箇瀬川是なり。山勢は左右に走り北は豊鹿の境を成せる九重山及豊後の日田、玖珠二郡に於ける諸火山に連り、南は徐々傾斜して險峻なる太古紀の山脈に連る。又西面は熊本平原に臨み、山側に鞍ヶ岳、倭山、大矢山等を起す。山の中央は平截せる圓錐形を成し、頂上に廣大なる火口を有し、中に高岳中岳、杵島岳、烏帽子岳、根子岳等所謂阿蘇の五岳峙つ。中岳は日常水煙を吐き、山體は熔岩及集塊岩の累層より成り、海抜四六九九尺。其北側は、山容大に破壊せる檜尾岳あり。杵島岳は中岳の北西に當り、三峯より成る。一は四周殆ど峰壁を以て圍まれ、中に圓尖の小山を包む、之を往生岳といふ。一は往生岳の西に接し、山頂の中央凹みて皿状を成し、僅に北の一方を缺く、之をドベン岳と呼ぶ。一はドベン岳の南に在り、圓錐状を成し、西麓に湯ノ谷と稱し、四時水蒸氣を噴出する洞穴あり、之を杵島本岳と呼ぶ。烏帽子岳は杵島岳の南に屹ち、中央火口丘中最も古く、其大體は玻璃熔岩を以て掩はる。高岳は中岳の東に聳え、海抜五三〇〇尺、阿蘇の最高峯とす。絶頂に橢圓形の火口あり。口底平坦、其東南部は決潰し、急峻なる深谷を成して白川の水源を成す。山體は熔岩集塊岩より成る。根子岳は猫岳にも作り、一に七面山といふ、火口丘中最東に位

し其嶺は鋸齒の如く錯立し、山體は熔岩及集塊岩の累層より成る。標高四六九九尺。此五岳を繞りて一帯の平原あり、標高約一六五〇尺。北を阿蘇谷、南を南郷谷と呼ぶ。阿蘇谷には今宮地内牧の二町及中通坂梨黒川山田、永水の五村あり。南郷谷には高森町及色見、白水、久木野、長陽の四村あり。此諸村は恰も城郭を以て固められし如く、内側に急峻にして外部に緩漫なる連山二八〇〇尺乃至三〇〇〇尺に圍繞せらる。此連山は即ち一大噴火孔の峰壁にして、外輪山と稱するもの。五岳は此外輪山中に噴出せし火口丘に外ならず。而して其中間は往古火山の活動せる所にして、其後一時湖底たりし事ありしが、後立野に火口湖の決潰せらるるや、湖水皆流れ去り、現今の平原を成すに至れるなり。阿蘇谷の水は集りて黒川となり、南郷谷の水は白川を成し、西流して立野に至りて相會し、深く地盤を穿鑿し、絶壁の間を下す。是れ即ち立野火口湖なり。此火口湖は裂罅により成れるもの(伊木常誠氏の報告に據れば、裂谷なりや、蝕谷なりや判定し難しといふ)にして、其北に二重峰の低所あり。是れ阿蘇火山が一層高峻なりし時に存在したる蝕谷の痕跡ならんといふ。裾野は東西、南の三面は完全なれども、北方には既成の九重群山等ある爲め、稍不完全なり。東半は遠く延長して、豊後國竹田町附近に及び、南方は遙に緑川に沿へる峻嶺に限

られ、西方は徐々に熊本平原に下る。此裾野は總て渺茫たる荒野にして、凹凸波瀾の如く所謂浪原を成し、草木は矮樹茅草生育し、樹林は所々の豁間に在るに過ぎず。傾斜は南側最も急にして、約十度、西側は七乃至八度にして、北側は五乃至六度。東側は殆ど零度に近く、高原の觀をなす。裾野の斯く傾斜に面積の大なるに反し、山は甚だ高からず、外輪山は海抜三三〇〇尺内外にして、最高點なる冠岳と雖も四〇四六尺に過ぎず。阿蘇火山の構造を見るに、其外輪山は主として熔岩、集塊岩、火山灰の累層より成り、本邦火山に特有なる成層火山なり。伊木氏の説に據れば、外輪山の初體は岩石の堆積したる一大圓錐體なりしが、熔岩及集塊岩次第に噴出層累して、山體著しく高さを増せしに、噴出物の量莫大なりしを以て、地下に空隙を生じ、地上は之に反して噴出物堆積し、重量を増加せるを以て、山體陥入し、今日見るが如き大火口を有する外輪となれり。而して爾來活動尙熄まず、火口内には幾多の群峰を噴起し、又噴出物は外輪山にも飛散降着して、厚き火山灰ラビロ等の層を成し、以て現今の狀を呈せるなりといふ。附近には温泉多く湧出す。又烏帽子岳の西南には噴氣孔あり。此孔は爆裂火口の遺跡にして、今尙噴霧より硫氣を噴出し、又所々より酸性の熱湯を湧出し、其温度攝氏八三度あり。地獄温泉は即ち之を導けるものなり。

其他地獄の西北一町餘に、垂玉温泉、烏帽子岳の西麓に、湯ノ谷温泉、立野火口湖に近く、新木温泉あり。内牧の市中には茶褐色の温泉湧る所に湧出し、毎戸井を穿ちて之を引き、温泉業を營む者も少なからず。宮原の南一里に、滿願寺温泉、宮原の北には、杖立温泉、滿願寺の東二町許に、田野原温泉、田野原の東半里許に、黒川温泉あり。湯ノ谷滿願寺の二泉は、炭酸泉、杖立は鹽類泉、其他は概ね單純泉なり。阿蘇山の噴霧は、延暦十五年より明治十七年まで、千八百八十年間に六十回にして、平均十八年毎に一回の異變ある割合なりといふ。殊に猛烈なりしは、文化十二年にて、附近の損害少からざりしといふ。  
【文籍】九州二高山(山岳)卷二、第二號、阿蘇火山伊木常誠、地學雜誌一四八、一五五、一五六號。  
アソタキ(阿蘇山) 【奈良】大和國宇陀郡に在る。宇太村大字平井の山間に在り。高三丈幅二尺。  
アソヌマ(安蘇沼) 下野國安蘇郡に在る。沼伏町大字黒袴の下ノ谷といふ水田中に在り。和歌の名所なれど、今は東西四間南北六間許の小沼なり。沼中に眞菰繁茂するを以て、俗に眞菰池とも呼ぶ。下野歌枕に、「ひとり寝の寤驚かと思れば、安蘇沼の、眞菰かくれにつまも、こもれり」  
アソノ(安野野) 【岐阜】美濃國武儀郡の村、合三三。  
アソノ(阿蘇野) 【大分】豊後國直入郡の

アソノ(阿蘇海) 丹後國天橋立以西の内海。今は専ら内ノ海といふ。一小海峡(文珠の切戸、古名、久志の渡)を以て外ノ海(宮津灣)に通ず。周圍四里餘。水淺くして小舟を泛ぶるに過ぎず。  
アソノカワ(阿蘇野川) 豊後國に在る川。水源、直入郡阿蘇野村。東北流して、大分郡に入り、由布川に合す。  
アソノヤマ(阿蘇山) 古來の名所されど、其所在或は上野とし、或は下野とす。下野國の説に據れば、同國安蘇郡北方の連山をいへる事、猶奥の信天山、甲斐の甲斐ヶ根に等しと云ふ。上野國の説に據れば、(風土記)赤城の阿蘇山かといひ、(名跡考)今の舟尾山なりといふ。(此は箕輪軍記に、北は安蘇山、但馬の龍桃井の原とあるに據る。)又此山の麓に安蘇の川原とて、和歌の名所なる廣野あり。此も其所在詳ならず。下野國誌は、安蘇川、佐野天明驛の西を流る、川なり。往古は天明の東を流れしといへり。水上は同郡秋山と云ふ所より出で、末は佐野の中川と共に利根川に入るなり云々といふ。其だ覺束なし。  
アタ(阿多) 【鹿児島】薩摩國日置郡の村。萬ノ瀬川に沿ひ、郡の南端に在り。往古の吾田國阿多郡の本據といふ、合七五。  
アタカ(安宅) 【石川】加賀國能美郡の町。小松町の西二〇町に在り。柳川の右岸に沿ひ、海に近く、其港は河口の北に位し、水淺くして大船を泊し難し。然れども

アタカエ出雲郷 【鳥根】出雲國八束郡の村。和名抄の神戸郷の地に在り。アタカヤとも訓む。足高、神明、阿多加夜神社あり。又、山ありて、黄鐵礦を出す、合三三。  
アタカガワ(安宅川) 加賀國能美郡に在る川。水源、鈴ヶ岳、各川、津上川(俗に原川)佛大寺川、鍋谷川を合せ、小松町を過ぎ、今江湯の流末を入れて、安宅港に至り海に入る。流程一四里。下流は舟運の便あり。但し上流に尾小屋金平、大野、遊泉寺等の嶺山あるを以て、漁利なし。此川一名を柳川(掛川)にも作る、と稱す、もと柳

アタカラ(亞亞) 【樺太】豊原支廳榮濱出張所管内の村落にて、植民區劃地。豊原、名寄間街道に當り、豊原より二里一六町、舊稱マローウエチキナ、又アタカラコマン。  
アタカラコタン 【樺太】亞亞を見よ。  
アタカク(阿多郡) 【鹿児島】薩摩國に在りし郡。今の日置郡の南部にして、上古吾田、華人本據の地といふ。和名抄は阿多田、伏田水に誤る。豊原、葛例の四郷を載す。豊原、葛例の二郷は、今、川邊郡に屬し、阿多田、伏の二郷及舊伊作郡の地は、新町村制定の際、阿多田、伊作の三村となり、明治二十九年日置郡に合せらる。  
アタゴ(愛宕) 【山口】周防國玖珂郡の村。岩國町の南、岩國川の西岸を占め、海に臨む。春時、歴氣樓を現はす、とあり。俗に鳥遊といふ、合七五。  
アタゴ(阿多古) 【静岡】遠江國磐田郡の地名。天龍川の右岸、井伊谷の東北なる山中にして、中世郷名に呼ばれ、今上阿多古、下阿多古の二村に分る。  
アタギカワ(安宅川) 紀伊國に在る日置川の一。名。  
アタゴヤマ(愛宕山) 武藏國東京市芝區に在る丘。「東京市」を見よ。●山城國葛城郡の西部に在る山。一名朝日岳、又阿當、阿多古、愛太子に作る。高三〇九〇尺。第一鳥居より登ること五〇町許。峯頭を白雲山と稱し、絶頂に愛宕神社。東嶺に月輪寺。西麓に水尾陵あり。北に下れば

アタシカ(新鹿) 【三重】紀伊國南牟婁郡の村。木ノ本町の北二里に在りて、一小灣を擁す。灣は南風の外避泊に適す。其南東角附近に、箕曲鼻といふ小嶼あり。郵便局あり、合三三。  
アタシノ(阿大師野) 信濃國上伊那郡の原野。美濃村に屬し、和歌の名所なり。歌







アチサ

尙、菊地武時、應安四年今川貞世(九州探題)菊地武敏等の戦に足利勢は毎に此地に陣し、筑後川を隔て、對せり。白雲寺、アチサワ味津【愛知】三河國幡豆郡に在りし村明治三十九年一色村に入る。

アチフ

兒島沿岸製鹽地を管する専賣局收納所あり。白雲寺。アチフ(味生)【大阪】攝津國三島郡の村。古の島飼牧の一部にして、鹽生野の地といふ。白雲寺。

アツエ

アツエ温江【京都】丹後國與謝郡桑飼村の大字。和名抄調部郷の遺稱なり。延喜式阿知江神社及大蟲小蟲の二祠あり。アツカ(安家)【巖手】陸中國下閉伊郡の村。白雲寺。

アツケ

坂下村の大字。越中國婦負郡界に在る山村にして、往時は關門の設ありといふ。アツケシ(厚岸)【北海】釧路國厚岸郡の町。厚岸灣の南岸、岬角上に在り。市街は厚岸灣に沿ひ、北東より南西に延び、長約一二町、幅約三町、南を灣月町、北を若竹町、中間を梅香町といふ。灣月町に町役場、區裁判所警察分署、郵便局等あり。港は北海道東海岸要港の一なり。港口西に向ひ、水深くして、碇泊に適す。國內水産物の集散地として、海陸運送の便最も宜し。根室、函館間往復の汽船寄港す。明治三十九年の道外輸出一六、九六六八圓、輸入六、八三〇七圓、道内輸出一、六四七六圓、輸入一、九〇九四六圓、輸出の主なものは木材、練長切昆布、乾牡蠣貝類、粗製沃度、輸入は米、炭、太物、絲類、煙草等、各價格一萬圓以上あり。函館へ二三〇里、根室へ七六里。町に辨天社、神明社、國泰寺あり。國泰寺は享和二年建立、臨濟宗の巨刹にして、本尊は一尺九寸の釋迦の座像なり。徳川氏の頃は年々米百俵十二人扶持金四十八兩を給し、有珠の善光寺、機殿の等樹院と共に、北海道三名寺の一なり。白雲寺。

アツケ

中山岳なく、大河一降中央を貫流し、兩岸卑濕の谷を成す。海岸は風曲多く、南方に厚岸灣あり、海水と相通じて一大灣を成す。厚岸灣是なり。厚岸港其南岸に在り。驛路は釧路町より來り、厚岸に至りて上下二線となり、下道は海岸に沿ふて霧多布に至り、それより海岸を根室に出づ。上道は三番澤を経て霧多布に至り、下道と合して根室に至る。アツケシとはアツシを織る木皮を割ぎ、沼に晒す所の義なり。但しパチチア氏は牡蠣の場の義にして、牡蠣の漁場ありしに因るといへり。

アツサ

瓜の如し、廣袤約八里、北岸は砂渚にして、稍低く、他は岩礁多く、灣口に大黒島あり。島に燈臺を設く。アツサ梓【長野】信濃國南安曇郡の村。梓川の北岸、松本平の西部に在り。松本市より飛騨に至る街道に當り、郵便局及警察署あり。白雲寺。

アツサ

アツサ(朝來)【和歌山】紀伊國西牟婁郡の村。熊野大邊路街道に當り、田邊町より一里二六町、郵便局あり。白雲寺。アツタ熱田【愛知】尾張國愛知郡に在りし町。明治四十年名古屋と合併して同市の南區を成す。もと東海道の一要驛にして、宮と呼び、往時は此地より伊勢の桑名に至るを七里渡又は間渡と稱し、東海道の大渡津たりしが、今は鐵道の便により此渡廢せり。されど今尙市の埠頭に、船舶輻湊頗る繁昌す。愛知郡役所、警察署、郵便局、高等女學校、帝室林野管理局出張所等あり。鐵道は車馬を町の東偏に置く。熱田港は從來保田沖と稱し、約一里の海上を碇泊地とせしが、其西南風浪に暴露し、且庄内川の流砂沈滞して水深漸く減じ、二三百噸以内の船にあらざれば碇繫に適應せざるに至りたれば、明治三十一年築港工事を起し、其港口を一六一間とし、西に突堤一二九七間、東に二〇二六間を築き、航路を水深二〇尺、船溜を深二五尺に浚深し、船溜場の廣一二萬坪、埋立地八八萬坪を得たり。其經費一八九萬圓、三十七年に至つて成る。又運河は昔て名古屋築城の時開鑿し、此地に至る

アツタ

もの從來約一里半あり。堀川と稱し、名古屋との水運は専ら此に依りしが、此港落成と共に、更に新運河を開鑿せり。熱田神社は伊勢神宮に亞げり大社にして、今官幣大社に列し、中殿に日本武尊西殿に天照大神、素戔嗚尊、東殿に宮妻媛命、建稻種命を祀り、別に土用殿といへるに三種神器の一なる草薙寶劍を奉祀す。傳云、日本武尊東夷を征せんとし、伊勢大廟に謁せしとき、神劍を倭姫命に授かり、駿河に至り、此劍の威徳により夷賊を焼き亡ぼし、悉く東夷を平定して、歸途此地に至り、宮妻媛命を幸し、終に其劍を留め給ふ。既にして、尊伊勢國に歸じ給ふに及び、倭其兄健甕種命と議り、神宮を營みて神劍を安置し、以て尊の靈を祀れり。境域極めて廣く、鎮阜、春、秋、海、露の三門あり。もと北に清雪門ありて之を四瀝の神門と稱し、又八瀝の島居として、八方に華表ありしが、今或は存し或は廢せり。今の社殿は明治二十六年の改造に係り、頗る莊嚴なり。殿前に渡殿、釣燈籠、文燈、懸燈、拜殿、勅使殿、神樂所、神庫等相連り、攝社、末社亦甚だ多し。社司はもと大宮司と稱し、初は尾張連の一族之を掌れりといふ。中世尾張季範の女源義朝に嫁し、賴朝範賴を生みしかば、源氏興隆に至り大宮司家益振ひ、子孫季範を今宮明神と祭る。後其嗣絶へ、卜部氏之を嗣ぎ、明治に至る。後千秋氏と稱し、男爵に列す。八劍宮は神宮の南に在り。元正天皇の和銅元年



アツタ

一種の寶劍を祀り、熱田神宮の別宮とす。太平記東下りに、熱田の八剱伏し拜みと記し、往時は神宮と混ぜしが如し、熱田神宮寺址は海蔵門外に在り。仁明天皇勅建、豐臣秀頼再興、元禄年中江戸護持院僧正隆光更に修理中興せしが、近年廢絶す。本尊藥師像は古來有名なり。正覺寺は尾州三檀林の一にして、後花園天皇の勅願所なり。永享六年僧融傳の開創といふ、法持寺は弘法大師の熱田神宮參籠の時、地藏菩薩を刻みて安置せる所と云ひ傳ふ、今曹洞宗なり。寺後に白鳥陵あり、日本武尊の遺物を埋藏すといふ、本遺寺は俗に法華堂と呼び、日蓮宗の古刹なり。其客殿は織田信長の書院を移せるものと傳ふ、魚市場は西枇杷島の青物市場と並び稱せられ、尾張三河遠江伊勢志摩紀伊の魚類の大市場なり。販路は尾張全國三河の一部、美濃信濃飛騨近江にして、毎日朝夕の開市喧鬧を極む。毎年賣上高八千萬圓に及ぶといふ、此市場は元龜天正以前より開始せられたるものにして、清須が尾張の首邑たりし時より、魚類の供給所たりしといひ、古來問屋株六戸あり。此地は古來新麥稈にて馬形を造り、玩具として賣り來りしが、明治十六年頃より麥稈眞田の製造起り、次第に盛大に赴き、今熱田を中心として、縣下の産額本邦第二位(岡山縣に亞ぐ)に居り、價格三十萬圓に上る。木曾山林の木材は採伐して木曾川を流下し、美濃國錦織にて筏に組み熱

アツタ

田に下し、此所にて各地に販賣輸送する事藩政以來今も同じ。もと白鳥村木奉行所あり、今宮内省御料局出張所あり。【文籍】熱田舊記。アツタ(厚田)【北海】石狩國厚田郡の村。大字厚田は厚田川の河口に跨り、天鹽街道の要衝に當り、郵便局警察分署等あり。藩政の時代は運上所を置きし所とす。合六五。アツタ(厚田川)【北海】石狩國厚田郡に在る川。水源、ソウマ山。南流七里厚田村を貫きて海に入る。アツタ(厚田郡)【北海】石狩國九郡の一、四境、北は濱益郡、東は石狩郡、西は海廣三三二町、表八里二六町、面積一九方里餘。行政上、厚田の一村を置き、札幌支廳の所管とす。合六五。地勢、郡内北部に山岳重疊し、南部は稍平なれども、耕作に適せず。沿岸の民多くは漁業を營む。山岳には阿曾山、ソウマ山あり。河流には厚田川あり。海岸線の長さ六里二〇町。其北部は断崖にして、南部は間々砂濱あり。有名なる濃盡の險路は實に此海岸に在り。驛路は石狩より來り、古厚田を経て濱益郡に入る。アツタ(厚田)【愛知】尾張國愛知郡の地方名。明德、寛政、寶田の三村に分屬す。熱田町の西、堀川を隔てたる斥圃の地にして、古の年魚市海跡の跡なりといふ。正保以後の新墾に係る。アツタ(安部郡)【山梨】甲斐國北巨摩郡

アツチ

の村、合三三。アツチ(安土)【滋賀】近江國蒲生郡の村。八幡町の東に位し、鐵道東海道線村内を通過す。東より南に丘陵連り、北は琵琶湖に臨む。江南の要衝にして、安土城の名と共に其名大に著る。安土城址、總見寺、沙々貴神社、桑實寺、慈恩寺等あり。安土城址は天正四年織田信長の築く所に於て、丹羽長秀之を奉行し、初めて天守閣を建つ。十年信長本能寺に弑せらるゝや、城の留守蒲生秀賢夫人以下を擁して、其邑日野に遷く。光秀至り將士と城の寶貨を分取し、復た京都に入る。明智光春城を守り、光秀の敗死を聞き、乃ち之を燒きて坂下に至る。總見寺は城址に在り。織田信長本願寺正神師開基。近世まで寺領二百石を給せらる。其三層塔は豐臣秀頼の寄進といふ。合三三。アツチ(阿閉)【滋賀】近江國伊香郡の地名。舊安土郡の遺稱なりといふ。今東西の二に分れ、東阿閉は南宮永村に、西阿閉は古保村に屬す。中世の郷士に阿閉氏あり。淡路守長之は淺井亮政自立の時之に抗争せしが、後之に従ひ、織田氏に降り、明智光秀の反するや、亦之に應じて長濱を掠めしが終に敗死す。アツチ(オウシマ)【山梨】肥前國北松浦郡の島。大島を見よ。アツチ(安土城址)【滋賀】近江國に在る城址。安土を見よ。アツチ(厚首)【北海】後志國美濃郡美

アツナ

國町の大字。積丹半島の北東側の漁村なり。戸數僅に三〇戸に過ぎざれど、平年練約四〇〇〇石(價格約五萬圓)を收穫す。アツナ(安部郡)【山梨】甲斐國北巨摩郡の村。合八八。アツナ(熱那)【山梨】甲斐國北巨摩郡の舊庄名。八ヶ岳の東南麓にして、今安部郡安部玉熱見の三村に分る。熱見村に熱那總社八幡宮あり。アツナイ(厚内)【北海】十勝國十勝郡に在る鐵道停車場。釧路國白糠郡界を距る一里半。釧路驛より三七哩。アツハラ(厚原)【靜岡】駿河國富士郡鷹岡村の大字。吉原の北一里とす。しと、瀧泉寺あり。日蓮上人其僧を説破して法弟となせし所にして、其問答を瀧泉寺申狀と稱す。明應年中感應寺と號せしが、天正年中府中に徙すといふ。アツベツ(厚別)【北海】日高國沙流郡門別村の大字。郡の南東隅に位し、厚別川の右岸、河口より一里の内地に在り。【北海】根室國根室郡の村。風連沼に臨み、對岸走古潭村との間に、水底電線の有設あり。舊稱アツクシユベツ、方言阿武別と呼ぶ。釣の義なり。風連河此邊にて屈曲し、釣の如くなれば此名ありといふ。昔は番屋通行屋、雜車等ありしと云ふ。合二〇。【北海】石狩國札幌郡に在る鐵道停車場。札幌より六哩。江別へ九哩。アツベツ(厚別川)【北海】石狩國札幌郡豐平川の支流。水源、石狩、膽振二國

アツホ

界上の山間、北流して厚別驛の西を過ぎ、豐平川に合流す。流程二〇里二二町。【北海】日高國新冠郡に在る川。水源、沙流郡境の山脈、西南に向ひ沙流郡の境を劃して海に入る。アツホ(厚保)【山口】長門國美祿郡の地方名。厚保郡に接する山村にして、厚狭川の兩岸に跨る。今東厚保、西厚保の二村に分る。保の字は隣保の義にして、古稱郷里の狭少なるものを保と名けたる遺稱なり。アツマ(厚真)【北海】膽振國勇拂郡の村。厚真川の沿岸を占め、海に瀕す。合五五。アツマ(香妻)【東京】武藏國南葛飾郡の村。合八二。アツマ(香妻)【神奈川】相模國中郡の村。合五九。【埼玉】武藏國入間郡の村。合三六。【千葉】上總國君津郡木更津町の大字。市街の北に接し、香妻神社あり。日本武尊の妃橘姫を祀る。其社地を香妻ノ森と呼ぶ。【栃木】下野國足利郡の村。合五三。【長野】信濃國西筑摩郡の村。警察分署郵便局あり。合三〇。【福島】岩代國耶麻郡の村。合五五。【山形】羽前國南置賜郡南原村の字。香妻火山の北半腹に在る温泉場なり。泉は鹽類性にして、溫度攝氏五四度。アツマ(東)【群馬】上野國勢多郡の村。合五七。【群馬】上野國群馬郡の村。合四二。【群馬】上野國香妻郡の村。合三六。【群馬】上野國利根郡の村。合四四。【群馬】上野國佐波郡の村。合四三。【千

アツマ

葉】上總國夷隅郡の村。合七六。【茨城】常陸國新治郡の村。合三三。【山形】羽前國南村山郡の村。合六五。【鳥取】因幡國岩美郡の村。但馬國に接せる海岸なり。東は居組濱に至り、西に羽尾の岬ありて、北に開きたる曲浦を擁す。合七九。アツマ(厚真川)【北海】膽振國勇拂郡に在る川。水源、石狩國夕張郡境の山中、南流厚真村に至りて海に入る。其兩岸は曠漠なる草原にして、耕作に適せざれど、上流所々に油田地あり。アツマ(ガワ)【香妻川】上野國香妻郡に在る川。アガツマ川とも呼ぶ。水源、鳥居嶺東走して、草津川、四萬川、大月川等を合せ、横名山の北麓を繞りて群馬郡に入り、澁川町の東北に至り利根川に入る。流程一二里。越後街道及信濃の上田に出づる街道此沿岸を通ず。アツマ(香妻郡)【群馬】上野國十一郡の一、四境、南は碓氷郡、東は利根郡、北は越後國南魚沼郡及信濃國下高井郡、西は信濃國上高井、小縣、北佐久三郡、東一三三町、表八里五町、面積七三万七三行政上、中之條、原、長野、原、草津、方里七三行政上、中之條、原、長野、原、草津、合、澤田、伊勢名久田の一〇村に分ち、郡役所を中之條町に置く。戸數七、八四、七三。地勢、本郡は國の西北に偏在せる山地にして、淺間、榛名山の北なる山谷を占め、香妻川本支流の流域より成る。郡の大半は火山岩にして、唯中之條町附近に

アツマ

第四紀古層、四萬温泉より北部に秩父古生層の露出するを見る。故に面積に於ては國內第二に位するも、物産少く、人烟稀なり。郡内至る所温泉湧出する。其最も著名なるを草津、四萬、澤田、川原湯等とす。道は香妻川に沿つて通じ、大倉嶺、澁嶺、鳥居峠、砂山等を踰えて、信濃と往來すべし。産業、最も盛なるは蠶絲業にして、牧畜之に次ぐ。物産は米、大豆、蕎麥、馬鈴薯、大麻、川村、薪炭材、繭(一、二四五六石)、生絲(四二七六貫、馬(四千四百頭)等なり。郡名は日本武尊の碓氷峠にて橘姫を追懐して、香妻者耶と宣ひしより出づといふ。和名抄は阿加豆米と訓じ、今アツマと呼ぶ。僅に長田、伊勢、太田の三郷を載す。當時未開の地たるを見るべし。伊勢、太田は近年立て村名とす。明治二十九年地形を相し、本郡久賀村を利根郡に移し、群馬郡高山村を本郡に合せたり。アツマ(コタキ)【香妻子瀧】安藝國賀茂郡に在る瀧。御園字村に屬す。四條川此に至て瀧となり、岩を挟みて左右に分る。左を雄瀧といひ、高一八丈三尺。右を雌瀧といひ、高二九丈。幅各七間。復た合して西南に流れ、末は二級瀧となる。アツマ(東)【青森】陸奥國東津輕郡の村。合三三。アツマ(香妻野)【大和】國宇陀郡に在る原野。宇賀志村大字東郷に屬す。アツマ(東野)【大和】國吉野郡に在る原野。下市町大字下市善城の間に在り。

アツマ

アツマ(ノモリ)【香妻嶽】武藏國南葛飾郡に在る香妻嶽村に屬し、老樹鬱茂せる中に、香妻神社あり。日本武尊の妃橘姫の廟なりといふ。社前の古樟は幹二岐に分る。連理の樟と呼ぶ。アツマ(香妻橋)【東京】武藏國東京市の橋。東京市を見よ。アツマ(ガタケ)【東屋ヶ嶽】大和國吉野郡に在る山。大峰連山の一峰にして、地蔵ヶ岳の南二七町に在り。アツマ(ヤマ)【香妻山】上野、信濃二國に跨る山。香妻上野、上高井、信濃、北佐久同上三郡に跨る。海拔七七七八尺。一に香妻山に作り、信濃にては四阿(香妻屋)山と呼ぶ。淺間系に屬する火山にして、北に白根火山あり。●岩代國耶麻郡信夫の二郡に跨る火山群。東香妻山、香妻富士、一切經山等の數峰時、此等諸峰と其附近には火山口、火山湖、温泉等ありて、今尙活動の跡を存す。一切經山は諸峰の最北に聳え、海拔六三三三三尺。其北なる家形山と共に、一大火山を抱擁し、其底に五色瀧と呼ぶ火山湖あり。山は塊狀、板狀柱狀等の輝石富士岩より成り、山上には火山口より噴出せし岩屑石塊等堆積す。家形山は火山の北壁にして、海拔五六八九尺。鈍圓錐形を成し、南方稍急斜す。五色瀧は一にカミナリ瀧と呼び、直徑約一三〇〇尺。水面は海拔五三三六尺にして、東部環壁より約七〇尺低し。一切經山の峯南に延びて大瀧及硫黄山の小瀧起を生ず。



硫黄山の頂には大穴又は八幡穴と呼ぶ噴火口あり、其底に赤色の水を湛ふ。火口壁は東側最も低く、沼ノ平より高きこと約四〇〇尺、八十年前までは其底より盛に硫黄を出だせりと云ふ。山の西麓は燕澤の溪流にして、東麓には硫黄泉及噴氣孔あり。大穴の東に小穴と呼ぶ一火口あり、直徑約二五〇尺、底の方に赤色の水を湛ふ。吾妻富士は小富士又は矢野山と呼ばれ、一切経山の東南約五〇〇〇尺の所に在り。山頂には圓形の火口あり、徑一六五〇尺、火口壁は東部に高く、西北部に低く、最高五七二尺、最低五四七八尺あり。火口の内壁は桶盆状を成し、底には砂石堆積し、口壁最低所より約二五〇尺低し。山は主として輝石富士岩質の塊岩及熔岩より成り、山頂植物を生ぜず。吾妻富士の西に桶沼山あり、一小休火山にして、山頂に桶沼と呼ぶ火口あり、直徑約五三〇尺、火口壁は南方より次第に北方に低し。沼ノ平は桶沼山の北に位し、硫黄山と吾妻富士とに擁せられたる平地なり。二に浄土平とも呼ぶ火口の觀あり、東西約二〇〇〇尺、南北一三〇〇〇尺、海抜約五三〇〇尺、現時は灰砂深く、積堆し、中央に泥湯といふ温泉出づ。前記諸山の水は此に集り、鹽野川となり、吾妻富士の西を繞りて荒川に合し、末は阿武隈川に入る。鹽沼は一切経山の西南に在り。形南北に長く、東西に狭く、鎌に似たり。山間の凹地に渾水せしものとす。東吾妻山

アツミ(湯海) 【山形】羽前國四田川郡の村。越後街道に當る海村にして、湯海嶽の西麓を占む。大字湯海に温泉湧出。硫黄泉にして、温度攝氏五八度。嘉祿二年の發見と云ふ。湯海の山上に由豆佐賣神社あり。一に熊野權現と稱す。由豆佐賣即ち湯出澤の義なりといふ。湯海に郵便局あり。白雲寺。

アツミ(熱見) 【山梨】甲斐國北巨摩郡の村。白雲寺。

アツミ(厚見) 【岐阜】美濃國稻葉郡の村。白雲寺。

アツミ(安曇) 【長野】信濃國南安曇郡の村。郵便局あり。白雲寺。

アツミ(安曇) 【兵庫】播磨國赤松郡の村。大字。山中の小驛にして、但馬、因幡に向ふ山道に沿ふ。郵便局あり。足利氏の時赤松氏の黨安積氏の居りし所なり。

アツミ(ガワ) 【温海川】羽前國四田川郡に在る川。水三寶山、西走して日本海に注ぐ。流程三里八町。舟楫の利なし。

アツミ(厚見郡) 【岐阜】美濃國に在りし郡。長良川、境川の間に介在し、東は各務野に互れる地なり。靈異記には淳見に作り、和名抄阿津美と註し、市俣皆太(昔は草の誤ならんといふ)三家厚見郡家川邊の六郷に分り、明治二十九年廢して各務全部及方縣郡の大部を合せ、稻葉郡の新稱を建つ。

アツミ(温海) 【山形】羽前國四田川郡の村。越後街道に當る海村にして、湯海嶽の西麓を占む。大字湯海に温泉湧出。硫黄泉にして、温度攝氏五八度。嘉祿二年の發見と云ふ。湯海の山上に由豆佐賣神社あり。一に熊野權現と稱す。由豆佐賣即ち湯出澤の義なりといふ。湯海に郵便局あり。白雲寺。

アツミ(熱見) 【山梨】甲斐國北巨摩郡の村。白雲寺。

アツミ(厚見) 【岐阜】美濃國稻葉郡の村。白雲寺。

アツミ(安曇) 【長野】信濃國南安曇郡の村。郵便局あり。白雲寺。

アツミ(安曇) 【兵庫】播磨國赤松郡の村。大字。山中の小驛にして、但馬、因幡に向ふ山道に沿ふ。郵便局あり。足利氏の時赤松氏の黨安積氏の居りし所なり。

アツミ(ガワ) 【温海川】羽前國四田川郡に在る川。水三寶山、西走して日本海に注ぐ。流程三里八町。舟楫の利なし。

アツミ(厚見郡) 【岐阜】美濃國に在りし郡。長良川、境川の間に介在し、東は各務野に互れる地なり。靈異記には淳見に作り、和名抄阿津美と註し、市俣皆太(昔は草の誤ならんといふ)三家厚見郡家川邊の六郷に分り、明治二十九年廢して各務全部及方縣郡の大部を合せ、稻葉郡の新稱を建つ。

アツミ(温海) 【山形】羽前國四田川郡の村。越後街道に當る海村にして、湯海嶽の西麓を占む。大字湯海に温泉湧出。硫黄泉にして、温度攝氏五八度。嘉祿二年の發見と云ふ。湯海の山上に由豆佐賣神社あり。一に熊野權現と稱す。由豆佐賣即ち湯出澤の義なりといふ。湯海に郵便局あり。白雲寺。

アツミ(熱見) 【山梨】甲斐國北巨摩郡の村。白雲寺。

アツミ(厚見) 【岐阜】美濃國稻葉郡の村。白雲寺。

アツミ(安曇) 【長野】信濃國南安曇郡の村。郵便局あり。白雲寺。

アツミ(安曇) 【兵庫】播磨國赤松郡の村。大字。山中の小驛にして、但馬、因幡に向ふ山道に沿ふ。郵便局あり。足利氏の時赤松氏の黨安積氏の居りし所なり。

アツミ(ガワ) 【温海川】羽前國四田川郡に在る川。水三寶山、西走して日本海に注ぐ。流程三里八町。舟楫の利なし。

アツミ(厚見郡) 【岐阜】美濃國に在りし郡。長良川、境川の間に介在し、東は各務野に互れる地なり。靈異記には淳見に作り、和名抄阿津美と註し、市俣皆太(昔は草の誤ならんといふ)三家厚見郡家川邊の六郷に分り、明治二十九年廢して各務全部及方縣郡の大部を合せ、稻葉郡の新稱を建つ。

一切経山の西南に聳え、海拔六二三〇尺。鈍圓錐形を成し、傾斜甚だ緩なり。山頂火口なく、樹木茂る。東麓に雌沼、雄沼の二小湖あり。大日嶽中吾妻山西吾妻山は家形山より西に互りて、岩代羽前二國の境を成し、傾斜何れも緩に、山頂扁平なり。吾妻山の破綻は明治二十六年五月十九日にして、硫黄山の西麓燕澤に起り、泥灰を降らし、噴煙鳴動止まず。六月四日第二回の破綻あり、此時調査の爲め登臨せる三浦技師西山技師に死す。其後噴煙止まず、現時も白煙を噴く。破綻の箇所は幅三三〇尺、長一三二〇尺にして、北々西より南々東に至り、當時は其中に四個の噴氣孔ありしが、後合して二個となれり。此破綻は地中に貯積せる水蒸氣の爆發せるものにして、灰の飛散せる區域は約二〇〇〇平方尺に及べりといふ。岩片は燕澤附近のもの、水蒸氣の爲に跳ね飛ばされたものにして、其表面は往々熔岩状をなし、大さは拳大のもの最も多し(大日本地誌に據る)。

アツマ(馬) 【阿圖馬山】 出雲備後に跨る山。吾妻山にも作る。標高四二二〇尺。風土記に所謂遊記山なりといふ。

アツマ(リ) 【丹波】丹波國多紀郡今田村に屬する山。妙見山ともいふ。元暦年間源義經小野原に在り、夜三草山を攻めんとして、兵を此に集めしり此名あり。

アツミ(温海) 【山形】羽前國四田川郡の村。越後街道に當る海村にして、湯海嶽の西麓を占む。大字湯海に温泉湧出。硫黄泉にして、温度攝氏五八度。嘉祿二年の發見と云ふ。湯海の山上に由豆佐賣神社あり。一に熊野權現と稱す。由豆佐賣即ち湯出澤の義なりといふ。湯海に郵便局あり。白雲寺。

北四里面積二〇方里一八。行政上、三川、田原、福江の三町及平呂、吉田、赤羽根、伊真湖、高野、杉山、高師、老津、神戶、野田、泉の一〇村に分ち、郡役所を豊橋市に置く。戸數二四、八六八。地勢本郡は南西に延びて一大半島を成し、北に渥美灣を抱き、南は遠江灘に面し、全郡殆ど山陵連なり。遠江灘に面する所は懸崖海に迫りて一の錨地をも見ず、唯少しく魚鹽の利あるのみ。郡の北東部豊橋附近は國道井に鐵道の通ずる所、殊に豊川筋の咽喉に當るを以て、商工業大に發達し、設樂八名の諸郡より輸送する木材薪炭遠江の北部及信濃の伊奈に送る貨物は、概ね豊橋を経るを以て、今國內第一の要地と稱せられ、且鹽業は縣下第一に居る。物産は農産に米、麥、大豆、粟、甘藷、(一〇〇萬圓)、工業品は製絲七萬貫、瓦、セメント、酒、醬油、水産物は約二四萬圓なり。渥美は和名抄阿豆美と註し、幡太和太和地の誤なりといふ。渥美高嶺磯部大壁の六郷に分つ後世俗に渥海に作り、アツミと稱ふるものあれども誤れり。又奥郡の稱あり。近世檢地四萬石。

アツミ(安曇) 【長野】信濃國の西北偏に在りし郡。東筑摩郡と一境を成し、所謂松本平の地にして、犀川の本支流に沿へり。明治十三年分ちて、南北二郡とす。和名抄は阿都三と註し、高家八原村上前社衙科の誤の四郷を載す。其上二郷は南安曇となり、下二郷は北安曇とな

島と該嶺端とは干岩脈を以て接續するも、小艇は高潮時に其間を通過し得べし。嶺端に燈臺を設く。鐵道六角形白塗第二等回轉白色にして、三十秒毎に一光輝を發す。燈臺は高湖面上二一八呎、晴天光達二一哩、此燈臺に霧笛を設け、霧雲或は深濃なる天候には、每一分を隔て之を吹鳴す。

アトエ(跡水質) 【北海】釧路國釧路郡の村。郡の南東隅にして、昆布森の東三里に在り。アトイオカとも呼ぶ。白雲寺。

アト(ガワ) 【安曇川】 近江國高島郡に在る川。阿波又吾迹に作り、土地の人は安津川とも湖西いふ。船木川、朽木川等の別名あり。第一の大川なり。水源、滋賀郡翠蘆山。北流八里、丹波若狹二國の境より出づる水を集め、朽木市場に至りて東に折れ、三里にして船木崎に至り、琵琶湖に入る。古來此川の鮎、鯉を加茂神社に奉る例あり。之を日供菜といへり。

アト(サ) 【北海】 釧路國川上郡に在る山。硫黄山と見よ。●【北海】 千島國擇捉島に在る死火山。頂上は缺けたる圓錐形を成し、高四〇〇〇尺(一に三九五三呎)山趾は海に出で、ゴロノフ鼻を成す。邦人は鷲冠山といふ。アトサは稜形の義なり。

アト(タ) 【跡田川】 豊前國下毛郡に在る川。水源、四谷村、馬渡の一支。末は山國川に入る。

アト(ラ) 【樺太】 川北を見よ。

アツミ(温海) 【山形】羽前國四田川郡の村。越後街道に當る海村にして、湯海嶽の西麓を占む。大字湯海に温泉湧出。硫黄泉にして、温度攝氏五八度。嘉祿二年の發見と云ふ。湯海の山上に由豆佐賣神社あり。一に熊野權現と稱す。由豆佐賣即ち湯出澤の義なりといふ。湯海に郵便局あり。白雲寺。

アツミ(熱見) 【山梨】甲斐國北巨摩郡の村。白雲寺。

アツミ(厚見) 【岐阜】美濃國稻葉郡の村。白雲寺。

アツミ(安曇) 【長野】信濃國南安曇郡の村。郵便局あり。白雲寺。

アツミ(安曇) 【兵庫】播磨國赤松郡の村。大字。山中の小驛にして、但馬、因幡に向ふ山道に沿ふ。郵便局あり。足利氏の時赤松氏の黨安積氏の居りし所なり。

アツミ(ガワ) 【温海川】羽前國四田川郡に在る川。水三寶山、西走して日本海に注ぐ。流程三里八町。舟楫の利なし。

アツミ(厚見郡) 【岐阜】美濃國に在りし郡。長良川、境川の間に介在し、東は各務野に互れる地なり。靈異記には淳見に作り、和名抄阿津美と註し、市俣皆太(昔は草の誤ならんといふ)三家厚見郡家川邊の六郷に分り、明治二十九年廢して各務全部及方縣郡の大部を合せ、稻葉郡の新稱を建つ。

アツミ(温海) 【山形】羽前國四田川郡の村。越後街道に當る海村にして、湯海嶽の西麓を占む。大字湯海に温泉湧出。硫黄泉にして、温度攝氏五八度。嘉祿二年の發見と云ふ。湯海の山上に由豆佐賣神社あり。一に熊野權現と稱す。由豆佐賣即ち湯出澤の義なりといふ。湯海に郵便局あり。白雲寺。

アツミ(熱見) 【山梨】甲斐國北巨摩郡の村。白雲寺。

アツミ(厚見) 【岐阜】美濃國稻葉郡の村。白雲寺。

アツミ(安曇) 【長野】信濃國南安曇郡の村。郵便局あり。白雲寺。

アツミ(安曇) 【兵庫】播磨國赤松郡の村。大字。山中の小驛にして、但馬、因幡に向ふ山道に沿ふ。郵便局あり。足利氏の時赤松氏の黨安積氏の居りし所なり。

アツミ(ガワ) 【温海川】羽前國四田川郡に在る川。水三寶山、西走して日本海に注ぐ。流程三里八町。舟楫の利なし。

アツミ(厚見郡) 【岐阜】美濃國に在りし郡。長良川、境川の間に介在し、東は各務野に互れる地なり。靈異記には淳見に作り、和名抄阿津美と註し、市俣皆太(昔は草の誤ならんといふ)三家厚見郡家川邊の六郷に分り、明治二十九年廢して各務全部及方縣郡の大部を合せ、稻葉郡の新稱を建つ。

山形前山等あり、河流は高梁川北境より郡の中央を貫き、上房川上二郡の間に入る。支流の大なるものを川、瀬川、新見川、小阪部川とす。道路は伯耆街道高梁川に沿ひて川上郡より來り、新見町を過ぎ、西北向して伯耆國日野郡に入る。別に上房郡皆郡より來り、郡の東部を過ぎて伯耆國板井原に達する縣道あり。物産は麥、大豆、粟、草、三極木、材、薪炭、清酒、醬油、牧牛(三三三四頭等)。本郡はもと阿賀野多の二郡に分れたれども、地勢は一境を成し、古來阿賀野多と連唱せられたり。明治三十三年合して本郡を置く。但し阿賀郡の一部中井以下五村は轉じて上房郡に入れり。

アト(ウ) 【阿手銅山】 加賀國能美郡に在る銅山。千手鍾、亥己鍾の二礦脈あり。其交叉する所最も礦物に富みりといふ。礦石は黄鐵礦を雜ふる黄銅礦にして、鑛石は磁石上部は時々黒銅鑛、斑銅鑛等に變體す。上鑛三割以上の歩留あり。一割内外を以て平均とすといふ。産額次表の如し。

年次	採鑛高	製煉元高	製出高
明治七年	四七、七九	五〇、五二	五、二〇
同十四年	一六、七四	一六、六三	一、〇二
同十五年	一六、七四	一六、六三	一、〇二
同十六年	一六、七四	一六、六三	一、〇二
同十七年	一六、七四	一六、六三	一、〇二

アテ(ラ) 【左澤】 【山形】羽前國四田川郡の町。最上川の山形平野に出づる所に在り。

所謂西部街道の一市街にして、警察分署、郵便局等あり。物産に青芋を産し、寒河江城址あり。大江(寒河江)氏の最上氏に備へたる屬城の一とす。白雲寺。

アト(ナ) 【阿寺七池】 三河國八名郡に在る湖。山吉田村に屬し、三輪川(豐川)の一支の上流に在り。飛泉七折して下る。高三四間。第四は最も高くして一六間あり。秋季紅葉の頃最も美觀なりといふ。大野町より約一里半。

アト(ヤ) 【阿寺山】 三河國八名郡に在る山。郡の東境に位す。一に阿手羅山にも作り、遠江國に跨る。遠江にては田澤山又遠川山ともいふ。

アト(阿) 【奈良】 大和國磯城郡川東村大字坂手の邊の舊名。

アト(安) 【滋賀】 近江國高島郡の村。白雲寺。

アト(イ) 【島根】 石見國那賀郡の村。跡市川上流の山村にして、郵便局あり。古は福屋といひ、福屋氏代々本明(音明)にも作る。城に居る。陸軍に至り邑智、瀨摩二郡を徇へ、威力ありしが、永祿年中毛利氏の亡す所となる。白雲寺。

アト(イ) 【阿吐江也】 【北海】 千島國後島の岬。島の東北端にして、一に安渡、矢野に作り、擇捉島と相對す。其間七哩。水路諸云。アトイ岬は低沙嘴にして、北東へ約五哩斗出ず。該砂嘴端より北東方二哩に辨天島(アトイ)あり、高一六二呎、四個險峻にして遠望顯著なり。此

島と該嶺端とは干岩脈を以て接續するも、小艇は高潮時に其間を通過し得べし。嶺端に燈臺を設く。鐵道六角形白塗第二等回轉白色にして、三十秒毎に一光輝を發す。燈臺は高湖面上二一八呎、晴天光達二一哩、此燈臺に霧笛を設け、霧雲或は深濃なる天候には、每一分を隔て之を吹鳴す。

アトエ(跡水質) 【北海】釧路國釧路郡の村。郡の南東隅にして、昆布森の東三里に在り。アトイオカとも呼ぶ。白雲寺。

アト(ガワ) 【安曇川】 近江國高島郡に在る川。阿波又吾迹に作り、土地の人は安津川とも湖西いふ。船木川、朽木川等の別名あり。第一の大川なり。水源、滋賀郡翠蘆山。北流八里、丹波若狹二國の境より出づる水を集め、朽木市場に至りて東に折れ、三里にして船木崎に至り、琵琶湖に入る。古來此川の鮎、鯉を加茂神社に奉る例あり。之を日供菜といへり。

アト(サ) 【北海】 千島國擇捉島に在る死火山。頂上は缺けたる圓錐形を成し、高四〇〇〇尺(一に三九五三呎)山趾は海に出で、ゴロノフ鼻を成す。邦人は鷲冠山といふ。アトサは稜形の義なり。

アト(タ) 【跡田川】 豊前國下毛郡に在る川。水源、四谷村、馬渡の一支。末は山國川に入る。

アト(ラ) 【樺太】 川北を見よ。



アナガ

アナガ(阿那賀) 【兵庫】淡路國三原郡の村。福良港の西一里、鳴門海峡に臨み、其の奔潮激浪を望むべし。港は洞穴の状あり。阿那賀は蓋し阿那ノ浦の義ならんといふ。港、西に錦岬あり、其狀腰甲に似たり。東南に伊比島あり、浦の北十餘町に草香浦あり。丸山崎西方に突出し、其陽に泊舟の地を見る。村内の東南に城址あり。武田山城守其子彦五郎其子正相繼ぎ、天正年中絶ゆといふ。合七三。

アナシ(穴師) 【大阪】和泉國泉北郡の村。古の香孫子莊にして、今大字に其名を存す。大字宮に穴師神社あり。延喜式内の古社にして、天忍穗耳命禰尊千々姫命を祀る。社前に反橋及古燈籠一箇あり。社殿は慶長年中の修理に係る。古作の神像八十餘軀を存す。社の南一町許の所に、薬師寺あり。もと穴師神社の神宮寺にして、寶龜年間漂着せる薬師佛を安置す。合三三三。

アナシヤマ(穴師山) 大和國磯城郡の山。纏向山の西に連る。又痛足山に作る。アナセ(阿成) 【兵庫】播磨國飾磨郡高濱村の大字。穴師神社あり。其松林を達松原といふ。和名抄穴無郷の遺稱なり。アナナイ(穴内) 【高知】土佐國安藝郡の村。安藝町の西海岸に在り。多く石灰石を

アナナ

出ず。石灰岩中に石蓮虫海百合等の介殼化石あり。此等の動物は第三紀に海の陸と變ぜし時生息せるものといふ。合六五九。アナナイガワ(穴内川) 土佐國長岡郡の川。二に南小川と云ふ。水源、國見山。天坪村に至り吉野川に入る。流程一里二町。アナノウミ(穴海) 備後國の東南部に在りし上古の内海。今の深安郡福山町邊より中津原神邊の諸村まで灣入せりといふ。其後葦田川の堆積作用に因り漸次に埋塞し、今は全く陸地となり。其地遠く巖島まで連なる。景行紀に日本武尊筑紫を平らげ、吉備に至り、穴海を渡る。所々に惡神ありしかば之を殺すと記せるものは是なり。安那郡の名も之より出でたり。

アナフ(賀名生) 【奈良】大和國吉野郡の村。丹生川の支流にして、宇智郡南宇智村に接す。舊名を穴生といへり。正平年中南朝吉野朝此に行在を建てし時、今の名に改む。初め延元元年後醍醐天皇先づ此地に至り、吉野に移り給ふ。正平三年吉野を襲ひ之を燒く。後村上天皇又此に移る。同七年親ら兵を督し、男山に出征し、利なくして歸り給ふ。幾もなくして河内に移り、翌年は天野行在に在り。後醍醐天皇に至り、文中二年三度賀名生に御幸あり。是より二十年間の皇居たり。其地後醍醐天皇のは和田、後村上天皇のは黒瀧に在りといへど異説あり。村に黒石嶺山あり。銅硫黄を出す。合五五。

アナフキ(穴吹) 【徳島】阿波國美馬郡の村。海抜三七五二尺南に弟見山あり。アナワサキ(亞庭灣) 【樺太】中知床岬を以て見よ。アナワウ(亞庭灣) 【樺太】大泊支廳管内に在る灣。能登呂岬及中知床岬の相擁して作れる。樺太南部の一大灣にして、日露戦役に我軍樺太占領の後、一時東伏見灣の名を附せり。灣頭に對馬舊名エンヅマ岬あり。岬陰に大泊の錨地あり。鈴谷河口の南三ノ澤(舊名トレーチャバーチ)より地邊灣(舊名ナベサシ)に至る約十二里間の沿岸は、錨場として名高く、又能登呂岬より鈴谷河口までは優等なる錨の錨場なり。

アナフ

村。吉野川の南岸、高越山の西麓なり。伊藤土佐街道に當り、徳島を距る一〇里一五町。郵便局あり。飯山より發する一水、此にて吉田川に入り、穴吹川と稱す。木材薪炭輸送に便なり。溪流に沿ふて南すれば十餘里にして飯山に到る。合三〇八。アナフセ(穴野) 【大分】豊後國に在りし古驛。延喜式に載す。速見郡立石町に當る。アナマカワ(穴馬川) 越前國大野郡に在る川。水源二あり。一は白山別山より發し、石徹白川といひ、一は油坂嶺より出で、油坂川といふ。川合(下穴馬村)に至りて相合し、荒島岳の東を繞り、東北流して大渡(平泉寺村)に至り、眞名川と合し、九頭龍川となる。

アナマタ(穴馬谷) 越前國大野郡に在る山谷。美濃、飛騨二國に接し、白山山麓の南を占む。東西五里、南北六里、今上穴馬下穴馬石徹白五箇の四村を成し、荷暮峠油坂峠ありて美濃に通ず。アナマヤマ(穴山) 【北海】後志國久遠郡に在る山。麓海に迫り、釣掛崎となる。アナマワ(穴洞灣) 【北海】千島國色丹島の灣。北岸の中央に位し、偏西風の外諸風を防ぎ、中央の水深二尋乃至五尋半。底質沙泥にして錨着き易し、灣入小なるを以て唯小船の碇泊に適す。アナミ(阿南) 【大分】豊後國大分郡の村。合六六。

アナミツ(穴水) 【石川】能登國鳳至郡の町。七尾北灣内浦に臨み、警察署、郵便局あり。境内松樹を思むといふ。合六五。アナガワ(姉川) 三河國に在る豊川の一名。近江國東淺井郡に在る川。水源、金蕨山南流して梓川と稱し、東草野村の谷を出で、西折し草野川を合せ、虎御前山の西に至りて高時川を容れ、一里許にして琵琶湖に入る。流程一里餘、其流域の下半は沖積地より成り、田野よく開けた。元龜元年織田信長越前に入り、朝倉義景を討つ。是より先き淺井朝倉二氏互に應援し、信長に抗せり。此に於て淺井久政、長政急に兵を發し、湖畔の要所を扼し、織田氏の路を絶つ。信長怒り、兵を反へし、小谷城を攻めんとし、姉川の南に陣す。徳川家康來り援く。長政河北に陣し、朝倉景健來り援く。六月二十二日兩軍大に戦ふ。家康景健に當り、之を破りて長政を擯撃し、淺井勢潰散す。之を姉川合戦といふ。此川往古は淺井坂田二郡の境界なりしが如し。後河道變じて南に遷り、爲めに和名抄坂田郡の湯次郡は淺井郡疆域に入る。

アナム

等あり。輪島町の南五里、七尾町より海上七里。此地に長谷部氏累代の居城あり。今城ヶ鼻又芝ヶ崎と呼ぶ地を其址とす。信連以後二十世、二百八十九年間此所に在り。當時は繁華の地なりしが、天正四年上杉謙信能登へ亂入の時、兵燹に罹り、居民四散し、爾後盛ならず。合六六。アナムシゴエ(穴虫越) 大和國北葛城郡に在る山。大阪山を見よ。アナヤマ(穴山) 【山梨】甲斐國北巨摩郡の村。若神子驛の南、釜無川東岸に沿ふ。武田氏の一族穴山氏の居所として著る。信友に至り、信玄の姉を娶り、下山城に移る。其子には有名な梅雪なり。合三三三。アナ(亞南) 【樺太】豊原支廳榮濱出張所管内東海岸の漁場。鈴谷山脈の北邊に位す。舊稱アナヌナイ又アナノナイ。アナイ(阿仁合) 【秋田】羽後國北秋田郡の町の南部。大阿仁川の鈴谷に位し、阿仁嶺山中央事務所同製錬所等ありて小繁華の地とす。貨物の取引は能代河畔の二ツ井町及能代港町との間に行はる。二ツ井を距ること十二里。能代港を距ること十七里。合三三三。

アナノガワ(阿仁川) 羽後國北秋田郡に在る川。大阿仁川を見よ。アナニウザン(阿仁嶺山) 羽後國北秋田郡に在る嶺山。阿仁合町に屬す。有名の銀銅山にして、大阿仁川の奥に在り。眞木澤小澤葛草三枚一ノ又二ノ又向山の七嶺區を總へ、東西約二里、南北三里に互

る。地質は第三紀凝灰岩、凝灰岩、凝灰質泥岩、礫岩、砂岩にして、第四紀層も多少發達す。火成岩には花崗岩、流紋岩、石英英富士岩、輝石富士岩等あり。厚薄不定の凝灰凝灰岩と輝石富士岩との間に胚胎し、概ね三種に走向す。即ち萱草嶺區は南北に、小澤、眞木澤嶺區は東西に、三枚及一ノ又にては其中間の走向を保つ。但し向山嶺區は凝灰岩中の凝灰質なり。鑽石の主なるものは黄銅礦にして、黄鐵礦、閃亜鉛礦、方鉛礦を伴ひ、脈石は主に石英及方解石にして、重晶石、石膏等も多少發見せらる。向山嶺區よりは自然金、輝銀礦を出だす。現時採掘するものは小澤、萱草、向山にして、眞木、三枚、一ノ又は目下休業す。各採掘所よりは鐵道又は板道を布設し、木製鐵道を以て製鍊所に送り、製鍊所に製し、更に能代の對岸なる東雲製鍊所に於て精製し、東京に送る。明治四十一年、礦夫二七六九人、女工七九一人、採掘高一三四一、八四八七貫。製品含銀銅二一七、七七二五斤。價格約八七萬圓。此山は寛文十年大阪の商人小澤某の銅脈を發見せしに始まり、元禄年中に至り藩主佐竹氏の稼行となり、明治に至り政府經營せしが、十八年古河氏の手に移り、益事業を擴張して今日に及べり。

アナエダ(阿仁前田) 【秋田】羽後國北秋田郡前田村の大字。阿仁嶺山への中途に當り、郵便局あり。アナミヤマ(見見山) 周防・石見二國に跨

アナミ

アナワ

アナカ

アナチ



繪畫を蔵す。●【大阪】河内國中河内郡八尾村の大字。穴穂(安藤)天皇の後裔の居りし所といふ。●【滋賀】近江國滋賀郡坂本村の大字。一に南坂本といひ、比叡山無動寺の東麓とす。此地より無動寺を経て山城國愛宕郡修學院に出づる山徑あり、白鳥越といふ。此地は成務天皇の皇居志賀高穴穂宮のありし所に於て、其址は今高島と云ふ。又、高松院址あり、將軍足利義晴京師を警備せられ、此地に來り、天文十九年此寺にて薨す。

アノガワ(安濃川) 伊勢國安濃郡に在る川。水源、錫杖岳。東南流して津市の北を過ぎ、伊勢海に入る。長七里。塔世川の稱あり。沿岸は萬葉集の安野野なりと云ふ。アノクン(安濃郡) 【三重】伊勢國十郡の一。四境、北は河勢、鈴鹿二郡、西は伊賀國阿山郡、南は一志郡、東は伊勢海に面し、海に近く津市を包擁す。東西五里一八町、南北四里六町、面積八方里四五行政上、新町及藤水、神戶、柳形、片田、辰水、草生、高宮、長野、安東、安濃、明合村、主雲林院、河内、安西の一五村に分ち、郡役所を新町に置く。●【三重】地勢、本郡は東に向て開け、西半は高峻なり。山岳は經々華西郡中央に峙ち、北に河内谷南に長野谷を作る。河流、阿濃川は河内谷、岩田川は長野谷の水を集り、津市を南北に挟みて海に入る。道路は伊勢街道河勢郡白子より來り、津市に入り、南に向て飯高郡松坂に通ず。津市より西に分れて長

野谷を經、伊賀の上野に達するを伊賀街道といふ。鐵道は關西龜山驛より來り津に至る。參宮線之に接續し、阿濃驛を置きて南に走る。物産は農産物總額一四九萬圓、工業物四一萬圓なり。其主なるものは米、麥、甘藷、紫雲英、繭、木材、薪炭、材、織物、酒とす。安濃は又阿濃に作る。蓋し洞の義にして、海岸の洞穴より起りし名といふ。節用集には安濃をアノキと訓む。倭姫世紀には草陸の安濃國とあり。中世分れて安東、安西となり、今の安濃村の左右を以て相分てりといふ。後一郡に復す。和名抄長屋、英、太石田、建部、跡部村、主内田の八郷及驛家を載す。●【鳥根】石見國六郡の一。四境、東は出雲國簸川、飯石二郡、西は瀬原郡、南は邑智郡、北は海、東西四里二町、南北四里三〇町。面積一〇方里五六。行政上、大田、長久、刺鹿、波根、西波根、東島、井朝山、山佐、比賣川合の一〇村に分ち、郡役所を大田村に置く。●【邑智】一、合、六三。地勢、本郡は境域大ならざれども、國中第一の沃地にして、南部の山地には銅鐵を出す所あり。山岳は三瓶山、出雲國境に聳え、麓に三瓶原といふ廣原あり。又西端に鶴降山あり。瀬原、邑智二郡の界に峙つ。河流は三瓶川(二)に野城川あり。下流を静間川といふ。道路は山陰道出雲國簸川郡より來り、波根、大田を経て瀬原郡に入る。物産は米、麥、甘藷、繭、木材、薪炭、材、織物、酒、安濃は出雲風土記に安濃に作る。和名抄

波瀾刺鹿、安濃、靜間、高田、川、倉、邑、陸、佐波の八郷を載す。後世靜間、佐波の二郷は瀬原郡に入る。アノノワラ(阿濃浦) 伊勢國津市大字建部の海濱、古の安濃松原の地なりといふ。白砂清水、海水浴場あり。一勝地とす。アノリ(安乘) 【三重】志摩國志摩郡の村。合八三。アノリ(安乘) 志摩國の東角、皆崎(又明神崎)と相對して、的矢、海の口を成す。巖岩聳え、怒濤拍ち、壯觀を極む。岬上燈臺あり。白色回旋燈、晴天光達七哩。故に又燈明岬といふ。アバ(阿波) 【茨城】常陸國稻敷郡河内郡の村。一に安場と作る。郡の東南に偏在し、霞浦に近き丘山に在りて、銚子街道に沿ふ一小站とす。郵便局あり。近年附近を合せて村名とす。大杉神社あり。別當を安穩寺といひ、降魔の不動を安置し、信者多かりしが、維新の後分離し、社邊に在る大杉樹に因みて大杉神社と呼ぶ。百五三。アハイ(阿拜) 【三重】伊賀國に在りし郡。明治十二年廢して山田郡に合し、阿山郡の新稱を建つ。國の最北部を占め、上古阿閉臣の居りし地にして、政國の稱あり。中世魏郡に訛り、寛文中春稱に復せしが、是より訓じてアハイとなす。和名抄安部と訓じ、新居、服部、印代、三田、植川合の六郷を載す。後伊賀郡長田郷及大内郷の一部に入る。アハギ(穗) 【宮崎】日向國宮崎郡の村。宮

崎町の北に接せる海村にして、伊非諾尊、伊非諾尊を慕ひ、黄泉國に入り給ひし歸路橋の小門の椽原にて御成し、住吉三神等九神を生み給ふと傳へたる古跡なり。大字江田に縣社江田神社あり。諸冊二尊を祭る。延喜式内日向四座の一なり。一説、此社を以て住吉三神を祀るとなせども、隣村住吉村に住吉神社あれば、別社なるべし。白言焉。

アハゲ(木葉下) 【茨城】常陸國東茨城郡山根村の大字。西茨城郡界に接する山村なり。慶長三年の檢地帳にはアホツケと記す。ホツケとは山の岨のかけ易き所をいふ。木葉下は其地に大樹の蔭ありしより書き始めしならんといふ。アホツケとも呼ぶ。アバサキ(阿波崎) 【茨城】常陸國稻敷郡河内郡伊崎村の大字。霞浦に沿ふ。此地の天神臺に城址あり。延元三年北畠親房の常陸に漂着するや、神宮寺城に據りて兵を擧げ、其佐竹氏の爲めに攻取せらる。や、阿波崎城に移り、此城亦陥るに及び小田城に移れりといふ。アバシリ(網走) 【北海】北見國網走郡に在る町。常呂市街を距る東南六里。東西一〇町、南北五六町。北見國東半部の行政及商業の中心にして、支廳、土木派出所、警務署、測候所等あり。鐵道工事中心なるを以て、運輸は今海路に依る。小樽へ二九三哩、函館へ四〇九哩。●【合、三三、合、三三】市街の東端はシンド岬と相對し、海中にワツタラ岩と稱する岩礁あり。

アバワン(網走灣) 肥前國西彼杵郡矢上村の南に在る灣。灣入一里餘。廣一里の長方形灣にして、其中央七尋の所に錨地あり。唯南至南東の間露開す。灣の東側に牧島あり。アビキ(網引) 【廣島】備後國廣品郡の村。大字宮内。吉備津神社あり。延喜式に列せざれども、國內の神社にして一宮と稱す。始め吉備中山のみ鎮座ありしを三國分立の時各國に分ち祀るといふ。今縣社とし、吉備津彦命を祭る。現今の社殿は慶安元年水野宗休の修築に係り、虎睡山の中腹に在り。神門、神樂所、舞殿、神子殿、神饌所等備はる。櫻山神社も亦同所に在り。吉備津社の南に當り、櫻山、後俊の靈を祀る。もと吉備津社に合祀せしを明治十三年舊地に社殿を造營す。十六年正五位を贈らる。茲後元弘年間義兵を擧げ、笠置陷ると聞き自殺せり。合、三三。アビコ(我孫子) 【千葉】下總國東葛飾郡南相馬郡の町。陸前濱街道の一驛にして、手賀沼の北岸に在り。鐵道常磐線の停車場を置く。成田鐵道の分岐點なり。上野驛より二一哩七九釐。又成田へ九里、右佐町へ三里、木下町へ四里。警察分署、郵便局等あり。日天子社あり。土俗御天樓と呼ぶ。合、三三。

アビト(トカイキヨウ) 安必登、頼度、海峽。【北海】千島國波羅茂知、温、古丹二島の間に在る海峽。アビノ(カシワバラ) 阿備相原。【和歌山】

紀伊國の古蹟、武内宿禰應仁天皇を懐き、紀港に泊し、終に難宮を阿備相原西岡に興すとある地は、海草郡安原村大字相坂松原なるべし。此地は又宿禰の出生地にして、其誕生井と稱するものあり。アビラ(安平) 【北海】膽振國勇拂郡の村。明治三十三年新設、荒平川の沿岸にして、遠淺停車場より上流約三里に亙る木材の産地なり。アビラは光れる断崖の義なり。アビラは光れる断崖の義なり。アビラは光れる断崖の義なり。追分早來二驛の間に在り。追分驛より約四哩。合、三三。

アヒル(阿比留) 【千葉】上古上總國に在りし郡。望陀郡、君津郡の東南、小櫃川中流以上の山谷即ち今の龜山村、松丘村、久留里町、小櫃村、及馬來田村の一部に當るが如し。東鑑には既に阿比留と記したれば、郡の廢せられて望陀郡に入りしは鎌倉以前なるべし。和名抄は美々々、小河、甘木、新田、椅原、三葉の六郷を載すれども、其地多くは今詳ならず。アヒレ(阿比留) 【鳥取】伯耆國日野郡の村。印賀谷の奥にして、出雲國仁多郡に接す。阿比留は出雲風土記の阿志、毘羅の訛にして、縁は縁の誤なりといふ。日蓮宗、龍寺あり。享保年中池田氏より寺領三〇石を寄附せられし大刹なり。合、三三。アビロ(ノタキ) 阿比留。大和國吉野郡、天

アヒラヤ(アヒラヤ) 【千葉】吾平山、陸。【鹿兒島】大隅國肝屬郡に在る陸。始、其を見

アヒル(阿比留) 【鳥取】伯耆國日野郡の村。印賀谷の奥にして、出雲國仁多郡に接す。阿比留は出雲風土記の阿志、毘羅の訛にして、縁は縁の誤なりといふ。日蓮宗、龍寺あり。享保年中池田氏より寺領三〇石を寄附せられし大刹なり。合、三三。アビロ(ノタキ) 阿比留。大和國吉野郡、天

り、其狀帽子の如し、其間を港とす。港四に能登岬ありて西及南の風を蔽ふと雖も、東北の暴風を避くる能はず。而して一月上旬より翌年四月に至る間は、流水の爲め海路杜絶す。此地の輸出は燐寸、軸木(二二萬圓)を主とし、總額五八萬圓、輸入は米(二二萬圓)を主とし、總計四三萬圓あり。明治四十二年中、出入汽船二一六隻、二五、四八〇八噸、輸出二四、八六七〇圓、輸入四三、七四七五圓。附近主要産物は小麥、大豆、薄荷、養蠶、玉蜀黍、蕎麥、菜豆等一七萬圓、鮭、鱒等二萬五千圓なり。【文籍】網走港貴田國平、四三三。網走港調査報告文、四三三。

アバシリ(カワ) (網走川) 【北海】北見國網走郡に在る川。水源、釧路、北見二國界キムルチン岳、ツベツ川、美幌川を合せ、北流して網走湖に入り、再び流れて網走町に至り海に注ぐ。流程二四里八町、舟楫の便あり。沿岸は肥沃且つ温暖にして農耕に適す。アバシリ(網走郡) 【北海】北見國八郡の一。四境、東は斜里郡、釧路國川上郡、南は釧路國阿寒、足寄二郡、西は常呂郡、北は海、廣一三、一、九町、表一八、二、〇町、面積約一三〇方里。網走支廳の所管にして、網走町及藻琴、能取、美幌、杵臼、遠古、梅活、波達、瀬木、高の八村あり。戸數三、九、合、三三。地勢、釧路國境は千島山脈連亘し、北向するに従ひ漸く低下し、海岸に至りて平地となる。河流の大なるもの

を網走川とし、舟楫の便あり。驛、三條。一は海岸を經過し、一は石狩に通じ、一は釧路に至る。アイヌ語アバシリ、見付けたる土地の義なり。現今の網走はもと蒼海なりしが、年を経て陸地となりしを以て此稱ありといふ。アバシリ(網走湖) 【北海】北見國網走郡に在る湖。東西二里二町、南北二里二七町、周圍一里一四町。湖時は概ね平丘にして、北方能取湖との間は高低なる林を以て隔たる。網走川上流より來りて此湖に入り、再びクツチャロより流出して網走町に至り海に入る。アバシリ(網走灣) 【北海】北見國能取岬と知床岬との間に灣入せるオコック海の一部。北東乃至北西の諸風に暴露す。東部の沿岸は多山險峻なれども、西部は沙丘を負へる沙濱にして、所々に鹹湖あり。沿岸の大部は斜里郡に屬すれども、西部は網走郡に屬し、灣頭より稍西に偏して網走市街あり。

アバ(阿原) 【愛知】尾張國西春日井郡に在りし村。明治三十九年新川町に入る。アバ(荒原) 【愛知】三河國南設楽郡に在りし村。明治三十九年作手村に入る。アバ(シマ) 阿波羅、島。志摩國答志島の西なる群嶼、又淡羅羅に作る。八箇より成り、東二見村神前の東北十餘町より起り、五十町許相連る。あはらけの島はななし、その中に、氣なし加へて八島なりける。夫木集。

アヒル(阿比留) 【千葉】上古上總國に在りし郡。望陀郡、君津郡の東南、小櫃川中流以上の山谷即ち今の龜山村、松丘村、久留里町、小櫃村、及馬來田村の一部に當るが如し。東鑑には既に阿比留と記したれば、郡の廢せられて望陀郡に入りしは鎌倉以前なるべし。和名抄は美々々、小河、甘木、新田、椅原、三葉の六郷を載すれども、其地多くは今詳ならず。アヒレ(阿比留) 【鳥取】伯耆國日野郡の村。印賀谷の奥にして、出雲國仁多郡に接す。阿比留は出雲風土記の阿志、毘羅の訛にして、縁は縁の誤なりといふ。日蓮宗、龍寺あり。享保年中池田氏より寺領三〇石を寄附せられし大刹なり。合、三三。アビロ(ノタキ) 阿比留。大和國吉野郡、天







間子易より大山町まで二十町間は車を通せず山路は最も険阻にして、頂上は常に雲霧深く驟雨時に至る。其雨山中に限りなき土俗之を私雨と呼ぶ。山中寒氣早く至り、初冬既に積雪を見る。夏日は清涼にして、蚊蛇の類出づることなしといふ。雨降神社は又阿夫利に作り、山の主神にして、縣社に列す。俗に石尊大権現といひ、其神體は石なりといふ。當國の名記にして近世は徳川時代士民の尊崇厚かりき。其別當を大山寺と呼び、眞言宗修験道に屬し、八丈院以下十八院御師五十餘あり。本尊不動尊を安置せしが、明治維新後神佛相分離す。

**アブ** (阿分) 【北海】天鹽國増毛郡増毛町の字。留萌郡に接し、留萌増毛間の海岸道に當る。アイヌ語アブニ、入り込みたる所の義なり。

**アベ** (安倍) 【奈良】大和國磯城郡十市郡の村。上古阿倍朝臣の地にして、用明天皇の皇居池邊の宮の在りし所といふ。和名抄には池上郷と呼べり。餘ノ池履仲天皇の皇居稱櫻宮。清寧天皇の藥業宮。繼體天皇の玉體宮皆此所に在りしといふ。文殊堂あり。崇敬寺知足院といふ。大化年間創立と稱し、本尊の文殊菩薩は往古堂の巽なる石窟中より顯出せるを、佛工快慶に命じ長九尺の像を刻み、其額上に鑲めしものにて、日本三文殊奥州の永井、丹後の切戸の一と稱し、信者多し。又大日堂あり。百五八。

**アベ** (安部) 【鳥取】因幡國八頭郡の村。八東川に沿ひ、若櫻街道に當り、其驛を安井といふ。此地の新興寺は往時盛大なりしが、今衰ふ。多く古文書を蔵す。合二萬丸。

**アベ** (阿閉) 【兵庫】播磨國加古郡の村。古の住吉郷の一部なり。中世阿閉庄と稱す。村名は古風土記に、大帯日子天皇、知印南嬢在於南吡都島、即欲度到於阿閉津、供進御食故號阿閉村とあるに因る。大字野添に慈眼寺及高禪寺あり。合四七九。

**アベカワ** (安倍川) 駿河國に在る川。又阿倍川に作る。水源甲斐の交界なる安倍嶺。上流を大河内川といひ、中河内川、足久保川を合せ、南流して駿河山の邊に至り、初めて平野に就く。粟科川、西より來り、合し、東南流して駿河灣に入る。流程七里一〇町。上流に福登瀧、梅ヶ島温泉あり。下流域は靜岡及藤枝附近の地なり。往古は一面の砂礫にして、水流或は合し或は分れ、一定の河道なかりしもの、如し、口碑の傳ふる所に據れば、今の南駿河村井ノ宮より駿河山の麓に沿ひ、奈古屋神社の前を過ぎて三派となり。一は安東村より淺沼沼に連り、一は宮ヶ崎町より四ツ足町の方に流れ、一は南安東村なる清水山の西を過ぎて曲金に至り、東海道の渡津となり、有波山に沿ひて南流し、今の高松及大谷村の間より有波濱に注げりといふ。又粟科川もとは別流にして今の安倍川より稍西を流れたりといふ。但し其合流の年所を詳にせず。此川の經過

せる地質は輝石安山岩御坂層第三紀層にして、其下流の沖積層の上部は稍稠密なる壤質粘土、下部は概ね砂礫なり。  
**アベガワラ** (安倍河原) 駿河國安倍郡に在る河原。靜岡市の南郊安倍川の岸とす。徳川氏の頃は獄門梟示の刑場にして、此所に正念寺といふ。無縁供養の道場ありしが、近年廢頓し、寺中の由井正雪墓は明治二十三年與九郎墓地に移したり。  
**アベクン** (阿拜郡) 【三重】伊賀國「阿拜郡」を見よ。

**アベクン** (安倍郡) 【靜岡】駿河國五郡の一。四境、東は庵原郡、北は甲斐國南巨摩郡、信濃國下伊那郡、西は遠江國藤原郡、駿河國志太郡、南は駿河灣、南部に靜岡市を包む。東西七里一〇町、南北一七里六町、面積六二方里三〇。行政上、清水、入江の二町及有度不二見、三保、大谷、久能、豊田、大里、長田、千代田、安東、麻機、南駿機、北駿機、大河内、梅ヶ島、玉川、井川、美和、服織、中粟科、南粟科、清澤、大川の二三村に分ち、郡役所を靜岡市に置く。面積、六六〇。人口、三三、〇〇〇。地勢、本郡は大略安倍川の流域にして、西北偏は大井川の上游流る。其間に井川、大井川、天狗寺峠等連なり。地形狹長、大井川上游の地は、特に深く信濃、甲斐の間に挿入し、山岳は東に白峯岳、西に赤石山脈あり。此左右の山脈は高一萬尺以上に達し、其間南に向て一大縱谷を作り、所謂井川谷を成し、其過半は幽邃にして全く人跡を

絶つ。河流、安倍川は駿河山以南全く平地に就き、其沿岸は沃野にして、人烟多く、靜岡市あり。郡の北偏に巴川あり、其海に注ぐ所を清水港とし、清水入江の二町此所に在り。其南より分出するを三保峠といふ。道路、國道は庵原郡より來り、靜岡市を貫き、丸子を経て志太郡に入る。物産は果實、殊に梨、蜜柑の産額甚だ多し。茶は縣下第三位に居り、紙は縣下第二位に居る。其他物産の主なるものは米、大豆、甘藷、三極、繭、用材、薪炭材、椎茸、瀉物、四萬圓、蠶絲、織物、セメント、燐寸等なり。今の安倍郡は明治二十九年有波郡を合せたるものにて、所謂國中の地なり。和名抄川邊地生廣伴、葛間、美和、川津、八社、横太の八郷を載す。中世或は安部に作り、正保以來公用全く安倍に復す。上古の安倍原國に當ると云ふ。

**アベシナイガワ** (阿比川) 【北海】天鹽國中川郡に在る川。水源、石狩天鹽國界山中。アベシナイ太に至り、天鹽川に入る。長一五里。一五町。天鹽川支流中最大なりとす。  
**アベシマ** (阿閉島) 攝津國に在りし島。今攝津國東成郡天王寺村大字阿閉野の地にして、西なる今の街道は、古は海濱なりしが故に、島といひしならんといふ。「あべ」島の岩うつ波のよるまて、住むともきかぬ千鳥鳴くなり。鎌倉石大臣。  
**アベトウケ** (安倍道) 駿河甲斐二國の境に跨る山嶺。安倍川の谷より富士川の谷に出づる山路なり。二路あり、共に安倍嶺

といふ。甲斐の白峯山の餘脈なり。  
**アベノ** (阿部野) 【大阪】攝津國東成郡天王寺村の大字。天王寺村及河内和泉二國の中間に居るを以て、兵馬を以て漢華を争へるの目。此地常に其戰場となれり。南北朝の時楠木氏の出陣、北畠氏の激戦、或は戰國の石山攻、近くは大阪夏の役皆此地に於てせり。

**アベノ** (阿倍野) 攝津國東成郡に在る野。天王寺以南南住吉に至る一帯の丘陵なり。又安部野に作る。長三六町、幅一八町。今、東成郡住吉村、天王寺村、今宮村及四成郡勝間村に分屬すれども、大字阿部野は天王寺村に在り。天王寺及今宮より住吉に通ずる二條の大路あり。曾て此地に兼好法師住みしこと、崑玉集に見ゆ。又延元三年五月源顯家陸奥の兵を以て北軍と此野に戦ひ、敗死す。今住吉村大字岸野の地に阿部野神社あり。公を祀る。但し史蹟墨寶は公戦歿の地は此所にあらす。泉州石津原なりとす。此説信に近し。

**アベノイチ** (阿倍市) 【靜岡】駿河國靜岡市の舊稱。  
**アベヤ** (安部屋) 【石川】能登國羽咋郡志加浦村の大字。神代川河口の北に連り、向島(又辨天島)其前に横はる。縮布を産す。  
**アホ** (阿保) 【大阪】河内國中河内(舊丹北)郡松原村の大字。阿保親王(在原行平)業平の父居館ありし地なり。今親王池あり。  
**アホ** (阿保) 【三重】伊賀國名賀郡の村。長田川の上流に沿ひ、大和路より伊勢國津

市に出づる要路に當り、一驛を成し、警察分署、郵便局あり。其東嶺を阿保越といひ、有名な難所なりしが、近年開墾を加へたり。阿保はもと穴太と呼び、重仁天皇の皇子息連王の居色なり。王の子孫此に居り、阿保君の姓を賜はる。又天平十二年伊勢國に行幸の時此地を領宮とせられし事續紀に見ゆ。合三三。

**アボ** (安保) 【埼玉】武藏國兒玉舊賀美郡の郷名。阿保は又英保に作り、中世丹黨の一派安保氏の居りし所とす。今元阿保の稱丹莊村に存す。此地に古延喜式、青神社ありしと云ふ。即ち阿保は青の轉訛なりとす。又近世本庄より上州藤岡に至る驛次に安保町ありたり。今七木木村に屬す。元阿保の東北半里を隔つ。

**アボイヤマ** (阿山) 【北海】日高國に在る山。水路志云、イソイイ鼻より隆起する無樹の尖峯にして、高二六五六呎、西陵は概松のみ數哩の間密生し、甚だ美觀なり。

**アボシ** (網子) 【兵庫】播磨國揖保郡の町。揖保川及大津茂川の間なる堆洲上に在り。市街は東西十町、南北十二町。南に網干港あり。古は商船輻湊して繁昌し、文政十一年郡代某七十五間の波止を築き、なごしけるが、揖保川より流下する土砂の填塞する所となり、舟楫の利大に減せり。然れども上流に竜野山崎等の名色あり。其物産を輸送するを以て、尙繁昌地の一たるを失はず。郵便局あり。網干停車場は北一里。旭陽村大字和久に在り。網干

八幡は今旭陽村に在り。町の鎮守にして其祭祝には浦人皆休業し、網干すを以て網干祭といひ、遂に地名となれりといふ。京極氏龍野入部の時其領となり、丸龜轉封の後も網干、福井一萬石は其知行たり。港は南東に向ひ、廣三五〇間、表六五間、深千潮二二尺あり。輸出一七一萬圓、輸入三一萬圓。輸出の主なるものは素麵、木炭、醬油、米、燐寸にして、輸入は米、豆、糖、鯉、鰯、大豆、石炭とす。大字濱田に龍門寺あり。天徳山と號し、臨濟宗にして、寛文中盤桂和尚開基。領主京極氏の建營なり。盤桂は此地に生れ、一代に名あり。興濱には大覺寺あり。嶋立山と號し、淨土宗の大刹なり。合四九。

**アボシタケ** (阿星岳) 近江國に在る金勝山の一名。  
**アボシトスエ** (樺太) 豊原支廳榮濱出張所管内の驛邊。東海岸相川を潤る十數町に在り。一八九七年露人の設けしものなるが、日露戦役後露人悉く退去せり。

**アボマイ** (阿舞) 【北海】根室國花咲郡の村。合七七。

**アボヤマ** (阿保山) 大和國添上郡に在る山。不退寺所在の岡陵をいふ。  
**アマ** (海士) 【島根】隱岐國海士郡。即ち中ノ島唯一の村。もとは福井海士字受賀。豊田知々井、大井、布庭崎の八村に分れしが、明治三十七年合して一となす。大字海士は西ノ島別府村字賀村と相望む。中世阿保郷と呼ぶ。後鳥羽上皇十九年間幽

棲ありし地なり。森郡に安國寺及源福寺あり。源福寺の背後を勝田山(阿田)又葛田に作るといふ。もと後鳥羽上皇の御陵ありし地なり。合五五。

**アマ** (阿萬) 【兵庫】淡路國三原郡の村。福真町の南に在り。古の阿萬郷の一部なり。其主色を木庄といひ、郵便局あり。淡路の海人の事古書に散見し、強大の部屬にして、中世安摩六郎等著名の武人あり。戰國の頃は多く水軍に屬し、海賊衆と稱し、強勇の名あり。阿萬八幡宮は此村及北阿萬村の鎮守なり。木庄の龜岡に在り。名を鎌倉龜岡に比す。其別當を神宮寺といひ、神庫に奉納の佛典多し。合四六。

**アマアキ** (海士有木) 【千葉】上總國市原郡市西村の大字。元祿の頃は二村なりしが、後合一すといふ。有木城址あり。戰國の頃二階堂實綱此所に居りきといふ。今其墓と覺しき古塔あり。

**アマカイケ** (尼池) 奈良市中筋町に在る池。昔大なりしも、今僅に其跡を存す。  
**アマガサキ** (尼ヶ崎) 【兵庫】攝津國河邊郡の町。中國街道の衝路に當り、神崎川を控へ、大阪灣に臨み、溝渠四通し、伊丹池田に達する鐵道あり。商業甚だ盛なり。市街は市坊四四。東西一七町、南北五町餘。神戸を距る五里三三町、大阪を距る四里二〇餘町。港は西南に向ひ、東西一町、南北二町餘。干潮深六尺、小舟の出入あるのみ。海上に防波堤を起し、大字大洲に一渠を通じ、船を導く。二〇町にして本町に至



るべし。輸出額五一八萬圓内、棉織木材、樽寸醬油を主とし、輸入額六一三萬圓内、綿織、米、雜肥料を主とし、城址は町の中央に在り、方五町許、内外の二郭に分れ、石壘、壕池、濠、濠、と大覺寺城といへり。細川高國の築造に係り、荒木池田二氏を経て、慶長の頃、徳川氏に降参。徳川氏に至り、元和三年、月田氏に降参。寛永十二年、青山幸氏之に代り、寛永八年松平(櫻井氏)忠喬之に代り、四萬石を領し、明治維新に至る。貴布禰神社は小田村長洲より移し、町内の氏神なり。因象女神、加茂御祖神、別雷神を祀る。大物神社は平清盛殿島に渡らんとて、此所に暴風に逢ひ、殿島神社に祈りて無難なるを得たるに依り、之を祀ると傳ふ。近傍諸村の氏神なり。市杵姫命、瀬津姫命、瀬津姫命を祀る。城址の西に本興寺あり、日蓮宗八品派の一本山にして、應永二十七年僧日隆開基。宏壯の伽藍にして、本堂、祖師堂、開山堂、多寶塔等あり。桐賢寺は臨濟宗、天正初の一にして、文和年間僧堂開基。天正年中、羽柴氏の陣營たり。徳川氏の時、寺領五十石を附す。如來院は浄土宗、圓光大師遺跡二十五所の一なり。照照寺と號し、初め神宮に在りたり。廣徳寺は禪宗にして、京都大徳寺第三世言外和尚開基。羽柴秀吉山崎の勝利を祝せし所なり。法園寺は浄土宗にして、榮譽上人の中興に係り、佐佐成政の墓あり。甘露寺は浄土宗にして、源水上人開基。法然上人の祖燈と稱す。

るものを藏す。其他海岸寺、大覺寺等あり。アマカザリ(尼師) 【長野】信濃國地科郡東條村の字。又雨殿にも作る。戦國の際、城寨あり、武田氏其將小山田備中守を置きしといふ。  
アマカザリ(尼師) 【越後】越後國中頸城郡西頸城二郡の界に在る山。信濃國にも跨る。高六七三二尺。燒山の南に連り、全山角閃富士岩より成る。谿水は集まりて根知川となり、根知川に入る。山腹以上は噴岩鑿え、山勢急峻なり。山下に小谷温泉あり。  
アマガサワ(天ヶ澤) 【新潟】越後國中蒲原郡小須戸町の大字。此地は古く石脂油を出すを以て知らる。  
アマカシノ(オカ) 【甘藷園】大和國高市郡飛鳥村大字豊浦に在る岡。俗に向山といふ。味懼又甘白糖に作る。古より警盟の神鎮座あり。允恭天皇姓氏の混亂を正し給ふ時、内外百官を會し、此所に探湯の事あり。又蘇我入鹿父子邸宅を此所に起し、宮門と稱せり。  
アマカス(甘藷) 【埼玉】武藏國兒玉郡松久村の大字。甘藷又天春に作る。東鑑の甘藷野次郎廣忠の居りし所といふ。  
アマガセ(天ヶ瀬) 【三重】伊勢國多氣郡萩原村の大字。宮川上游に臨み、熊野街道より和歌山別街道に出づる山徑を通す。警察分署郵便局あり。  
アマガセ(天ヶ瀬) 【大分】豊後國日田郡中川村大字湯山に在る温泉。草下島を隔つ。東は八代灣にして、西は島原海なり。東西約五里、南北約四里、周圍三五里二町。阿、姫、高、大、道、浦、棚、底、宮、田、柄、本、下、浦、志、村、島、下、津、浦、上、津、浦、赤、崎、須、子、大、浦、浦、南、津、教、其、木、河、内、の、一、九、村、あり。上津浦、教其木、島子、柄本、大浦、高戸の六所に郵便局を置く。島中山岳連、平地少し。中央に二高峯あり。北を老岳(八九九尺)、南を倉ヶ岳(二四七尺)といふ。又島の南東隅に海岸より直起する龍ヶ岳(五三〇尺)といふ。地質は全島殆ど中生層より成り、地味瘠悪ならざれど、岩層の風化充分ならずして耕作に適せず。居民専ら漁業に従事す。

泉、珠川岬の池底より湧出。硫黄及鐵氣を含み、能く疥癬、切瘡、癩癧、疥癩等に効ありといふ。豆田を距る東南約三里。アマカタ(天方) 【静岡】遠江國周智郡の村。舊郷名の一部にして、他は今、森町及三倉村に當る。天方大明神の祠あり。中古より山内二に天方氏此所に居りしといへり。元和九年掛川城主青山幸成に此地三千石を賜はる。是れ其外祖天方通重の舊領なるを以てなり。藏書院あり。天方氏の菩提所とす。百六六。  
アマガタキ(尼ヶ瀬) 【大和】南葛城郡に在る戒那瀧の一名。  
アマガフチ(尼瀧) 【信濃】小縣郡上田町附近の千曲川岸の稱。戦國の際、眞田氏の城寨。上田城にあらずといふ。  
アマキ(甘木) 【福岡】筑前國朝倉郡に在る町の中央に在り、豊後街道の要衝に當り、郡役所警察署區裁判所郵便局、中學校、郡立農學校等あり。市街は東西一二町、南北六町。福岡市を距る八里二七町。秋月町を距る一里二〇町。又筑紫郡山家驛より三里二三町とす。此町に在る安長寺は禪宗にして、應長年間圓鑑禪師開基。寺内に満上人の作と稱する地蔵尊を安置す。甘木遠江守安長なる者再建せるより寺號とす。天正年間秋月種實の秀吉に降れる時、獻納せる檜柴といふ茶室はもと松浦氏の有なりしを、秋月氏大金を抛ちて購ふ。其受授の間は松浦秋月兩氏より各三人宛の土を此地藏堂に派して

該器を護れりといふ。百六六。  
アマキ(熊木) 【肥後】上益城郡高木村の字。もと味木に作る。中世味木氏此所に居る。味木氏は安田義定の裔なり。其嫡孫義治此地に居り、益城郡を領し、味木を稱すといふ。  
アマキ(安真木) 【福岡】豊前國田川郡の村。百三六。  
アマキ(天城) 【岡山】備前國兒島郡藤戸村の大字。下津井街道の一驛にして、備中國倉敷の東南一里半を隔つ。郵便局あり。  
【鹿兒島】大隅國大島郡の村。明治四十一年山花徳母間、藤木手々、金見、與名、間松原、岡前、淺間、阿木、木名、兼久、大津川、富部、瀬瀬、西阿木名の一六村を合して新置す。百三六。  
アマキ(甘木川) 【筑後】國に在る川。一に廣川といふ。水源、箕尾山の西南南流して上廣川村に至り、西北折し、三浦郡大善寺村に至り、筑後川に入る。長四里二三町。下流藤田川、荒木川、大善寺川等の稱あり。●肥後國上益城郡に在る川。又屋形川と呼ぶ。水源、飯田山。西北流して六嘉に至り、福原川と合して加勢川に入る。  
アマギ(コウサン) 【天城】伊豆國賀茂郡仁科村に在る嶺。山嶺嶺を出す。其成分は鐵石百分中銅一九四四五露頭の純鐵一尺三寸餘。前途頗る有望なりといふ。  
アマギ(天城山) 【伊豆】國賀茂郡仁科村の界に在る山。伊豆半島の主峰にして、其脈四方に互り、大室洞笈伴三郎伴三郎三方等の數峰となり。東西一里、南

北六里と稱す。其最高峰を伴三郎一に大疊)といひ、直立四七二五尺。其脈西に赴くものは猶兒達磨の諸山となり、東北に走るものは大室集雲、白金等の諸嶺に互り、西南に行くものは婆娑羅山、鳥帽子山に接す。大岳の東南に青慈池あり。瀧方八町、因て八丁池とも呼ぶ。蓋し往古の噴火口ならんといふ。福野には伴二郎原上野原大見の大幡野等あり。皆不毛の荒野なり。伊東祐親源頼朝の狩獵せる所は此地とす。山麓田方郡上狩野村湯ヶ島及賀茂郡上河津村製木より頂上まで各三里、三島下田間の要路とす。此山其材多し、今其四萬町歩を以て御料林とす。鎌倉時代、歴材木を出し、徳川氏の時松竹杉檜樟梅、花柏を以て七木と稱し、公用の外伐採することを禁じたり。明治七年此山の其材を以て一艦を造る。天城艦はなり。山中又山葵、椎茸の良品を産す。  
【文】 愛鷹山と天城(高野鷹藏、山岳) 卷一、第二號。  
アマギトウケ(尼米峠) 【丹波】國河鹿郡より若狹國大飯郡に通ずる山路。  
アマキ(天霧山) 【讃岐】國に在る山。仲多度郡白方村の南に聳え、彌谷山と相連る。水壘、岡といへる古蹟は此所なりといふ説あり。  
アマクサカミシマ(天草上島) 【肥後】國天草郡島の一瀬戸上島といふ。地形東北より西南に延び、東北は柳瀬戸を以て大矢野島を隔て、西南は本渡瀬戸を以て天

草下島を隔つ。東は八代灣にして、西は島原海なり。東西約五里、南北約四里、周圍三五里二町。阿、姫、高、大、道、浦、棚、底、宮、田、柄、本、下、浦、志、村、島、下、津、浦、上、津、浦、赤、崎、須、子、大、浦、浦、南、津、教、其、木、河、内、の、一、九、村、あり。上津浦、教其木、島子、柄本、大浦、高戸の六所に郵便局を置く。島中山岳連、平地少し。中央に二高峯あり。北を老岳(八九九尺)、南を倉ヶ岳(二四七尺)といふ。又島の南東隅に海岸より直起する龍ヶ岳(五三〇尺)といふ。地質は全島殆ど中生層より成り、地味瘠悪ならざれど、岩層の風化充分ならずして耕作に適せず。居民専ら漁業に従事す。  
アマクサ(天草郡) 【熊本】肥後國十二郡の一。國の西海中に在る二大島と多數の小島とより成る。下島最も大にして周圍七六里餘。北は肥前の島原と海峡を挟み、南端は薩摩の長島に對し、西は太平洋に枕し、上島は其東に在り、本渡瀬戸を以て相隔つ。周圍三五里餘。上島の北に大矢野島あり。周圍一五里。其東は三角海峡を以て宇土郡と隔つ。此を群島中の大なるものとし、其他湯島、永浦島、樋合島、瀬島、野釜島、黒島、中島、前島、竹島、黒島、捫島、本郷島、黒島、竹島、通洞島、法ヶ島、鬼島、維和島、楯島、牧島、楠森島、横浦島、横島、産島、戸島、大島、下須島等に屬す。行政上本渡牛深、富岡の三町、楯宇土、龜、浦宮地、宮地、大尾、中田、碓石、新合、宮野河内、深海、久玉、魚貫、龜浦、早浦

久留、一町田、宮津、大江、高濱、小田、床下、津、深江、福連、木部、志岐、坂瀬、川、二江、鬼、池、御領、手野、城、河、原、佐、伊、津、木、村、本、戸、(以上下島) 阿、姫、高、大、道、浦、棚、底、宮、田、柄、本、下、浦、志、村、島、下、津、浦、上、津、浦、赤、崎、須、子、大、浦、浦、南、津、教、其、木、河、内、(以上上島) 登、立、上、中、以上大矢野島、湯島、湯島、維和島、楯島、御所浦、本郷島、楯島、(楯島の六〇村に分ち、郡役所を本渡町に置く。百三六、百六六、百六六) 地、勢、諸島山岳丘陵にして、耕地極めて少し。殊に上島の地は老岳倉ヶ岳等時、頗る高峻なり。下島は山岳多けれど、上島に比すれば高峻ならず。海岸は屈曲甚だ多く、港灣に富む。其港は多く下島に在り。崎津浦、深、久、玉、宮野河内、富岡の諸港最も著はる。地質は中生層殆ど全部に互り、土壌は瘠悪ならざれど、岩層の風化十分ならずして、表地甚だ淺薄なり。且つ運輸の便悪しく、全く農業に適せず。居民多くは漁業に従事す。物産、礦物には下島に無煙炭を産す。但し初めて採掘したるは天保年間在りといふ。明治十七年機械唧筒等の輸入ありしより、稍盛況を呈し、明治二十七年以後其業著しく盛となりしが、目下採掘せらるるは、下津深江、志岐、部呂々、一町田、魚貫、牛深にして、何れも其業盛ならず。炭の多くはキヲ炭にして、志岐村、アノ、追、魚貫村、浦越の二坑は日本煉炭會社製炭の原料を出す。水産は主たる産物にして、漁業の盛なるは

上島の大浦、赤崎、大島子、湯舟原、大道下島の鬼池、二江、富岡、高濱、大江、崎津、魚貫、牛深、久玉、深海、中田、太尾、佐伊津等に於て、大矢野島の登立、手束、島島、湯島、本郷島、亦盛なり。全郡一年の總價格七〇萬圓を下らず。殊に富岡の鱈、牛深附近の鱈、兩地の鱈、魚貫のシビラ、頗る有名なり。亦富岡、牛深附近には鰻及鱈産多く、乾製して長崎に販賣す。農産物は米、大豆、甘藷、二六〇〇萬貫、斤、縣下第一あり。天草は和名抄安萬久佐と註し、波多、惠家、高屋、天草、志記の五郷を載す。其波多郷は今宇土郡三角村及本郡大矢野島に當るといふ。全郡二萬三千石高の地と稱す。此地もと天草國と稱し、葦北國、阿蘇國と共に各一國を成し、成務天皇の時始めて國造を置き、推古天皇の時一郡となり、肥後國に屬す。中世土豪の大なるもの五家あり。瀬戸、上津、長、大、矢野、柄本、志岐とす。志岐氏は菊池、鹿流にして、他は皆筑前原田の庶流なり。豊太閤九州征定の後新政に服せず。皆討滅せられ、全郡小西行長の領となる。關ヶ原役後加藤氏の有となり、幾もなくして、唐津(肥前) 城主寺澤氏の加封となる。是より先き小西氏主従及天草土民天主教を信じ、年を逐ひ之に歸する者多く、寛永十四年遂に亂をなし、大矢野島に起り、上島に移り、終に北に渡りて肥前島原の原城に據る。翌年亂平き、寺澤氏此地を護はれ、是より



幕府の直轄となり、富岡に代官所を置き以て明治維新に至る。此間幕府は深く一揆の亂に鑑み、社寺を興し、殖産を勵まし、人心を鎮撫することに心をを用ひしこと少なからず。但し耶蘇教の禁は嚴峻を極めしかども全く之を禁滅すること能はず。下島の大江村には秘密に之を奉ずるものあり。三百年間傳へて今日に至れりといふ。(史學雜誌)

【文籍】 天草備考(上田宣珍)、天草風土考(同人)

アマクサシモシマ(天草下島) 肥後國天草郡に在る島。天草群島中の最大島にして、東は本渡瀬戸を以て天草上島と隔て、東南は長島海峡を以て薩摩の長島と離れ、北は早崎瀬戸を以て島原半島と相對す。西は所謂天草灘にして、遙に肥前の五島列島を望む。南北約九里、東西約四里、周圍七六里三三町。其周圍は概ね岩崖にして、避泊所は西岸に崎津浦、南岸に牛深、久玉、東岸に宮野河内、北岸に富岡灣あり。島内山岳多けれども上島に比すれば高峻ならず。島内今本渡、牛深、富岡の三町及權字土、龜崎浦浦宮地岳宮地大多尾中田、石新倉、宮野河内、深瀬、久玉、魚貫、龜浦、早浦、久留、一町田、富津、大江、高濱、小田、下津、深江、福連、本郷、志岐、坂瀬、川、鬼池、御領、手野、城河、原、伊津、木村、木戸の三四村に分れ、本渡町に郡役所あり。又大多尾、御領、二江崎津宮地岳宮野河内魚貫二町田下

津深江草浦には郵便局、本渡、牛深、富岡には郵便電信局ありて、交通稍便なり。アマク(海部郡) 【愛知】 尾張國に在りし郡。海東海西二郡の舊稱なり。其分割は建久年中に在りて云ふ。和名抄阿末と註し、新家、中島津積志摩、伊福、島田、海部、日置三刀、物忌三宅八田の十二郷に分つ。此郡の大部分は養老年中海部たりしとの説あれども、和名抄當時既に此十二郷あり、且つ島田、海部、直伊福郡等の舊姓あり、又其目三宅、阿波手、藤等の古蹟あれば、養老以後の新地となし難し(吉田東伍氏説に據る)。

アマク(海部郡) 【島根】 隱岐國四郡の一、島前の東偏なる中ノ島是なり。四境北方島島の懸地郡に對し、西南は海を隔て、西島及知夫里島を望む。東西二里一〇町、南北三里二町、面積二方里三三。周圍一六里二町唯海士の一村あり。寛子島松島大森島小森島二股島等に屬し、隱岐島嶼に隸す。面積三六八六畝、地

勢、島内土地礫礫中央に金光山、勝田山、高平山あり。海岸は岬灣出入して頗る紛錯す。島の東南に知々井灣あり、其北に知知井灣あり、半島形を成し、吐出すること一里餘西北に海士灣あり。物産の主なるものは米、大豆、甘藷、漁獲物三萬圓等とす。漁獲物中の主なるものは二番魚、魚(二萬圓)なり。延喜式は海士郡と載せ、和名抄は海部郡に作り、海部、布勢、佐作の三郷に分つ。此島は後鳥羽上皇遷幸の所にして、其廟址は勝田山の中腹に在り。

アマコウチ(天河内) 【島根】 石見國隱岐郡大國村の大字。温泉あり。鹽瀧泉にして、温度八八度。明治五年三月地震の時湧出し、爾後絶へず。街道に當るを以て來往の出入浴の便あり。満行寺は眞宗にして本派本願寺に屬し、僧照西の開基。初め眞言宗にして、玉蓮山西光寺といへり。天文十三年山吹山落城の時少笠原長秀の子、眞宗に歸依し、照西の法弟となり、寺を甲田原より今の地に移し、改稱すといふ。本尊は安阿彌作阿彌陀佛なり。

アマコヤツツサン(天兒屋敷山) 播磨國栗原郡馬場村に在る鐵山。鐵砂を出す。アマサキ(海士岬) 能登國羽咋郡西海村に在る岬。能登最西の岬角にして、東に松ヶ下灣を擁し、南に瀧岬、安島岬を望む。其南角は高岩崎の稱あり。岬上自生の蕪菁多しといふ。

アマセ(尼瀨) 【新潟】 越後國三島郡出雲崎町の字。町の南に連接し、石油の産地として著る。此地に石油の出づること往古より人の知る所にして、採油業を創めしは明治六年の頃に在り。當時は一日僅に三石内外なりしに、後海濱に井を穿つに及び、湧量漸く多く、二十三年に至りて、井數百五十を超過せしが、井の深十間以上に達する時は、往々含鹽質の水脈に會し、掘進し能はざるにより、二十三年米國式の鑿井器械を購入し、海面を埋め立て、試鑿せしに、極めて好結果にして、二十七、八年の頃は一年の産油三萬石内外の多きに至れり。近年鐵山長嶺の坑業盛なるに従ひ、此地稍振はす。

を詠れるなり。信濃事敗れ、秀吉の爲に秋田城介に預けられ、此に置かれたり。

アマダク(天田郡) 【京都】 丹波國七郡の一、四境東は何鹿郡、丹後國加佐郡、西は但馬國朝來、養父二郡、東西一〇里四町、南北八里二四町、面積九方里四九。行政上、福知山町及菟原細見、川合、上六人部中六人部、下六人部、西中筋會我井下、豊富、上豊富、我下、川口、上川口、三岳、金山、金谷、上夜久野、中夜久野、下夜久野、雲原の二一村に分ち、郡役所を福知山町に置く。面積二六三六畝、地勢郡内山岳多くして平地少し。山岳は北境に三嶽山、丹後、但馬に跨り、東北に大江山あり。一に鬼ヶ城山といひ、丹後に跨る。源頼光の惡鬼退治を以て著る。河流は和知川、何鹿郡より來り、福知山にて土師川を容れ、北流して丹後に入り、由良川となる。道路は但馬街道、船井郡より來り、菟原中村、生野、長田、福知山、立原等を経て、但馬の明石郡に入る。別に立原より分るる出石道、漆端より分るる宮津道あり。物産は米、大豆、甘藷、蕎麥、三極生絲等なり。天田の名は續日本紀、天平神護二年の條に初めて見え、和名抄は六部、土師、宗部、雀部、和久、拜師、在我、川口、夜久、神戶の一〇郷を載す。中世餘田に作れるものあり。

【文籍】 天田郡案内と事蹟の一斑、天野郡共進會編。

アマダゴエ(天田越) 越中國西瀛波郡石

動町より加賀國河北郡竹橋に出づる山路。とは里人の通ふ徑路なりしが、猿ヶ馬場の舊道は險惡なるを以て、近年開通する所なり。

アマダニ(天谷) 【福井】 越前國丹生郡糸生村の大字。鹽瀧、泉湧出ず。温度六七度。浴槽に引き、火熱を加へて浴用に供す。國内温泉乏しきを以て、夏時浴客多し。アマダレイシ(雨垂石) 【北海】 渡島國松前郡の村。赤神村の北に接し、西は海に面す。地に大石あり、滑溜絶えず。因て村名起るといふ。面積三三。

アマチ(甘地) 【兵庫】 播磨國神崎郡の村。同名の陰陽鐵道車驛あり。面積三三。

アマツ(天津) 【千葉】 安房國安房郡長

アマコウラ(尼子浦) 【徳島】 阿波國勝浦郡小松島町大字小松島の舊稱。平家物語勝浦合戦の條に見ゆ。

アママ(天名) 【三重】 伊勢國河野郡の村。御郡郵便局あり。面積三三。

アマツツミ(天包山) 日向國兒湯郡に在る山。高さ三九一〇尺。左を小川谷、右を長良川とす。

アマツボ(天埤) 【高知】 土佐國長岡郡の村。郵便局あり。面積三三。

アマツラカケ(シヨウシ) 齋々岳城址) 【熊本】 肥後國玉名郡に在る城址。南ノ關町の北、筑後國界なる大津山に在り。因て大津山の城とも呼べり。應永年間日野資名、八男資基の築く所なり。資基終に氏を大津山と改め、河内守と稱す。其裔家種、豊太閤西征の時之を迎へ、城の附近五十町を賜はる。佐々成政肥後を領するに及び、誘て之を殺し、其族佐々藤右衛門を置く。加藤氏の時加藤正次城代となる。慶長五年鷹原に新城成り、此城破却せらる。アマテルヤマ(天照山) 伊勢國度會郡に在る神路山の一名。

アマノ(天野) 【大阪】 河内國南河内郡錦部の村。天野山の東麓にして、和泉國に接す。天野山の中腹に、金剛寺あり。大字下里に屬す。眞言宗古義派の大伽藍にして、行基菩薩開基、弘法大師密法修行の地といふ。後白河天皇の再建。後醍醐天皇の勅願寺となる。往時は僧舎七十餘ありしといふ。本尊は弘法大師作の大日如来なり。寺内に觀月亭あり。後村上天皇觀月の舊蹟にして、唐破風の御殿造りなり。正平七年北朝三上皇此に入り、九年には後村上天皇難を此に避け給ひ、其後暫く皇居となれり。後白河天皇以來の繪巻、諸將軍の自筆、楠木正成、正行、正儀等の書翰、遺物等を藏す。面積三三。







り、再建して時光寺の末寺となる。一時別所長治の將蔭山左近寓居せしことあり大日山の構といふ。六騎武者の塚は里俗喧嘩塚といふ。延元元年足利尊氏九州より攻上りし時、兒島範長其子高徳と、三石の山路を越えて、脇屋義助に追ひ及ばんとし、高徳は剣を棄りしを以て他に托し、範長遺邊を過ぎ行くを、赤松の兵路を遮りければ、那波より阿彌陀宿の邊まで十八度戦ひ、終に主従六騎になりたれば辻堂に入りて自殺す。頼山陽之を弔するの詩あり。合三三六九。

アマダガミネ(阿彌陀峯) 山城國愛宕郡に在る峯。方廣寺の後に峙ち、山容端麗。豐太閤を葬れる所なり。

アマダガワ(阿彌陀川) 伯耆國西伯郡に在る川。水源大川。北流して庄内村に至り、海に入る。流程三里。

アマダタキ(阿彌陀滝) 美濃國上郡北澤村に在る湖大日岳の麓に懸る。國內第一の大瀧にして、直下六十丈。下は絶壁削るが如し。傍の巖洞に小祠あり。昔長瀧寺の道雅法印洞中にて禪摩を焚きしに、彌陀の像映せしより、瀧に名づくといふ。八幡町より八里。

アマツ(網津) 【熊本】肥後國宇土郡の村。宇土半島の北岸にして、宇土町の西一里半に在り。九州鐵道宇土支線之に通じ、住吉驛を置く。郵便局あり。合三六七。

アマトリミナト(網取港) 【沖縄】琉球國西表島(八重山列島の内の西北岸に在る里三〇)行政上、坂出宇多津の二町及金山西庄、林田松山、主越、加茂、府中、端岡、山内、陶田、瀧宮、羽床、羽床、山田、四分、千疋、粉所、川津、土器川、飯野、坂本法勳寺、富熊、栗熊、岡田、長炭、遠田、美合の三〇村に分ち、郡役所を坂出町に置く。最三二六、合二七五。

アマヤカワ(綾川) 讃岐國綾歌郡に在る川。又瀧川といふ。水源、郡の南部。北流して金山、林田、二村の間に至り、海に入る。流程八里一六町。花崗質の岩石河身に峙ち、激湍深淵をなす。岩石の數總て五十八。龍王の祠あり。雨を祈りて驗ありといふ。崇徳の村。合三三三。

港。港口北に開き、左右に二大岩礁あり。東、西、南の三面は山岳を以て圍まる。明治二十五年外國船風波を此所に避けしものありといふ。

アミノ(網野) 【京都】丹後國竹野郡の町。北海に面し、宮津町を距る七里二〇町。峰山町の北二里餘に在り。竹野郡役所警察署、郵便局等あり。此邊機織業盛にして、丹後縮緬を産す。網野神社は淺茂川大明神とも、浦島大明神ともいふ。目下部首の祖産坐命を祀る。之を浦島明神ともいふ。浦島は筒川嶼子の事にて、目下部首等の先祖なりといふにより、錯り傳へたるならんとの説あり。合四一六。

アマバリーカサン(網張火山) 陸中國に在る火山。岩手火山の西に隣る。海拔四六二〇尺。山貌甚しく侵蝕を受け、明瞭ならざれども、南方より望めば、楕圓錐形に近き外形を成す。山頂には不完全の火口址あり。南壁は破壊して、此所に湯ノ又澤の火口瀧を開く。北方の高點を湯ノ倉岳、東方を釜倉嶽といふ。此火口内には今尚二三の硫黄噴氣孔あり。山の半腹に網張温泉あり。硫黄泉にして、白濁、無臭、無味。温度二〇度。道路不便なり。

アムナテサキ(阿牟那手岬) 【北海】千島國占守島の西北角。

アムルシマ(阿島島) 【沖縄】琉球國慶良間列島の南端と、沙地に由て連絡する島。高二六二尺。形南北に長く、慶

院此地の野を賞で、屢遊覽ありて御詠あり。瀧をばやみ岩にせかる。瀧川の、われても末に逢はんとぞ思ふ。崇徳院。おのづから岩にせかれて諸人に物思はする瀧川の水。西行。日向國に在る川。水源、肥後國界なる四諸縣の深山。南北二流あり。東南流して、東諸縣郡綾村に至り、相合し、宮崎郡界に至り、大淀川に合す。下流を本庄川といふ。

アヤギ(綾木) 【山口】長門國美禰郡の村。太田村の南東に當る。綾木川此を通過し、厚狹郡に入る。合三三三。

アヤギカワ(綾木川) 長門國に在る川。水源、美禰郡赤郷村。又大田川といふ。厚狹郡小野村に至りて、厚東川に合す。流程五里二八町。

アヤク(阿野郡) 【香川】讃岐國に在りし郡。四境、東は香川郡、西及南は舊鶴足郡に接し、北は海に臨み、坂出町及金山、西ノ庄、林田、松山、主越、加茂、府中、端岡、山内、陶田、瀧宮、羽床、羽床、山田、四分、千疋、粉所の一八村ありしが、明治三十二年鶴足郡と合し、綾歌郡となる。阿野は萬葉集に安曇に作る。和名抄は綾と註し、新居中知、羽床、山田、鴨部、氏部、松山、林田、山本の九郷に分つ。中世分れて北條南條といひ、大略綾川の下流を北條とせり。寛文中中舊に復す。阿野を後世讀誤りてアノといひしが、貞享元年よりアヤと正す。全讀史云、凡て九郷三十五村。石高一萬七千六百三十九石餘。打出高七

真間海峽と赤海峽とを分つ人家なし。アメイミナト(雨井港) 【愛媛】伊豫國四宇和郡に在る港。川ノ石を見よ。

アメカ(雨ヶ山) 美作國吉田郡の四境に在る山。一に中谷富士といふ。アメカフチ(天淵) 出雲國の古蹟。素盞鳴尊が八岐大蛇を斬りし地にして、仁多郡温泉村に在りとなす。但し此事多くは鳥上山(即ち船通山)に在りし事と傳ふ。

アメク(天久) 【沖繩】琉球國島尻郡眞和志村の大字。土名アミク。首里の西なる海岸に在り。天久山といふ阜あり。其上に天久宮(熊野權現を祀る)あり。阜麓に眞言宗聖現寺あり。

アメサクラ(雨櫻) 【静岡】遠江國小笠原郡の村。舊重木谷七村の一部なり。此地に牛頭天王社あり。山内氏の時、一首の歌を作し、社頭の櫻枝に結び、雨を祈りしに靈驗ありしより、雨櫻天王の名ありと傳ふ。又六所明神あり。脇宮と稱す。合三三〇。

アメタキ(雨瀧) 因幡國美都大茅村に在る瀧。高一三丈。幅一間。下流蘆川に注ぐ。

アメタキヤマ(雨瀧山) 讃岐國大川郡富田村に在る山。山上に雨瀧城址あり。細川屋形の被官安富氏の居城なり。安富氏は應安の頃細川頼之に從ひ此地に來り、寒川郡の七郷を領す。盛長に至りて城を此山に築きて居る。盛長は細川勝元四天王の一なり。其孫盛方に至り、天正十一年長曾我部氏の陥る所となる。

アヤサト(綾里) 【岐阜】美濃國不破郡の村。合二四四。

アヤシ(愛子) 【宮城】陸前國宮城郡廣瀬村の地名。今上下に分れ、大字たり。作並越の一驛なり。下愛子に郵便局あり。西館址は伊達政宗の長女越後少將忠輝に嫁し、忠輝死後落飾して居りし所なり。

アヤセ(綾瀬) 【東京】武藏國南足立郡の村。合三三三。

アヤセカワ(綾瀬川) 武藏國の東部に在る川。元荒川の支流なり。北足立郡加納村五丁藩の東に於て分れ、北足立郡南埼玉の郡界を成し、瓦葺に至り、二分し、一は南下して荒川に入り、一は尚二郡の界を東南流して南足立郡に入り、隅田川に達す。流程約一〇里。古の隅田川の水流なれども、利根元荒川の水此に來注せざることを、なりしより、今は一小流に過ぎず。

小谷村の宇姫川右岸にして、糸魚川街道に當る郵便局あり。

アミノミヤ(雨宮) 【長野】信濃國地科郡雨宮村の大字。屋代町の東北に接し、千曲川の南岸なり。更級郡の横田篠ノ井に至る渡津を雨宮渡といふ。此邊は戰國の頃村上氏の庶流雨宮氏の居りし所とす。

アミノモリ(雨森) 和泉紀伊二國の界に在る雲山峰の一名。

アメミヤガタ(雨宮縣) 【長野】信濃國地科郡の村。合三三三。

アヤマ(雨山) 【愛知】三河國額田郡宮崎村の大字。大平川の谷より、豊川の谷に出づる山徑に當る。戰國の頃は奥平氏の城寨あり。此地又歌枕の名所なり。雨山に來つゝ、鳴けはや子規、聲の色さへぬれ渡るらん。夫木集、爲忠。

アモウトウケ(天生嶋) 飛騨國大野吉城二郡の界に在る岬。海拔四三八九尺。河合村月ヶ瀬白川谷秋田間の山徑通す。

アモベシ(摩太) 【安房】安房郡の村。合三三三。

アヤ(綾) 【宮崎】日向國東諸縣郡の村。本庄村の西なる山村にして、綾川に沿ふ。延喜式の亞耶那の地なりといふ。綾町郵便局あり。又村の標谷に金藏あり。合四二二。

アヤウタケン(綾歌郡) 【香川】讃岐國七郡の一。四境、東は香川郡、西は仲多度郡、南は阿波國美馬三好の二郡、北は海、東西四里五町、南北七里一八町。面積二四方



上野町に置く。西三三三、合三三八、地、本郡は國の北中を占め、柘植、服部及長田三川の會流する所は國內第一の平野を成し、上野の部邑此所に在り。大和街道及關西鐵道此を通じ、國內最も重要な地を成す。鐵道關西線は伊勢の關より來り、柘植にて分岐し、一は近江に入り、一は山城に向ふ。山城線には佐那具、上野、島ヶ原の三驛あり。道路は大和路の外、上野より服部川に沿ひ、長野を経て伊勢の津に至る伊勢別街道あり。本郡は山地なれども、農産物に富み、工業も又行はる。産物の重なるものは、米一五萬石を主とし、其他大豆、小豆、甘藷、菜種、紫雲英、茶、繭、木材、薪炭、織物、蠶絲、清酒、醬油、味噌(工産物總額一四七萬圓あり)。本郡は明治二十九年阿賀、山田の二郡を合して新置す。

**アヤメサワ** (舊蒲澤) 【京都】山城國に在る古蹟。葛野郡嵯峨村大覺寺の邊即ち北嵯峨をいふ。平維盛の子六代此處に隠れ居て捕はれし事、東鑑に見ゆ。

**アユカイ** (鮎貝) 【山形】羽前國西置賜郡の村。荒砥町と最上川を隔て、相對す。蠶業の盛なる地なり。【白河】

**アユカエリ** (鮎返瀧) 河内國北河内郡磐船村に在る瀧。●肥前國南高來郡隈田村に在る瀧。高三丈六尺。下流有家川に入る。●豊後國速見郡別府町に在る瀧。高九丈。下流朝見川に入る。

**アユカワ** (鮎川) 【茨城】常陸國多賀郡の

村。鮎川と呼ぶ清泉あるより近年村名を立つ。海水浴場あり。石を焼き海水を沸す。痔疾に效ありとて來浴する者少からず。鐵道常磐線下孫停車場より約一五町。【白河】

**アユノハラ** (鮎原) 【宮城】陸前國牡鹿郡の村。白雲山、鮎川を流す。●【秋田】羽後國由利郡の村。本庄、横堀間の街道に當る。戰國の頃由利十二黨の一人鮎川筑前の居りし所なり。【白河】

**アユノカワ** (鮎川) 上野國多野郡に在る川。水源、御寄山、日野の地を過ぎ、北折して平井古城の傍を流れ、八幡村に至り、鮎川に合す。此川の年魚は甚だ美味なり。川名因て起るといふ。

**アユカワハマ** (鮎川濱) 【宮城】陸前國牡鹿郡鮎川村の大字。牡鹿半島の南端とす。其海は黒崎と清崎との間に灣入し、濱を距る半鐘乃至一鐘半の間は水深六尋以下なり。此海は南西に網地島の遮護あるを以てよく風浪を避く。東京より北方に進む船舶には鮎川海を以て最も穩便なる避泊地とす。郵便局あり。

**アユサワ** (鮎澤) 【静岡】駿河國駿東郡に在りし古驛名。足柄路の往來盛なりし頃は有名なる所とす。其地今足柄村竹ノ下に當るといふ。合澤又いふ。鮎澤に作る。此邊を流る、川を鮎川と呼ぶ。相模の酒匂川の上流なり。●【山梨】甲斐國中巨摩郡大井村の大字。鮎澤より信濃に至る往還の一小驛。鮎澤へ一里半、百々へ二里。

**アユタ** (鮎田) 【栃木】下野國芳賀郡茂木

町の大字。相傳ふ昔兵部卿和久氏の居城あり。延文中結城氏と戦ひ陥ると、附近に其舊蹟と稱するもの多し。

**アユノハラ** (鮎原) 【兵庫】淡路國津名郡の村。都志村の海岸を東に距る一里。都志川の上流山間の地なり。其首邑を河上といひ、郵便局あり。又鮎原神社あり。延喜式の河上神社にして、俗に天神と稱す。境内松柏森々として最も神寂たり。【白河】

**アヨウ** (阿用) 【島根】出雲國大原郡の村。【白河】

**アヨロ** (蓬寄) 【北海】膽振國白老郡敷生村の大字。アイヌ語アヨロ、矢を納める義なりといふ。其海岸はアイヨロ鼻といふ。岩屋角を成し、鼻の背後にはクツタラウシ山あり。

**アラアイ** (新合) 【熊本】肥後國天草郡の村。【白河】

**アライ** (新居) 【愛知】尾張國東春日井郡に在りし村。明治三十九年旭村に入る。

●【静岡】遠江國濱名郡の町。又荒井に作る。舊東海道の一驛にして、濱名湖口今切を隔て、舞坂町と相對す。相距る一里七町。又白須賀町と相距る一里二九町。警察分署、郵便局等あり。【白河】

●【青森】陸奥國津輕郡の村。大字。荒川は青森市の南に當り、堤川に沿ふ。温泉出づ。湯と呼ぶ。單純泉なり。郵便局あり。【白河】

●【秋田】羽後國仙北郡の村。【白河】

●【富山】越中國西礪波郡の村。【白河】

**アラカワ** (安楽川) 【和歌山】紀伊國那賀郡の村。龍門山の西麓にして、もと荒川に作り庄又は郷名なり。大字。元村に安樂川郵便局あり。又市場に美福門院の石塔あり。門院燈臺の後此地に隱栖し、崩御ありしといふ。【白河】

**アラカワ** (安良川) 【茨城】常陸國多賀郡松原町の大字。古は荒川に作る。海に沿ふて市井を成し、松原千軒の名ありしが、歴逆浪に遇ひしより、今の地に移り、安良川と改むといふ。此地に宇佐美左衛門尉時景の居りし館址あり。元祿十五年水戸郡奉行の治所を置き、其配下を安良川組といへり。此地の八幡神社は寛和元年山城男山より勧請せしものにして、領内舊二十九村の總社として、松岡藩主中山氏の崇敬ありし社なり。

**アラカワ** (荒川) 越後國に在る川。水源、

路姫街道を取りしといふ。此關所の事は雜誌「歴史地理」第四卷、一二號に詳なり。

**アライ** (新井) 【東京】武藏國荏原郡入新井村の大字。近世新井宿と呼び、又荒井に作る。古東海道の驛路にして六幡渡より此所を経て大井驛、品川に至れりといふ。古歌に荒瀬ヶ崎荒瀬ヶ磯などと詠めらるも此所なりと傳ふ。●【東京】武藏國豊多摩郡野方村の大字。藥師堂あり、俗に子育藥師といふ。賽日には都人の參詣する者多し。中野停車場より五町。●【東京】武藏國南多摩郡桑田村の大字。淺川の多摩川に合する邊に在り。此地の石大明神の神體は長二尺八寸、周一尺一寸の石棒なりといふ。●【新潟】越後國中頸城郡の町。高田町の南三里。荒川、矢代川の間を流す。信濃國長野飯山二道の合する所なり。鐵道信越線の停車場、警察分署、郵便局等あり。【白河】

**アライ** (荒井) 【兵庫】播磨國加古郡の村。加古川口堆洲に在り。其分流荒井川(洗川)にも作る。を隔て、印南郡と相望む。往古は全く海中なりしといふ。【白河】

●【福島】岩代國安達郡の村。【白河】

●【福島】岩代國北會津郡の村。【白河】

**アライシヨウシ** (新井城址) 【神奈川】相模國三浦郡に在る城址。三崎町大字小網代に在り。西方の岬角を荒井岬又道寸鼻といふ。即ち牙城のありし所にして、三浦氏累代の住居なり。明應三年三浦時高其

養子義同と隨あり、父子合戦に及び、九月時高當城にて戦死す。義同乃ち三浦介となり、後入道して道寸と號す。其子荒次郎義意を此城に置き、自ら大住の岡崎城に居りしが、永正九年北條早雲の爲に岡崎を攻落され、終に父子共に此城に籠る。早雲又此城を圍ふ攻むること三年、城中終に糧食盡き、十五年七月父子從兵百餘人討て出て盡く戦死す。三浦氏亡びて後は北條氏の有となり、天正十八年北條氏亡びて後廢城となる。城址には今東京帝國大學の臨海實驗所を置く。

**アライソ** (新磯) 【神奈川】相模國高座郡の村。【白河】

**アライソダケ** (荒磯岳) 大隅國杵臼郡に在る山。霧島山の支脈。福山村の東に峙つ。

**アライトシマ** (阿賴度島) 【北海】千島列島の一。占守郡に屬す。住民なし。南北七里、東西六里。周圍は断崖絶壁にして、南方少しく低く、海中に斗出ず。水路誌云、阿賴度島は幌筈島の北西約一七哩、列島中の最北に位する。休火山島にして、高七八三三呎。四時雪を頂き、其形白扇を倒懸するが如く、北西より幌筈海峡北口に航進するもの、初認目標たり。

**アライハマ** (新井濱) 【新潟】越後國北蒲原郡乙村の大字。一に荒居に作る。明治二十年胎内川の水を此地に決す。

**アラオ** (荒尾) 【愛知】尾張國知多郡に在りし村。明治三十九年上野村に入る。●【岐阜】美濃國不破郡宇留生村の大字。此

地に御首神社あり。平將門の首級を祀ると傳ふ。又熊坂長龍の墓と稱するものあり。●【熊本】肥後國玉名郡の村。筑後國界に接し、有明海に臨む。大字。大島町は一小市街を成す。大字宮内に淨業寺あり。小代氏代々の墳墓あり。【白河】

**アラオ** (荒生) 【千葉】上總國山武舊山邊郡正氣村の大字。

**アラオガワ** (荒雄川) 陸前國に在る川。江合川上流の稱。

**アラオダケ** (荒雄嶽) 陸前國玉造郡に在る休火山。高約三三〇〇尺。山頂は數峯に分れ、火口なく、山麓の大部は第三紀層より成り、頂上に火山岩の分布を見る。荒雄川東麓に發し、北より西に出で、殆ど山麓を回周して東南に走る。山の西麓には鬼首五湯温泉八湯あり。鬼首の間歇噴泉は最も著名なり。

**アラカイ** (荒海) 【福島】岩代國南會津郡の村。【白河】

**アラカイガワ** (荒海川) 岩代國に在る川。大山を見よ。

**アラカイヤマ** (荒海山) 岩代國南會津郡下野國鹽谷郡に跨る山。又荒貝嶽にも作る。海拔五一四〇尺。岩村岩下より頂まで二〇町。太郎岳を以て兩國の界とす。

**アラカネ** (荒金) 【鳥取】因幡國岩美郡新宮村の大字。文武天皇の時、因幡國鐵鋼鑄とあるは此地のことにて、鐵址數多存す。

**アラカヤ** (荒芽) 【島根】出雲國鏡川郡の村。【白河】

**アラカワ** (荒川) 【兵庫】播磨國飾磨郡の村。【白河】

●【岐阜】美濃國本巣郡船木村大字十七條の地名。紫雲英の産地として名あり。荒川種といひ各地に販賣す。●【青森】陸奥國津輕郡の村。大字。荒川は青森市の南に當り、堤川に沿ふ。温泉出づ。湯と呼ぶ。單純泉なり。郵便局あり。【白河】

●【秋田】羽後國仙北郡の村。【白河】

●【富山】越中國西礪波郡の村。【白河】

**アラカワ** (安楽川) 【和歌山】紀伊國那賀郡の村。龍門山の西麓にして、もと荒川に作り庄又は郷名なり。大字。元村に安樂川郵便局あり。又市場に美福門院の石塔あり。門院燈臺の後此地に隱栖し、崩御ありしといふ。【白河】

**アラカワ** (安良川) 【茨城】常陸國多賀郡松原町の大字。古は荒川に作る。海に沿ふて市井を成し、松原千軒の名ありしが、歴逆浪に遇ひしより、今の地に移り、安良川と改むといふ。此地に宇佐美左衛門尉時景の居りし館址あり。元祿十五年水戸郡奉行の治所を置き、其配下を安良川組といへり。此地の八幡神社は寛和元年山城男山より勧請せしものにして、領内舊二十九村の總社として、松岡藩主中山氏の崇敬ありし社なり。

**アラカワ** (荒川) 越後國に在る川。水源、

高山の苗名瀧關川に至り、信濃の野尻湖の downstream を容れ、關川の稱あり。中頸城郡の中央を貫流し、矢代川等を合せ、高田町を過ぎ荒川と呼ばれ、直江津の東に於て保倉川を合せ海に入る。流域約二〇里。下流は一に北川ともいふ。其河口は四洲横はり、夏期平穩なる時は小艇船入ることを得れども、冬期は激浪のため水道閉塞するを常とす。慶長十七年高田築城の時今池、鶴場、島上、稻田、上島等の地幅三十五間を掘割りて新川とし、之をアラカワと呼び、後荒川に作るといふ。●越後國岩船郡に在る川。水源、羽前國界なる飯豊朝日山の二山。小國谷の水を集めて越後に入り、關谷の谿流を合せ、日本海に入る。流域二〇里。水勢急なり。此川鮭漁甚だ盛にして、近年毎冬一萬貫の漁獲ありといふ。●武藏國に在る川。水源、秩父郡大瀧村の山中。赤平川、中津川を合せ、東北流して大里郡を貫き、東南に折れ、北足立、比企二郡の界に入り、入間川を合せ、東南流して東京府下に入り、隅田川となる。流域約五五里。秩父の上流約二五里。以下熊谷まで七里。以下入間川の交會まで七里。以下内間木まで五里。以下千住まで七里。以下三里を隅田川といふ。一説全長四七里。此川の上流は河床急峻なるを以て、流勢激しく、運輸の便に乏し。然るに川越の東、入間川會流の邊より突然變じて緩流となり、武藏中部の平原地と都下とに於ける百貨の輸送に利す。











十年開かれし地といふ。阿蘇街の北三里一八町阿公店より大山脈を越え、卑南地方に出づる要路に當る。阿蘇支那警察署郵便局等あり。阿蘇(八三九四四六)。

**アリサ(有佐)** 【熊本】肥後國八代郡の村。宮原町の西なる平野にして、鐵道車驛あり。八代驛まで五哩五四鎮(六三三六)。

**アリサン(阿里山)** 【臺灣】新高山の四方に連る山。鹿林山・水山・石水山・飯包山・對高山・塔山等の間なり。海拔四五〇〇尺乃至八二〇〇尺。所謂阿里山の大部分あり。面積一萬一千町歩に互り。扁柏の純林をなし、多少の花柏及杉、松を混じ。樹數一萬餘株。八〇〇萬尺ありて、木曾の山林に優ると稱せらる。明治三十二年來臺灣總督府は此採採事業に關する調査をなし、三十九年藤田組に貸付せしが、収支償はずして中止せしかば、四十二年に至り官營の議あり、帝國議會の問題となりしが、終に否決せられたり。附近には山上四社(舊上四社、舊下四社)等の蕃民部落あり。

**アリソノウミ(有磯海)** 越中國射水郡伏木港より水見郡太田村に亘れる海。萬葉集に、遠谷のさきの安里蘇、この海の安里蘇等見え、古來の名所なり。近年は廣く富山灣の別稱にも用ゆ。有磯海のうら吹く風もよはれかし、いひし儘なる浪の音かな。李花集、宗長親王、かくてのみ有磯の海の濱千鳥、餘所に鳴つ、戀やわたらん。(拾遺集、讀人不知、早稻の香や分)

け入る右は有磯海、色蕉、早稻の香のありそや右に出る月、支考、鶯の巢や野分にふとる有磯海、去來、其海岸に女夫岩等の奇岩あり。又岩崎の地は海中に斗し、遙に能登を望み、風景絶佳。

**アリタ(有田)** 【新潟】越後國中頸城郡の村。古田(三三三)。

**アリタ(有田)** 【廣島】安藝國山縣郡八重村の大字。本地驛の北一里の山村なり。警察署郵便局あり。此地の稻荷山城址は戰國の頃小田信忠の居城なりしが、武田元繁之を奪はんと欲し、永正十四年之を圍む。毛利元就之を聞き兵を出し、元繁を殺す。●(和歌山)紀伊國西牟婁郡の村。三三三。

**アリタ(有田)** 【肥前】肥前國西松浦郡の町。有名なる伊萬里焼の産地なり。俗に皿山といふ。四面皆山、其土質製陶に適す。住民概し製陶業に従事し、年額五十萬圓と稱す。鐵道車驛あり。長崎伊萬里佐賀門司各地に通じ、交通の便を得たるに因り、近年其業益々盛なり。此地の陶器は永正十年(神宗)五郎大夫(神宗)と號す。支那の製陶法を學びて歸朝し、試製せるを始とす。徒第五郎七五郎八其遺法を傳へたれども、業振はず。慶長三年(征韓)の役鍋島直茂韓人李參平を携へ來り、之を製せしむ。正保年中に及び此業大に進歩し、窯工畫工細工人等千餘人あり。世に賞する古伊萬里焼は實に此時代の製作といふ。佐賀藩政の頃には黒燒師百數十軒、赤繪屋二十六軒あり。當時製品は主として長崎に其販路を求めしが、近年其の需用海の内

外に及び、聲價いよ／＼高し(六三三〇)。

●【佐賀】肥前國西松浦郡の村。合三三三。

**アリタ(在田)** 【兵庫】播磨國加西郡の村。古の上鴨郷の一部にして、足利氏の頃赤松朝行の子孫之を領し、在田殿と稱す。殿原山に城き、之に居れり。石部神社は大字上野に在り。延喜式内の古社にして、三女神を祀るといふ(合三三三)。

**アリタ(有田)** 【肥前】肥前國西松浦郡に在る川。古名を安藤川、上流を五里谷川といふ。水源伊都郡高野山、花園村大瀧に至りて瀑布を成し、箕島町に至り海に入る。流程二七里一八町。松原まで下流五里の間舟楫を通ず。此川又灌溉の利甚だ多く、西岸多くは蜜柑を栽培し、年々産額甚だ多し。蜜柑は天正年間初めて苗を肥後八代に採り、試植せしが、成績甚だよろしく、終に今日の盛況を見るに至れり。上流は怪岩激流多く、頗る奇觀なり。岩倉村の邊殊に然り。●肥前國西松浦郡に在る川。水源黒髮山及國見岳相合して、日尾長濱の間に至り、伊萬里灣に注ぐ。流程四里。沿岸諸村灌溉の利大なり。

**アリタ(有瀧)** 【三重】伊勢國度會郡北濱村の大字。宮川の一支流の海に入る所なり。徳川初世には山田奉行所及大瀧の船倉を此所に置けり。

**アリタ(有田郡)** 【和歌山】紀伊國九郡の一。四境、東は伊都郡及大和國吉野郡、南は日高郡、北は海軍、那賀二郡、西は湯淺海、東西三三三、南北三三三、面積一

九方里行政上、箕島湯淺の二町、宮原、糸我、保田、廣田、栖川、南廣、津木、田殿、藤原、生石、御嶽、石垣、岩倉、五四月、鳥屋、城、安藤、八幡、城山、五の一九村に分ち、郡役所を湯淺町に置く。●(三三三、合三三三)。

●地勢、長方形を成し、東西に長く南北に短し。郡中は山岳多く、東部は殊に高峻にして耕作に適せず。有田川郡の中部を横斷し、其沿岸は膏腴にして、地味最も蜜柑の栽培に適す。山岳北境に長峯山脈あり、其高嶺を生石岳とす。南境には白馬城之森の高嶺あり、東界には薩摩櫻山あり、郡の西部に糸我山あり、海草郡界の蘇阪と日高郡界の鹿瀬嶺とは共に舊熊野街道に當り、有名の山路とす。河流は有田川あり。伊都郡に發し、西流して北港に至り、海に入る。支流に修理川、湯川あり。瀧澤には次ノ瀧あり。那智瀧に亞げる壯觀なり。海岸は北に宮崎あり、南に西廣あり、湯淺海を擁す。此海兩側漸次に狹縮し、灣頭に至り湯淺浦となる。灣の南に廣瀨といへる淺澳あり。灣中に毛無島、鷹島、刈藪島等の小嶼列る。道路は海草郡より來り、郡の西偏を経て日高郡に入るものを熊野街道とす。箕島湯淺の諸驛之に當る。那賀郡より來り、郡の東部を横きり、清水を経て日高郡に入るものを龍神街道とす。社寺の有名なるを須佐神社及大乗寺とす。古蹟には明惠上人誕生地、中將姫の遺蹟あり。物産は蜜柑を第一とし、價格九五萬圓に上る。其他の農

産物は米、麥、大豆、蘿蔔、甘藷、除蟲菊、樟腦、林産物三四萬圓、工業品は織物、生絲、清酒、醬油、木蠟和紙あり。就中湯淺の醬油、八幡の紙、箕島の蠟燭最も著名なり。有田は往古安藤郡と呼ばしが、大同元年平城天皇の諱安殿を避けて在田と改め、後世有田に作る。萬葉集には足代に作れり。和名抄は吉備溫登、奈鄉、美多須佐の五郷を載す。但し續日本後紀に上郡とあれば、戸令に照らすに十二郷以上なるべからず。和名抄僅に五郷とするは不審なり。恐らくは承和以前の數なるべし。

**アリタマ(有玉)** 【静岡】遠江國濱名郡積志村の大字。濱松二侯間の間道に沿ふ。此所に後光將軍神社といふあり、又其北に神明社あり。因りて此邊を神明平又は將軍平と呼ぶ。

**アリチカミ(有路上)** 【京都】丹後國加佐郡の村。合三三三。

**アリチシモ(有路下)** 【京都】丹後國加佐郡の村。合三三三。

**アリト(有戸)** 【北海】後志國歌山郡歌山村の大字。湖路の北に連る。アイヌ語アルトル、一半の間の義なり。●【青森】陸奥國上北郡野邊地町の大字。野邊地市街より三里を距つ。田名部街道の一小站にして、横濱へ三里半、更に四里半にして田名部に至る。

**アリトサキ(鱧戸)** 【北海】後志國に在る岬。古字、岩内二郡の境に斗出し、武伊港口を擁す。

**アリノ(有野)** 【兵庫】攝津國有馬郡の村。有馬町の西に在り。唐櫃山ありて水品を出す。其西に風越崎あり、之を論ゆれば、武庫郡山田村なり(合三三三)。

**アリノコシヤマ(シヨウシ)** (蟻腰山城址) 【岡山】備後國比羅郡美古登村に在る城址。天文の頃東兵部政幸(一)に誠幸の居城といふ。

**アリフク(有福)** 【鳥根】石見國那賀郡の村。跡市川の沿岸に在り。温泉あり。單純泉にして、溫度一四度。浴舎の設あり。交通の便あるを以て浴客多し。海岸國道より一里、濱田町より三三三(合三三三)。

**アリフクシマ(有福島)** 肥前國南松浦郡に屬する島。若松島の西日ノ島の西隣なり。周圍一里二〇町。此島と日ノ島との間は宮ノ瀬川と稱し、水深一二尋に過ぎず。島は高七六九尺にして、樹木繁茂し、所々開墾せりと雖も、其西面は樹木なく、滿地雜草茂生し、日光之に映じて赤色を呈し、遠望極めて顯著なり。

**アリベ(有部)** 【樺太】地名。舊稱アリベウナイボ、又チカイナイボ。

**アリホ(有保)** 【廣島】安藝國高田郡の村。合三三三。

**アリホ(有帆)** 【山口】長門國厚狹郡高千帆村の大字。良好の石炭を出す。

**アリホ(有帆)** 【長門】厚狹郡に在る川。水源、萬倉村の山中。郡の中部を南流し、木山半島の西に至り、海に注ぐ。流程五里一八町。流域長廣ならざれど、緩流

なれば舟楫の便あり、殊に河口に船木有帆の炭田あるを以て、船舶の出入多し。

**アリマ(有馬)** 【神奈川】相模國高座郡の村。合三三三。●【兵庫】攝津國有馬郡の町。有名なる温泉場にして、六甲山の北麓に在り。神戸市を距ること五里二七町。住吉停車場より六甲山を踰ゆれば、約三三三、約三三三、其間四十八瀬の奇勝あり。今は神戸より腕車を以て往來すべし。此地三方山を廻らし、瀧川、武庫川の清流に沿ひ、風光明媚、土地高爽、海拔一五五尺、空氣清淨、氣候溫和、極暑攝氏二二度を上下するを以て、來浴する者甚だ多し。市街は東西二町、南北五町。街路狹隘、地勢に從ひて市街を成すを以て、風曲高低規準なし。市坊八。客舎は數十。概ね宏壯清潔にして、多く何坊と稱す。仁西上人温泉中興の時、大和吉野山の僧俗を移して之を守らしめし遺風といふ。飲食食品百貨皆備はり、交通も亦便なり。警察分署郵便局あり。浴槽は市街の中央に在り。明治二十四年の新築にして、一等二室、通常二室、四槽に分ち、面積二十一坪。泉は浴槽、石間より湧出す。其量一時間二十四石、一日百石。毎朝五時に開きて午後十一時に閉つ。別に冷浴場炭酸湯、新湯、新湯、目洗湯等あり。泉質は鹽類泉にして、酸化鐵遊離して常に潤滑せり。溫度百度、神經病子宮病消化不良貧血症等に効あり。此温泉の發見は遠く神代に在りて、大己

貴命少産命之を開きしと言ひ傳ふ。後、舒明天皇及孝德天皇行幸あり。爾來久しく荒廢せしを、聖武天皇の時行基僧正一たび之を復興せしが、承徳元年霖雨により、人家を崩壞し、温泉亦荒廢せること九十五年。建久二年大和國吉野の僧仁西上人之を再興し、豐臣秀吉又之を修補して今日に及べり。近傍に鼓、瀧、瑞寶寺、愛宕山、龜尾、落葉山、藥師山、巧地山等の名勝あり。所謂有馬六景は鼓、瀧、瑞寶寺、愛宕山、夕照、温泉寺、巧地山、秋月、有馬富士、雪、有明樓、春望とす。湯泉神社は延喜式内の古社にして、後世三社權現と稱す。中興仁西上人熊野に擬して、此稱を立てしといふ。其供僧坊は眞言宗、温泉寺なり。常喜山と號す。本尊藥師如來、行基作といふ。建久二年仁西上人中興し、衆徒十二坊を置けり。後豐臣秀吉夫妻入浴ありし時改修せりといふ。落葉山は一に投木山、又童子山といふ。天文年間三好宗三此に城きたるを以て城山ともいふ。山麓に善福寺ありしと、温泉寺に屬し、其什物多く此寺に傳ふ。鼓瀧は六甲山より出で、懸泉三丈六尺、廣一丈。有馬第一の勝地とす。物産は筆を第一とし、其他竹細工、有馬燒、墨、湯染、木綿等あり。合三三三。

●【文籍】有馬地誌、花月樓樂園、有馬湯山道記、貝原篤信、正徳六。有馬温泉記(田中芳男撰)。有馬温泉記(榎本義路撰)。有馬日記(本居大平)。

●【長崎】肥前國南高來郡に在りし村。今



南北の二村に分る。口之津の東北に在りて東南に海灣を控す。中世有馬氏の據りし所なり。有馬氏は大村氏と同族にして藤原純友の後と稱す。明應の頃有馬貴純武略あり。其孫晴純に至り、藤津、彼杵の諸郡を略し、天文、天正年中慶龍造寺氏と戦ひ、其孫晴信の時龍造寺隆信を斬る。豊臣氏九州を平定するに及び、有馬氏の封土を島原半島四萬石に限る。慶長十五年晴信阿瑪港船を長崎に焚き、却て罪を得て甲州に謫せられ、其子直純日向延岡に移る。●【群馬】上野國群馬郡古巻村の大字。和名抄の郷名にして、延喜式上野九牧の内有馬島拾芥抄有馬牧の在りし所と云ふ。

アリマ(有馬) 越後國中頸城郡の西端に在る川。水源、南葉山。西頸城郡の名立川と并行し海に入る。其谷間は所謂西濱七谷の一にして、俗に桑取谷と呼び、今、谷濱、桑取の二村となる。河口の西に有間川あり。

アリマ(有馬) 兵庫攝津國七郡の一。四境、東は河邊郡、南は武庫郡、西は播磨國美作、加東二郡、北は丹波國多紀郡。東西五里、南北七里一八町。面積二三方里八六。行政上、有馬三田の二町及道場、長尾、瀬山、山口、有野、八多、大澤、小野、貴志、本庄、中野、高平、三輪の十三村に分ち、郡役所を三田町に置く。長六、四、三、二、地勢、本郡は四境山岳に圍まれ、武庫山脈は南方に、愛宕山脈は北部に重疊し、郡内率、險峻なり。河、流、相集り、東南に向つて潰ゆ。即ち、武庫川の上流なり。鐵道は阪鶴鐵道時崎より來り、海岸に沿ひ、郡の中央を横斷して丹波國に入る。其間、生瀬、武田、尾道、三田、廣野、相野、及藍本の七驛あり。生業の重なるものは、米にして、米一萬石を第一とし、麥、大豆、葡萄、果實等あり。林産物七萬圓、工産物一萬圓、酒和紙筆寒天等あり。有馬は日本紀に舒明天皇三年幸攝津國有馬温泉とありて、其名上古より聞ゆ。和名抄は春木、幡多、羽來、大神、忍壁の五郷を載す。

アリヤ(有屋) 鹿兒島大隅國大島郡大島金久村の大字。

アリヤ(有屋) 肥前國南高來郡に在る川。水源、温泉岳。南流して東有家村に至り、海に入る。流程三里一八町。

アリマ(有馬) 備後國廣島郡の村。白雲寺。

アリマ(有馬) 尾張國知多郡の町。愛知郡鳴海町と相接し、東海道に當り。

アリマ(有馬) 越中上野國新川郡の大字。龜谷川の上流に在り。飛騨國境に近き僻境にして、九月以降雪の爲め往來絶つといふ。別に一、天地を成し、其風俗大に他に異なるものあり。是より飛騨の古城郡に出づる坂路あり。

アリマ(有馬) 肥前國南高來郡の地方名。温泉岳の南麓にして、有明海に面す。東西の二村に分る。

アリマ(有馬) 鹿兒島大隅國大島郡大島金久村の大字。











船を泊すべし、但し一般に沙濱少く懸崖多く、唯下直に深淵を成す。
(氣象) 國の北部は低く、南部は高く、殊に西南部土佐に接する所は深山重疊し、夏期降雨多し、北部は瀬戸内海の氣候を受け、四季空気が乾燥、寒暑共に酷だし、故に吉野川流域と外吉野川流域とは唯に水域の異なるのみならず、氣候も亦不同なり、明治四十一年徳島測候所の観測に據れば、一年氣温平均攝氏一五度二、最高攝氏三三度六、最低二月零度以下二四、風位は七月より十月までは概ね南東風、十一月より六月までは多く北西風なり。
産業 生業は農を第一とし、工業漁業商業此に亞ぐ、農業は主として吉野川の沿岸に行はれ、又阿紀灘の沿岸に多し、吉野川の上流は川床深く、灌漑の便に乏しといへども、下流は一般に低地を成し、地味豊饒にして最も藍作に適し、又甘藷甘蔗の産多し、川の北岸は蠶桑業盛に行はれ、川の南岸及外吉野川流域には製茶業榮ゆ、米作地は那賀郡を推す、藍は此國有名の特産にして、名四郡より板野郡に互れる諸村は古來中島と呼び、最良品を出す所と稱す、もと播磨國飾磨邊より傳播せるもの如く、時代は小笠原氏入國天正以前なるべし、初め麻植郡に作り、漸次美馬三好四名西名東板野の六郡に傳播し、遂に主要の特産物となれり、漁業は海部郡及阿紀灘沿岸に行はる、製鹽は主要なる生業の一にして、齋田鹽の名世

に知らる、工業の主なるものは織物にして、徳島四近及麻植郡の特産なり、織物は石炭あり、勝浦川の岸に産し、殊に正木村に其炭あり、蓋し石炭は四國中獨り此國のみに出づ、又銅鐵脈あり、伊豫の別子銅山に接續す、今、東山及中西にて採掘す、砂金は吉野川の上流、土阿境界の邊に出づ、鑛石は勝浦川の流域に露出し、主なる採掘地は沼江村とす、國の一特産にして主に大阪に輸出す、農産、米五四萬石、麥四七萬石を主とし、大豆蠶豆蕎麥甘藷芋菓藍甘藷菓糖草精三極糖等あり、山林伐採物は用材四七萬圓、薪炭材二四萬圓、漁獲物一〇七萬圓、其主なるものは真鯨鯨にして、鱈鰯鰯鮎鮎之に亞ぐ、鹽は價一〇三萬圓にして、板野郡其八分を占む、工業物は織物二二〇萬圓、徳島市其半を占む、生絲七〇萬圓、製茶製藍(二三五萬圓)砂糖(一三五萬斤)清酒醬油和紙人造肥料とす。
交通 道路は徳島市を中心とし、大なるもの四條あり、撫養街道北に走りて撫養に達し、鳴門海峡を経て淡路の福良に通ず、伊豫土佐街道西に走りて吉野川に沿ひ三好郡佐馬地村に至り、二派に分れ、一は西して伊豫に入り、一は吉野川の上流に沿ひ、南して土佐に入る、讃岐街道(管轄村洲津にて伊豫土佐街道より分れ、管轄越を経て讃岐の琴平に通ず)土佐街道海部街道ともいひ、徳島より南に出で、勝浦那賀海部の沿海地方を経て

土佐國に入る)とす、鐵道は徳島より起り、吉野川の岸に沿ひ麻植郡の船戸に至る、延長二哩三九鎮、其間藏本府中石井牛島鴨島西麻植川島山崎湯立川田の一一驛を置き、海路は主として大阪、徳島間に在り、讃岐諸港の如く日本沿海の運輸に當らず、是れ淡路との間に有名なる鳴門の渦流ありて、瀬戸内海との交通不便なるに因る、郵便局九一、電信局三一、電話局三あり。
(郡會) 徳島市(六六五七)、名東郡國府町(五三三)、勝浦郡小松島町(三三三)、那賀郡富岡町(七七)、名四郡石井町(三三)、板野郡撫養町(八八)、板西町(三三)、阿波郡市場町(五五)、麻植郡川島町(三三)、美馬郡脇町(三三)、貞光町(七七)、三好郡池田町(三三)、辻町(三三)。
(名所舊蹟・社寺) 土御門帝陵板野郡、大麻比古神社同上、忌部神社美馬郡、管轄寺三好郡(雲邊寺同、大龍寺那賀郡)、八坂八勝海部郡。
沿革 阿波は古書に粟に作る、古事記に粟國謂大宜都比賣とあり、蓋し宜は食らんといふ、天富命が天日鷲命の孫を率ゑ來りて、穀種を植ふし地にして、人文風に吉野川畔に開けたり、其部屬を忌部といふ、又國の南部は別に一國を成し、長國といひ、今の勝浦那賀海部三郡の地に當り、海部の一族住居せり、後、國府を今の名東郡府中村に置く、壽永年中國

入田口成美平氏に附して州守に補せられ、後、後醍醐天皇に降附す、鎌倉幕府佐々木經高を以て守護とし、正治二年小笠原長經(二)説に其父長清といふ之に代る、其子長房職を襲ぎ、三好郡に居り、其裔後世三好氏を稱す、建武年中細川和氏州守に任じ、足利氏の反に應じて四國を略す、弟頼春代りて守護となり、板野郡勝瑞に治す、後、同族成之守護を兼ね、其子義春の時宗家の政元嗣なきを以て、義春の子澄元を養子とす、永正四年政元試せられ、内訌大に起る、三好長輝(長房九世の孫)澄元を立て、家政を專にす、既にして澄元見高國と隙あり、長輝高國に殺され、澄元出奔し、尋で卒す、長輝の孫元長、澄元の子晴元を奉じて主とし、高國を攝津に伐て之を滅し、晴元を立つ、是に於て三好氏の勢力に盛にして、其子長慶に至り、遂に細川氏に代りて京師に號令す、天文二十一年長慶の弟康之守護細川持隆を弑し、勝瑞に據り、全國を横領す、其子長治に至り、其臣一宮成助竊に長曾我部元親を誘ひ、長治を殺さしめ、全國終に元親に歸す、天正十三年豊臣秀吉兵を出し、元親を破り、使地を収めて、當國を峰須賀家政に賜ふ、關原役家政西軍に在り、其子至鎮東軍に屬せるを以て、亂後徳川氏阿波を以て更に至鎮に與ふ、封十八萬六千石、後大阪役に功あり、淡路七萬石を加封せられ、二十五萬七千九百石を世襲す、明治

を廢して徳島縣を置き、尋で名東縣と改め、明治九年之を廢して高知縣に屬し、十三年再び徳島縣を置き、國郡制定の時粟國は板野、名方、阿波、麻植、美馬の五郡に分れ、長國は勝浦、那賀の二郡に分る、後美馬より三好を割き、又那賀より海部を割く、延喜式の時九郡あり、名方を東西に分てども、海部の名を載せず、阿波志に據れば、寛文十年戸數八萬六千六百四十三、八千、寛政十二年戸數八萬六千六百四十三、五萬二千、元和三年十八萬七千七百、元禄十三年十九萬四千石。
(文籍) 阿波志、寫本、十二册(藤原憲)、阿波名所圖會(古堂墨海、文化八)、アワノ・サンミヤク(粟野山脈)、長門國大津豐浦二郡を界する山脈、堂岳の山頭に於て花尾山脈に連る、此山脈中の高峯を一位岳とす。
アワノホ(粟ノ保) 【石川】能登國羽咋郡の村、(合三三)。
アワノヤ(粟谷) 【栃木】下野國足利郡三和村の大字、此地の正蓮寺は建久年中新田大助義重の創立にして、徳川氏之に朱印五十石を附せり。
アワハラ(粟原) 【奈良】大和國磯城郡多武峯村の大字、古栗原寺ありたるも、後世廢絶し、僅に其鐘聲録(古京遺文に出づ)を勒せるものを傳ふ。
アワヒロ(粟廣) 【岡山】美作國英田郡の村、勝田郡に接し、古の廣山郷の地なり、被懸城址あり、赤松氏の旗佐用貞久の居

城たり、正平十六年山名時氏之を攻む、城兵能く拒ぐ、時氏城を環りて二十二日、鎧を築き、以て糧道を絶つ、貞久等終に城を棄て、走る、城址の東に大將陣といふ高丘あり、時氏陣營の址といひ傳ふ、(合三三)。
アワフ(粟生) 【千葉】上總國武舊山邊郡豐海村の大字。
アワフジ(阿波富士) 阿波國に在る高越山の一名。
アワモト(粟本) 【静岡】遠江國小笠郡の村、(合三七)。
アワヤ(粟屋) 【廣島】安藝國高田郡の村、吉田川東南北の三方を繞り、備後國雙三郡と相限る、吉田町を距る東北五里とす、粟屋は和名抄粟屋郷の遺稱にして、もと青屋に作り、粟屋屋連三吉隆信にも作る、(合三三)。
アワヤマ(阿波山) 【茨城】常陸國東茨城郡澤山村の大字、もと大山といふ、那珂川の西岸に沿ひ、水戸守都宮街道の一小站とす、中世佐竹氏の一族此所に居り、大山氏となる。
アンキノ(安騎野) 大和國吉野郡下市町大字下市善城の間に在る野。
アンギョウ(安行) 【埼玉】武藏國北足立郡の村、鳩ヶ谷町の東北なる岡野なり、昔中田安齋入道安行の領せしより、其名を取るといふ、安行領とも呼べり、(合三三)。

アンゲケン(奄藝郡) 【三重】伊勢國に在りし郡、明治二十九年廢して河曲郡に合せ、河曲郡の新稱を建つ、津市の北に接せり、和名抄は阿武義と註し、田井窪田黒田服部奄藝屋連の六郷に分つ、中世は安藝郡に作り、又扇郡の稱あり。
アンゲ(案下) 【東京】武藏國南多摩郡恩方村の字、相模國津久井郡に接せる僻村なり、案下川(又恩方川)の水源地とす、津久井郡に踰ゆる山路案下嶺あり。
アンコクジ(安國寺) 【長野】信濃國諏訪郡宮川村の字、曆應年中足利氏毎州建立の寺院の一ありしより地名となる、天文年中諏訪氏武田氏の爲に亡ぼされ、一族中此寺に僧となりて在りし者あり、其子頼忠天正十年兵を擧げ、諏訪氏を再興す。
アンサイ(安西) 【三重】伊勢國安濃郡の村、(合三六)。
(靜岡) 駿河國安倍郡の舊郡名、もと安倍の市(今、靜岡市)の西郷の謂なり、其地分れて、今一部は靜岡市に入り、一部は南駿河村に入る、安西の非ノ宮といふ地に、旭姫徳川家康の後室豊臣秀吉の妹天正十四年來嫁し、十八年京都にて逝去の墓あり、又安西寺といふ時宗の大刹あり、今靜岡市内に入る。
アンジ(安師) 【兵庫】播磨國赤松郡の村、郡の東南隅に在りて、東北に雪彦山峙ち、一山谷を成す、林田川(片吹川)の水源地とす、大字安志は小笠原氏一萬石の陣屋のありし地にして、郵便局あり、古の安志郷の一部なり、小笠原氏は其祖忠修大阪

夏陣に於て父子共に戦死し、其弟忠真家督を襲ぐ、寛永三年長修の子長次(幸松丸)に龍野六萬石を賜ふ、九年封を豐前に移され、享保元年長邑の時除封更に弟長興に安志一萬石を給ひ、世襲して明治に至る、大字三森に安志姫神社あり、伊和大神(大己貴命)之を奉らんと欲し、固辭せるを怒り、石を以て安師川(即ち林田川)を塞ぎし事風土記に見ゆ、(合四二)。
アンジキ(安飾) 【茨城】常陸國新治郡の村、(合三三)。
アンジキ(安食) 【茨城】常陸國筑波郡作岡村の大字、豊岡川に臨み、下總國結城郡と相對す、中世小田氏の一族此地に住して安食氏となる、一乗院と呼ぶ眞言道場あり。
(茨城) 常陸國新治郡安飾村の大字、和名抄茨城郡安飾の本郷といふ。
アンジヨウ(安城) 【愛知】三河國碧野郡の町、安祥安靜案祥又は安條に作る、岡崎町の西二里に在りて、縣立農林學校鐵道東海道線の車驛及郵便局あり、古城址あり、松平親忠より四代の居城なり、文明十一年親忠の父信光没して之を取り、親忠の二男長親、其子信忠相次で居る、信忠の子清康に至り岡崎城に移り、終に國內を平定し、尾州守山に至り横死す、天文十三年織田勢三河に攻入り、先づ安祥城を取る、今川義元此を聞き兵七千餘を遣はし此城を圍み、將に之を陥れんとせしが、守將織田信廣と織田方に在りし人質竹千代とを交換し、和議成る、竹千代は



即ち家康の幼名なり。農事試験場は停車場より東方四町に在り。白土(五七)。

アンシヨウジユウサン(安祥寺嶺山)山城國宇治郡に在る嶺山。陶土を出す。五条清水等の陶器材料なり。

アンセイ(安静)【茨城】下總國結城郡の村。白土。

アンダイオンセン(安齋温泉)【長野】信濃國下高井郡平野村に在る温泉。上州街道に沿ひ、湯温泉を距る三町許。鹽類泉にして、開化湯。痛氣湯の二泉あり。温度一三二度。

アンダタキ(有田瀧) 丹後國與謝郡有田山中に在る瀧。下流宮津川に入る。高一八丈。幅九間。

アンチ(滝知)【奈良】大和國磯城郡の地名。庵治及庵治にも作る。川東村大字海知の地ならんといふ。

アンチウ(安中)【茨城】常陸國稻敷郡の村。白土。

アンテイリ(安定里)【臺灣】阿緬廳所管の内恒春の東海岸の中部に瀕せる一區。猪勝東山を中心とす。蕃人テラツ社社の居る所なり。此社は夙に馴化し明治二十九年蕃童の爲に學校を設け、又三十五年港口庄附近に熱帯植物殖育場を設け、アンテイリトホ(安定里東堡)【臺灣】臺南廳所管の内曾文溪の南東に沿へる一區。支那明朝の永定里の内なりといふ。康熙以來次第に開拓に就けり。

アント(安堵)【奈良】大和國生駒郡平群

郡の村。古の飽波郷にして、佐保川、富小川其西南にて會流す。大字東安堵に常樂寺あり。山背大兄王の建立と傳ふ。稱徳天皇の飽波宮址なるべしといふ。白土。

アントウ(安東)【三重】伊勢國安濃郡の村。白土。

アントウサカ(安藤坂) 武藏國「東京市」小石川區を見よ。

アントウサキ(安島岬) 越前國に在る岬。坂井郡三國港の北微約二哩に在り。風景明媚。岬邊は恰も二町四方の平原となり。千疊敷又は陣ヶ岡野と呼ぶ。灌木の外樹木を生ぜず。雜草繁生す。岬の前面二哩に雄島あり。高一〇〇尺。樹木茂生す。此島と岬との間は岩礁散布し、小舟も通じ難し。此邊を構成する岩石は到る所方形の標柱状を呈し、直立併列して斷崖を成し、東尋坊の奇勝を現す。所謂玄武岩にして、火山作用に因りて裂罅を破りて迸發せる熔岩。外界の壓力と自己の收縮とによりて、節理を呈せるに他ならず。但馬の玄武洞。筑前大戸崎の洞穴皆此類なり。

此岬より能登の瀧崎に至る五三哩の海岸は、一帯の沙濱にして、一泊の舟地なく、西より北を経て北東に至るの間、強風吹き起るときは激浪起り甚だ危険なり。

アントカミネ(安堵峰) 紀伊國四半郡栗栖川村の北四里に在る山。日高郡に跨る。栗栖川此に發し、下流富田川となる。

アントク(安堵)【長崎】肥前國南高來郡安中村の大字。島原町の南海岸に沿ひ、中世安徳氏あり。其事東鑑。豐薩軍記に見ゆ。

●【福岡】筑前國筑紫郡の村。福岡市の南二里。那珂川の東岸に沿ひ、不動山の北麓とす。太宰少貳原田氏の居りし所なり。原田種直の時。壽永二年安徳天皇平家と共に此國に下り、暫く此所に御し給ふ。其行宮の址を御所原と呼ぶ。又翌田流とて大岩を穿ち、水の通ずる所あり。神功皇后の時間鑿して此所に至りしに、大磐石ありて工事を阻む。時に霹靂ありて其磐を裂き水を通す。因て此邊をトドロキノ岡と呼ぶと言傳ふ。一説に安徳村の名は天皇の名より出しにあらざる。東鑑に安徳三郎政康の事見ゆれば氏名なるべし。又御所原の名も齊明天皇の磐瀬行宮の故事より出するべし。安徳天皇の此地に在せしは僅に旬日に過ぎざればなりといふ。現人神社は大字仲村に在り。神功皇后征韓の折。補助を與へ給ひし住吉神の根本なり。後此地を以て神田に充てられ。真人郷と呼べり。現人の稱は現に神形を現はして、御軍の船を導き給ひしより

出づといふ。白土。

アンナカ(安中)【長崎】肥前國南高來郡の村。白土。

●【群馬】上野國龍水郡の町。中山道の一驛にして、善板倉氏の城下なり。前橋市より五里一二町。松井田町へ二里。一四町。郡役所、警察署、郵便局等あり。又信越鐵道の停車場あり。高崎驛より六哩半。安中城址は上州八家の一。安中氏累代の居城なり。越前守春綱其子廣盛に譲りて松井田城に隱居す。廣盛初は上杉謙信に従ひ、永祿年中武田氏に降る。神流川合戦の後北條氏に屬し、天正年中亡ぶ。慶長年中井伊直孝に賜はり、後水野備後守元綱に賜はる。封二萬石。其子元知の時除封。寛文四年堀田備中守正後延寶九年板倉伊豫守重同を経て、寛延二十年板倉佐渡守時清に賜はり、封三萬石。子孫相襲して、明治維新に至る。白土。

【文種】校正安中志板倉時清(明書二)を見よ。

アンナクン(安南郡)【廣島】「安藝郡」を見よ。

アンヌルガワ(安奴留川)【北海】渡島國爾志郡に在る川。一に安塗川に作る。西流して海に入る。

アンノカワ(安野川) 越後國北蒲原郡に在る川。一に菴ノ川に作り、又駒川といふ。水源、菴ヶ岳北流して新郷川に入る。流程六里。

アンノロ(安野呂)【北海】渡島國檜山郡厚澤郡村西北の山谷。古は西海岸より東岸に越ゆるもの此所を經たりといふ。

アンパチクン(安八郡)【岐阜】美濃國十五郡の一。四境北は揖斐本巢二郡東は稻葉、羽島二郡南は海津郡、西は養老不破二郡、東西二里二町、南北七里一〇町。面積七方里五四行政上、大垣神戶、墨俣、大藪の四町及仁木、福東、淺草、牧川、並安井、多藝島、洲本、三城、結、北、杭瀬、南、杭瀬、名森、中川、下宮、南平野、北平野、和合の一八村に分ち、郡役所を大垣町に置く。【三三三三三三三三】地勢本郡は所謂四邊低地の中央にして、長良、揖斐、杭瀬、大樽諸川の内外に縱横し、大垣、福東、結、森部の輪中堤防にて圍まれたる一區域を成す。土地甚だ豊饒にして、田圃よく開け、交通最も便なるを以て、人口の稠密なること國內第一とす。但し水利の大なると共に水害も亦從て大にして、有名なる水場とす。故を以て古來領主治水に心をを用ひ、堤防、開門の設置甚だ嚴なり。物産の主なるものは米にして、柿は古來の名産にして、大垣の名の出づる所以なり。近來柿羊羹の製出あり。産額は米一二萬石、麥四萬石を主とし、大豆、甘藷、柿梨、繭生絲、これに亞ぎ、水産物、二萬圓、工業は絹ハンケチ、菜種油、製鹽、酒、味噌、干温、鮎、菓子等あり。安八は天武紀の安八磨の下略にして、正倉院文書の味蜂園郡に當るといふ。和名抄は大田、高田、服織、那珂安八、長友、物部の六郷に分つ。其内高田は今、海津郡に入り、多藝郡の立野、登野の誤なりといふ。郷は本郡に歸した

り蓋し諸川洪水の爲め、河河道に變遷を來たし、郡界も從て變ざるなり。

アンピン(安平)【臺灣】臺南廳効忠里に在る一要害。臺南市の埠頭に於て、臺南の四方約一里に在り。其間道路平坦。車馬の往來に便なるのみならず、輕便鐵道を通じ且つ一の運河ありて、貨物の輸送頗る便なり。又此地より澎湖島に海底電線を通ず。長崎へ八七〇哩、上海へ六五〇哩、厦門へ一八〇哩、香港へ三〇〇哩を隔つ。臺南廳支廳警察署、郵便局、外國領事館、税關等あり。白土。

泊舟地は海岸を距る一里許にして、西北西に開き水深千湖二五尺、滿潮三〇尺あり。されど砂洲多く、且つ此門洲及海岸は絶えず變化し、殊に南西信風時中は最も危険にして、荷船の如きは數日若くは數週間、海口の門洲を通過すること能はざることあり。六月より九月までは互市全く止み、貨物は皆打狗に送りて船積するに至る。然れども此地は臺南の埠頭として百貨輻輳し、且つ本島重要特産の一なる砂糖の集散を掌るを以て、支那形船の出入繁く貿易港として臺南第二位を占む。明治四十年に於て輸出五八萬圓、輸入一九二萬圓。輸出の主なるは、龍眼、肉桂、胡椒、薑、薑黃、胡椒、乾、筒米、白砂糖等輸入は葉煙草、石油、包庇、綿織子、小麥粉、織綿木、晒金中、エンニ、藥人參、苧麻、綿布等にして、通商は支那を主とし、香港に亞ぐ。燈臺は北緯二三度、東經一一二〇度一〇分に在り。海面

上高三七呎。燈塔は第六等不動白色にして晴天光遠一〇哩なり。此地古は一鯉身といふ島地にして、七鯉身まで七箇の小嶋港口に連り、海水直に臺南城の四郭に達し、自然の長港を成し、かば、我八輪船を始め、諸國の貿易船皆泊せり。然るに河上より流れ來る土砂の堆積せると、地表の變動ありしに因り、灣内次第に陸地と變じ、鯉身諸島も今は島にあらざる。更に其外部に沙洲を出し、新に港口を作り、其沙洲も常に變更せること前記の如し。安平鎮城は海國城、臺海城、紅毛城、赤嵌城などの稱ありて、安平港頭に在り。四曆一六三〇年和蘭人の築きし所にして、セーランテア(海國城)と名け此に居りたり。鄭氏が明主を奉じて臺海に據るや、蘭人を逐ひ、復た此に居り、修築して安平鎮城といへり。海會寺は鄭氏の菩提寺として知らる。其他法華寺、竹溪寺等あり。又城南新唱里魁斗山に五妃墓あり。明の寧靖王に從死せる五妃を葬る。

アンペイチン(安平鎮)【臺灣】桃園廳管下竹北二堡草南殿庄に屬す。此邊烏龍茶の産地にして、製茶試験場あり。又臺海鐵道縱線の停車場あり。基隆より四四哩九。アンベツ(安別)【樺太】名好支廳鶴城出張所管内の海村。露領に接す。炭礦あり。露名リスペンスコエ舊稱アモベシ。

アンボウ(安房)【茨城】常陸國鹿島郡諏訪村の大字。中世畑田三郎朝秀の子幹直此所に居り、安房四郎といへり。其城址今

尙存す。畑田氏文書には安房に作る。●【鹿児島】大隅國熊毛郡下屋久村の大字。屋久島の東岸に在り。淡水此所に至り海に入る。安房川と呼ぶ。長三里。其海口に舟を泊すべし。河口の南に斗出せる小岬を安房岬といふ。五里を距て、種子島の門倉岬と相對す。本佛寺は法華宗にして、僧如竹の墓あり。如竹は此地の人なり。京師に上り、儒學を修め、諸侯に重んじらる。寛永年間琉球に渡り、國王に經書を授業す。島津光久亦之を聘し、講義を聞く。明曆元年此島に歿す。

アンホククン(安北郡)【廣島】高宮郡を見よ。

アンホリ(安堀)【群馬】上野國佐波郡齋佐位郡三郷村の大字。

アンモンリタキ(暗門瀧) 陸奥國中津輕郡河原平村に在る瀧。目屋野澤川の源にして、下流は岩木川となる。飛泉三層。高二十丈十八丈十二丈。幅各二十間あり。

アンヨウジ(安養寺)【滋賀】近江國栗太郡治田村の大字。此地の安養寺はもと眞言宗の大本寺にして、足利義尚六角高頼を討ちしとき、此寺に滯留せり。後兵燹に罹り、再建されども舊觀に復せず。其南なる安養寺山といふ。●【群馬】上野國新田郡尾島町の大字。此地に明王院安養寺あれば地名となる。此寺は新田義重の爲に建つるとも、大館宗氏の爲に建つるとも言ひ傳ふ。此寺に觸不動といふ安置す。新田義貞眞義兵を擧げし時、天狗山伏



あり、僅一日中に國中及越後の一族に觸れ示したりとて之を祀ると傳ふ、往時は天台宗の修験道場なりき。  
**アイヨウボウトウケ** (安養坊峠) 越中國婦真郡に在る英服山の一名。  
**アイラク** (安樂) 【三重】伊勢國飯南郡神山村の大字、安樂寺境内に安樂天神、祠あり、眼病に靈現ありとて、參詣者多し。  
**アイラクオンセン** (安樂温泉) 【鹿兒島】大隅國始良郡の温泉、牧園村を見よ。  
**アイラクカワ** (安樂川) 大隅國始良郡に在る新川の上流の稱。●大隅國嶺南郡に在る川、郡の北部の水を集め南流して有明浦に注ぐ、流程七里。  
**アイラクゴエ** (安樂越) 近江國に在る山路、甲賀郡山ノ内村大字山女原より伊勢國三重郡安樂に出づる山路にして、東海道鈴鹿嶺の東北なる間道とす。土山驛より國界まで二里。  
**アイラクジ** (安樂寺) 【富山】越中國西嶺波郡南谷村の大字、石動町の西にして、北陸街道俱利伽羅の新道に當る。源平盛衰記に其名見ゆ。  
**アイリウ** (安立) 【大阪】攝津國東成郡住吉郡の町、住吉村と泉州界との間の驛舎にして、もと、嚴松原といへり、後世、僧安立開きて町とす。合三三三。

**アイイ** (伊伊) 【福井】越前國坂井郡の村、合三三三。  
**アイオカ** (飯岡) 【京都】山城國綴喜郡草内村の大字、村の西南なる丘北に在り。丘上に式内内、岡神社あり。●【千葉】下總國海上郡の町、九十九里濱の北端に在る一市街にして、警察分署、郵便局等あり。飯岡停車場は市街を距る約一里の鳴鳴村大字後草に在り、銚子驛へ八哩七六鎮、匝瑳郡八日市場より約八哩、海水浴場あり、玉崎神社は玉依姫命を祀る、初め上總國一宮に在りしが、永祿年中一宮城主内藤久長里見氏と戦ひて敗れ、神體を擁して遷れ來り、茲に安置すといふ。合三三三。  
**アイカネ** (猪位金) 【福岡】豊前國田川郡の村、郵便局あり。合三三三。  
**アイカラ** (飯倉) 【東京】武藏國、東京市

麻布區を見よ。●【千葉】下總國匝瑳郡豊榮村の大字、椎名氏の古城址あり、千葉系圖に飯倉七郎胤貞あり、此地に居る。  
**アイサカ** (飯坂) 【福島】岩代國信夫郡の町、郡の北端に在る有名な温泉場にして、摺上川を隔て、伊達郡湯野村、赤温泉ありと相對す。警察分署、郵便局等あり。福島より二里一〇町、輕便鐵道を通ず、鐵道奥羽線の長岡驛より三〇町を隔つ、温泉は摺上川岸に近き岩石間より湧出し、湯湖透達、波古赤川、金瀧、天王寺等の數泉あり。皆鹽類泉にして、温度華氏一〇七度乃至一二度、無色透明、極微臭を帶ぶ。十欄橋は摺上川に架せる釣橋にして、湯野村に通ず、鐵道を組みたる大綱を以て兩岸より釣る橋下岩石奇に、水流急に、風景甚だ佳、往時は兩岸に巨木を建て、藤懸十條を曳き、上に板を架して橋とす、和歌に詠める陸奥の十欄の橋是なり。後兩岸に大綱を張り、之を操りて船を行りしが、明治の初今の制に改む。大島城址は町の西南なる丘陵なり、保元年中藤原秀衡の族佐藤基治(繼信、忠信の父)の築く所、文明年中鎌倉勢の陥る所となるといふ、醫王寺は町の西南麓野に在り、佐藤基治の墓、繼信忠信の碑あり。合三三三。  
**アイサ** (飯飯) 【千葉】下總國香取郡多古町の大字、天保年中松平康盛の築けりといふ塞址あり、初め徳川家康の同母弟康

野、神戶の六郷及藤家に分つ、丹生郷は後多氣郡に入る。  
**アイダカ** (飯高) 【千葉】下總國香取郡の村、多古町の東二里に在り、大字飯高に小田原北條氏の將平山利部少輔の居りしといふ城址あり、飯高寺に法輪寺あり、日蓮宗にして、僧日祐の開山、多く什寶を藏す、初め松崎村に在りしが、永祿年中此所に移るといふ。飯高は中古の地名なり、り千葉大系圖に、匝瑳常廣の子政胤此所に居り、子孫飯高氏を稱する事を記す。合三三三。  
**アイダカ** (飯高) 【千葉】下總國香取郡の村、多古町の東二里に在り、大字飯高に小田原北條氏の將平山利部少輔の居りしといふ城址あり、飯高寺に法輪寺あり、日蓮宗にして、僧日祐の開山、多く什寶を藏す、初め松崎村に在りしが、永祿年中此所に移るといふ。飯高は中古の地名なり、り千葉大系圖に、匝瑳常廣の子政胤此所に居り、子孫飯高氏を稱する事を記す。合三三三。  
**アイダカ** (飯高) 【千葉】下總國香取郡の村、多古町の東二里に在り、大字飯高に小田原北條氏の將平山利部少輔の居りしといふ城址あり、飯高寺に法輪寺あり、日蓮宗にして、僧日祐の開山、多く什寶を藏す、初め松崎村に在りしが、永祿年中此所に移るといふ。飯高は中古の地名なり、り千葉大系圖に、匝瑳常廣の子政胤此所に居り、子孫飯高氏を稱する事を記す。合三三三。  
**アイダカ** (飯高) 【千葉】下總國香取郡の村、多古町の東二里に在り、大字飯高に小田原北條氏の將平山利部少輔の居りしといふ城址あり、飯高寺に法輪寺あり、日蓮宗にして、僧日祐の開山、多く什寶を藏す、初め松崎村に在りしが、永祿年中此所に移るといふ。飯高は中古の地名なり、り千葉大系圖に、匝瑳常廣の子政胤此所に居り、子孫飯高氏を稱する事を記す。合三三三。

イヒシと稱す、伊思志都幣命の座ませしより起れりといふ、和名抄田井熊谷三屋飯石草原多彌須佐波多來島の九郷に分つ。  
**アイシヤマ** (飯士山) 越後國南魚沼郡に在る山、湯澤村の東北嶺にして、金城山と登川を隔て、相對す、海拔三六〇九尺、圓錐形を成し、火山岩より成り、俗に上田富士と呼ぶ。  
**アイシマ** (飯島) 【茨城】下總國猿島郡の村、合三三三。  
**アイシマ** (飯島) 【長野】信濃國上伊奈郡の村、與田切川の天龍川に入る所に在り、徳川氏の時駿河代官所の出張所を置き、信濃に散在せる幕領一萬石を支配せり、明治維新の際一時伊那縣を置けり、郵便局あり。合三三三。  
**アイズ** (伊祖) 【沖繩】琉球國、伊祖を見よ。  
**アイソ** (飯曾) 【福島】磐城國相馬郡の村、合三三三。

【静岡】遠江國周智郡の村、合三三三。  
**アイタ** (飯田) 【神奈川】相模國鎌倉郡中和村の大字、もと高座郡鎌倉谷庄に屬せしが、何時の頃よりか鎌倉郡に入る、源平盛衰記に、飯田三郎家能とあるは此地の人なりとす。●【新潟】南蒲原郡鹿嶋村の大字、伊加良志神社あり、今若一王子と稱す。●【新潟】越後國中頸城郡高士村の大字、高田町の東二里半、飯田川左岸の小市街なり、郵便局あり。●【静岡】遠江國濱名郡の村、天龍川の右岸に居る、曹洞宗龍泉寺(舊宋印三十三石あり、合三三三)。

の中心たり、産物に酒あり、海上には應海市を現す。合三三三。●【島根】隱岐國周吉郡に在りし村、明治三十七年東郷村に入る。●【福岡】筑後國三井郡善導寺村の大字、佐賀大分間の宿驛にして、府中驛御井町より一里一八町。  
**アイタ** (伊井田) 【鳥取】因幡國八頭郡の村、船岡村の南に當る谷間なり、大字鹽上に式内鹽上神社あり。合三三三。  
**アイタカ** (飯高) 【千葉】下總國香取郡の村、多古町の東二里に在り、大字飯高に小田原北條氏の將平山利部少輔の居りしといふ城址あり、飯高寺に法輪寺あり、日蓮宗にして、僧日祐の開山、多く什寶を藏す、初め松崎村に在りしが、永祿年中此所に移るといふ。飯高は中古の地名なり、り千葉大系圖に、匝瑳常廣の子政胤此所に居り、子孫飯高氏を稱する事を記す。合三三三。  
**アイタカ** (飯高) 【千葉】下總國香取郡の村、多古町の東二里に在り、大字飯高に小田原北條氏の將平山利部少輔の居りしといふ城址あり、飯高寺に法輪寺あり、日蓮宗にして、僧日祐の開山、多く什寶を藏す、初め松崎村に在りしが、永祿年中此所に移るといふ。飯高は中古の地名なり、り千葉大系圖に、匝瑳常廣の子政胤此所に居り、子孫飯高氏を稱する事を記す。合三三三。

元下總國宿に封せられ、元祿年中康尙の時除封、康盛に至て交代寄合衆に列し、此所に封せらる、足利氏の末、飯寄飯飯家直(山城守長威)あり、此地の人といふ。  
**アイシ** (飯石) 【島根】出雲國飯石郡の村、斐伊川と三刀屋に挟まれる地なり、大字多和に尼子氏の兵の據れる古城址あり、又多和和瀧あり、高五丈、合三三三。  
**アイシヤ** (飯石) 【島根】出雲國六郡の一、國の西南隅に在り。國中第一の大郡なり、四境、東は大原仁多二郡、西北は鏡川郡、西南は石見國安濃、邑智二郡、東南は備後國比婆、三郡、東西七三三町、南北一〇里二四町、面積三七方里四〇町。行政上、波多東須佐、西須佐志々頼、原赤名、赤名、一宮、三刀屋、鍋山、飯石、中野、田井、吉田、掛合、多根、松笠の一七村に分ち、郡役所を掛合村に置く。合三三三。  
**アイシヤ** (飯石) 【島根】出雲國六郡の一、國の西南隅に在り。國中第一の大郡なり、四境、東は大原仁多二郡、西北は鏡川郡、西南は石見國安濃、邑智二郡、東南は備後國比婆、三郡、東西七三三町、南北一〇里二四町、面積三七方里四〇町。行政上、波多東須佐、西須佐志々頼、原赤名、赤名、一宮、三刀屋、鍋山、飯石、中野、田井、吉田、掛合、多根、松笠の一七村に分ち、郡役所を掛合村に置く。合三三三。



等あり。福岡市を距る九里五町。此地は古長崎往來の宿驛にて、民家の多きこと、延濱甘木に亞げりといふ。明星寺鎮西村造營の時食物を調製せしに、剩れる飯積んで塚の如くなりし故、此名起れりと言傳ふ。犬養院といふ寺あり。六百六十六。

【山形】羽前國南村山郡の村、合二百四。イイツカヤマ(飯塚山) 日向國に在る山。東白杵郡の東北隅古江村の西北に峙つ。高二一五八尺。

イイツミ(飯塚) 【神奈川】相模國足柄下郡豊川村の大字。酒匂川と森戸川との間なる平田を占む。正嘉の頃飯塚景光の所領なりしといふ。十一、而觀音堂あり。三十三所の第五番なり。

イイツメ(飯詰) 【秋田】羽後國仙北郡の村。停車場あり。平鹿郡の米穀市場角間川町と僅に一里を隔て、同地貨物の集散地なり。大曲驛より四哩四鎮、合六六。

イイツサン(飯山) 越後國東蒲原郡北蒲原郡船の三郡と羽前國西置賜郡及岩代國耶麻郡とに跨る一大山。一に飯出山に作る。方十里に互り、大日岳(六四三五尺) 帆垂山、若王寺山、地蔵山等の諸峯あり。其中央なるを三國岳といひ、海拔五九四〇尺。山頂に五所王子の祠あり。五所王は越王天彦命を詠れるならんといふ説あり。會津風土記云、四時雪有て寒氣甚しく、七八月の間登山するもの櫻花を見、杜鵑を聞き、黄葉を踏み、四時の風物一時の佳観に入る。里俗四季の山と稱する。

もさる事にや、嶺山大抵他木なく、五葉松のみ奇石怪巖の下に蟠り、萬古の色を改めず。西端の絶頂を大日岳といふ。大己貴命を祭れる石窟あり。蟻巖にして、躡攀するもの稀なり。

【文籍】飯豊山行(石川光春) 山岳卷一、第一號。飯豊山天平巖(山岳) 卷三、第三號。

イイトミ(飯富) 【千葉】上總國君津舊望陀郡根形村の大字。木更津を距る二里。一町、小櫃川の北なる沖積地に在り。古の飯富郷の遺稱。俚俗今尙オアといふ。なり。縣社飯富神社あり。神八井其命馬來田國造の祖を祀る。古より此神松樹を忌むと傳へ、今に一松を見ず。社邊に鏡峯と呼ぶ丘あり、眺望よし。頂に二墳あり、馬來田國造の墳ならんといふ。【茨城】常陸國東茨城郡の村。大字飯富は水戸守部宮街道に當る。舊稱は大部なり。江戸氏の長臣神生遠江守の居りし地といふ。又立原民部の館址といふものあり。合六六。

イイトヨ(飯養) 【福島】磐城國田村郡の村。合三三三。【福島】磐城國相馬郡の村。合三三三。【巖手】陸奥國和賀郡の村。合三三三。

イイトシ(飯製) 【島根】出雲國能義郡の村。もと云成に作る。廣瀬町の北に接し、

飯梨川に沿ふ。合三三三。イイナシカワ(飯梨川) 出雲國能義郡に在る川。富田川又は能義川といふ。水源比田村の山中。北流して山佐川を合せ、東北流して赤江村に至り、中ノ海に入る。流程七里一二町。永祿年間毛利氏河水を以て尼千氏の富田城を攻略せしと傳ふれど、今は砂礫下流を埋め、舟楫の便なし。

イイナミゲン(飯南郡) 【三重】伊勢國十郡の一。四境、北は志保郡及大和國宇陀郡、西は大和國吉野郡、南は多氣郡、東北は伊勢海、東西一、二里二〇町、南北七里八町、面積一八方里八九行政上、松坂町及津島止神戶、花岡、松尾、松江、伊勢寺、大河内、茅原、江、大石、柿野、朝見、宮前川、俣森、波瀲、射和、柳田、朝見、西黒部、機殿、清代の二二村に分ち、郡役所を松坂町に置く。合四一七。地勢、郡の西部は山岳重疊して大和國吉野郡に連る。河川、柳田川、國界に發し、東流して海に入る。全部殆ど其流域より成り、唯此川の北に坂内川といふ小流の別に走るあるのみ。道路は、釜宮街道海濱に近く走り、鐵道又此に伴ふ。又松坂より西し、柳田川に沿ふて大和に入り、紀伊國和歌山に達する道あり。和歌山街道といふ。松坂町は郡の首邑にして、且一志、多氣、飯南三郡貨物の集散地なり。物産は米一〇萬石を最とし、其他麥、大豆、甘藷、菜種、紫雲英、果、栗、梨、茶、楠木、材、流、檜、杉、五萬圓、織物、七、四萬圓、蠶絲、清酒、茶種、油、醬油、和紙

に跨る山、其狀恰も碗に飯粒を盛りたるが如し、故に此名あり。此山火山形を具ふ。【讚岐】國綾郡に在る山。宇多津町の南に聳え、坂本村に屬す。海拔二四四〇尺。平野の間に突起し、數里を隔て、之を望むべし。山容富士に似たるを以て讚岐富士の稱あり。熄火山なり。西麓に、飯神社、延喜式内讚岐二十四座の一、祭神飯彦命あり。中古火災に罹り舊記の見るべきものなし。【讚岐】にはこれをや富士といひの山、朝けの煙た、いぬ日もなし(西行) 落木江天雁影橫、荒涼無野虫、鳴曉來忽覺新寒峭、小富山頭薄雪明、飯山初雪、岡本黃石。

イイナヤマ(飯山) 能登國羽咋郡に在る川。水源菅沼村山中邑知瀧に入る。イイハサマ(飯羽間) 【岐阜】美濃國惠那郡本間村の大字。天正年中織田氏此所に城き、武田氏に備ふ。甲將山縣昌景來り攻め、城將遠山信次を擒にして去る。

イイビ(飯美) 【島根】隱岐國周吉郡に在りし村。明治三十七年布施村に合す。イイビツ(飯櫃) 【千葉】上總國山武舊武射郡千代田村の大字。古城址あり。天文二年山室常隆之を築き、兵勝を経て光勝に至り、小田原北條氏に屬し、三萬石を領せり。天正十八年小田原陷り、徳川氏關東の主となるや、光勝千葉の遺臣を集めて抗せしが、城中火を放つ者あり、城終に陥り、光勝自殺す。

イイムロ(飯室) 【廣島】安藝國安佐郡の

下駄巻足袋金物等あり。飯南は明治二十九年飯高及飯野の二郡を合せたる新稱なり。イイヌマ(飯沼) 【千葉】下總國海上郡に在りし地方。今、木銚子町といふ。天正十八年八月松平外記此所に封ぜられ、封二千石。寶永七年間部下總守の支封地となる。【茨城】下總國結城郡の村。合三三三。【茨城】下總國結城(舊岡田)郡豐岡村の大字(別に飯沼村あれども懸絶す)。此地に浄土宗の古刹弘經寺(十八檀林の二)あり。應永年中横曾根城主羽生經貞羽生城主羽生吉定の創建といひ、俗に僧祐天少くして此寺に居り、累の怨讎を教化せりと傳ふ。寺内に天樹夫人(豐臣秀頼室徳川秀忠女)の墓あり。

イイヌマ(飯沼) 下總國猿島郡結城、舊岡田三郡の間に在る沼。山川沼、北沼、菅谷沼、八沼、沼若、太田沼、沼生沼、古岡木沼等連接して、西北より東南に延び、猿島郡連仁より岡田郡横曾根まで縦七里、横一里に互り、此沼を環れる村落二十四あり。水源は下野國宇都宮地方より來り、餘水は坂手に至りて鬼怒川に入る。享保七年沿岸の諸村、排水開墾せん事を乞ふ。徳川幕府乃ち伊澤彌兵衛爲永をして、工事を督せしむ。九年起工。鬼怒川に入る水道に斗門を設けて逆流を防ぎ、馬立沼より神田山に至り、利根川に入る新渠を穿ち、更らに下吉田より新渠を疏すること三、一、二、八、三、間、以て灌漑に充て、十二年

イイモリ(飯盛山) 紀伊國那賀郡に在る嶺山。麻生津村及龍門村に互り、嶺區四七萬坪あり。鐵道關西線の名手驛と紀ノ川を隔て、相對す。東に赤沼田嶺山あり、南に神路嶺山あり、明治四十一年使用鐵夫五〇人、女工一八人、採鐵高、酸化鐵礦三四、六、八、三、〇〇貫、製產高、銅一二、七、五、九、四、斤、酸化鐵礦販賣高六、五、七、二、〇、四、貫、價格合計五萬七千圓なり。(本邦鐵業一覽)。

イイモリ(飯盛野) 播磨國加西郡に在る原野。廣三〇町、袤一町、水利なし。イイモリヤマ(飯盛山) 河内國北河内郡に在る山。四條村の東に峙つ。高九五七尺。山背に室ノ池あり。西方一面は澤地にして、往時深野池、草香江あり、遠く大和川に連り、京都男山より攝河、泉への通路は僅かに山脚の一徑路あるのみ。古來兵家の争へる要地にして、南北朝の頃は兩軍多く此邊に戦へり。飯盛山城址あり。

和泉國泉南郡に在る山。深目村の東南に峙つ。紀、泉國境連山の一峯にして、山形飯を盛れるに似たり。故に此の名あり。高九五四尺。大坂灣を航する舟人の目標たり。其山路を孝子越といふ。昔山頂に飯盛寺(役小角の開基)あり、堂宇壯麗を極めしといふ。建武元年六十谷定尙此山に據り、官軍に抗せしが、楠木正成等攻めて之を陥る。一説、此事紀伊の飯盛山なりと。●大和國若草山の高所飯を盛りたる

竣工、水田二二〇九町、此高、四三、八、三、石、飯野一六三町、畑二〇町、林二〇町、芝地二町を得たり。其地分れて三十一村となる事、下總舊事考に詳なり。イイノ(飯野) 【群馬】上野國邑樂郡大岡野村の大字。戦國の頃淵名上野介此所に居る。永祿二年上杉謙信此城を拔き、館林の毛呂李忠に與へし事、上野志に見ゆ。【千葉】上總國君津(舊周准)郡の村。富津町の東に當り、南に崖を負ひ、北に小糸川に臨む。大字下飯野は寛永以來保科氏(二萬石)の陣屋のありし地なり。合三三三。【三重】伊勢國河野郡の村。合三三三。【山梨】甲斐國中巨摩郡の村。駿信街道百田小笠原の間に在り。所謂原七郷煙草産地の中央に居り、近年葉煙草専賣局を設けたるを以て、急劇に繁盛を來たし、銀行、劇場等あり。今は郡中屈指の商業地となれり。合三三三。【福島】磐城國石城郡の村。合三三三。【福島】磐城國伊達郡の村。川俣二木松間の街道に當り、一小站を成す。郵便局あり。福島市の東南三里一八町。合三三三。【富山】越中下新川郡の村。合三三三。【香川】讃岐國綾歌郡の村。合三三三。【熊本】肥後國上益城郡の村。合三三三。【宮崎】日向國西諸縣郡の村。郡の西北隅にして、霧島山狗留孫山の間の谷なり。水流は西走して薩摩の川内川の源を成す。此地は日隔地方より肥後に出づる要路にして、小林驛の西三里一四町とす。白鳥温泉あり、上ノ湯、中ノ湯の二泉出

づ、一は綠野泉にして、一はせせり泉なり。飯野城址は大字原田に在り。もと眞幸院の治所にして、日下部の郡司代々居りし所といふ。永祿年中島津義弘の領となり。日向の伊東、肥後の相良二氏に備へ、明治十年の役、軍本營及病院を此所に置き、且兵糧を貯ふ。六月十三日官軍撃て之を奪へり。合三三三。イイノウラ(飯浦) 【島根】石見國美濃郡小野村の大字。石見の西端にして、長門濱街道の一小驛なり。郵便局あり。イイノカワ(飯野川) 【宮城】陸奥國桃生郡の町。明治三十四年町制を布く。北上川の支派、追波川の北岸に在り。郡役所、警察署、郵便局等あり。南約三里にして、石巻に出づべく、又本吉郡に至るには東及北よりする二路あり。此地仙臺藩政の頃は葛西三郎の采邑なりき。合三三三。イイノゲン(飯野郡) 【三重】伊勢國に在りし郡。明治二十九年廢して飯高郡と合し、飯南郡の新稱を建つ。柳田川下游兩岸の地に在り、面積狭小なり。和名抄乳熊兒國、黒田、長田、清代、神戶の六郷に分つ。後兒國郷は多氣郡に入る。又多氣郡に屬せる柳田郷は、即ち本郡の中央に在り。蓋し和名抄の誤なり。イイノヤ(飯谷) 【靜岡】井伊谷を見よ。イイノヤマ(飯山) 【石川】能登國羽咋郡北邑知村の大字。此島郡高島驛を距る二里二〇町。餘此間眺望極めてよし。イイノヤマ(飯山) 周防國都濃、佐波二郡

イイモイ(飯盛山) 紀伊國那賀郡に在る嶺山。麻生津村及龍門村に互り、嶺區四七萬坪あり。鐵道關西線の名手驛と紀ノ川を隔て、相對す。東に赤沼田嶺山あり、南に神路嶺山あり、明治四十一年使用鐵夫五〇人、女工一八人、採鐵高、酸化鐵礦三四、六、八、三、〇〇貫、製產高、銅一二、七、五、九、四、斤、酸化鐵礦販賣高六、五、七、二、〇、四、貫、價格合計五萬七千圓なり。(本邦鐵業一覽)。

イイモイ(飯盛野) 播磨國加西郡に在る原野。廣三〇町、袤一町、水利なし。イイモリヤマ(飯盛山) 河内國北河内郡に在る山。四條村の東に峙つ。高九五七尺。山背に室ノ池あり。西方一面は澤地にして、往時深野池、草香江あり、遠く大和川に連り、京都男山より攝河、泉への通路は僅かに山脚の一徑路あるのみ。古來兵家の争へる要地にして、南北朝の頃は兩軍多く此邊に戦へり。飯盛山城址あり。



るが如き形状なるを以て、山に名く。●岩代國若松市の東端瀧澤村の南に在る山。會津城下を一時中に收む。明治戊辰の役白虎隊の十九青年、城の陥らんとするを見て、屠腹し、君難に殉せし所なり。●若狭國大飯郡二郡に跨る山。小濱灣の南に時つ古生紀岩より成り、高二〇一〇尺、其形状飯類の如きを以て名く。山麓に飯盛寺あり。●播磨國印南郡の東に在る山。●紀伊國那賀郡の東に在る山。龍門山と相並ぶ。山上に飯盛城址あり。建武元年賊徒之に據り、官軍及高野山の衆徒に破らるといふ。又山下の塞址は高野山の僧兵織田氏の兵と戦ひし所なりといふ。●筑前國早良系島二郡に跨る山。形圓く高く、飯を盛りたるが如し。山下に飯盛神社あり。早良郡金武、壹岐諸村の惣社なり。昔は本社にして、社領多く、毎年正月十五日前より供へ置たる粥の乾潤と飯の發生とを見て、其年の豊凶を卜する神事ありしといふ。飯盛城址は山頂に在り。康安元年菊池武光征西將軍の宮を奉じて博多に出陣せるとき、松浦藩探頭方一色直兵衛を助けて之に據りしが、菊池の將城越前守の爲に陥らる。

に破る。永祿年間三好長慶築きて移る。長慶卒し、島山氏の將遊佐信教之を復せしが、天正四年織田信長の攻むる所となり。城陥る。山下に四條、暖神社あり。楠木正行の靈を祭る。正平四年正行高師直と戦ひて死せる所なり。●伊豆國下内郡の町千曲川の西岸なる一市街にして、長野より越後國中魚沼郡に出づる街道。北國谷通り道に當り、越後國中頸城郡より來る一支道亦來會す。郡役所、警察署、中學校、郵便局等あり。此地方氣候寒冷、積雪丈餘に及び、風雪の日は殆ど往來を絶つ。雪中の業として、居民製紙に従事す。有名なる内山紙是なり。飯山城址は天正年中上杉氏越後より川中島に出づる要害として築く。慶長年中堀(奥田)直寄三萬石を賜はり、此所に居る。元和三年佐久間備中守安次寛永十八年松平大膳亮忠重、寶永三年永井伊賀守宜敬、同八年青山大膳亮幸亮を経て、享保二年本多若狭守助芳之に代はる。封二萬石、世襲して明治維新に至る。八戸郡。●備後國比婆郡八幡村の北に在る山。

野大庭。忌部湯町玉造來待、矢道、波入、二子の一六村ありしが、明治二十九年廢郡。島根、秋鹿二郡と合して八束郡を置く。意字は和名抄於字と注し、筑陽神戶(即ち出雲郡)山代、大草、忌部、拜志、矢道の七郷に分てり。近年訛りてイウと訓む。●伊豆國八束郡の川。一に熊野川といふ。水源、熊野村山間。北流して岩坂村に至り、東北折し、出雲郡村竹矢村の間に至り、中ノ海に入る。流程四里。イエキ(家城)【三重】伊勢國一志郡の村。大和國初瀬新街道に當り、大字南家城に郵便局あり。久居町より四里二八町。瀬戸といふ勝地あり。家城は日本書紀の盧杵にして、仁德天皇の皇子率別王雄鳥皇女と奔り、追兵の爲に殺され、其屍を盧杵河邊に埋むるとあるは是なり。川を隔て、石を疊る窟、里俗夫婦窟あり。其墓なるべし。家城とは其の崩壞して内部の結構露はれしより出し名なるべし。台三三。●伊豆國(家事)【愛媛】伊豫國南宇和郡内海村の大字郵便局あり。●伊豆國(家島)【兵庫】家島を見よ。●イエシマ(伊江島) 琉球國の島。沖繩島四部半島本郡の海上五里半に在り。周圍四里三町、高五六一尺。島の北東は一大石山兀立し、荷蓋の傾倒せる如く、北岸は礁石斗出す。今、伊江村とし、東江上、東江前、西江上、西江前、川平の五大字あり。國頭郡に屬す。●伊豆國(台三三) 伊江一に江惠に作る。漢名梅山にして、明人は

福山嶽と呼べり。陸田よく開け、麥粟豆の産出あり。島の西端、西江前の海岸に燈臺あり。鐵道八角形、黒白横線、第一等回轉白色にして、三十秒毎に一閃光を發す。燈高海面上一六七呎。晴天光達一九哩。明治三十年の設立に係る。●伊豆國(伊江水道) 琉球國沖繩島備瀬嶽と伊江島との中間なる水道。其幅約八鏈、水深二〇尋乃至三三〇尋。數淺灘の阻礙あれども、其水道の正中を通過するを得といふ。●伊豆國(鳥取) 因幡國八頭郡社村の大字。紙の産出を以て知らる。元祿年中此地の里民初めて製紙の業を傳へ、寛政年中高草郡岩坪の民亦之を習ひ、其業漸く國中に傳はる。藩廳米百二十石を賜ひ、賞紙を徴し、後年々例となる。嘉永の頃より三椏を植ふ。近年に及び、因幡二州にて産額一八萬圓に上る。●イエノコ(家之子) 【千葉】上總國山武(舊山邊郡)公平村の大字。家之子館あり。眞親王妃の居りし所といひ、其隣村飯島には其墓といふものあり。●イエヤマ(家山) 【静岡】遠江國藤原郡川根村の大字。大井川の西岸、所謂川根谷の内にして、八荒山(白光山)の陰なり。郵便局あり。金谷驛の北三里半。●イオ(伊保) 【兵庫】播磨國印南郡の村。荒井川(加古川支流)の河口に臨み、北に伊保山を負ひ、南に海に臨む。上古は此地と高砂町との間は全く淺海をなし、如し。

イオウサワ(イオンセン) 【硫黄澤温泉】 【富山】越中國下新川郡黒部谷に在る温泉。信濃國北安曇郡大町より露宿三日の後達し得べし。車馬不通。浴室等の設なし。温度攝氏七〇度。硫化水素臭を放つ。●イオウサン(威王山) 【北海】渡島國檜山郡に在る山。洲根子岬の内方約一哩に在る一小峯にして、夷王山、醫王山にも作る。山上に一廟あり。俗に松前氏の祖嶋崎信廣を葬りし所と稱す。●イオウサン(硫黄山) 【北海】釧路國川上郡に在る山。本名アトサマリといふ。屈斜路湖の東一里半に時つ。多量の硫黄を産するを以て著はる。山麓に鐵道の設あり。二六哩にして標高に達す。●イオウシマ(伊王島) 肥前國四彼郡那須郡村の海上三里に在る島。長崎港外口の南側に位し、南に狹水道を隔て、沖ノ島あり。周圍一里一八町。今伊王島村といふ。白鬚七、島勢凹凸起伏し、東峯は高三五二尺あり。島の北端、東經一二九度四五分、北緯三二度四三分に燈臺あり。鐵道六角形白塗にして、第一等不動白色を顯し、晴天光達二一哩。●イオウシマ(硫黄島) 南洋群島火山列島の一。東京府に屬す。原名をサルファードと呼び、北緯二四度四分、東經一四一度一分に位し、東北より西南西に延く。長約二里、其南角は平頂の禿山にして、高六四尺、西南西より望めば、明に一噴火

口の觀を呈す。此山長三、四里に亘る。狹なる頸地によりて島の北端と連絡す。此北端の頸地に面する方は二、三の叢樹ありて綠色を呈す。然れども北東方は不毛にして白色岩多し。島に人家なし。●大隅國大島郡に屬する島十島村に屬し、川邊十島の一にして、佐多郡燈臺の南、西二二哩に在り。周圍三里三町。其頂嶺は硫黄嶽と稱する噴火山にして、高二三三一尺。其東側は水際迫る。又西傍に一小山あり。東方より之を望めば、恰も富士の如し。島の南側に一小灣あり。水深くして硫黄氣を含めり。灣頭に一小村落あり。居民多く硫黄を採り、又漁業に従事する者あり。農作物は甘藷を専らとす。此島治承元年平康頼、藤原成経、後寛僧部の流瀆せられたる地なり。初は三人別島に在りしが、後皆此島に集れり。後、康頼、成経、後、俊寛のみ残りといひ、足摺石及墳墓等今猶存す。又壽永年中平氏壇浦に敗れ、平實盛等安徳天皇を奉じ、遁れて此島に來り、假に皇居を營み、城塞を築き、天皇は壽を以て崩じ、平氏の子孫今猶存すと傳ふれども附會の説なるべし。●イオウゼン(醫王山) 【石川】加賀國河北郡に在りし村。醫王山麓にして、製紙業の盛なる地なり。明治四十年淺川村に入る。●イオウゼン(醫王山) 加賀國河北郡の東南隅に在る山。一に硫黄山に作り、土俗ヨ一センと呼ぶ。越中國界に跨り、湯涌谷の北に時つ、高三五〇尺。森木川の水源に

して、山中に藥草多し。山麓に大池あり。一大石出で、池に臨み、落ちんとするもの如く、其狀鹿の魚を窺ふに似たりとて鹿が峯といふ。峯上にはもと寺院數多ありしが、僧徒跋扈せるを以て、佐久間盛政悉く燒滅せりといふ。●文籍 越中醫王山に遊ぶ記(石崎光球、山岳、卷四第二號) ●イオウタケ(硫黄岳) 飛騨信濃の國境に跨る山。所謂飛騨山脈の一峯にして、火山なり。標高六七六五尺(一説八八六三尺)。硫黄孔あり。又硫黄の沈澱層あり。其麓に平湯、蒲田湯、山伏湯等の温泉湧出し、又中尾神坂等各六、七十戸の山村あり。孰れも僻地にして、神事又は櫻の餅を常食とす。高山町より平湯まで八里、其間小村落散在す。天正十三年此山爆發して、越中境なる三方崩山附近の民家三百餘戸を埋没し、又安政五年の大地震には山麓諸村埋没して死者三百名を出し、事あり。明治四十一年復爆發して、信濃國安曇郡地方に灰を降らせり。噴火口址は嘗て激しき爆發ありしと覺しく、南より東にかけ崩壊せる所あり。●文籍 硫黄岳登山(山岳、卷三、第三號) 硫黄岳火山地質調査概報(加藤敏之助、災災防調査會報告、第六六號) ●【北海】岩内嶽を見よ。●イオウタニオンセン(硫黄谷温泉) 【鹿兒島】大隅國給良郡、牧園村を見よ。●イオウタニオンセン(硫黄谷温泉) 【鹿兒島】大隅國給良郡、伊豫國の西北海の

稱一に伊豫灘といふ。東は三津濱、奥居島より、西は佐田岬を限り、北は忽那島より、延島に至る一列島嶼によつて安藝灘、周防灘に分離す。●イオウ(伊王野) 【栃木】下野國那須郡の村。名色なり。郵便局あり。醫王山と呼ぶ寺あり。又藥師佛あるより初め醫王野と呼びしを後改めしなりといふ。那須の一族此に居り、伊王野を氏とす。戰國の時、那須七騎の一、入下總守實信豊太閤に仕へ、二千七百石を賜はり、子孫相承せしが、寛永十年嗣なくして絶家。爾來徳川幕府の直轄たり。●文籍 伊王野郷土史(小山田虎助著) ●イオキ(伊興) 【武蔵國南足立郡】の村。竹ノ腰停車場の所在地なり。台三三。●イオキ(伊尾木) 【高知】土佐國安藝郡の村。安藝町の東、伊尾木川口に在り。中世有井といひ、有井氏の居色なり。台三三。●イオキ(五百木) 【愛媛】伊豫國喜多郡五城村の大字。宇和街道に當る。石浦といふ坂路あり。此より大瀬村に通じ、小田久萬山等に至る要路とす。●イオキ(井萩) 【東京】武蔵國豊多摩郡の村。萩窪停車場の所在地なり。台三三。●イオキ(カワ) (伊尾木川) 土佐國安藝郡に在る川。水源、東川村別役。西南流して伊尾木村に至り、海に入る。流程一〇里。●イオキ(タキ) (魚切瀨) 備後國御調郡下河邊村大字河面に在る瀨。高九丈。●イオサキ(魚崎) 【兵庫】攝津國武庫(舊菟







に於て製出す産額六萬圓。
交通 山國なれども近畿と勢尾地方の通路なれば古來道路よく開けたり陸路は東海道伊勢の關より分岐し國の四北隅に入る。栢植川に沿ひて山城に入るを伊賀街道といふ。栢植、佐那具、上野島ヶ原の諸驛あり所謂伊賀越是なり。又大和の初瀬より國の南偏に入り名張阿保を経て伊勢の津に出づるを初瀬街道といふ。別に上野町より起り長野嶺を経て伊勢に出づる伊勢別街道名張町に達する名張街道あり是等を主線とす。鐵道は關西線伊勢の加太驛より來り栢植驛にて二分し一は北して直に近江に入り一は伊賀街道と離合して山城に入り大河原驛に至る。其間に佐那具上野島ヶ原の三驛あり。

酒率 伊賀は天武天皇の九年伊勢四郡を割きて置れし由扶桑略記等に見ゆ。但其以前伊賀國の稱あり蓋し大化改新の時伊賀の稱を停め之を伊勢に合し天武天皇の時之を再置せるならん。和名抄以加と訓じ名張伊賀阿拜山田の四郡とし久しく之に依りしが明治二十九年名張伊賀の二部を合して名賀郡とし阿拜山田を合して阿山郡とし國內二郡となれり。此國上古孝元天皇の皇子大産命の裔孫居り伊賀臣と稱せり。伊賀國造の祖なりといふ。後平氏之に據りしが鎌倉幕府の時平賀惟義(大内氏守護)となり平氏の餘類を討平し其弟朝雅子惟信相繼

き足利氏に至り仁木義長伊勢の守護として兼知す。後北畠栢植服部の諸族あり。永正の末仁木氏衰へ國內騷然たり。天正九年織田信雄之を平定し其臣瀧川雄利を置く。十一年信雄豊臣秀吉と隙あり秀吉の臣脇坂安治上野を襲ひ之を取る。十二年秀吉高井定次を大和より移封し八萬石を與ふ。慶長十三年徳川氏其封を收め藤堂高虎に賜ふ。藤堂氏世襲し上野に城代を置きて治め明治維新に及ぶ。
文藝 伊賀風土記 寫本。伊州故事考(川井景一) 寫本。伊山繁昌記 川口謙敬 寫本。伊賀國名所記 寫本。
イカノナカヤマ 伊賀中山 伊賀國名賀郡阿保村の名所初瀬街道の左長田川の邊なり。ながむれば伊賀の中山きりはれて月に數ふる雁かれの數源頼政の本居宣長亦此を過ぎ岩石の奇なるを賞して河つらの伊賀の中山なかむらに見ればすきき岸の岩むら。

イカハタ(五十畑) 【栃木】下野國下都賀郡静和村の大字。戦國頃足利氏吉河公方の陪臣五十畑氏に居れり。
イカバノツサキ(岬) 【北海】千島國樺提島名國郷香澤の北角。
イガラ伊賀良 【長野】信濃國下伊那郡の村。舊庄名にして飯田市街の南郊なり。又青良に作る。懷中抄に信濃國伊倉山とあるは青良をイクラとよみ誤りしより起れりといふ。飯田名産元結の原料は多く此地により出づ(六六六)。

イガラシ(五十嵐) 【新潟】越後國南蒲原郡の舊庄名もと下田郷と呼び五十嵐川上流の地なり。北東南の三面山岳圍繞し西に向て開き自ら一境を成す。古志郡栢尾谷の北に隣る。今森町鹿嶋長澤の三村に分たる。伊加良志神社(今若一王子)は鹿嶋村大字飯田に在り式内の古社にして五十嵐氏の祖廟なりといふ。五十嵐氏は國內の舊姓にして五十日足彦命の後裔と稱す。源平の頃五十嵐小文治あり世に傳ふ。

イカシガワ(五十嵐川) 越後國南蒲原郡に在る川。水源郡の東南隅なる下田の山中西北流して三條町の西より信濃川に入る。流程一〇里。水流甚だ急なり。上流に八木ヶ鼻と呼ぶ絶壁の勝地あり。
イカライシマ(伊唐島) 薩摩國出水郡長島の屬島。周圍四里三町。漁家多し。島中櫻樹鬱生茂して花時美觀なり。鰯ノ浦といふに島津光久巡回の址あり。
イカリ(伊加利) 【兵庫】淡路國三原郡の村。或は猪狩に作る。淡路の西南二里阿那賀浦の北なる山地なり。溪水は北流して津井浦に至り海に入る。長二里。近世此地に環平橋通俗淡路橋と稱する陶器を出す古雅にして世に賞せらる。加藤平の創製なり(六六六)。

遠稱ならんといふ。●【栃木】下野國鹽谷郡三依村の大字。鬼怒川の一支源男鹿川に沿へる僻村なり。
イカリガセキ(碓ヶ崎) 【青森】陸奥國南津輕郡の村。大字。碓ヶ崎は秋田街道の一小站にして陸羽鐵道四線の車驛あり。弘前より一二哩三六鐘。是より矢立峠を越ゆれば羽後國なり。温泉出づ。鹽類泉にして温度一四六度(六六六)。

イカリイシ(碓石) 【熊本】肥後國天草郡の村(六六六)。
イカルガ(斑鳩) 【兵庫】播磨國揖保郡の村。有名なる古刹斑鳩寺あるを以て村名とす。寺は聖德太子建立の法隆寺別院なり。金堂に本尊釋迦彌勒觀音三層塔には佛舍利を納む。昔時は堂宇多かりしが天文十年兵火に罹る。僧侶仙之を再建し天台宗となる。太子堂は法主講讀の遺像を置き毎年正月四日太子祭を行ふ。賽者甚だ多し(六六六)。●【奈良】大和國平群郡夜摩郷の舊庄名一に船に作る。今生駒郡法隆寺村富郷村の地なり。聖德太子宮室を此所に起し諸寺建立あり。法起寺法輪寺法隆寺等今猶存し無比の靈地にして兼て考古に必要の地なり。
イカルガ(鵜) 【兵庫】播磨國揖保郡斑鳩村の大字。中國街道の一驛にして平野の間に在り。龍野安志綱干に至る道。皆此より分る。郵便局あり。

イカルガ(鵜) 【兵庫】播磨國加古郡の村。俗にキウリとも呼ぶ。斑鳩寺の別院なり。

イカルガ(鵜) 【兵庫】播磨國加古郡の村。俗にキウリとも呼ぶ。斑鳩寺の別院なり。

イカルガケン(何鹿郡) 【京都】丹波國七郡の一。四境。東は山城國愛宕郡及近江國高島郡。西南は天田郡。東南は船井郡。北は若狹國大飯郡。丹後國加佐郡。東西八里一二町。南北五里二五町。面積八方里四四。行政上綾部町及山家中筋以久田佐賀物部。西八田。志賀郷。東八田。小畑吉美。白上林。中上林。奥上林の一三村に分ち。郡役所を綾部町に置く。戸數六六六。●【地勢】郡内丘陵綿互して平地少く北境は殊に險峻なり。山岳は彌仙山北部に屹立し其脈東西に走り國境を成す。其東北に養老山あり。共に丹後に跨る。南部に船山あり。天田郡に跨る。河川は和知川船井郡より來り。山家村にて上林川を合せ。綾部町の北を過ぎて天田郡に入る。道路は舞鶴街道船井郡より來り。山家梅道を経て丹後に入る。別に綾部町を経て天田郡に入る但馬道あり。鐵道は阪鶴線天田郡より來り。綾部梅道を経て舞鶴に通ず。亦京都線將に關部より綾部

に連絡し舞鶴、福知山に通せん。
イカワ(井川) 【静岡】駿河國安倍郡の村。合三三。●【徳島】阿波國三好郡に在りし村。明治三十八年辻町と改稱す。
イカワ(猪川) 【廣手】陸奥國氣仙郡の村。合三三。
イカワシヨウシ(井河城址) 【長野】信濃國東筑摩郡松本村に在る城址。四方に流ありて井字の如きを以て名くといふ。久しく小笠原氏の有たりしが何時の頃より其一族島立右近の右となり。永正年中今の松本の地に移れり。

イカワタニ(伊川谷) 【兵庫】播磨國明石郡の村。明石川の一支源なる伊川谷に沿ひ。垂水村と山を隔つ。天台宗の名刹太山寺は大字前開に在り。山中の幽勝を占む。定慧法師藤原鎌足長男開基。靈龜二年藤原宇合創建。往時は四十一坊ありしが今五坊を存す。元弘元年天台座主護良親王の令旨を得て王事に勤め。赤松氏と相照して大功あり。其令旨は史微墨寶に收む。明石を距る二里中(六六六)。
イカワタニ(井川谷) 駿河國安倍郡に在る齋谷郡の北偏にして大井川の水源地

イカンベツ(鷹別) 【北海】十勝國中川郡に在りし村。明治三十九年幕別村に合す。十勝佐別鷹別の三流に圍まれたる河洲なり。
イキ(壹岐) 【福岡】筑前國早良郡の村。合三三。
イキカイキヨウ(壹岐海峡) 壹岐島と肥前國東松浦郡加唐島馬渡島北松浦郡大島の山大島と呼ぶとの間なる水路。東は玄海灘西は外洋なり。
イキキノオカ(逆回岡) 大和國高市郡に在る市往岡の一名。
イキサン(壹山) 【福岡】筑前國糸島郡の村。肥前國東松浦郡に接せる山村にして。一貴山國界に峙つ。昔神功皇后の勸誘し給ひし神社ありといへど。今名のみ

イキツキシマ(生月島) 肥前國北松浦郡平戸島の北部西側に横はる島。南北二里一五町。東西三〇町。周圍六里二六町あり。其東南角を立石崎と呼び平戸島の白崎と相對し其間を生月瀬と稱す。島の北角は西面險崖東面斜坡にして對面には一の方岩あり。島内數山あり。其最高なる番岳といひ高九二九尺之を南西の方向に望むときは其形恰も龍頭圓錐の如し。島の北部は狹隘にして沿岸水深く。南部は廣二里にして。險峻陸界なり。今生月村と稱し郵便局あり(六六六)。
此島は延喜式に生馬島と記す。當時大牧場ありしが如し。中世以降捕鯨業盛に行はれ。今風指の漁場たり。
イキツキノセト(生月瀬) 肥前國北松浦郡平戸島の北部西側白崎と生月島の東角立石崎との間の水路。船舶は多く平戸海峡より此水路を取る。



イキナシマ(生名島) 伊豫國越前郡に屬する島岩城島の北東に在り。周圍三里二町。今、生名村といふ。島中に花崗石の裸山脈連なり。六百八三。

イキノクニ(壹岐國) 【長崎】肥前國の西北海中に孤立せる一大島。東西四里六町。南北五里。周圍三五里一六町。沿海に七十七の屬島あり。面積一六方里。唯壹岐の一郡あり。行政上、武生、水渡、長柳、田沼津、伏香、椎、箱崎、田河、那珂、石田、初山、志原の一二村に分ち、郡役所を武生水村に置き、長崎縣に隸す。長七六、合三六七。

【地勢】 一般に山低くして高原に類す。其最も高きを南部の嶽ノ峯とし、高七八五尺之に亞ぐな東北端の魚釣山西北端の本宮山とす。地質は全面下部に安山岩あり。上部は火山層、火山玻璃及第三紀層を以て覆はれ、全島到る所耕地ならざるはなく、主として麥、米、大豆を栽培す。氣候溫和、土地肥沃にして、收穫多し。島の周圍は岬灣出入極めて多く、筒城岬、長者原岬、魚釣岬、阿波ノ鼻岬、入鹿岬等斗出し、其間に八幡浦、青邊浦、瀬戸浦、勝浦、浦中城浦、浦之浦、初瀬浦等を擁す。然れども船舶の常に入出するは、南西岸の郷之浦、北岸の勝浦に過ぎず。勝浦は本島第一の市街にして、郷之浦に亞ぎ、諸官衙の所在地なり。之に次ぐを青邊石田、箱崎とし、稍市街の状を成す。

一九一萬貫あり。水産は鰻鮠、煎海魚、鮫、鱈等産額一九萬圓に上る。鹽業、沿岸、壹岐は古事記に伊岐島、萬葉集に由吉能之麻和名抄に由岐島と記し、月讀命の裔此に居り、壹岐縣主と呼べり。鎌倉幕府の時少貳氏島事を管せしが、後松浦黨の志佐志、鹽津留呼子、鳴打の五氏地を分ち、領し、就中志佐氏最も強盛にして遂に守護となる。文明四年肥前國岸岳の城主波多泰來襲し、五氏を滅し、武生水に龜尾城を築きて居る。永祿年中島人波多氏に叛き、平戸の松浦氏に屬し、爾來平戸領となりて明治維新に至れり。此國朝鮮往來の航路に當り、古來要害の地として警備を加へし事、日本紀續日本後紀等に見ゆ。神功皇后の征韓、亦路を此に取リ、今其遺蹟を住吉神社に留む。寛仁三年刀伊來寇し、島守藤原理忠戰死し、殺害せられしもの二百五十二人、掠奪せられし婦女二百三十九人といふ。文永十一年蒙古兵來寇し、守護代平内左衛門尉景隆拒ぎ死す。弘安四年五月蒙古兵再び大舉して來り、犯す。被害甚大なり。松浦黨の諸士防戦死傷あり。賊船轉じて筑前に向ひ、七月一日肥前島に於て颶風に遭ひ、兵艦覆没し、軍皆溺死す。此國もと石田、壹岐の二郡あり。和名抄は石田郡に石田、壹岐郡、物部沼津の四郡、壹岐郡に那賀伊宅、田河、安可須、風早、鮎伏の七郷を載せたり。明治二十九年石田郡を廢し、壹岐郡に合し、國內一郡となる。

出張所管内の縣邊に於て、植民區劃地、豊原の北東に在り。舊稱ダネノ。【北海】渡島國龜田郡に在りし村。明治三十五年七飯村に合す。駒ヶ嶽の南なる窪地の東部に於て、大沼、小沼、其四境に横はる。往時下國安東氏の臣相原周防守政胤戰死の地なれば此名ありといふ。

イキノシマ(生野島) 安藝國豐田郡大崎上島の東北角に在る島。周圍約三里。東野村に屬す。

イキノマツバラ(生松原) 筑前國早良郡姪濱町の西より糸島郡今宿村に至る海濱。其間十二町餘。白砂青松相映じ、風景絶佳。箱崎の千代松原に比す。神功皇后征韓の途、松枝を道に挿し、征韓の事成らば此枝生さんと祈り給ひしに、其松生たりし故に、生松原と名付けしと言ひ傳ふ。松原より少しく東方に壹岐直根子の祠あり。熊野神を合祀す。眞根子は武内宿禰が讒に遇ひし時、代りて死せし人なり。生松原の名或は是より出しに、や宗祇筑紫紀行云、やかてかの松原に至る。大さ一文許にて、皆浦風にかしけたるもあはれなり。引き入りて社あり。御神は熊野にておはしますと云ふ。社のめぐりには、古木あまたむら立木の下は茅原なり。夜の時雨の名残にや、むら／＼おける露のす。葉うちしめりて色、きなきかに、しらすは初霜のまかひたらむやうにて、見過しかたき風情になむ侍る。御神のいきよとてさし給ひけん松は、はやう朽ちて、その根を人守りにかけしなど、かたるもむかしこひしきもよほしなり。【中納言基綱太宰権帥になりて下りけるを送りなまかりて、河尻にてかわらけとりて、める。行末に生の松原なかりせば、何にいのちをかけてましまし。】(後頼朝、大納言経信大貳になりて筑紫にまかりけるに

て、續編七二八二七坪、使用鐵夫五九九人、女工一〇〇人、産出額七八〇八一佛蘭、價格四三萬圓(本邦續業一頁)。

遺す、郡にも久しくいきの松原の、あらはあふせを松もしてまし。】(周防内侍。枝、ことにくその千代を契らん、其神代より生の松原。瀬河後首當陸)。

イキメ(生目) 【宮崎】日向國宮崎郡の村。大淀川の南岸にして、東諸郡に接す。此地に生目神社あり。俗に平景清の兩眼を祭るといふ。一説に此邊は往時宇佐宮領にて、景清といふは其地の人なりしが、感七兵衛と其名の同じきより附會せるならんといふ。六百八六。

イキナ(生比奈) 【長崎】肥前國西彼杵郡の村。六百三三。

イキナ(生比奈) 【徳島】阿波國勝浦郡の村。勝浦川の山谷にして、舊庄名なり。岩松文書に、寶治二年イキナの庄、弘安元年生夷庄とある地とす。大字沼江より多家真村の飯谷に至る間は、危岩兩岸に時、鳴瀧といふ瀑布あり。此邊は太古紀の角岩より成り、燧石を出す。大字、生谷に鶴林寺あり。諸堂壯麗なりしが、明治二十八年焼失せり。六百四三。

イキナ(伊具那) 【宮城】磐城國十郡の一。四境東は互理、相馬二郡、南は相馬郡及岩代國伊達郡、西は刈田郡、北は陸前國柴田郡、東西五里一五町、南北七里三四町、面積二六方里一四。行政上、角田、金山丸森の三町及四根、大隈、館矢間、大内、櫻北郷、東根、枝野、藤尾、野車、小齋の一二村に分ち、郡役所を角田町に置く。戸數七四、四、三。地勢、全部殆ど山脈を

以て圍まれ、唯北方の一部開けたり。阿武隈川西南隅を破り來り、郡の中央を流れ、陸前の國境に就く。其下流は兩岸に肥沃の平野を作り、最も栽桑に適す。角田、金山丸森等の市街此に在り。道路は岩代國津川より來るもの、川に沿ひ陸前に至る。本郡は宮城縣下置業最も盛なる所に於て、農業亦普く行はる。産物は米、四萬石、麥三萬石、其他大豆、馬鈴薯、牛蒡、蕪(四七萬圓)、織物、和紙等あり。伊具は上古の伊久國なり。大化改新の時郡となる。和名抄に杵葉、廣作、靜戶、麻、餘、五郷を載す。一説、天長七年日理郡を割きて置くと云ふ。

イクサ(伊草) 【埼玉】武藏國比企郡の村。一に井草に作る。大字伊草宿。上伊草下伊草は川越松山間の往還に當る。舊川島領の内なり。六百六四。

イクサ(井草) 【東京】武藏國豐多摩郡井草村の地方名。北豊島、北多摩二郡に接す。今上下に分れ、共に井草村の大字たり。上井草、下井草とも見よ。

イクサカ(生坂) 【長野】信濃國東筑摩郡の村。犀川の東岸にして、櫻草の名産あり。北安曇郡の産、皆生坂の名を冒すに至る。郵便局あり。六百八〇。

イクサ(伊草) 【埼玉】武藏國比企郡の村。一に井草に作る。大字伊草宿。上伊草下伊草は川越松山間の往還に當る。舊川島領の内なり。六百六四。

イクサ(井草) 【東京】武藏國豐多摩郡井草村の地方名。北豊島、北多摩二郡に接す。今上下に分れ、共に井草村の大字たり。上井草、下井草とも見よ。

イクサカ(生坂) 【長野】信濃國東筑摩郡の村。犀川の東岸にして、櫻草の名産あり。北安曇郡の産、皆生坂の名を冒すに至る。郵便局あり。六百八〇。



の夏引の糸(夫木集)式内生野神社は大字三俣に在り。【大阪】攝津國東成郡の村台(八)【兵庫】但馬國朝來郡の町。郡の南方、播磨の國境に在り。山陰山陽二道の交界に當る。海拔一〇〇〇尺の高地に在り。東西三〇町、南北二〇町。郵便局あり。居民概ね鐵山に依つて生を營む。鐵道は姫路より此所に至る二七哩是より北和田山を経て城崎に至る城址あり。築造の時代詳ならず。應永の頃山名常照居れる事あり。文久年中浪士等中山忠光を奉じ、兵を大和に擧ぐるや、野平國臣、澤宣嘉(主水正)を奉じて、兵を此地に擧げ、代官を脅して、兵仗食を借り、遂に忠光に應ず。已にして忠光の敗報至り衆散亡す。國臣先づ宣嘉をして遁れしめ、己も此所を去り、遂に捕へられ、遂に獄死す。南八郎以下戦死者の墳墓は山口村に在り。合(六)【山口】長門國豐浦郡の村。下關の西北に隣り、西方は大海に面し、六連島等海上に横はる。鐵道山陽線の幡生驛あり。二哩四四續にして下關に達す。合(二)【七】

奉行たり。中瀬金山も是より以前に開け、別に代官ありしを、此時兼領す。徳川氏慶長三年初めて代官を置く、同十九年大阪冬陣の時、此地の坑夫をして壕に穴を掘らしめし事あり。其代官は但馬播磨美作の公領を掌り、明治に至り御料局に屬し、支廳を置く。近年岩崎氏の有に歸せり。明治四十一年、鐵道一三三、二〇五六坪使用、鐵道一五七八人、女工三三五人、採掘高六八、七三〇四、製鍊元高九八七、〇三、一四、製品金三、二三四二、銀一七六、五五四、銅一、九五〇、九、七、七、價格合計一〇七萬圓なり。イクハ(音波)【兵庫】淡路國津名郡の村。播磨灘に面し、室津の北に接せる海岸なり。城址あり。永正の頃伊久志摩守此所に居り、大内義興に攻られ、城中に自殺す。大永以來板木次郎左衛門居り、二世にして滅す。合(四)【八】

後風土記に記せる古蹟なり。イクベツ(生別)【北海】膽振國勇拂郡別村の字、鶴川、向生川の兩岸に互る。鶴川驛より三里。イクボ(生母)【巖手】陸中國東磐井郡の村。合(三)【九】イクミ(伊久身)【静岡】駿河國志太郡の村。大字伊久美は大井川の東岸にして、島田驛に出づる隘路に當り相距る三里半。合(三)【一〇】イクミ(居組)【兵庫】但馬國美方郡西濱の便あり。中世伊倉に作り、大盛庄といへり。延喜式大盛神社あり。細川幽齋此所に泊して、主従も旅にあれば里の名の居組にしたる假の宿哉。イクモ(生雲)【山口】長門國阿武郡の村。郡の中央にして、萩より地福、徳佐に出づる道路に當る。郵便局あり。又村内に藏目、木、嶺山あり。合(三)【一一】満庭草露吹涼、月影消、流入塘荒蕪、蕭森夜半隔林山、犬一聲長、夜抵生雲、久取支端。イクモ(ガワ)【生雲川】長門國阿武郡に在る川。水源、生雲村、西南流して阿武川に入る。流域四里三四町。イクラ(居倉)【岐阜】美濃國本巢郡川崎の大字。天照大神伊勢に遷座の時暫く駐蹕ありし所といひ、今其址に船形石といふを置く。往古は藪川此所を流れ伊久良河といひしが、後世河道變遷せり。イクラ(伊倉)【熊本】肥後國玉名郡の町。

明治三十二年町となる。菊池川の左岸なり。郵便局あり。此邊舊時は海岸にして、三韓交通の津なれば船津といひしが、年々埋塞して斥鹵の地を作り、加藤氏の時堤防を河口に築き、悉く田地となし、僅に細流唐人川を存せり。大濱町、豊水橋島の諸村は皆後世新聞の地とす。合(三)【一二】イクリ(弁栗)【新潟】越後國南蒲原郡の村。和名抄勇禮郷の遺稱なり。八幡宮は式内伊久禮神社なりといふ。萬葉集に「妹が家に伊久理の森の藤の花、今こむ春も常かく見む」とあるも此處ならんといふ。合(三)【一三】イクル(伊久留)【石川】能登國鹿島郡相馬村の大字。又往留に作る。イクロ(伊栗)【滋賀】近江國高島郡高島村の字。城址あり。戦國の頃伊栗法泉坊なる山門の徒此所に居り、淺井氏に屬せしが、後織田氏に通じ、淺井氏に滅さる。イク(池)【奈良】大和國磯城郡川東村大字法貴寺の古名。イクウラ(池浦)【志摩】志摩國志摩郡西北端の小湊、鳥羽町と小湊半島とを以て相隔つ。海水南方へ響入ること三〇町。其民家を聖神といふ。和名抄伊氣郷の遺稱なり。イクガミ(池上)【東京】武藏國荏原郡の村。大森停車場を距る西南二七町なり。昔此地に千束池と呼ぶ大池ありて、其池の上に當れば名けしと傳ふ。本門寺は大字下池上に在り。下總の中山寺甲斐の身延と併せて、法華宗の三頭と稱せらる。大

利にして、宗祖日蓮入滅の遺跡なり。弘安四年池上宗仲鎌倉番匠の棟梁創建。日蓮自ら開基し、翌五年此所に寂す。八代將軍徳川吉宗深く歸依あり。其前夫人侍妾等の墓此所に在り。以來寺門隆盛堂塔宏大を極む。毎年十月二十三日、二十四の三日は、一大會式を執行し、遠近來賓する者多く、境内立錫の地なきに至る。山の東腹に冷鏡泉湧出す。近年浴舎を設け客を延く。合(四)【一四】イクカワ(池川)【高知】土佐國吾川郡の村。仁淀川の北にして、もと池川郷と呼べり。岩屋川の一小谷を占め、安居山の銅鑛あり。村の首邑を土居といふ。郵便局あり。合(四)【一五】イクカワ(池川)【大和】吉野郡下北山村大字上池原に在る。高三〇丈、幅二間。イクグチ(池口)【遠江】遠江國榛原郡信濃郡下伊那郡に跨る山。赤石山脈の一高峯とす。海拔六三九二尺。其支脈東南に赴くものは大無間山となり、西南に派するものは黒法師嶽となり、三山相圍みて寸又谷を成す。イククワ(生桑)【廣島】安藝國高田郡の村。生田川の水源地にして、石見國に接せる山村なり。大字生田に郵便局あり。足利義昭の墓俗に天下墓と稱するもの生田の智教寺に在り。義昭天正の頃漂零して毛利氏に頼り、茲に葬せしといふ。但し毛利氏は義昭を備後國深津に置きしに、茲

に墓あるは疑ふべし。又野史に義昭は慶長二年大阪に薨せりと傳ふ。合(三)【一六】イクコウチ(池内)【土佐】土佐國土佐郡に在る。瀧十六村大字横矢に屬す。高一五丈、幅三間半、下流四ノ川に注ぐ。イクシマ(池島)【大阪】河内國中河内郡の村。合(三)【一七】イクシマ(池島)【肥前】肥前國西彼郡に屬する島。瀬戸川の海上二里に在り。其形平坦にして、北に一磯濱あり、鹹湖を環抱す。此島と松島との間は長崎平戸間の常航路なり。イクジリ(池尻)【大阪】河内國南河内郡狹山村の大字。狹山池の池尻なり。正平二年楠木正行、細川顯氏と戦ふ。【岐阜】美濃國安八郡北杭瀬村の大字。大垣町の西北に在り。舊東山道此地を經由し、古、杭瀬の渡ありし所とす。戦國の頃は飯沼助平長繼の居城ありたり。イクジリ(池尻)【宮崎】豊州炭嶺を見よ。イクシン(池新田)【静岡】遠江國小笠郡の村。慶長年中新野池を疏水開墾せし地にして、南に遠州灘に面し、御前崎に近し。郵便局あり。合(三)【一八】イクタ(池田)【北海】十勝國中川郡洞寒村の字。鐵道車驛あり。十勝線より綱走線の分岐する所なり。帯廣を距る一五哩。陸別驛まで四八哩。釧路を距る六五哩。此地に池田侯爵の經營せる大農場あり。【大阪】攝津國豐能郡の町。郡内第一の都

會にして、池田川の東岸に在り。大阪を距る五里二十三町、東西九町、南北八町。十六の市坊より成る。豐能郡役所、警察署、區裁判所、郵便局及、飯鷲鐵道車驛あり。大阪より一哩五、合(三)【一九】此地猪名川谷(能勢)細川多田院諸村の口に當り、北方山地の貨物皆此地を經るを以て、集散地なり。能勢地方の炭木部の植木の如き、皆他の地方に輸送するときは池田産を以て著る。殊に此地の酒は對岸の伊丹と等しく、美醴を以て名高し。此地舊名を美服里といふ。應神天皇の時美織、漢織の初めて來着せる地にして、古蹟多し。美織神社は町の南に、漢織神社は町の北に在り。共に此地の氏神とす。唐船ヶ淵は其着船せし址にして、今猪名川に在り。染殿井は絲を染たる所にして、美織神社の南田圃中に在り。絹懸松は町の東北山頂に在り。絹を乾したる所といひ、織殿の舊蹟は南方の田圃に、美服野の字を留め、梅室、姫室は町の北方に在り。二女死去の後、其機織の具を埋藏せる舊蹟なりといふ。字五三堂に古墳あり。明治三十年發掘し、古器物を獲たり。宣化皇子梶子王の墓となせど詳ならず。字美服野に荒木村重主従の墓と稱するものあり。或は上世の遺墳ならんといふ。醫王山壽命寺あり。本尊は藥師佛。美織漢織來朝の時の海上護身佛なり。行基靈夢によりて唐船淵より之を得。自ら十二神將四天王を刻みて之に添ふ。此寺始は神願寺といひしが、後之に

新りて瘦瘠止分しかば壽命寺と改む。町の東北に有岡城址あり。池田信輝の據りし所。池田城址は町の北方五月山に在り。天文の初細川晴元之に據り、永祿十一年池田勝正之に在り。織田氏の降す所となり。後荒木村重之を領す。其山腹に大廣寺あり。【兵庫】攝津國川邊郡川西村に在る鐵道車驛。【群馬】上野國利根郡の村。合(三)【二〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【三〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【三一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【三二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【三三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【三四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【三五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【三六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【三七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【三八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【三九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【四〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【四一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【四二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【四三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【四四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【四五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【四六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【四七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【四八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【四九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【五〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【五一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【五二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【五三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【五四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【五五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【五六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【五七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【五八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【五九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【六〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【六一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【六二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【六三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【六四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【六五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【六六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【六七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【六八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【六九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【七〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【七一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【七二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【七三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【七四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【七五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【七六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【七七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【七八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【七九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【八〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【八一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【八二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【八三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【八四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【八五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【八六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【八七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【八八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【八九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【九〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【九一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【九二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【九三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【九四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【九五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【九六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【九七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【九八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【九九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一〇〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一〇一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一〇二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一〇三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一〇四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一〇五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一〇六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一〇七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一〇八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一〇九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一一〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一一一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一一二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一一三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一一四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一一五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一一六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一一七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一一八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一一九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一二〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一二一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一二二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一二三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一二四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一二五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一二六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一二七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一二八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一二九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一三〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一三一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一三二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一三三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一三四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一三五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一三六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一三七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一三八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一三九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一四〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一四一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一四二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一四三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一四四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一四五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一四六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一四七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一四八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一四九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一五〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一五一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一五二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一五三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一五四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一五五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一五六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一五七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一五八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一五九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一六〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一六一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一六二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一六三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一六四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一六五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一六六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一六七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一六八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一六九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一七〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一七一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一七二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一七三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一七四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一七五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一七六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一七七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一七八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一七九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一八〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一八一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一八二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一八三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一八四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一八五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一八六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一八七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一八八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一八九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一九〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一九一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一九二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一九三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一九四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一九五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一九六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一九七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一九八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【一九九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二〇〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二〇一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二〇二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二〇三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二〇四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二〇五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二〇六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二〇七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二〇八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二〇九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二一〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二一一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二一二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二一三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二一四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二一五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二一六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二一七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二一八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二一九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二二〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二二一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二二二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二二三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二二四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二二五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二二六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二二七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二二八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二二九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二三〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二三一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二三二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二三三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二三四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二三五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二三六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二三七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二三八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二三九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二四〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二四一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二四二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二四三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二四四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二四五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二四六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二四七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二四八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二四九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二五〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二五一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二五二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二五三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二五四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二五五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二五六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二五七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二五八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二五九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二六〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二六一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二六二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二六三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二六四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二六五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二六六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二六七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二六八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二六九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二七〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二七一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二七二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二七三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二七四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二七五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二七六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二七七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二七八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二七九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二八〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二八一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二八二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二八三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二八四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二八五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二八六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二八七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二八八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二八九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二九〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二九一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二九二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二九三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二九四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二九五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二九六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二九七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二九八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【二九九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【三〇〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【三〇一】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【三〇二】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【三〇三】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【三〇四】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【三〇五】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【三〇六】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【三〇七】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【三〇八】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【三〇九】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【三一〇】【静岡】遠江國磐田郡の村。合(三)【三一〇】



戸倉峠を降れば播磨國赤松郡に出づ、其小驛を落折といふ。此より若櫻驛まで三里、赤松郡の安積驛まで六里とす。若櫻堂は大字若櫻堂に在り。高六間、幅五間、深約四十尺の洞窟中に小堂を造り、不動尊像に黒皮不動を安置す。當國三不動の一なり。平經盛一族の墓と稱するものあり。本寺は神光寺と稱し、七堂作りの大寺なりしといふ。【鳥根】石見國安濃郡佐比賣村の大字。浮沼池の畔に在り。郵便局あり。【鳥根】隱岐國周吉郡中條村の大字。四郷町の西北一里に在り。國分寺あり。後醍醐天皇遷幸の時行在所とせり。明治維新の時官吏命じて島内の寺院を破却せる折、此寺亦其災に罹る。明治十二年再興せし。舊觀に復する能はず。【岡山】備中國吉備郡の村。横谷川の高梁川に合する所に在り。一帯の連山河流に臨み、樹木鬱茂し、風景佳なり。入若し此山に向て高聲を發せば、明に其反響を聞くべし。古來鸚鵡石と稱し、名高し。此地又豪谷の勝あり。【岡山】備中國淺口郡に在りし村。明治三十八年道口村と合し、宮田村となる。【和歌山】紀伊國那賀郡の村。和泉國に接する山村にして、首邑を北大井といふ。郵便局あり。山中に海神池(一)に浦上池あり。其水を引きて田圃に灌漑するが故に池田の名あり。池邊に海神社あり。其邊を神領といふ。又車塚とて大磯の虎女が熊野詣の途、茲に死せるを葬りしと傳ふるも

のあり蓋し古の墳墓ならんといふ。眞言宗福琳寺は大字豊田に在り。古の慈氏寺なりと傳ふ。慈氏寺の事は靈異記に見ゆ。【六宮】【徳島】阿波國三好郡の町。明治三十八年町となる。郡中第一繁華の地にして、吉野川の南岸に沿ひ阿紀灘に向て輕舟の便あり。北には讃岐瀬戸内海への道路あり。西南は伊豫土佐に山徑を通じ、山間交通の要地なり。三好郡役所、警察署郵便局等あり。徳島市を距る一九里二五町、六三三。此地は藍茶煙草甘蔗漆等の物産あれども産額多からず。然れども銅山川山城谷に産する煙草は概ね此地に於て製造するを以て、其業盛なり。近年新道の開けしより、讃岐國との取引盛なるに至れり。池田城址は阿波九城の一にして、三好氏の館址なり。源賴朝小笠原長清を阿波の守護に封するに及び、長清城きて茲に居り、子孫相嗣ぎ三好氏を稱す。元長義賢に至り、勝頼に移り頼武之を領す。後長曾我部氏の陥る所となる。蜂須賀氏に至り、家老牛田氏を置きしが、寛永年中廢城となる。【香川】讃岐國小豆郡の村。小豆島の西南海岸に在り。池田灣を抱き、北に大瀬山峙つ。良好の索麵を出す。郵便局あり。湯船庵に字中山に在り。應永年間池浦信胤の造營といふ。堂下湧泉あり。瀧水寺は大瀬山の西に在り。觀世音を安置す。飛泉あり。西ノ瀧又は虹ノ瀧といふ。龜山神社は郡内五社の一にて、應神天皇を祀る。社地高燥、秋季大祭に

は老幼雜沓を極む。【白三】【熊本】肥後國肥前郡の村。熊本市の西北郊なり。往後國肥前郡の村。熊本古町に再興し、享保九年此地に移す。徳川氏代々の位牌を安置し、巨利なりしが、明治十年兵燹に罹り、今の堂宇は其殘なりといふ。【白三】イケタ(池多)【富山】越中國婦負郡の村。【白三】イケタ(井桁)【鳥島】岩代國南會津郡館岩村の字。もと井下田に作る。イケタ(ガワ)池田川 攝津國に在る猪名川の名。イケタ(ガワ)生田川 安藝國高田郡に在る川。水源生樂村の山中。北村來原村を過ぎ、船佐村に至り、江川に入る。長七里。イケタ(クワン)池田郡 【岐阜】美濃國に在りし郡。明治二十九年廢して大野郡に合せ、揖斐郡と改稱す。美濃國の西北隅にして、越前近江と山脈を接し、僻遠の境多し。昔は不破郡の一部なりしを大寶以後に分置せしならんといふ。和名抄伊介太と註し、額田王生小島伊福春日池田の六郷を載す。イケタ(タニ)池田谷 越前國今立郡の東部に在る溪谷。山岳四圍自ら一境を成す。今上池田、下池田の二村に分る。猪水集りて、北に潰決す。足羽川の上流なり。此地より郡内騎江地方に出づるに、清水谷嶺、魚見坂、板垣坂の三路あり。美濃國界に冠ヶ岳、足羽郡界には郡子岳あり。深山幽谷連り、人跡稀なり。須波阿須疑神社

イケタ(池田) 薩摩國揖保郡今和泉村大字池田に在る池。國內第一の大池にして、周圍四里二五町、深一五〇尋。其水清冽甘美。近村の用水たり。餘水は南に決し、御瀬川となり、海門岳の東麓に至り海に入る。其海口は川尻浦なり。池の三方には山岳圍繞し、一方は水田造り、又附近に鏡池、鏡池等あり。昔開闢岳噴火作用に因りて成立せるものとす。イケタ(マチ)池田町 【長野】信濃國北安曇郡の村。高瀬川の東岸にして、越後國糸魚川街道の一市街なり。警察分署郵便局等あり。此地の東一里に登波離橋あり。磯岩深谷の間に架す。【白三】イケタ(ヤマ)池田山 因幡國八頭郡播磨國赤松郡に跨る山。高二五二〇尺。イケツ(ガワ)池津川 大和國吉野郡の西部に在る川。一に紫園川といふ。大俣川源流の一なり。イケツ(ガワ)ユウザン(池津川) 大和國吉野郡野道川村に在る鐵山銅を産す。イケツ(キ)池月 【宮城】陸前國玉造郡一栗村の大字。佐々木高綱が騎せし名馬池月は此地より出でしと傳ふ。イケツ(キ)ガワ(池月川) 【樺太】大泊支廳留多加出張所管内に在る川。舊稱イカツキナイ川。又パーチンスカヤレーチカ。イケデラ(池寺) 【滋賀】近江國犬上郡東

甲真村の大字。川瀬停車場を距る東南一里とす。有名なる古刹西明寺あり。仁明天皇勅願所。承和年中僧三修の草創と稱し、今尙本堂寶塔等十七宇を存す。一千年前の結構にして、其本堂は七間四面、向拜三間あり。近年特別保護を加へらる。イケニエ(ガワ)生野川 駿河國富士郡に在る川。水源富士の裾野。西南流して吉原町の東を経て、洞川に合す。流程四里。古は此所にて人の生贖を神祇に献りし事ありと傳へ、謡曲にも作れり。イケニシ(池西) 【香川】讃岐國香川郡の村。【白三】イケノ(池野) 【愛知】尾張國丹羽郡の村。【合六】【岐阜】美濃國揖保郡池田村の大字。本郷村及池田村の一部相交りて市街を成せるものにして、不破郡赤坂驛より揖斐町に至る要路なり。もと原野なりしが、明治十九年揖斐谷汲兩地の改修に伴ひ、俄に發達せる地にして、近村日常品の供給地たり。警察分署郵便局あり。【福岡】筑前國宗像郡の村。【白三】イケノウエ(池上) 【熊本】肥後國肥前郡の村。金峯山の南、花園山の西に當り、坪井川之を貫流す。慶長年中味生池を埋め、河渠を通じ、高橋の津頭を開きたりといふ。池邊寺あり。【白三】イケノウチ(池内) 【京都】丹後國加佐郡の村。【白三】イケノウラシマ(池ノ浦島) 土佐國幡多郡宿毛港前の島。周圍一里二町。人家あり。

イケノ(タニ)池谷 【徳島】阿波國板野郡堀江村の大字。大瀬山の南なり。土御門天皇の阿波御陵(一)説に里浦の古墳ありといふあり。蓋し火葬所なり。御遺骨は山城國乙訓郡金原に移さる。イケノ(トウゲ)池ノ邊 上野國吾妻郡六合村大字。入山より信濃國下高井郡平塚村字湯田中に越ゆる峠道俗にイケノトウゲとも呼ぶ。イケノ(ハタ)池之端 越後國北蒲原郡中浦村の大字。寛永五年新發田藩二祖宣勝三男内記宣俊を分封せる地にして、子孫瀧口氏を稱し、徳川旗下に列す。藤五千石。イケノ(ヤシ)池林 【愛知】尾張國東春日井郡に在りし村。明治三十九年篠岡村に入る。イケノ(ガワ)池原川 大和國に在る北山川の別稱。イケノ(クワ)池袋 【東京】武藏國北豐島郡東葛村の大字。板橋町に近く、雑司が谷の北に當る。貝塚多くあり。石炭出づ。近年豊島師範学校の設立あり。又山ノ手線車路あり。赤羽新橋線の分岐點なり。イケノ(池邊) 【岐阜】美濃國美濃郡の村。【白三】イケノ(シマ)池間島 琉球國宮古列島の一。宮古島北角の北方約一哩に横はり、其間殆ど礁脈に由て連結す。全島高一〇〇尺内外にして、樹木なく、唯阿貝樹と耕地とのみ島の南部に池間前里なる二村落あり。宮古郡平良村に屬す。支那人は伊

奇麻又は伊喜麻に作り、土人はイナマと呼ぶ。【白三】イケワ(池和田) 【千葉】上總國市原郡鶴舞町の大字。此邊土地高く水乏しきを以て、田尾川に水揚器械を設け、概し五十町歩の灌漑に供す。頗る奇巧なりといふ。城址あり。和太正治の居城たりしといふ。里見氏の時多賀氏之を守る。水藤七年北條氏康攻めて之を取り、狂歌を誅す。『正木にて結びたる桶のたがされて、水もたまたの池の和田かな』正木時忠大田喜城に在り、之を聞き兵を出して、之を抜き返すに、『正木にて結びたる桶のたが強く、水も洩らさぬ池の和田かな』北條氏復た之を攻む。百餘日にして城陥る。又通照院あり。眞言宗の壇林なり。イゴ(伊後) 【鳥根】隱岐國隱岐郡に在りし村。明治三十七年周吉郡中村に合す。イゴ(伊古) 【埼玉】武藏國比企郡宮前村の大字。松山町の西北二里を隔つ。式内の古社伊古神社(一)に淡州明神あり。伊古乃速玉姫を祀る郡中の總社なり。古は殊に大社にして、一の鳥居は石橋村の字内青島に立ちしと傳ふ。イコシ(射越) 【岡山】備前國邑久郡豊村の大字。兒島高徳の父和田範貞の居りし所といふ。イコマ(生駒) 【愛知】三河國東加茂郡に在りし村。明治三十九年旭村に入る。イコマ(生馬) 【鳥根】出雲國八束郡の村。【白三】【和歌山】紀伊國西牟婁郡の

村【白三】イコマ(ガワ)生駒川 大和國生駒郡に在る川。平群川又龍田川といふ。水源生駒山東麓南流して平群谷を經、龍田村を貫き、大和川上流に入る。流程三里三三町。一の國の西北端に在り。四境、東は添上郡、南は北葛城郡、西は河内國北河内、中河内二郡、北は山城國相樂郡、廣一里一三町、表五里二六町、面積六方里三〇。行政上、郡山、龍田の二町及筒井片桐矢田、北條、富雄、平城、伏見、都野、南生駒、北生駒、平群、三郷、法隆寺、富郷、木多、安堵、平端の十七村に分ち、郡役所を郡山町に置く。【白三】イコ(生駒) 地勢、西河内の國境には生駒山、暗峠、十三峠、信貴山等相並ぶ。支脈部の西北部に蜿蜒して平地少く、矢田山、松尾山、龍玉山等あり。東南に至るに従ひ、稍開闢なり。河流は西境に生駒川あり。富ノ小川其東に在り。秋篠川更に其東にあり。而して佐保川添上郡より來り、此三川を合せ、龍田川となり、郡の南界を成す。道路、奈良街道郡の東南を走り、郡山町龍田町を経て河内の國府に達するものを主とし、別に暗越、奈良街道古堤街道、郡山街道等あり。鐵道は關西線王子驛にて分れ、奈良に達するもの本郡を通過す。郡山、法隆寺の二驛あり。交通の便宜しく、商業盛なり。物産は米(二三萬石)、麥(三萬六千石)を主とし、其他菜種、大豆、甘藷、青牛、半麥、製茶











イシカ

【愛知】三河國四加茂郡に在りし村。明治三十九年石野村に入る。矢作川の左岸にして、郵便局あり。母町へ二里半。

【石狩】尾張國知多郡に在る川。水濱、桶狭間附近。大府村にて堺川に入る。小流なれども石ヶ瀬合戦を以て聞ゆ。永祿元年緒川の水野信元岡崎の松平元康と戦ふ。水野は織田氏に松平は今川氏に属したれども、伯父甥なり。同三年及四年にも復た兩家の合戦あり。

【石狩】尾張國知多郡に在る山。高三二六〇尺。イシカミ(石神) 【千葉】上總國夷隅郡元村の大字。大多喜町の南なる山村とす。夷隅川の上流此に至り飛瀑となる。瀑下深潭を成し、頗る壯觀なり。此附近を俗に山中八村と呼び、今、總元村と稱す。【茨城】常陸國那珂郡の村。大字石神外宿は陸前濱街道に當り小市街を成す。近年鐵道常磐線の停車場を置く。東京上野驛より八三哩二二鎮。元來、石神は那珂郡東北偏の地方名にして久慈川口の南岸をいへり。文祿以前は石神内宿外宿白方北河原四村の總稱なりといふ。今村名となれども、石神白方石神豐岡は村松村に屬す。【福島】磐城國相馬郡の村。合置三。

【茨城】常陸國那珂郡の村。大字石神外宿は陸前濱街道に當り小市街を成す。近年鐵道常磐線の停車場を置く。東京上野驛より八三哩二二鎮。元來、石神は那珂郡東北偏の地方名にして久慈川口の南岸をいへり。文祿以前は石神内宿外宿白方北河原四村の總稱なりといふ。今村名となれども、石神白方石神豐岡は村松村に屬す。【福島】磐城國相馬郡の村。合置三。

【茨城】常陸國那珂郡の村。大字石神外宿は陸前濱街道に當り小市街を成す。近年鐵道常磐線の停車場を置く。東京上野驛より八三哩二二鎮。元來、石神は那珂郡東北偏の地方名にして久慈川口の南岸をいへり。文祿以前は石神内宿外宿白方北河原四村の總稱なりといふ。今村名となれども、石神白方石神豐岡は村松村に屬す。【福島】磐城國相馬郡の村。合置三。

【茨城】常陸國那珂郡の村。大字石神外宿は陸前濱街道に當り小市街を成す。近年鐵道常磐線の停車場を置く。東京上野驛より八三哩二二鎮。元來、石神は那珂郡東北偏の地方名にして久慈川口の南岸をいへり。文祿以前は石神内宿外宿白方北河原四村の總稱なりといふ。今村名となれども、石神白方石神豐岡は村松村に屬す。【福島】磐城國相馬郡の村。合置三。

【茨城】常陸國那珂郡の村。大字石神外宿は陸前濱街道に當り小市街を成す。近年鐵道常磐線の停車場を置く。東京上野驛より八三哩二二鎮。元來、石神は那珂郡東北偏の地方名にして久慈川口の南岸をいへり。文祿以前は石神内宿外宿白方北河原四村の總稱なりといふ。今村名となれども、石神白方石神豐岡は村松村に屬す。【福島】磐城國相馬郡の村。合置三。

イシカ

【石狩】石狩川に在り。市街は石狩川の左岸に沿ひ、市坊一〇あり。天鹽街道の要路に當り、北に厚田濱益兩郡の漁場を控へ、物資集散の中心たり。郵便局警察署等あり。札幌を距る五里半。合置三。港は東西四町。南北一〇町。深一尋乃至五尋。燈臺あり。不動白色にして、晴天光達九里。此地往古の石狩濱にして、松前氏石狩三場所の一なり。古くより開拓寛文の頃能登の漁民松前より來りて、漁業を營めりといふ。古來蝦夷地第一の鮭漁場にして、秋漁は此地を以て本場とす。

【石狩】石狩川に在る川。北海道第一の大河にして、水源石狩岳。上川原野を過ぎ、雨龍、空知二郡の境を流れ、雨龍太に至り、雨龍川を合せ、南流して空知太に至り、空知川を合せ、江別に至り、夕張川を合せ、石狩町に近づき、北方に屈曲して海に入る。流程九二里二八町。河幅二二二間餘。深七尋あり。中流

【石狩】石狩川に在る川。北海道第一の大河にして、水源石狩岳。上川原野を過ぎ、雨龍、空知二郡の境を流れ、雨龍太に至り、雨龍川を合せ、南流して空知太に至り、空知川を合せ、江別に至り、夕張川を合せ、石狩町に近づき、北方に屈曲して海に入る。流程九二里二八町。河幅二二二間餘。深七尋あり。中流

【石狩】石狩川に在る川。北海道第一の大河にして、水源石狩岳。上川原野を過ぎ、雨龍、空知二郡の境を流れ、雨龍太に至り、雨龍川を合せ、南流して空知太に至り、空知川を合せ、江別に至り、夕張川を合せ、石狩町に近づき、北方に屈曲して海に入る。流程九二里二八町。河幅二二二間餘。深七尋あり。中流

【石狩】石狩川に在る川。北海道第一の大河にして、水源石狩岳。上川原野を過ぎ、雨龍、空知二郡の境を流れ、雨龍太に至り、雨龍川を合せ、南流して空知太に至り、空知川を合せ、江別に至り、夕張川を合せ、石狩町に近づき、北方に屈曲して海に入る。流程九二里二八町。河幅二二二間餘。深七尋あり。中流

【石狩】石狩川に在る川。北海道第一の大河にして、水源石狩岳。上川原野を過ぎ、雨龍、空知二郡の境を流れ、雨龍太に至り、雨龍川を合せ、南流して空知太に至り、空知川を合せ、江別に至り、夕張川を合せ、石狩町に近づき、北方に屈曲して海に入る。流程九二里二八町。河幅二二二間餘。深七尋あり。中流

【石狩】石狩川に在る川。北海道第一の大河にして、水源石狩岳。上川原野を過ぎ、雨龍、空知二郡の境を流れ、雨龍太に至り、雨龍川を合せ、南流して空知太に至り、空知川を合せ、江別に至り、夕張川を合せ、石狩町に近づき、北方に屈曲して海に入る。流程九二里二八町。河幅二二二間餘。深七尋あり。中流

イシカ

【石狩】石狩川に在る川。北海道第一の大河にして、水源石狩岳。上川原野を過ぎ、雨龍、空知二郡の境を流れ、雨龍太に至り、雨龍川を合せ、南流して空知太に至り、空知川を合せ、江別に至り、夕張川を合せ、石狩町に近づき、北方に屈曲して海に入る。流程九二里二八町。河幅二二二間餘。深七尋あり。中流

【石狩】石狩川に在る川。北海道第一の大河にして、水源石狩岳。上川原野を過ぎ、雨龍、空知二郡の境を流れ、雨龍太に至り、雨龍川を合せ、南流して空知太に至り、空知川を合せ、江別に至り、夕張川を合せ、石狩町に近づき、北方に屈曲して海に入る。流程九二里二八町。河幅二二二間餘。深七尋あり。中流

【石狩】石狩川に在る川。北海道第一の大河にして、水源石狩岳。上川原野を過ぎ、雨龍、空知二郡の境を流れ、雨龍太に至り、雨龍川を合せ、南流して空知太に至り、空知川を合せ、江別に至り、夕張川を合せ、石狩町に近づき、北方に屈曲して海に入る。流程九二里二八町。河幅二二二間餘。深七尋あり。中流

【石狩】石狩川に在る川。北海道第一の大河にして、水源石狩岳。上川原野を過ぎ、雨龍、空知二郡の境を流れ、雨龍太に至り、雨龍川を合せ、南流して空知太に至り、空知川を合せ、江別に至り、夕張川を合せ、石狩町に近づき、北方に屈曲して海に入る。流程九二里二八町。河幅二二二間餘。深七尋あり。中流

【石狩】石狩川に在る川。北海道第一の大河にして、水源石狩岳。上川原野を過ぎ、雨龍、空知二郡の境を流れ、雨龍太に至り、雨龍川を合せ、南流して空知太に至り、空知川を合せ、江別に至り、夕張川を合せ、石狩町に近づき、北方に屈曲して海に入る。流程九二里二八町。河幅二二二間餘。深七尋あり。中流

【石狩】石狩川に在る川。北海道第一の大河にして、水源石狩岳。上川原野を過ぎ、雨龍、空知二郡の境を流れ、雨龍太に至り、雨龍川を合せ、南流して空知太に至り、空知川を合せ、江別に至り、夕張川を合せ、石狩町に近づき、北方に屈曲して海に入る。流程九二里二八町。河幅二二二間餘。深七尋あり。中流

【石狩】石狩川に在る川。北海道第一の大河にして、水源石狩岳。上川原野を過ぎ、雨龍、空知二郡の境を流れ、雨龍太に至り、雨龍川を合せ、南流して空知太に至り、空知川を合せ、江別に至り、夕張川を合せ、石狩町に近づき、北方に屈曲して海に入る。流程九二里二八町。河幅二二二間餘。深七尋あり。中流

イシカ

【石狩】石狩川に在る川。北海道第一の大河にして、水源石狩岳。上川原野を過ぎ、雨龍、空知二郡の境を流れ、雨龍太に至り、雨龍川を合せ、南流して空知太に至り、空知川を合せ、江別に至り、夕張川を合せ、石狩町に近づき、北方に屈曲して海に入る。流程九二里二八町。河幅二二二間餘。深七尋あり。中流

【石狩】石狩川に在る川。北海道第一の大河にして、水源石狩岳。上川原野を過ぎ、雨龍、空知二郡の境を流れ、雨龍太に至り、雨龍川を合せ、南流して空知太に至り、空知川を合せ、江別に至り、夕張川を合せ、石狩町に近づき、北方に屈曲して海に入る。流程九二里二八町。河幅二二二間餘。深七尋あり。中流

【石狩】石狩川に在る川。北海道第一の大河にして、水源石狩岳。上川原野を過ぎ、雨龍、空知二郡の境を流れ、雨龍太に至り、雨龍川を合せ、南流して空知太に至り、空知川を合せ、江別に至り、夕張川を合せ、石狩町に近づき、北方に屈曲して海に入る。流程九二里二八町。河幅二二二間餘。深七尋あり。中流

【石狩】石狩川に在る川。北海道第一の大河にして、水源石狩岳。上川原野を過ぎ、雨龍、空知二郡の境を流れ、雨龍太に至り、雨龍川を合せ、南流して空知太に至り、空知川を合せ、江別に至り、夕張川を合せ、石狩町に近づき、北方に屈曲して海に入る。流程九二里二八町。河幅二二二間餘。深七尋あり。中流

【石狩】石狩川に在る川。北海道第一の大河にして、水源石狩岳。上川原野を過ぎ、雨龍、空知二郡の境を流れ、雨龍太に至り、雨龍川を合せ、南流して空知太に至り、空知川を合せ、江別に至り、夕張川を合せ、石狩町に近づき、北方に屈曲して海に入る。流程九二里二八町。河幅二二二間餘。深七尋あり。中流

【石狩】石狩川に在る川。北海道第一の大河にして、水源石狩岳。上川原野を過ぎ、雨龍、空知二郡の境を流れ、雨龍太に至り、雨龍川を合せ、南流して空知太に至り、空知川を合せ、江別に至り、夕張川を合せ、石狩町に近づき、北方に屈曲して海に入る。流程九二里二八町。河幅二二二間餘。深七尋あり。中流

【石狩】石狩川に在る川。北海道第一の大河にして、水源石狩岳。上川原野を過ぎ、雨龍、空知二郡の境を流れ、雨龍太に至り、雨龍川を合せ、南流して空知太に至り、空知川を合せ、江別に至り、夕張川を合せ、石狩町に近づき、北方に屈曲して海に入る。流程九二里二八町。河幅二二二間餘。深七尋あり。中流

川村は風指の農産地にして、小豆、菜種、大豆等を産す。空知川沿岸は赤平より富良野に亘り、小豆、菜種、玉蜀黍を出す。上川地方は北海道第一の米産地にして、反別七千町歩、産額十萬石を越ゆ。厚田濱益の海岸地方は専ら漁業に従事す。【氣候】氣温は渡島地方に比し、年内平均は低く、神居古潭以東上川地方は大陸的氣候を有し、寒暑何れも酷烈なり。【産業】農産は雑穀の産出極めて多く、又亞麻、甜菜等を出す。藍と米とは近年著しく産額を増加せり。水産には石狩川の鮭あり、收穫全道第一とす。其他鱈、鱒、鱈、鼠、昆布等あり。礦産には石炭あり。其炭層區域の廣大なること、全道に冠たり。其主なるものを空知、夕張、上川、天鹽、幾春別、幌內、下川、夕張、又硫黄、石油あり。農産物は總額約八三四萬圓、其主なるものは米二二萬石、二二萬石にして、其他大豆、小豆、菜豆、豌豆、玉蜀黍、蕎麥、燕麥、菜種、馬鈴薯、玉葱、甘藷、蘿蔔、胡蘿蔔、牛蒡、亞麻あり。又繭(價一〇萬圓)を出す。牧畜は盛行し、現在牛三〇九九頭、馬二四二三四頭あり。林産物は七八萬圓、内木炭九萬圓あり。水産物(四〇萬圓)の過半は鮭、肥料なり。礦産物は石炭を主とし、少許の砂金あり。總計七七〇萬圓、工産物は清酒、醬油、味噌、燐寸、木、煉瓦等あり。【交通】道路は石狩河口近傍は砂濱なれども、北方に至るに従ひ、絶壁多く、僅に入馬を通ず。驛路は小樽より來り、札幌岩

見澤、空知、太田、永山、伊香、牛の諸驛を経て、北見國網走に至るもの、是を上川街道とし、札幌より起り、月寒、島松の諸驛を経て、苦小牧に至るもの、室蘭街道あり。増毛街道は札幌より起り、對馬、月形、新十津川、惠徳、別仁、奈良の諸驛を経て、天鹽に入り、西海岸通りに接続す。西海岸通りは札幌より起り、篠路、茨戸、石狩、厚田、濱益等を経て、天鹽に入る。鐵道は小樽より來り、札幌を経て、岩見澤に至り、三線に分れ、一は南下して夕張及室蘭に通じ、一は東向して、幾春別、幌內に終り、一は北向して旭川に至り、更に二分し、一は南向して十勝に入り、一は北走して天鹽に入る。【沿革】石狩は原名をイシカリベツといふ。回流川の義なり。石狩川の河口甚だ風曲回流するに出づといへり。松前氏の初代、阿伊努住せしかど、寶永三年、石狩、厚田、濱益の三場所を置き、家臣の采邑とし、文政元年更に十三場所となし、受貢人をして漁業を營ましむ。其間、漸く其要防備の事なかりしが、徳川幕府漸く其要を覺り、全道を改めて直轄となせるより世人の注意を引き、探検視察をなせる者多し。明治二年開拓使を置くに及び、治を札幌に創め、十二年幌內、炭山を開拓し、鐵道通じ、交通開けしかば、人口漸く稠密となり、後旭川に師團を設くるに及び、全道の軍事政治の中心となれり。【イシカワ(石川)】【北海】渡島國龜田郡龜田村の大字。結構野の東偏なり。同名の川

あり。末流は龜田上流の郡界を成す。【京都】丹後國與謝郡の村。合置三。【大阪】河内國河南内郡石川郡の村。富田、林町の東に接す。石川、城址あり。養和年間源義基の據りて源賴朝に應ぜし所。後壽永三年源行家此所に在りて、源義仲の將樋口兼光に攻められ、出亡せることあり。合置三。【千葉】上總國市原郡内田村の大字。牛久嶋舞間の道に當る。曹洞宗の名刹龍溪寺あり。大永元年益芝、明周和尚の開基といふ。寺内に林忠吉の墓あり。忠吉は大阪の役に戦死し、其首級を葬れりといふ。子孫は請西藩主たり。【奈良】大和國高市郡白檜村の大字。蘇我氏の祖石川宿禰の移住せる所。蘇我馬子の石川精舍は此地に在りしといふ。孝元天皇の御池、陵あり。【福島】磐城國石川郡の町。郡の首邑にして、西南部に在り。棚倉三春間及須賀川濱街道間の道此所に懸る。山間に餘在すれども、往時石川氏の陣屋のありし所なり。郡役所、警察署、郵便局等あり。合置三。石川は和名抄郡名とし、結城文書に記す。康平年中物部有光源義家に從ひ、石川郡の代官となり、此所に居り、石川氏を稱し、三盧城を築き、足利氏の時に至る。天正年中石川照光盧名氏に結び、伊達氏に抗せしも、終に降り、其老臣に列し、封を角田に受く。石都々古別神社あり。延喜式白河郡七座の一なり。味高相産根命外一座を祀る。【青森】陸奥國南津軽郡の村。合置三。

【石狩】石狩川に在る川。北海道第一の大河にして、水源石狩岳。上川原野を過ぎ、雨龍、空知二郡の境を流れ、雨龍太に至り、雨龍川を合せ、南流して空知太に至り、空知川を合せ、江別に至り、夕張川を合せ、石狩町に近づき、北方に屈曲して海に入る。流程九二里二八町。河幅二二二間餘。深七尋あり。中流



郡を建て、大國雜居、佐備の四郡あり、後世往々錦部郡と混同し、東條郡と稱せることあり。●【福島】磐城國十郡の一、四境東は石城郡、北は田村郡、西は岩代國岩瀬郡、南は東白河川、東は白河川、西五里一五町、南北七里一五町、面積二〇方里四九行政上、石川町及澤田野木澤泉川東小鹽江、大森田、須登達田、小平、母畑、中谷山橋、山白石、淺川の四村に分ち、郡役所を石川町に置く、磐城國八郡、各河、地勢、本郡は阿武隈川の東岸阿武隈山脈の西なる山地にして、西に低下す、河、流は皆阿武隈川に注ぐ、沿岸は狭隘にして耕作の地に乏しけれども、聚落は多く河邊に在り、道路は陸前濱街道より分る、いもの石川町に至り、分れて白河町及須賀川町に向ふ、産業は農を主とし、産物は米二萬七千石、麥(五萬石)、煙草、糖、蘿蔔、馬を最とし、其他大豆、蕎麥、馬鈴薯、蘿蔔、桑種、繭、馬は現在數四八七七頭、工産品は酒和紙、煙草等あり、本郡は和名抄に白河郡の一部とす、元來石川は其郡名なりしが、源義家の臣物部有光此邊を領せしより、終に長田、藤田二郷の地をも併せて郡名を稱し、子孫石川を氏とし、戰國に至る。●【石川】加賀國四郡の一、四境、北は河北郡、東は越中國、東國、波羅及飛騨國、南及西は能美郡、北は西國、東は日本海、北方河北郡の交界に金澤市跨る、東西八里、南北一三三町、面積三五方里四八行政上、松任、美川、地味、上

金石、大野の五町及比叡島、福留、柏野、蝶屋、笠間、宮保、一本出城、御手洗、旭、安原、郡中、奥中山、山島、館林、藏山、河内、吉野、谷、額、富、野、市、押、野、三、馬、宮、野、村、内、川、湯、谷、崎、浦、米、丸、二、塚、大、野、戸、板、月、弓、取、湯、津、栗、崎、の、三、九、村、に分ち、郡役所を松任町に置く、(公)二、合、二、三、三、地、勢、郡、の、東、南、は、白、山、の、餘、脈、連、互、し、殆、ど、郡、の、三、部、を、占、め、山、深、く、谷、峻、にして、人、跡、至、ら、ざる、所、多、く、漸、次、西北に向て低下す、海岸に接したる郡三分一の地は平坦にして、田園遠く連る、就中野々市、松任の間は最も平坦曠湖にして、南は鶴来の山脚より、北は金石の海濱に至る、廣袤五里餘、郡内の沃土なり、山岳、妙法山、美濃原山、笈山、千丈平、奈真岳、大門山、大倉山等、飛騨越中の境を劃し、千丈平より分る、支脈は大谷山、高倉山となり、奈真岳より分る、ものは、奥三方山、大原山、炭立峯、鉢頭山、太白山となり、奥三方より西北に互るものは、三方岳を起して、此より二支に分れ、左するものは倉ヶ岳となり、右するものは三輪山、翠原山、高嶺山となる、大倉山より分る、ものは日尾山、大高尾山となり、其脈遙に西北に延びて、金澤市に達し、淺野川、犀川の水城を分つ、河、流、は、河北郡の界に淺野川、能美郡の界に手取川あり、稍北境に接して流る、犀川といふ、此等の諸川皆飛騨越中の界に發し、西北流して海に入る、多くは急流にして、運輸の利少し、平野は手

取川より分てる、溝渠縱横に通じ、灌漑の利甚だ多し、海岸、平沙に屬し、海底淺く、波濤常に高く、船舶碇泊の便に乏し、道路、北陸本道平野の中央を通じ、野々市、松任、柏野を経て能美郡に入る、又越前山街道は金澤市より南に向ひ、鶴來、吉野を経て能美郡に入る、是を白山登参の順路とす、生産の主なるものは農にして、工業之に次ぐ、鑛業は倉谷嶺山に於て稼行せらる、物産は米(二九萬石)を主とし、其他大豆、蕎麥、甘藷、蘿蔔、南、瓜、葉、煙草、桑種、大麻、柿、薪炭、材、木、材、あり、鑛産物は金銀、銅、鉛、一七萬圓にして、漁獲物は一八萬圓、工産物は總額二二三萬圓、蠶絲八萬圓、織物一三三萬圓(輸出羽二重を主とす)を主とし、製菓、品、和紙あり、本郡は弘仁十四年加賀郡八郡一郡を割きて置き、和名抄に中村、宮、野、三、馬、拜、師、井、手、笠、間、味、知、の、八、郡、を、載、す、後、加、賀、郡、大、野、玉、戈、大、桑、の、三、郡、本、郡、に、轉、入、し、中、世、拜、師、中、村、山、島、笠、間、宮、野、湯、谷、浦、米、丸、横、江、戸、板、の、一、郡、及、河、内、藤、屋、犀、川、石、浦、五、箇、押、野、大、野、被、月、の、八、庄、と、なる、前、田、氏、の、領、と、なり、て、宮、野、松、任、本、吉、は、町、奉行、の、所、管、に、歸、し、諸、村、は、山、島、林、河、内、中、村、宮、野、米、丸、戸、板、被、月、の、八、組、に、分、れた、り、

一三七度二七分、北緯三〇度一八分、至三七度三一分、東西二四里三〇町、南北四二里一〇町、面積二六三万三千里、金澤市及江沼、能美、石川、河北(以上加賀國)、羽、野、風、至、鹿、島、珠、洲、以、上、能、登、國、の、一、市、八、郡、を、管、し、縣、廳、を、金、澤、市、に、置、く、(公)二、三、三、合、六、三、三、三、地、勢、加、賀、は、其、東、南、隅、の、國、境、に、白、山、時、高、峻、を、極、め、美、濃、飛、騨、の、高、臺、地、に、連、接、し、西、北、部、に、至、る、に、從、ひ、漸、く、低、く、日、本、海、に、面、する、一、帶、は、平、野、に、して、田、畠、開、け、重、要、な、る、生、産、地、を、作、る、され、ど、平、野、は、全、國、五、分、一、に、過、ぎ、ず、金、澤、市、は、此、平、野、と、山、勢、餘、波、の、盡、く、る、界、と、に、在、り、物、貨、集、散、の、要、地、と、す、能、登、は、半、島、國、に、して、東、に、彎、曲、し、七、尾、海、を、擁、し、半、島、の、極、端、を、珠、洲、岬、と、稱、す、全、國、概、れ、丘、陵、相、連、り、高、嶺、を、見、ず、と、雖、も、平、地、も、亦、少、く、唯、七、尾、町、の、西、南、より、色、知、濁、に、互、り、夫、より、加、賀、の、西、海、岸、に、連、續、せ、る、平、野、は、國、内、著、名、の、生、産、地、な、り、貨、物、の、集、散、地、を、七、尾、町、と、す、

界を限り、碓氷山に連り、石動山に至る、能登の中央に在るを別所岳といひ、半島の脊梁を成し、西に桑塚山、高爪山、東北に高洲山、寶立山を起し、珠洲岬に至り、山伏山に盡く、

産業 農業を主とし、商工業之に次ぐ、能登の沿岸は水産業盛なり、産物總額五四二七萬圓、農産物の主なるものは米にして、加賀米と稱し、聲價あり、收穫高一五萬石に上る、其他麥一萬石、大豆、小豆、蕎麥、甘藷、馬鈴薯、蓮根、蘿蔔、桑種、種、柿、煙草、製茶あり、養蠶は近年大に盛となり、繭一七萬圓に達す、工産物は總額二二九八萬圓、織物(一〇九七萬圓)を第一とし、其製品は羽二重を主とし、平絹、袖太織、上布之に亞ぐ、陶器は有名な九谷焼あり、産額四八萬圓、其六分は賣用品、四分は裝飾品なり、漆器は輪島塗、中山塗あり、産額一〇三萬圓、其他絹織製品及絲織物、製菓、品、及、陶、器、金、屬、製、品、土、石、製、品、陶、器、を、除、く、履、物、及、靴、家、具、類、あり、水産物は北陸地方中新潟に亞ぎ、二九〇萬圓、鰻、鱒、鯛、鰯、鮭、魚、を、主、と、し、其他、黒、崎、の、黒、海、苔、石、川、郡、の、蟹、魚、油、河、北、郡、の、蛤、鹿、島、郡、の、海、鼠、輪、島、の、鮑、海、草、珠、洲、郡、の、海、豚、は、著、名、の、特、産、物、と、す、又、食、鹽(二六萬圓)は、主、に、能、登、より、出、づ、鑛、産、物、は、金、一、九、萬、圓、銀、四、萬、圓、銅、七、五、萬、圓、鉛、二、萬、圓、等、と、す、重、要、鑛、山、は、倉、谷、(金、銀、銅、鉛、金、平、金、銀、鉛、亞、鉛、尾、小、屋、遊、泉、寺、阿、手、共、に、銅、富、米、金、銀)に、

輸入五六二萬圓、主要取引品は穀類、魚介、藥物、家具、及日用品、建築材料品なり、交通 鐵道は北陸線東西に通じ、七尾線は北陸線の津幡より分れて、七尾に至る、全長七八哩六四釐、港灣は七尾を最とし、其他金石、安宅の諸港あり、船舶は日本海岸及北海道より瀬戸内海に至る、教育 小學校は尋常三〇六尋常高等一〇七、高等一〇、就學歩合は、百人中、男、九、八、四、一、女、九、八、八、六、七、中、學、校、四、(金、澤、二、七、尾、小、松、師、範、學、校、一、(金、澤、高、等、女、學、校、一、(金、澤、工、業、學、校、一、(金、澤、商、業、學、校、一、(金、澤、農、業、學、校、一、(松、任、其、他、第、四、高、等、學、校、及、金、澤、醫、學、專、門、學、校、共、に、金、澤、)行政及財政 租稅負擔額、國稅三五七萬圓、縣稅一〇一萬圓、市町村稅一四六萬圓、人口一に對し七圓八十一錢に當る、國稅の主なるものは地租一五〇萬圓、所得稅四〇萬圓、營業稅三〇萬圓、酒稅一〇二萬圓、縣稅一三九萬圓、歲入一一七萬圓、縣債四四萬圓、縣吏一一一人(外備六二人)、郡吏三三九人、市吏二〇四人、町村吏四六四四人、(前、四、)郡、會、金、澤、市、六、六、三、江、沼、郡、大、聖、寺、町、八、三、三、能、美、郡、小、松、町、二、四、五、石、川、郡、松、任、町、六、七、上、金、石、町、七、三、三、美、川、町、五、七、五、鹿、島、郡、七、尾、町、二、三、三、風、至、郡、輪、島、町、二、三、三、宇、出、津、町、三、七、三、水、町、六、六、三、名、勝、齋、讀、社、寺、尾、山、神、社、金、澤、氣、多、神、社、羽、野、郡、白、山、比、咩、神、社、石、川、郡、總、持、寺、(風、至、郡、東、西、本、願、寺、別、院、(金、澤、郡、谷、寺、

一三度二七分、北緯三〇度一八分、至三七度三一分、東西二四里三〇町、南北四二里一〇町、面積二六三万三千里、金澤市及江沼、能美、石川、河北(以上加賀國)、羽、野、風、至、鹿、島、珠、洲、以、上、能、登、國、の、一、市、八、郡、を、管、し、縣、廳、を、金、澤、市、に、置、く、(公)二、三、三、合、六、三、三、三、地、勢、加、賀、は、其、東、南、隅、の、國、境、に、白、山、時、高、峻、を、極、め、美、濃、飛、騨、の、高、臺、地、に、連、接、し、西、北、部、に、至、る、に、從、ひ、漸、く、低、く、日、本、海、に、面、する、一、帶、は、平、野、に、して、田、畠、開、け、重、要、な、る、生、産、地、を、作、る、され、ど、平、野、は、全、國、五、分、一、に、過、ぎ、ず、金、澤、市、は、此、平、野、と、山、勢、餘、波、の、盡、く、る、界、と、に、在、り、物、貨、集、散、の、要、地、と、す、能、登、は、半、島、國、に、して、東、に、彎、曲、し、七、尾、海、を、擁、し、半、島、の、極、端、を、珠、洲、岬、と、稱、す、全、國、概、れ、丘、陵、相、連、り、高、嶺、を、見、ず、と、雖、も、平、地、も、亦、少、く、唯、七、尾、町、の、西、南、より、色、知、濁、に、互、り、夫、より、加、賀、の、西、海、岸、に、連、續、せ、る、平、野、は、國、内、著、名、の、生、産、地、な、り、貨、物、の、集、散、地、を、七、尾、町、と、す、







して御塔に至る此石高二十五丈八尺周圍二十六間ありといふ、石を横に積み上げたたるが如く見ゆれ共、實は自然のものにて末細長に秀で、大風には吹き倒さるべく見ゆ。道遠きいよの高嶺をたつれども、人の行衛を我にせしめ、洞院左大臣、忘れては人の富士と思ふらん、霞にまがふいよの大嶽(藤原爲世)。

文籍

石鏡登山記(多田香晴)「山岳」卷四、第一號。  
イシツツミ(石堤) 【富山】越中國四國渡郡の村氷見郡に接せる山地なり。應安の頃織田隆興守氏知此所に住し、近郷の地頭たりしが、薙髮して淨土宗、長光寺を建つといふ、白二六三。

イシツツミ(石堤) 【福井】越前國敦賀郡野村大字畑の山中に在る瀧、亂石堆積の上より下り、二層あり。上は直下六丈、下は三丈五尺、幅執れも六尺下流瀧川驛に至り、箕面川に合す。

イシツツミ(石堤) 【千葉】下總國香取郡橋本の大字利根川の西岸、銚子街道の一小事街なり。千葉大系圖云、千葉胤朝東ノ莊石出城に居り、石出次郎と稱す。其裔帯刀徳川氏に仕へ、職事を掌り、令名あり。

イシツツミ(石堤) 【伊豫】國温泉郡に在る川、水源湯山村の水ヶ崎、西南流して重信川に合す。流程七里二一町。

イシツツミ(石堤) 【埼玉】武蔵國北足立郡の村古くは桶川驛の西一里半、荒川に沿へる。地こぼれ、近世宿村、上石戸、下石戸に

分れしが、上石戸廢し、下石戸は却て下下に分れ、高尾荒井をも合せて石戸村といふ。近世石戸領二十村の本郷とす。往古は石戸左衛門尉東鑑に見ゆの住せし所なりといひ、戦國の頃城塞あり。太田三樂之に據りて、慶長徳川と争へり。關東古戦録には之を足月と作る。蒲原は石戸宿に在り、古來の名木にして、樹の廻り二丈餘、幹五六株に分れ、枝葉六百歩を掩ふ。蒲原者、蒲原の自ら植えたりとも、其追福の爲め植ふしなりともいふ。樹邊に古石板碑十餘基あり、中に貞永二年のものあり。東國の板碑中最古のものといふ、白二六三。

イシツツミ(石堤) 【岩手】岩代國伊達郡の村白二六三。イシツツミ(石堤) 【滋賀】近江國蒲生郡櫻川村の大字、俗に一條天皇の時定基法師渡唐して天笠阿育王八萬四千塔の一を感得し、此所に置くといふ。司馬江漢の西遊記には、此地の石塔の破片ならざるはなしと記す。或は此石塔は天智天皇の時配置せられたる百濟人の作ならんといふ。

イシツツミ(石堤) 【千葉】安房國安房郡朝夷郡丸九村の大字、丸山川の岸に縁り、松田より約二里の山中とす。丸氏が後世城を築きし所といふ。石堂寺は神龜年中僧行基開創、仁壽年中僧慈覺中興、寺中に多寶塔、藥師堂、太子堂、十王堂等あり。結構壯大なり。本尊は十一面觀音、什物に阿育塔等あり。又丸氏の古文書を多く藏す。

イシツツミ(石堤) 【石室川】筑前國に在る御

笠川の一。イシトウトウケ(石堂崎) 阿波國美馬郡に在る一守山の峰。イシトウヤマ(石堂山) 日向國兒湯郡に在る山、米良谷の高峯なり。西臼杵郡椎葉谷の境に接し、谷を隔て、市房山と東西相對す。高五七五八尺。イシトシロ(石徹白) 【福井】越前國大野郡の村、白山別山の南麓にして、東、檜木嶺を踰へ美濃に出づ。九頭龍川の一水源、石徹白川の谷に沿ふ。古來白山別山の社領にして、社人多く住めり。此道よりする白山參詣者の宿泊する所なり。白三三六。イシドリヤ(石鳥谷) 【巖手】陸中國稗貫郡好地村の字。鐵道奥羽東線の車驛なり。東京上野驛より三一五哩六鎮、米粟煙草の輸出多し。イシナ(伊名) 【井白】を見よ。イシナイカワ(石動川) 肥前國に在る田手川の一。イシナカワ(石名川) 佐渡國北海岸に在る川、水源擅持山、西北流して海に注ぐ。イシナサカ(石名坂) 【茨城】常陸國久慈郡坂本村の大字。此地に長九十六間の峻坂、石名坂あり。より出でし名とす。陸前濱街道に當る。イシナサカ(石名坂) 岩代國信夫郡杉妻村伏拝坂の南四、五町に在る坂路。文治五年泰衡の一族佐藤基治其一族と鎌倉勢を拒ぎ、戦死せし所なり。イシナジマ(伊是名島) 【伊是名島】を見よ。

文籍

石卷案内(高橋長三郎)四四四頁。  
イシバ(石場) 【滋賀】近江國大津市の大字。鐵道東海道線の車驛あり。  
イシバシ(石橋) 【神奈川】相模國足柄下郡の村熱海街道に沿へる海村なり。聖ヶ嶽の山脚此に至り、海に盡きんとする所を石橋山といふ。治承四年源賴朝の兵を擧げし所にして、路側にネザカ畑といふ。眞田義忠が侯野景久と格闘せしといふ所あり。其附近に與市塚(義忠の墓)あり。合三三九。

イシバシ(石橋) 【埼玉】武蔵國比企郡唐子村の大字。都幾川の岸なり。上青島といへるは此所ならんといふ。即ち字の宿青島、内青島は別村なりしを、何時の頃よりか合併せるなりと傳ふ。【栃木】下野國下都賀郡の町。奥州街道の一驛にして、鐵道奥羽線車驛を置く。東京上野驛より五七哩二鎮、宇都宮驛へ八哩六四鎮、壬生町へ一里一六町、郵便局あり。停車場前に開雲寺あり。俗に所謂徳川家光宇都宮釣天井危難の時避難せし所と傳ふ。干狐は此邊の名産なり。白三三三。【福島】磐城

國相馬郡の村合三三。イシバシ(石馬寺) 【滋賀】近江國神崎郡南五個庄村の大字。石馬寺あり。鐵山五寺の一にして、聖徳太子開基と稱し、太子の乘馬斃れて石に化したりと傳ふる石あり。中世廢頓し、正保元年僧雲居中興す。イシバタケ(石畑) 【東京】武蔵國西多摩郡の村、合三二八。イシハマ(石濱) 【樺太】漁場一五五號の新稱。【愛知】尾張國知多郡に在りし村明治三十九年東浦村に入る。イシハラ(石原) 【東京】武蔵國北多摩郡調布町の地名。今上下に分れ、所謂布田五宿の西端なり。宿の東端なる國領と相距る殆ど一里。【群馬】上野國群馬縣舊片岡郡片岡村の大字。烏川の西岸に臨む。清水寺と呼ぶ觀音堂あり。樓閣の構造、京都清水寺に擬す。佳景の地なり。延喜式内の古社小神社あり。樹下に櫻碑を祀る。附近に名木逆櫛あり。樹下に櫻碑を建つ。【滋賀】近江國蒲生郡北比郡佐村の大字。御代釜街道の一小驛なり。イシハラヤマ(石原山) 【妙見山】を見よ。イシビツシヨウシ(石櫃城址) 【熊本】肥後國阿蘇郡北小國村大字北里に在る城址。北里氏奕世之に據り、豊前豊後口に備へたりといふ。イシブミハラ(石踏原) 常陸國鹿島郡に在る原。大谷村に屬す。面積五町歩、水利不便なり。イシベ(石部) 【滋賀】近江國甲賀郡の町。

イシナダ(石那田) 【熊本】肥後國玉名郡の村。高瀬町の北に當る。明治十年の役官軍小倉第十四聯隊の一隊長乃木少佐の本據とせし地なり。曹洞宗、廣福寺あり。元徳二年菊池武時創建大智和尚開基といふ。多く古文書を藏す。白三三七。イシノ(石野) 【愛知】三河國四加茂郡の村。明治三十九年石下瀬、中野、七重の三村及四谷村、富貴下村の一部を合せて新設す。白三三三。イシノホウデン(石寶殿) 【龍山】を見よ。イシノマキ(石巻) 【宮城】陸前國牡鹿郡の町。北上川河口に在り。舊仙臺領唯一の阜頭にして、仙臺を距ること東一三哩、石巻街道を以て通す。もと此地海濱の一漁村なりしが、伊達政宗領内に真港なきを憂ひ、其臣河村孫兵衛に命じ、鹿ノ又より此に至る三里間を開鑿し、北上川の水を引かむ。寛永元年工を起し、三年にして成る。萬治年中港を開き、領内米穀輸送の倉庫を置けり。是より繁盛の地となり、其名遠近に聞えたりしが、鐵道奥州線の開通以來、貨物の運輸は多く之に奪はれし。今尙漁舟商船の來往繁く、東海津の一たるを失はず。市街は北上川の兩岸に跨り、東西二町、南北二町。牡鹿郡役所警察署區裁判所監獄支署、海務署、稅務署、小林区署、測候所、水産學校、町立圖書館、郵便局等あり。鹽釜秋篠田代、川、志津川、氣仙沼、宮古、釜石等の外海、

散布し、舟行甚だ危險なり。伊島に古名を湯島といふ。阿波志云、國初獲る所の韓人を放ち、其裔分れて四十八戸となつ。イシマ(井島) 【讃岐】國香川郡の北海上に在る島。周圍二里一町。直島の屬島なり。其北半は備前國兒島郡に屬す。イシマキ(石巻) 【愛知】三河國八名郡の村。明治十九年西郷蓋山三輪多米玉川の五村を合して新設。合三三三。イシマキヤマ(石巻山) 三河國八名郡に在る山。豐橋市の東北に見ゆ。山頂四望開豁、瀆名湖、渥美灣を望み、風景絶佳。又温泉あり。夏時豐橋市より來遊する者多し。近年山麓諸村に石巻村の稱を立つ。イシシヤマ(石美山) 土佐國幡多郡中村町の北に在る山。入野濱の南端より西方三哩、高約一三〇〇尺、尖圓錐狀の禿峰にして、其色稍褐色を帯び、頂に小神社あり。嵯峨疎立し、舟人の目標たり。イシシネ(石峰) 【福岡】筑前國遠賀郡に在りし村。明治三十九年若松町へ、市に合す。イシミノ(五十公野) 【新潟】越後國北蒲原郡の村。新發田町の北に接す。古訓イキミノ、訛りて井地峰に作る。上杉氏の時、井地峰道壽齋の據りし所なり。道壽は長澤氏、謙信の寵遇を受けしが、景勝の時新發田因幡守と共に叛し、天正十五年亡ぶ。五十公野山に式内石井神社あり。後世觀音堂を建て、岩井堂と稱し、當國二十八番の札所となる。豐田神社も亦同山に在り。新

イシマ(伊島) 備前國兒島郡の南に在る島。周圍二里三〇間、島の中央以南を井島といひ、讃岐に屬し、以北は備前に屬す。イシマ(伊島) 阿波國那賀郡に在る島。四國南岸の最東端。蒲生岬の東、北約三哩に在り。周圍四里餘、人口六〇〇。居民漁業採藻を事とす。島の尖峯を觀音山といふ。高三八五尺、頂に一大樹あり。三〇哩の距離より明に認め得べし。島西に前島あり。此島との間に一開港あり。北に面し、幅五鎮、灣入三鎮。北風なき時は小船を泊すべし。但し蒲生田崎との間は危險

明治三十六年町となる。もと東海道五十三驛の一なり。野洲川の南岸に在り。今鐵道關西線の車驛あり。草津驛へ五哩三八鎮、三雲驛へ四哩三二鎮、警察分署、郵便局等あり。附近に石灰山あり。文化二年起業肥料として盛に製出す。又天狗谷に鑛山あり。もと銀銅鑛等を出せりといふ。東寺、西寺あり。共に阿星山と稱し、金勝山の別院なり。聖武天皇信樂に離宮を建てし時、鬼門守護として建立すといふ。東寺の什物羅漢圖は今國寶となる。白三三九。イシボトケガワ(石佛川) 河内國南河内郡に在る川。水源、紀伊見嶺、西北流して加賀田川に合し、西條川となる。イシマ(伊島) 【岡山】備前國御津郡の村。合三三二。

イシマ(石間) 【新潟】越後國東蒲原郡下條村の字。若松街道に當り、もと會津藩の關門を設けし所なり。イシマ(石島) 備前國兒島郡の南に在る島。周圍二里三〇間、島の中央以南を井島といひ、讃岐に屬し、以北は備前に屬す。イシマ(伊島) 阿波國那賀郡に在る島。四國南岸の最東端。蒲生岬の東、北約三哩に在り。周圍四里餘、人口六〇〇。居民漁業採藻を事とす。島の尖峯を觀音山といふ。高三八五尺、頂に一大樹あり。三〇哩の距離より明に認め得べし。島西に前島あり。此島との間に一開港あり。北に面し、幅五鎮、灣入三鎮。北風なき時は小船を泊すべし。但し蒲生田崎との間は危險

イシマ(伊島) 備前國兒島郡の南に在る島。周圍二里三〇間、島の中央以南を井島といひ、讃岐に屬し、以北は備前に屬す。イシマ(伊島) 阿波國那賀郡に在る島。四國南岸の最東端。蒲生岬の東、北約三哩に在り。周圍四里餘、人口六〇〇。居民漁業採藻を事とす。島の尖峯を觀音山といふ。高三八五尺、頂に一大樹あり。三〇哩の距離より明に認め得べし。島西に前島あり。此島との間に一開港あり。北に面し、幅五鎮、灣入三鎮。北風なき時は小船を泊すべし。但し蒲生田崎との間は危險

イシナダ(石那田) 【熊本】肥後國玉名郡の村。高瀬町の北に當る。明治十年の役官軍小倉第十四聯隊の一隊長乃木少佐の本據とせし地なり。曹洞宗、廣福寺あり。元徳二年菊池武時創建大智和尚開基といふ。多く古文書を藏す。白三三七。イシノ(石野) 【愛知】三河國四加茂郡の村。明治三十九年石下瀬、中野、七重の三村及四谷村、富貴下村の一部を合せて新設す。白三三三。イシノホウデン(石寶殿) 【龍山】を見よ。イシノマキ(石巻) 【宮城】陸前國牡鹿郡の町。北上川河口に在り。舊仙臺領唯一の阜頭にして、仙臺を距ること東一三哩、石巻街道を以て通す。もと此地海濱の一漁村なりしが、伊達政宗領内に真港なきを憂ひ、其臣河村孫兵衛に命じ、鹿ノ又より此に至る三里間を開鑿し、北上川の水を引かむ。寛永元年工を起し、三年にして成る。萬治年中港を開き、領内米穀輸送の倉庫を置けり。是より繁盛の地となり、其名遠近に聞えたりしが、鐵道奥州線の開通以來、貨物の運輸は多く之に奪はれし。今尙漁舟商船の來往繁く、東海津の一たるを失はず。市街は北上川の兩岸に跨り、東西二町、南北二町。牡鹿郡役所警察署區裁判所監獄支署、海務署、稅務署、小林区署、測候所、水産學校、町立圖書館、郵便局等あり。鹽釜秋篠田代、川、志津川、氣仙沼、宮古、釜石等の外海、

文籍

石卷案内(高橋長三郎)四四四頁。  
イシバ(石場) 【滋賀】近江國大津市の大字。鐵道東海道線の車驛あり。  
イシバシ(石橋) 【神奈川】相模國足柄下郡の村熱海街道に沿へる海村なり。聖ヶ嶽の山脚此に至り、海に盡きんとする所を石橋山といふ。治承四年源賴朝の兵を擧げし所にして、路側にネザカ畑といふ。眞田義忠が侯野景久と格闘せしといふ所あり。其附近に與市塚(義忠の墓)あり。合三三九。

イシバシ(石橋) 【埼玉】武蔵國比企郡唐子村の大字。都幾川の岸なり。上青島といへるは此所ならんといふ。即ち字の宿青島、内青島は別村なりしを、何時の頃よりか合併せるなりと傳ふ。【栃木】下野國下都賀郡の町。奥州街道の一驛にして、鐵道奥羽線車驛を置く。停車場前に開雲寺あり。俗に所謂徳川家光宇都宮釣天井危難の時避難せし所と傳ふ。干狐は此邊の名産なり。白三三三。【福島】磐城

國相馬郡の村合三三。イシバシ(石馬寺) 【滋賀】近江國神崎郡南五個庄村の大字。石馬寺あり。鐵山五寺の一にして、聖徳太子開基と稱し、太子の乘馬斃れて石に化したりと傳ふる石あり。中世廢頓し、正保元年僧雲居中興す。イシバタケ(石畑) 【東京】武蔵國西多摩郡の村、合三二八。イシハマ(石濱) 【樺太】漁場一五五號の新稱。【愛知】尾張國知多郡に在りし村明治三十九年東浦村に入る。イシハラ(石原) 【東京】武蔵國北多摩郡調布町の地名。今上下に分れ、所謂布田五宿の西端なり。宿の東端なる國領と相距る殆ど一里。【群馬】上野國群馬縣舊片岡郡片岡村の大字。烏川の西岸に臨む。清水寺と呼ぶ觀音堂あり。樓閣の構造、京都清水寺に擬す。佳景の地なり。延喜式内の古社小神社あり。樹下に櫻碑を祀る。附近に名木逆櫛あり。樹下に櫻碑を建つ。【滋賀】近江國蒲生郡北比郡佐村の大字。御代釜街道の一小驛なり。イシハラヤマ(石原山) 【妙見山】を見よ。イシビツシヨウシ(石櫃城址) 【熊本】肥後國阿蘇郡北小國村大字北里に在る城址。北里氏奕世之に據り、豊前豊後口に備へたりといふ。イシブミハラ(石踏原) 常陸國鹿島郡に在る原。大谷村に屬す。面積五町歩、水利不便なり。イシベ(石部) 【滋賀】近江國甲賀郡の町。

イシナダ(石那田) 【熊本】肥後國玉名郡の村。高瀬町の北に當る。明治十年の役官軍小倉第十四聯隊の一隊長乃木少佐の本據とせし地なり。曹洞宗、廣福寺あり。元徳二年菊池武時創建大智和尚開基といふ。多く古文書を藏す。白三三七。イシノ(石野) 【愛知】三河國四加茂郡の村。明治三十九年石下瀬、中野、七重の三村及四谷村、富貴下村の一部を合せて新設す。白三三三。イシノホウデン(石寶殿) 【龍山】を見よ。イシノマキ(石巻) 【宮城】陸前國牡鹿郡の町。北上川河口に在り。舊仙臺領唯一の阜頭にして、仙臺を距ること東一三哩、石巻街道を以て通す。もと此地海濱の一漁村なりしが、伊達政宗領内に真港なきを憂ひ、其臣河村孫兵衛に命じ、鹿ノ又より此に至る三里間を開鑿し、北上川の水を引かむ。寛永元年工を起し、三年にして成る。萬治年中港を開き、領内米穀輸送の倉庫を置けり。是より繁盛の地となり、其名遠近に聞えたりしが、鐵道奥州線の開通以來、貨物の運輸は多く之に奪はれし。今尙漁舟商船の來往繁く、東海津の一たるを失はず。市街は北上川の兩岸に跨り、東西二町、南北二町。牡鹿郡役所警察署區裁判所監獄支署、海務署、稅務署、小林区署、測候所、水産學校、町立圖書館、郵便局等あり。鹽釜秋篠田代、川、志津川、氣仙沼、宮古、釜石等の外海、

散布し、舟行甚だ危險なり。伊島に古名を湯島といふ。阿波志云、國初獲る所の韓人を放ち、其裔分れて四十八戸となつ。イシマ(井島) 【讃岐】國香川郡の北海上に在る島。周圍二里一町。直島の屬島なり。其北半は備前國兒島郡に屬す。イシマキ(石巻) 【愛知】三河國八名郡の村。明治十九年西郷蓋山三輪多米玉川の五村を合して新設。合三三三。イシマキヤマ(石巻山) 三河國八名郡に在る山。豐橋市の東北に見ゆ。山頂四望開豁、瀆名湖、渥美灣を望み、風景絶佳。又温泉あり。夏時豐橋市より來遊する者多し。近年山麓諸村に石巻村の稱を立つ。イシシヤマ(石美山) 土佐國幡多郡中村町の北に在る山。入野濱の南端より西方三哩、高約一三〇〇尺、尖圓錐狀の禿峰にして、其色稍褐色を帯び、頂に小神社あり。嵯峨疎立し、舟人の目標たり。イシシネ(石峰) 【福岡】筑前國遠賀郡に在りし村。明治三十九年若松町へ、市に合す。イシミノ(五十公野) 【新潟】越後國北蒲原郡の村。新發田町の北に接す。古訓イキミノ、訛りて井地峰に作る。上杉氏の時、井地峰道壽齋の據りし所なり。道壽は長澤氏、謙信の寵遇を受けしが、景勝の時新發田因幡守と共に叛し、天正十五年亡ぶ。五十公野山に式内石井神社あり。後世觀音堂を建て、岩井堂と稱し、當國二十八番の札所となる。豐田神社も亦同山に在り。新

イシマ(伊島) 備前國兒島郡の南に在る島。周圍二里三〇間、島の中央以南を井島といひ、讃岐に屬し、以北は備前に屬す。イシマ(伊島) 阿波國那賀郡に在る島。四國南岸の最東端。蒲生岬の東、北約三哩に在り。周圍四里餘、人口六〇〇。居民漁業採藻を事とす。島の尖峯を觀音山といふ。高三八五尺、頂に一大樹あり。三〇哩の距離より明に認め得べし。島西に前島あり。此島との間に一開港あり。北に面し、幅五鎮、灣入三鎮。北風なき時は小船を泊すべし。但し蒲生田崎との間は危險

イシマ(伊島) 備前國兒島郡の南に在る島。周圍二里三〇間、島の中央以南を井島といひ、讃岐に屬し、以北は備前に屬す。イシマ(伊島) 阿波國那賀郡に在る島。四國南岸の最東端。蒲生岬の東、北約三哩に在り。周圍四里餘、人口六〇〇。居民漁業採藻を事とす。島の尖峯を觀音山といふ。高三八五尺、頂に一大樹あり。三〇哩の距離より明に認め得べし。島西に前島あり。此島との間に一開港あり。北に面し、幅五鎮、灣入三鎮。北風なき時は小船を泊すべし。但し蒲生田崎との間は危險

イシマ(伊島) 備前國兒島郡の南に在る島。周圍二里三〇間、島の中央以南を井島といひ、讃岐に屬し、以北は備前に屬す。イシマ(伊島) 阿波國那賀郡に在る島。四國南岸の最東端。蒲生岬の東、北約三哩に在り。周圍四里餘、人口六〇〇。居民漁業採藻を事とす。島の尖峯を觀音山といふ。高三八五尺、頂に一大樹あり。三〇哩の距離より明に認め得べし。島西に前島あり。此島との間に一開港あり。北に面し、幅五鎮、灣入三鎮。北風なき時は小船を泊すべし。但し蒲生田崎との間は危險

イシマ(伊島) 備前國兒島郡の南に在る島。周圍二里三〇間、島の中央以南を井島といひ、讃岐に屬し、以北は備前に屬す。イシマ(伊島) 阿波國那賀郡に在る島。四國南岸の最東端。蒲生岬の東、北約三哩に在り。周圍四里餘、人口六〇〇。居民漁業採藻を事とす。島の尖峯を觀音山といふ。高三八五尺、頂に一大樹あり。三〇哩の距離より明に認め得べし。島西に前島あり。此島との間に一開港あり。北に面し、幅五鎮、灣入三鎮。北風なき時は小船を泊すべし。但し蒲生田崎との間は危險

イシホ(石保) 【熊本】肥後國玉名郡の村。高瀬町の北に當る。明治十年の役官軍小倉第十四聯隊の一隊長乃木少佐の本據とせし地なり。曹洞宗、廣福寺あり。元徳二年菊池武時創建大智和尚開基といふ。多く古文書を藏す。白三三七。イシノ(石野) 【愛知】三河國四加茂郡の村。明治三十九年石下瀬、中野、七重の三村及四谷村、富貴下村の一部を合せて新設す。白三三三。イシノホウデン(石寶殿) 【龍山】を見よ。イシノマキ(石巻) 【宮城】陸前國牡鹿郡の町。北上川河口に在り。舊仙臺領唯一の阜頭にして、仙臺を距ること東一三哩、石巻街道を以て通す。もと此地海濱の一漁村なりしが、伊達政宗領内に真港なきを憂ひ、其臣河村孫兵衛に命じ、鹿ノ又より此に至る三里間を開鑿し、北上川の水を引かむ。寛永元年工を起し、三年にして成る。萬治年中港を開き、領内米穀輸送の倉庫を置けり。是より繁盛の地となり、其名遠近に聞えたりしが、鐵道奥州線の開通以來、貨物の運輸は多く之に奪はれし。今尙漁舟商船の來往繁く、東海津の一たるを失はず。市街は北上川の兩岸に跨り、東西二町、南北二町。牡鹿郡役所警察署區裁判所監獄支署、海務署、稅務署、小林区署、測候所、水産學校、町立圖書館、郵便局等あり。鹽釜秋篠田代、川、志津川、氣仙沼、宮古、釜石等の外海、

文籍

石卷案内(高橋長三郎)四四四頁。  
イシバ(石場) 【滋賀】近江國大津市の大字。鐵道東海道線の車驛あり。  
イシバシ(石橋) 【神奈川】相模國足柄下郡の村熱海街道に沿へる海村なり。聖ヶ嶽の山脚此に至り、海に盡きんとする所を石橋山といふ。治承四年源賴朝の兵を擧げし所にして、路側にネザカ畑といふ。眞田義忠が侯野景久と格闘せしといふ所あり。其附近に與市塚(義忠の墓)あり。合三三九。

イシバシ(石橋) 【埼玉】武蔵國比企郡唐子村の大字。都幾川の岸なり。上青島といへるは此所ならんといふ。即ち字の宿青島、内青島は別村なりしを、何時の頃よりか合併せるなりと傳ふ。【栃木】下野國下都賀郡の町。奥州街道の一驛にして、鐵道奥羽線車驛を置く。停車場前に開雲寺あり。俗に所謂徳川家光宇都宮釣天井危難の時避難せし所と傳ふ。干狐は此邊の名産なり。白三三三。【福島】磐城

國相馬郡の村合三三。イシバシ(石馬寺) 【滋賀】近江國神崎郡南五個庄村の大字。石馬寺あり。鐵山五寺の一にして、聖徳太子開基と稱し、太子の乘馬斃れて石に化したりと傳ふる石あり。中世廢頓し、正保元年僧雲居中興す。イシバタケ(石畑) 【東京】武蔵國西多摩郡の村、合三二八。イシハマ(石濱) 【樺太】漁場一五五號の新稱。【愛知】尾張國知多郡に在りし村明治三十九年東浦村に入る。イシハラ(石原) 【東京】武蔵國北多摩郡調布町の地名。今上下に分れ、所謂布田五宿の西端なり。宿の東端なる國領と相距る殆ど一里。【群馬】上野國群馬縣舊片岡郡片岡村の大字。烏川の西岸に臨む。清水寺と呼ぶ觀音堂あり。樓閣の構造、京都清水寺に擬す。佳景の地なり。延喜式内の古社小神社あり。樹下に櫻碑を祀る。附近に名木逆櫛あり。樹下に櫻碑を建つ。【滋賀】近江國蒲生郡北比郡佐村の大字。御代釜街道の一小驛なり。イシハラヤマ(石原山) 【妙見山】を見よ。イシビツシヨウシ(石櫃城址) 【熊本】肥後國阿蘇郡北小國村大字北里に在る城址。北里氏奕世之に據り、豊前豊後口に備へたりといふ。イシブミハラ(石踏原) 常陸國鹿島郡に在る原。大谷村に屬す。面積五町歩、水利不便なり。イシベ(石部) 【滋賀】近江國甲賀郡の町。

イシナダ(石那田) 【熊本】肥後國玉名郡の村。高瀬町の北に當る。明治十年の役官軍小倉第十四聯隊の一隊長乃木少佐の本據とせし地なり。曹洞宗、廣福寺あり。元徳二年菊池武時創建大智和尚開基といふ。多く古文書を藏す。白三三七。イシノ(石野) 【愛知】三河國四加茂郡の村。明治三十九年石下瀬、中野、七重の三村及四谷村、富貴下村の一部を合せて新設す。白三三三。イシノホウデン(石寶殿) 【龍山】を見よ。イシノマキ(石巻) 【宮城】陸前國牡鹿郡の町。北上川河口に在り。舊仙臺領唯一の阜頭にして、仙臺を距ること東一三哩、石巻街道を以て通す。もと此地海濱の一漁村なりしが、伊達政宗領内に真港なきを憂ひ、其臣河村孫兵衛に命じ、鹿ノ又より此に至る三里間を開鑿し、北上川の水を引かむ。寛永元年工を起し、三年にして成る。萬治年中港を開き、領内米穀輸送の倉庫を置けり。是より繁盛の地となり、其名遠近に聞えたりしが、鐵道奥州線の開通以來、貨物の運輸は多く之に奪はれし。今尙漁舟商船の來往繁く、東海津の一たるを失はず。市街は北上川の兩岸に跨り、東西二町、南北二町。牡鹿郡役所警察署區裁判所監獄支署、海務署、稅務署、小林区署、測候所、水産學校、町立圖書館、郵便局等あり。鹽釜秋篠田代、川、志津川、氣仙沼、宮古、釜石等の外海、

散布し、舟行甚だ危險なり。伊島に古名を湯島といふ。阿波志云、國初獲る所の韓人を放ち、其裔分れて四十八戸となつ。イシマ(井島) 【讃岐】國香川郡の北海上に在る島。周圍二里一町。直島の屬島なり。其北半は備前國兒島郡に屬す。イシマキ(石巻) 【愛知】三河國八名郡の村。明治十九年西郷蓋山三輪多米玉川の五村を合して新設。合三三三。イシマキヤマ(石巻山) 三河國八名郡に在る山。豐橋市の東北に見ゆ。山頂四望開豁、瀆名湖、渥美灣を望み、風景絶佳。又温泉あり。夏時豐橋市より來遊する者多し。近年山麓諸村に石巻村の稱を立つ。イシシヤマ(石美山) 土佐國幡多郡中村町の北に在る山。入野濱の南端より西方三哩、高約一三〇〇尺、尖圓錐狀の禿峰にして、其色稍褐色を帯び、頂に小神社あり。嵯峨疎立し、舟人の目標たり。イシシネ(石峰) 【福岡】筑前國遠賀郡に在りし村。明治三十九年若松町へ、市に合す。イシミノ(五十公野) 【新潟】越後國北蒲原郡の村。新發田町の北に接す。古訓イキミノ、訛りて井地峰に作る。上杉氏の時、井地峰道壽齋の據りし所なり。道壽は長澤氏、謙信の寵遇を受けしが、景勝の時新發田因幡守と共に叛し、天正十五年亡ぶ。五十公野山に式内石井神社あり。後世觀音堂を建て、岩井堂と稱し、當國二十八番の札所となる。豐田神社も亦同山に在り。新

イシマ(伊島) 備前國兒島郡の南に在る島。周圍二里三〇間、島の中央以南を井島といひ、讃岐に屬し、以北は備前に屬す。イシマ(伊島) 阿波國那賀郡に在る島。四國南岸の最東端。蒲生岬の東、北約三哩に在り。周圍四里餘、人口六〇〇。居民漁業採藻を事とす。島の尖峯を觀音山といふ。高三八五尺、頂に一大樹あり。三〇哩の距離より明に認め得べし。島西に前島あり。此島との間に一開港あり。北に面し、幅五鎮、灣入三鎮。北風なき時は小船を泊すべし。但し蒲生田崎との間は危險

イシマ(伊島) 備前國兒島郡の南に在る島。周圍二里三〇間、島の中央以南を井島といひ、讃岐に屬し、以北は備前に屬す。イシマ(伊島) 阿波國那賀郡に在る島。四國南岸の最東端。蒲生岬の東、北約三哩に在り。周圍四里餘、人口六〇〇。居民漁業採藻を事とす。島の尖峯を觀音山といふ。高三八五尺、頂に一大樹あり。三〇哩の距離より明に認め得べし。島西に前島あり。此島との間に一開港あり。北に面し、幅五鎮、灣入三鎮。北風なき時は小船を泊すべし。但し蒲生田崎との間は危險

イシマ(伊島) 備前國兒島郡の南に在る島。周圍二里三〇間、島の中央以南を井島といひ、讃岐に屬し、以北は備前に屬す。イシマ(伊島) 阿波國那賀郡に在る島。四國南岸の最東端。蒲生岬の東、北約三哩に在り。周圍四里餘、人口六〇〇。居民漁業採藻を事とす。島の尖峯を觀音山といふ。高三八五尺、頂に一大樹あり。三〇哩の距離より明に認め得べし。島西に前島あり。此島との間に一開港あり。北に面し、幅五鎮、灣入三鎮。北風なき時は小船を泊すべし。但し蒲生田崎との間は危險

イシマ(伊島) 備前國兒島郡の南に在る島。周圍二里三〇間、島の中央以南を井島といひ、讃岐に屬し、以北は備前に屬す。イシマ(伊島) 阿波國那賀郡に在る島。四國南岸の最東端。蒲生岬の東、北約三哩に在り。周圍四里餘、人口六〇〇。居民漁業採藻を事とす。島の尖峯を觀音山といふ。高三八五尺、頂に一大樹あり。三〇哩の距離より明に認め得べし。島西に前島あり。此島との間に一開港あり。北に面し、幅五鎮、灣入三鎮。北風なき時は小船を泊すべし。但し蒲生田崎との間は危險



發田藩祖清口秀勝の靈を祀る。合四合。

イシムラオオンセン(石村温泉) 【熊本】肥後鹿本郡八幡村に在る温泉。硫黄泉出づ。眼病皮膚病に良しと稱す。

イシモリ(石森) 【山梨】甲斐國東山梨郡加納岩村の地名。今上下に分る。石森丘といふは平田中の小丘なり。丘上に小祠あり。境内に奇岩怪石多し。平田漢々絶氣埃。中看孤憤鬱作堆。怪石奇岩森老樹。異觀千歳一崔嵬。岡本黄石。 【宮城】陸前國登米郡の村。佐沼町の北に接す。仙臺藩政の頃は笠原關之助の采邑なりき。郵便局あり。合五三三。

イシモリ(石守城址) 【兵庫】播磨國加古郡神野村を見よ。

イシヤクシ(石薬師) 【三重】伊勢國鈴鹿郡の村。舊東海道五十三驛の一にして。西福寺石薬師堂あるより地名となる。鐵道關西線高宮驛より二〇町。郵便局あり。舊名を高宮里大木といひしが。元和二年より宿驛となるといふ。眞言宗西福寺あり。僧泰澄開基と稱す。本尊の石像は長七尺五寸。地中より立てる自然石に彫刻せるものにして。乳なき婦人は祈りて靈現ありと傳へ。賽者多し。合五四。國宮や薬師の前の綿はつ種。鬼貫。

イシヤドツ(伊舎堂) 【沖繩】琉球國中頭郡中城村の大字。村の特色なり。

イシヤマ(石山) 【新潟】越後國中蒲原郡の村。合五八。 【滋賀】近江國滋賀郡の村。郡の南端。勢多川の西岸なり。西は一

嶺を以て山城國宇治郡と限る。大字國分は古國分寺のありし所といふ。石山寺あり。有名な勝地にして。西國三十三所第三十三番の札所。近江八景の一なり。天平年中僧良辨開基。後僧觀實中興して。密教を傳ふ。宇多法皇深く尊信ありて。屢臨幸あり。其盛時に在ては。寺領六萬石ありしといふ。徳川氏は五百七十九石を附せり。古は大伽藍なりしが。中世廢損し。今の本堂は古の講堂なりといふ。今も中堂の跡を中堂谷と呼ぶ。今の堂宇は豊臣秀頼の母淀君の修補に係る。本堂の東に源氏の間とて。紫式部の源氏物語を著せし所と傳ふ。本尊二臂の如意輪觀音古書畫多し。就中越中國官倉納交管記。延暦交管記。涅槃圖。石山寺縁起は國寶。多寶塔は特別保護建造物となれり。合四〇。

文籍 石山のしをり(松井心海四書三石山記行平祐之。石山月見記三條公條。石山詣の記松永貞徳。石見記(富士谷成章)。

【愛媛】伊豫國上浮穴郡の村。合四七。イシヤマ(石山) 下野國上都賀郡北押原村に在る山。甚だ高からざれども。黒川の東岸なる平地に崛起するを以て。眺望絶佳なり。早天には農民登りて雨を祈る。

イシラガワ(伊自良川) 美濃國に在る川。水源山縣郡笠岳。伊自良谷の水を集め。南流して。方縣今稻葉郡に入り。長良川に注ぐ。流程三里一八町。巨川ともいふ。イシラダニ(伊自良谷) 美濃國山縣郡の

四偏なる山谷。本巢郡外山村と相接す。今上伊自良下伊自良梅原の三村あり。溪流は伊自良川巨川ともいふ。となり。南流して長良川に入る。上伊自良村大字長瀧に。美濃三十三所の札所なる甘南美寺あり。下伊自良村大字小倉に東光寺あり。共に地方の名刹なり。

イシヤン(イシヤ) 【樺太】勇部の舊稱。イシヤ(非尻) 【島根】出雲國能義郡の村。母里村の南に當り。伯太川上流の山谷をいふ。伊非舟尊の葬所。比婆山は其伯耆國界に近き山なりといふ。比婆は又比波に作り。ヒナミと訓む。今大字に日次の名存すれば。此説眞に近きが如し。合二八六。イシヤ(居尻) 【静岡】遠江國小笠郡原泉村の大字。八荒山の下とす。觀音堂あり。元龜年中武田氏の兵變に罹り。佛像の外一も古物なし。

イシヤ(井代) 【愛知】三河國八名郡に在りし村。明治三十九年七郷村に入る。イシヤ(井白) 【茨城】常陸國新治郡茶臼村。懸瀨村邊に互れる舊郷名。和名抄茨城郡夷針郷の遺稱なりといふ。又伊字名郷ともいへり。

イシヤ(維新里) 【臺灣】臺南廳管下の里。明末鄭氏の時立てり。里とせり。イシヤ(依仁里) 【臺灣】臺南廳所管の里。二層行溪下流北岸に在り。夙に閩人及鄭氏時代拓植せられ。鄭氏の時里となる。

イゼ(伊祖) 【沖繩】琉球國中頭郡浦添村の大字。江曾にも作り。土人はキイズと呼ぶ。琉球王英祖出生の地なり。

イズカワ(五十鈴川) 伊勢國度會郡に在る川。水源二あり。一は逢坂山。一は神路山。神宮の西南に至りて相會し。鹿海に至りて朝熊川を合せ。二派に分れ。一は二見浦に注ぎ。一は沙合に至り。勢田川と合して海に入る。流程約四里。一に御裳瀧川といひ。俗に大川と呼ぶ。御裳瀧川の名は倭姫命御裳の褌れたるを洗ひ給ひしより起るといふ。一之瀧より瀧れば。巨岩怪石時。其間奔瀧激流を成し。巖石龍淵。熊瀧海巖石。屏風岩。御船岩。行展等の奇勝あり。

イズミガワ(伊勢川) 日向國門川の一名。イズミガワ(夷隅川) 上總國夷隅郡に在る川。郡内の主流なり。水源南偏海岸に近き清海村の山中。されど水流は却て北行し。大迂曲をなし。大多喜町を経て東折し。刈谷にて布施より来る水を合せ。羊腸風曲して。長生郡界に沿ひ。長者町に至り。外洋に入る。流程約一八里。舟楫の便なし。河中各種の川魚を産し。殊に大多喜の鯉最も著名なり。河口には青海苔を産す。イスマイトン(夷隅郡) 【千葉】上總國五郡の一。四境。南より東は太平洋。北は長生郡。西は市原君津二郡。西南の一隅安房國。面積二五方里四一。行政上大多喜勝浦國寺大原。長者の五町及上野清海。豊濱。總野。總元。老川。四畑。七瀑。瑞

寺と呼べる巨刹あり。初め石動山と稱し。法堂仙人開基。天智天皇以來の勅願所なり。天平勝寶八年僧泰澄大に殿宇を築き。天平寺と號し。勢漸く盛にして。僧坊三百六十餘ありしが。建武二年兵燹に罹り。後天正十年僧徒兵を擧げ。前田利家の討夷する所となり。一山悉く燒亡す。翌年正親町天皇特に羽柴秀吉に勅して。再建せしむ。明治維新後傳燈の資を失ひ。衆徒離散し。終に廢寺となる。

イゼイ(伊勢) 【兵庫】播磨國揖保郡の村。峰相山の西麓にして。飾磨郡に接し。東西狭く。南北に長き溪澗を占む。古の伊勢野の地にして。伊勢川此に發し。下流大津茂川となる。合三三。

イゼイ(伊勢) 【秋田】羽後國由利郡小出村の大字。中世安倍氏の裔此所に居り。鳥海氏を稱し。驍勇の聞え高し。イゼオチ(伊勢) 【滋賀】近江國栗太郡栗山村の大字。野洲川に臨み。東海道石部驛に近し。伊勢藩は伊勢大路の訛りなるべしといふ。

イセカミ(伊勢) 【愛知】三河國東加茂郡に在りし村。明治三十九年賀茂村に合す。イセカミトウケ(伊勢) 三河國東加茂北設楽二郡の界なる山路飯田街道に當る。海拔二八四八尺。其山頂は極めて眺望に富み。遙に伊勢神宮を拜すべしといふ。近年中腹に長三町の隧道を開鑿し往來に便せり。

イセキ(井關) 【山口】周防國吉敷郡の村。小郡海の西南なる海村にして。其港を阿知須といふ。阿知須郵便局あり。鐵道山陽線の阿知須停車場は其南方西岐波村に在り。合七三三。 【廣島】備後國神石郡來見村の大字。福山地方より東城に通ずる路に當る。郵便局あり。

イセキ(井關池) 讃岐國三豐郡五郷村に在る池。梓田川の水源自り。イセキ(井關川) 和泉國泉南郡に在る川。水源下ノ莊村の南山中。東北流して。男里川に入る。流程二里。

イセキ(井關) 和泉國泉南郡東鳥取村の南嶺飯盛山の東に接し。紀伊國に跨る。櫻雲記に見ゆる井山は即ち此所なるべしといふ。

イセキ(井關山) 伊賀國阿山郡布引村に在る山。名所にして。諸曲井關山も亦此地の事を作り。流れ出る涙ばかりは先ちちて。井關の山を今日こゆるかな。 【道命法師】 鹿瀨山を見よ。

イセサキ(伊勢崎) 【群馬】上野國佐波舊佐位郡の町。郡の首邑にして。有名な伊勢崎織物の産地なり。前橋市より三里三二町。高崎市より六里二八町。相生町を距る約五里。酒井氏二萬石の舊城下なり。郡役所。警察署。郵便局。縣立工業學校等あり。鐵道兩毛線此所に車驛を置き。東は大間々桐生。西は前橋。高崎に通ず。此地はもと赤石村といふ。弘治年中(或云。天文年中)由良成繁那波を略取し。赤石郷神人村を伊勢の神領に寄附してより。伊

澤。千町。古澤。中川。東。布施。御宿。東海。中根。浪花の一八村に分ち。郡役所を大多喜町に置く。戸數六五六一。合六九六。地勢高峻の群嶺境界を限り。餘郡内に起伏して。海濱に迫り。平地甚だ少く。唯國吉町以東。夷隅川沿岸の地に稍廣き沖積地あり。河流の主なるものは夷隅川にして。南偏海に近き所に發すれども。反つて北流迂曲。殆ど郡内の水を集めて。北偏より海に入る。舟楫の便なけれども。河魚の産あり。又郡の西南隅は市原郡養老川の源流流る。道路は海岸に沿ふて。安房に入るを銚子道とし。勝浦より松野を経て市原郡に出で。君津郡久留里に至るを木更津道とし。大多喜勝浦間を勝浦道とす。鐵道は房總線長生郡より來り。郡の北偏に留り。長者町。大原の二驛を置く。郡内概して交通の便惡し。物産。農産物は米。一〇六萬石。麥。八萬五千石。其他大豆。小豆。粟。甘藷。蘿蔔。果實。繭。林産物。九萬圓。漁獲物。七六萬圓。鹽。秋刀魚。鮪を主とし。工業物は酒。醬油。蠶製品。六萬圓。網地等あり。夷隅は日本紀伊甚に作り。國造を置きし事を記す。和名抄夷隅に作り。兩霧蘆道荒田。長狹。白羽の五郷及餘月一を載す。中世私に分つて。夷南。夷北。又伊南。伊北とし。正保年中夷隅と改訂す。

イヌルギ(石動) 【富山】越中國西礪波郡の町。郡中第一の都會にして。北陸街道の要路に當り。加賀國津幡町より四里。高岡市より四里一六町。西礪波郡役所暨







ありき戦國の頃境域大に亂れ度會郡伊氣郡は志摩國に入り志摩の道湯船越...

に加封し藤堂高虎を津に本多忠勝を桑名に封じ山田奉行を置きて神宮の事...

氏の爲に悉く殺さる。イセリガワ(井芹川)肥後國に在る川、坪井川を見よ。

灣西岸に在る流嶺舊稱イソウシナイ。イソウシナイ(樺太)磯牛の舊稱。

イソノ(磯野) 【滋賀】近江國伊香郡七郷村の大字戦國の頃磯野氏居る永正十五年...

イソハ(磯原) 【茨城】常陸國多賀郡北中郷村の大字大北川の河口に在り山脈...

イソノ(磯野) 【滋賀】近江國伊香郡七郷村の大字戦國の頃磯野氏居る永正十五年...

イタ(伊太) 【静岡】駿河國志太郡大長村の大字寛永年中代官長谷川長勝岩石を...







イタフ

里アイヌ名イタフタギ  
イタフ(飯給) 【千葉】上總市原郡里見村の大字。  
イタミ(伊丹) 【兵庫】播磨川邊郡の町。有名なる清酒産地にして、郡内第一の都會なり。川邊郡役所警察署區裁判所郵便局中學校等あり。大阪を距る四里餘。鶴岡道尾崎より來り(其間四哩)此地を経て丹波國篠山に達す。此地中世以來伊丹氏の所領なりしが、天正の初亡び荒木村重代りて之を領し、徳川氏の時は近衛家の領となり、市民の長を擧げて總宿老とし之を治めしめたり。此地の酒を造ることは文祿慶長の頃より始まり、初は鴻池村の山中某五斗一石の少量を江戸に運び賣りしに、次第に需要を増し、終に船にて輸送するに至り、幕末の頃此地の釀造なる銘酒最も聲價ありき。兵可用酒可飲海内何州當此品居販賣倭國地異腹貯五州水滄々、阿吉不肯捐與人阿藤警宅城如錦龍顧度雨逆波、戦血滿地化嘉禾、伊丹劍菱美如何、各醉一杯能飲(戲作攝州歌)頼山陽、伊丹城址は町の東荒丘に在り、城壁の跡尙辨すべし。有岡或は有應山と稱す。伊丹氏の要害なりしが、天正の初織田氏の滅却する所となり、荒木村重之に代り、天正六年織田氏に叛きしが、翌年冬落城す。墨染寺は城址の傍に在り、墨染佛を安置す。山城伏見墨染寺の分派なり。境内に荒木村重の塔、俳諧師鬼貫の墓及女郎塚あり。女郎塚は村重没

イタム

落の時、城中の女子等織田勢の爲に悉く焼殺せられたるを哀み、村民の建立せしものといふ。野ノ宮、祇園は古、豊後時ノ宮と稱せしが、後世猪名野の中央に在るが故に、改稱せりといふ。素盞鳴尊を祭り、近村の鎮守なり。延喜四年山城國關の聖實上人勸請して、傍に善樂寺を建つ。久安六年源爲朝一時此所に寓し、修理して金剛院と改む。天正年間荒木村重の亂に再び傾廢せるを豊臣秀頼再興す。今の社は貞享二年近衛基熙の造營なりといふ。辻の碑は大字辻に在り。銘に曰く、距東寺十里、距關戸七里、距須磨七里、距天王七里、距大小路七里、天王は丹波境の天王峠、大小路は和泉國の堺市に在り。近世好事者の建立ならんといふ。合志四。

イタヤ

イタヤナギ(板柳) 【青森】陸奥國北津輕郡の村。もと板屋野木に作る。大字板柳は五所川原弘前間の一驛なり。郵便局あり。合志三。  
イタラシキ(板真敷) 【沖繩】琉球國島尻郡大里村の大字。漁場なり。  
イタナギ(板木) 【北海】膽振國室蘭郡輪西村に在る小岬。室蘭開港の街道を通過す。永田氏地名解には、板の義なり。昔饑饉の時、土人鯨岩を見て眞の鯨と思ひ、其流れ寄るを待ち、薪盡き板を焼くに至り、終に餓死せるより起れりと記せり。  
イチ(市) 【兵庫】淡路國三原郡の村。郡の中央に在り。一小驛市を成す。福良町及淡村を距る各二里。郡役所、警察署、郵便局等あり。此地古は國府市といひ、國府館は今國衛の字を存す。但し其西に當りて別に國衛といふ地あり(今、神代村に屬す)。此は後世其所に移したることありし故なりといふ。大字三條の學ヶ原に國學の古址あり。古國學を府中に置き、國司をして管せしめたる所なり。惣社は大字十一ヶ所に在り。元來淡路國に大字二座、小社十一座あり。國中に散在し、各社に奉幣すること難きを以て、小社十一座を國府の中に祭場を設け、國司其祭に會し、幣を斑つを例とす。各所の十一座を一社に祀るを以て惣社といふ。合志三。 【廣島】備後國御調郡の村。御調川の南岸に在る大村にして、郵便局あり。合志三。 【廣島】備後國深安郡の村。福山町の東北に當り、

イタイ

上古の深津市の地にして、大宅郷の郡家なりといふ。天神祠及眞言宗、王寺、阿彌陀華より移し、ものあり。合志三。  
【大分】豊後國北海郡に在りし村。明治四十年佐賀市村に合し、今其大字たり。又坂野市ともいふ。大分町の東三里、伊豫街道の小海驛なり。郵便局あり。  
イタイガタケ(二岳岳) 長門國豊浦大津二郡の界に在る山高二二八〇尺、粟野山脈の高峯なり。  
イチウ(二字) 【徳島】阿波國美馬郡の村。銀山の北なる山村にして、郵便局あり。無数の峯嶺相重り、其高峻なるを石堂嶺、小島嶺とす。總稱して一字山といふ。深木相集り、北流して、山、眞光の二村を経て吉野川に入る。一に眞光川ともいふ。流程七里。夏日銀山詣のもの此溪に沿ふて上下するもの多し。河に鳴瀧土釜等の奇勝あり。合志三。

イチエ(市江) 【愛知】尾張國海西郡の村。舊庄名なり。明治三十九年市江郡東市江の二村及十四山村の一部を合せて市江村を置く。佐屋川令廢川、木曾川合流點の東岸に在り。古は市江又は一會に作り、も海岸なりしが如し。貞應年中の海道記に、「夜陰に市江といふに」とり、前を見おろせば海さし入て河伯の民うしろに

イタムチ(板持川) 筑前國糸島郡に在る川。水源、怡土村の井原山。北流して高祖川を合せ、元岡村に至り、福岡灣に注ぐ。上流を瑞梅寺川といふ。其下流はもと西に通じ、舊志摩郡を全く本地より隔離せりといふ。  
イタヤ(板谷) 【山形】羽前國南置賜郡山上村の大字。岩代國界に接し、其山路を板谷峠といふ。米澤より福島地方に出づる要路なり。近年鐵道陸羽西線の停車場を置く。米澤より一二哩四八、福島一三哩四〇、須賀川あり。

イチキ(市木) 【三重】紀伊國南牟婁郡の村。合志三。  
【愛知】三河國西加茂郡に在りし村。明治三十九年高橋村に入る。  
【島根】石見國邑智郡の村。郡の西南部の山村にして、此所より安藝國大朝に通ずる山路あり。郵便局あり。合志三。

イチエ(市江) 【愛知】尾張國海西郡の村。舊庄名なり。明治三十九年市江郡東市江の二村及十四山村の一部を合せて市江村を置く。佐屋川令廢川、木曾川合流點の東岸に在り。古は市江又は一會に作り、も海岸なりしが如し。貞應年中の海道記に、「夜陰に市江といふに」とり、前を見おろせば海さし入て河伯の民うしろに

イチエ(市江) 【愛知】尾張國海西郡の村。舊庄名なり。明治三十九年市江郡東市江の二村及十四山村の一部を合せて市江村を置く。佐屋川令廢川、木曾川合流點の東岸に在り。古は市江又は一會に作り、も海岸なりしが如し。貞應年中の海道記に、「夜陰に市江といふに」とり、前を見おろせば海さし入て河伯の民うしろに

イチカワ(市川) 播磨國第一の大川。水源、但馬國生野銀山、神崎郡を貫流し、神崎川といふ。飾磨郡に入り二分し、本流は妻鹿村の西より海に入る。流程一七里餘。舟楫を通ぜず。分流を船場川といひ、姫路市を過ぎ、飾磨港に注ぐ。流程三三里餘。此間舟を通ずべし。中國街道市川渡は花田市殿二村の間に在り。 【陸奥】國に在る五戸川の一。

イチキ(市木) 【三重】紀伊國南牟婁郡の村。合志三。  
【愛知】三河國西加茂郡に在りし村。明治三十九年高橋村に入る。  
【島根】石見國邑智郡の村。郡の西南部の山村にして、此所より安藝國大朝に通ずる山路あり。郵便局あり。合志三。

イチエ(市江) 【愛知】尾張國海西郡の村。舊庄名なり。明治三十九年市江郡東市江の二村及十四山村の一部を合せて市江村を置く。佐屋川令廢川、木曾川合流點の東岸に在り。古は市江又は一會に作り、も海岸なりしが如し。貞應年中の海道記に、「夜陰に市江といふに」とり、前を見おろせば海さし入て河伯の民うしろに

イチカワ(市川) 【千葉】下總國東葛飾郡の町。江戸川の東岸に在り。千葉街道の掛る所にして、近年まで渡津ありしが、今架橋す。東京より三里二五町、船橋町へ二里四町、松戸町へ一里一五町、鐵道總武線の車驛あり。東京兩國より七哩半、附近に眞岡、國府臺の名所あり。警察分署、郵便局あり。合志四。  
【長野】信濃國下高井郡の村。千曲川の南岸、毛無火山の北麓なる隘地なり。もと市川谷といひ、川の南北を總稱せるもの、如し。越後國中魚沼郡の道路に當り、要害の地なれば、戰國の頃、城塞あり。市川氏居り、上杉氏に屬せり。合

イチカワ(市川) 【千葉】下總國東葛飾郡の町。江戸川の東岸に在り。千葉街道の掛る所にして、近年まで渡津ありしが、今架橋す。東京より三里二五町、船橋町へ二里四町、松戸町へ一里一五町、鐵道總武線の車驛あり。東京兩國より七哩半、附近に眞岡、國府臺の名所あり。警察分署、郵便局あり。合志四。  
【長野】信濃國下高井郡の村。千曲川の南岸、毛無火山の北麓なる隘地なり。もと市川谷といひ、川の南北を總稱せるもの、如し。越後國中魚沼郡の道路に當り、要害の地なれば、戰國の頃、城塞あり。市川氏居り、上杉氏に屬せり。合

イチキ(市木) 【三重】紀伊國南牟婁郡の村。合志三。  
【愛知】三河國西加茂郡に在りし村。明治三十九年高橋村に入る。  
【島根】石見國邑智郡の村。郡の西南部の山村にして、此所より安藝國大朝に通ずる山路あり。郵便局あり。合志三。

イチエ(市江) 【愛知】尾張國海西郡の村。舊庄名なり。明治三十九年市江郡東市江の二村及十四山村の一部を合せて市江村を置く。佐屋川令廢川、木曾川合流點の東岸に在り。古は市江又は一會に作り、も海岸なりしが如し。貞應年中の海道記に、「夜陰に市江といふに」とり、前を見おろせば海さし入て河伯の民うしろに

イチエ

イチカ

イチキ

イチエ







市の南一里二町。伊勢國度會郡宮川の支流に沿へる地方。田丸地方より熊野浦橋へ出づる山徑を通ず。今一之瀬小川郷の二村あり。天正年中田丸具直其子具良と共に織田氏の兵を避けし所にして、二之瀬御所といへり。延元二年宗良親王又此所に在り。郭公をきいて、深山をほひとりな出て時鳥われもみよこの人はまつらん。

イナノセタニ(一之瀬谷) 伊勢國度會郡宮川の支流に沿へる地方。田丸地方より熊野浦橋へ出づる山徑を通ず。今一之瀬小川郷の二村あり。天正年中田丸具直其子具良と共に織田氏の兵を避けし所にして、二之瀬御所といへり。延元二年宗良親王又此所に在り。郭公をきいて、深山をほひとりな出て時鳥われもみよこの人はまつらん。

イナノタキ(二之瀬) 大和國吉野郡下北山村大字前鬼に在る瀧高一丈八寸幅一間半。【奈良】吉野郡天川村大字瀧川に在る瀧高二丈幅八間。イナノタニ(二ノ谷) 【香川】讃岐國三豊郡の村。合言。

イナノタニ(二ノ谷) 【香川】讃岐國三豊郡の村。合言。イナノタニ(二ノ谷) 攝津國武庫郡に在る古戰場。須磨村の西部山海相迫る所に於て、俗に須磨といふ。數粉、鉢伏の山嶺其背障を成し、淺溪三所。一谷二谷三谷の稱あり。一谷は廣二〇間、高二二間、谷口より波打際まで六〇間餘あり。源平の古戰場として名高し。谷の上方に壽永帝の内裡跡あり。方二四間許、嶺を鐵粉といひ、北に鶴越あり。三谷の四一町許に平教盛塔あり。五輪の石塔にして、高一丈餘梵字を刻す。實は北條貞時平家一門追福の爲めに建てしを、何の世よりか無官太夫墓と呼び置はしたりといふ。塚の傍に名物蕎麥店あり。二十餘春夢一空豪華吹散海驛山排殺氣差出潮流寒聲日

夜東、憶昔滿宮悲去鶴、欲將往事問飛鴻。調斑刺見英雄血、蟹樹鵲啼菜菜紅。(二谷) 瀧古梁川星殿、谷かけに平家の人や菊の花(田橋)。

イナノタニ(二ノ谷) 【伊豆】國賀茂郡仁科村に在る瀧山銅鑛を出す。鑛は純銅一割一分七厘を含有すといふ。イナノ(市野々) 【千葉】上總國夷隅郡古澤村の大字。イナノハサマ(二道) 【宮城】陸前國栗原郡の村。合言。

イナノハサマ(二道) 【宮城】陸前國栗原郡の村。合言。イナノハサマ(二道) 肥後國阿蘇郡南小國村の字。郵便局あり。内牧驛の北四里餘、其間に阿蘇嶽野にして、高原渺漠、人跡甚だ稀なり。旅人此所に至りて始めて人煙を見る。

イナノハサマ(二道) 肥後國阿蘇郡南小國村の字。郵便局あり。内牧驛の北四里餘、其間に阿蘇嶽野にして、高原渺漠、人跡甚だ稀なり。旅人此所に至りて始めて人煙を見る。イナノ(市野) 【巖手】陸奥國二戸郡の町。奥州街道の一驛にして、郡中福岡に亞ぐ繁華の地なり。馬淵川市街を貫流し、東西に山あり。民家は粗雑なれども、百貨略具ける。竹行李を名産とす。郵便局あり。福岡町(二里一三町) 一月停車場は島海村に在り。東京上野驛より三六九哩五九鐘。合言。

西北に在る山久世郡境を限る。イナノミヤ(二宮) 【千葉】上總國長生郡長柄郷の町。九十九里濱を控へたる市街にして、宮川の南岸に沿ひ、もと一宮本郷と呼べり。鐵道房總線の車驛あり。貨物の出入多く、股賑なること東上總第一と稱す。警察分署、區裁判所、郵便局等あり。千葉町より一〇里四町、木更津町より一三三里五町、茂原町に二里一三町を隔つ。國幣中社玉前神社は玉依姬命を祀る。上總の一の宮にして地名の起る所以なり。社殿莊麗、壽永の初上總權介廣常甲一領を奉納し、且つ神田二十町を獻ぜん事を誓ひ、祈る所あり。源賴朝討つて廣常を殺し、本社を探り其跡を得て宛なるを知り、大に悔ゆといふ。一宮城址は初め廣常の裔に在り、後里見氏に屬し、糟谷正木二氏交々之を守り。天正十八年徳川氏の將本多忠勝の爲に陥る。享保十一年加納久通此所に封ぜられ、文政年中中屋を舊城址に築き居り、傳へて明治維新に至る。封一萬五千石、觀音寺あり。天正年中行基開創と傳ふる古刹にして、堂宇廣大、欄上周圍悉く地獄、極樂の圖を刻し、精巧を極む。合言。

イナノミヤ(二宮) 【千葉】上總國長生郡長柄郷の町。九十九里濱を控へたる市街にして、宮川の南岸に沿ひ、もと一宮本郷と呼べり。鐵道房總線の車驛あり。貨物の出入多く、股賑なること東上總第一と稱す。警察分署、區裁判所、郵便局等あり。千葉町より一〇里四町、木更津町より一三三里五町、茂原町に二里一三町を隔つ。國幣中社玉前神社は玉依姬命を祀る。上總の一の宮にして地名の起る所以なり。社殿莊麗、壽永の初上總權介廣常甲一領を奉納し、且つ神田二十町を獻ぜん事を誓ひ、祈る所あり。源賴朝討つて廣常を殺し、本社を探り其跡を得て宛なるを知り、大に悔ゆといふ。一宮城址は初め廣常の裔に在り、後里見氏に屬し、糟谷正木二氏交々之を守り。天正十八年徳川氏の將本多忠勝の爲に陥る。享保十一年加納久通此所に封ぜられ、文政年中中屋を舊城址に築き居り、傳へて明治維新に至る。封一萬五千石、觀音寺あり。天正年中行基開創と傳ふる古刹にして、堂宇廣大、欄上周圍悉く地獄、極樂の圖を刻し、精巧を極む。合言。

イナノミヤ(二宮) 【東三】尾張國中島郡の町。名古屋城東間に在る名邑にて、東西一町、南北一里四町。區裁判所、警察、郵便局、鐵道車驛等あり。尾西鐵道は此地と彌富との間を通じ、關西東海兩線を接続す。名古屋を距る北五里一六町、沼澤町より一里二九町、起町より二里六

イナノミヤ(二宮) 【東三】尾張國中島郡の町。名古屋城東間に在る名邑にて、東西一町、南北一里四町。區裁判所、警察、郵便局、鐵道車驛等あり。尾西鐵道は此地と彌富との間を通じ、關西東海兩線を接続す。名古屋を距る北五里一六町、沼澤町より一里二九町、起町より二里六

町。此地毎月三八の日を以て市を開き、布帛生絲魚鳥陶器等を販賣す。名古屋岐阜等より商人來集して甚だ盛なり。殊に古着の取引最も盛にして、熱田の魚市、枇杷島の青物市と並稱せらる。最近の調査に據れば、諸品一日の賣買高平均十萬圓に及ぶといふ。町内又織工場數多あり。眞清田神社は尾張の一の宮(地名の起る所以)にして、殿堂莊麗。國幣小社に列す。近世社領三百三十三石。神武天皇三十三年の創建と傳へ、國幣立尊外三神天火明命なりといふを祭る。毎年三月三日の桃花祭には古風の祭車を飾り、頗る盛觀なり。十六夜日記に、一ノ宮過るといふのみや名さへなつかしうたつなく、みつなきのりを守るなるべし、天道社は如來を安す。毎年陰曆十月十四日夜堂内に通夜し、翌十五日日出を拜し還るを例とし、終夜雜沓す。合言。

イナノミヤ(二宮) 【東三】尾張國中島郡の町。名古屋城東間に在る名邑にて、東西一町、南北一里四町。區裁判所、警察、郵便局、鐵道車驛等あり。尾西鐵道は此地と彌富との間を通じ、關西東海兩線を接続す。名古屋を距る北五里一六町、沼澤町より一里二九町、起町より二里六

イナノミヤ(二宮) 【東三】尾張國中島郡の町。名古屋城東間に在る名邑にて、東西一町、南北一里四町。區裁判所、警察、郵便局、鐵道車驛等あり。尾西鐵道は此地と彌富との間を通じ、關西東海兩線を接続す。名古屋を距る北五里一六町、沼澤町より一里二九町、起町より二里六

イナノミヤ(二宮) 【東三】尾張國中島郡の町。名古屋城東間に在る名邑にて、東西一町、南北一里四町。區裁判所、警察、郵便局、鐵道車驛等あり。尾西鐵道は此地と彌富との間を通じ、關西東海兩線を接続す。名古屋を距る北五里一六町、沼澤町より一里二九町、起町より二里六

イナノミヤ(二宮) 【東三】尾張國中島郡の町。名古屋城東間に在る名邑にて、東西一町、南北一里四町。區裁判所、警察、郵便局、鐵道車驛等あり。尾西鐵道は此地と彌富との間を通じ、關西東海兩線を接続す。名古屋を距る北五里一六町、沼澤町より一里二九町、起町より二里六

イナノミヤ(二宮) 【東三】尾張國中島郡の町。名古屋城東間に在る名邑にて、東西一町、南北一里四町。區裁判所、警察、郵便局、鐵道車驛等あり。尾西鐵道は此地と彌富との間を通じ、關西東海兩線を接続す。名古屋を距る北五里一六町、沼澤町より一里二九町、起町より二里六

イナノミヤ(二宮) 【東三】尾張國中島郡の町。名古屋城東間に在る名邑にて、東西一町、南北一里四町。區裁判所、警察、郵便局、鐵道車驛等あり。尾西鐵道は此地と彌富との間を通じ、關西東海兩線を接続す。名古屋を距る北五里一六町、沼澤町より一里二九町、起町より二里六

イナノミヤ(二宮) 【東三】尾張國中島郡の町。名古屋城東間に在る名邑にて、東西一町、南北一里四町。區裁判所、警察、郵便局、鐵道車驛等あり。尾西鐵道は此地と彌富との間を通じ、關西東海兩線を接続す。名古屋を距る北五里一六町、沼澤町より一里二九町、起町より二里六







紀伊國境に葛城山、鍋谷嶺、七越山、河内國境に檜尾山、天野山あり。河内は天津川、石津川あり。皆此山間に發し、西北流して海に注ぐ。海岸は淺瀬にして、港灣と稱すべきものなし。國道は海岸に沿ふて走り、其他峠を起點として、小栗街道、父鬼街道、西高野街道、富田林街道、長尾街道等三方に放散し、鐵道は南海線大阪より來り、海岸に沿ふて南走し、堺湊濱寺、大津の四驛あり。又高野線大阪より來り、堺の東を過ぎて斜に河内國に入る。物産の主なるものは農産物にして、其中蜜柑(二五萬圓)及甘藷(二九二萬圓)は共に大阪府下第一に位し、工業品の綿織物は府下第三に居る。米(一三萬石)麥(六萬石)、大豆、蠶豆、蘿蔔、牛蒡、甜瓜、蕃椒、菜種、胡瓜、蜜柑、夏橙、林産物、合計四萬圓、漁獲物、合計七萬圓、工業品、織物(一七一萬圓)段通、大小酒、醬油、砂糖、煉瓦、及瓦、玻璃球あり。本郡は明治二十九年大島泉二郡を合せるものとす。

イツキトウザン(五木銅山)【熊木】肥後國球磨郡五木村を見よ。

イツキナダ(齋灘) 伊豫國越智郡温湯二郡の海上の稱。宮崎島(梶取岬)と波妻岬との間をいふ。東に來島海峡あり。西に安居島沖に連る。安藝海の東隅とす。

イツク(二宮) 【高知】土佐國土佐郡の村。四波自設二街道の分る所にして、高知市の東北一里に在り。國幣中社土佐神社(俗に二宮)あり。村名起る。此社は國

内第一の大社にして、一言生命を祭る。此神賀茂氏の祖神にして、其後裔部佐國造となれるより、雄略天皇の時大相國より移せるなり。社殿は元龜年中長曾我部元親の重修。樓門は寛永年中山内忠義の遺蹟といふ。善樂寺、神宮寺は其別當なり。又天台宗國清寺は山内氏の創建なり。藩政の頃寺領一三〇石を有せり。台三ツ、イツクシ(殿美) 【熊手】陸中國四警井郡の村(六四四)。

イツクシ(五串) 【熊手】陸中國四警井郡殿美村の大字。警井川の支流なる谷間にして、一ノ關町より二里半。水清く、石奇に、風景頗る木曾野見里に似たり。天工橋、玉瀧山、玉瀧土俗殿、大明神等の勝あり。昔寺、今本寺あり。慈悲大師の御體を埋めて建てし所と傳ふ。

イツクシマ(殿島) 【廣島】安藝國佐伯郡の町。殿島に在り。市街清潔にして夏日蚊を生ぜず。住民多く工業に従事し、竹木諸細工、彫刻物を製す。警察分署、郵便局あり。鐵道山陽線の宮島停車場は對岸大野村に在り。町の中央に殿島神社あり。市杵島姫命、田心姫命、滿津姫命を祀り、合殿三座。客社五座あり。社傳に推古天皇の時の創建といふ。延喜式三代實錄に其名見え。古來歴朝の崇敬あり。平清盛安藝守となるに及び大に尊崇し、社殿を營み、廳及講堂等を修め、種々の壯觀となる。承安四年後白河法皇、治承四年高倉上皇臨幸あり。源氏、足利氏及當國の領主大内、毛利

利福島淺野の諸家亦神領を寄附し、絶へず修理を加へたり。社殿は山を負ひ、海に臨み、大小の殿宇、廊廡曲折して相連り。潮水至れば斥浪波を生じ、社殿之に浮び漂滞として、氣氣樓の如し。其中央に淨るを大宮寶殿、桁十二間、梁五間五尺とし、幣殿桁三間二尺、梁二間五尺は其前に在り。拜殿の前に被殿(俗に組入といふ)桁八間、梁五間半あり。其前に高舞臺あり。高舞臺の左右に平舞臺あり。平舞臺に横き左右に樂屋各二宇あり。樂屋と並びて左右に門客神社三宇あり。是より前方に廊廡(俗に舌先)を設け、其端に銅燈籠臺一基を置き、廻廊は長一百八間。寶殿の左右に開き、江岸に達す。毎間燈籠を掲げ、欄上に額を掛く。扁額の著名なるは狩野元信の牛若常信の七福神、左近の馬、尙信の羅城門、三十六歌仙等數千點に及ぶ。廊廡の前方七十間に大島居あり。柱高四丈四尺、兩柱相距五間、棟長六丈四尺あり。客社寶殿(桁七間、梁四間)は大宮の右三十間に在り。幣殿、拜殿、被殿等之に屬す。又連歌堂、大講堂、御供所、湯立所、能舞臺、鐘樓、寶文庫等あり。大宮の左の泉池に反橋を架し、大宮と客社との間に平橋を架す。延喜の制、名神大社に列し、後本國の一ノ宮と稱し、治承年中毎年二度の官幣を賜はるべき命を承け、明治維新の後勸願所となり、四年國幣中社に列せられ、四十四年官幣中社に昇格す。祭

日は毎年一月十七日なり。其他大元松原に眞言宗大願寺あり。舊供所にして、了開上人の中興といふ。殿島神社の別當を大聖院といひ、院址あり。治承年間高倉上皇臨幸あり。又天正年間には仁助法親王の住せし所に、俗に御室といひしが、明治二十年燒失せり。一説に法親王の居りしは四方院なりといふ。殿島神社の西北海濱に大元神社あり。祭神詳かならず。島の地主神なるべしといふ。其他卒塔婆址(大宮鐘樓の傍に在り)、平康賴鬼島より流せし卒塔婆の流れ寄りし所といふ。五層塔大宮右の丘上に在り。應永十四年建立。大經堂俗に千疊敷といふ。桁行二十間、梁間十間五尺、縁幅八尺、四方に欄干を付く等あり。又南町に紅葉谷あり。一溪谷にして、楓樹の勝地なり。古くは盛夏綠蔭に假庇を設け、茶を煮て客を饗せしが、嘉永年間より酒樓を設け、今島中第一の遊樂場たり。合三十五、彩舟街尾倚汀沙、隱映仙山五色霞、壩内潮回廊九曲、街頭鹿野市千家、請平威熾慈惠土、帝宸遊想翠華、憶古何人同此意、四隣歌吹散宵譚(宮島管茶山)海面烟收月吐、靑銅一碧暮潮増、東西賽去人初靜、波撼長島百八燈(殿島)正通所、遠島の下津若根の宮柱、波の上より立かるとぞ見る(幽齋紀行)と、ころからたつの宮がらうかぶかと、見えてつらなる浪のともしび(似雲)と、みつしほに月より上の宮居かな(宗長)と宮しまや燈籠の火にあけやす

し。其角、燈籠をいつくしまやまなみの花(支考)。

イツクシマ(殿島) 安藝國佐伯郡の陸岸に沿へる一島。廣島灣の西南に横はる。東西三〇町、南北三里半。北西を表とし、東南を裏とし、周圍七里三二町。島の南岬を革龍岬、北岬を聖岬といひ、陸岸大野村との間を大野瀬戸といひ、那沙美島との間を宮島瀬戸といふ。島内山岳連互して平地なく、就中峻嶺を彌山(俗に御山)といふ。高さ一五〇尺。登路一八町。山下に飛泉あり、白糸流といふ。瀧宮及火消不動堂此所に在り。北偏に殿島町及殿島神社あり。日本三景の一とす。島中山水明媚、七浦八景の勝あり。杉野浦、腰細浦、青海苔浦、山白浦、洲屋浦、御床浦、細浦を俗に七浦といひ、各浦に惠比須祠あり。之を一周年を俗に島廻りといふ。俚語に「安藝の宮島廻れば七里、浦は七うら七惠比須」島中の要津を有浦といふ。市街は直に沙濱に接す。廣島市及岩國の新港まで各八里。平家物語に鎌浦に作れる地にして、高倉上皇行幸記に「たからかへるなこりも右の浦なれば、神もめぐみをかくる白波、其北崖に宮尾城址あり。要害ノ鼻ともいふ。天文二十四年毛利元就此に築き、陶晴賢の怨敵已斐豐後守新里宮内少輔を置きて晴賢を誘ふ。晴賢塔ヶ岡に陣し、步騎三萬、軍船千艘を以て之を攻む。元就對岸の地御前に陣し、精兵三千を率ゐ。九月晦日の夜陰に乘じ、風浪を犯し、

鼓、浦に着き、直に山頂に攀ぎ、陶の本陣の背後を襲ふ。陶軍不意の突撃に大敗し、晴賢船に乘じて逃るとし、果さず遂に大江に自殺す。此島一に宮島といふ。もと恩賀島御香島或は霧島我島などいへり。との説あれども定かならず。按ずるに、古はさせる名もなかりしが、大神鎮座の後神號の市杵と通はして、頓て伊都伎島と呼びしならん。類聚國史、延喜式三代實錄山槐記拾芥抄等の書皆伊都伎島とあり。後殿島と稱ふるに至れり。殿島圖解(文籍) 伊都伎島八景三册卷四、藝州殿島圖會十册岡田靖澄三、伊都伎島名勝圖會三好右京四三、鹿苑院殿殿島詣記今川貞世。

イツク(出流) 【兵庫】淡路國に在りしといふ地名。重仁紀に淡路島出流邑を天日輪に賜へる由を載す。其地今詳かならず。津名郡千草村なるべしとの説信に近し。

イツク(出石) 【兵庫】但馬國出石郡の町の西境に在る一市街にして、出石川に跨る。東西一五町、南北一六町。市坊一七段。三三六戸あり。出石郡役所、警察署、郵便局、稅務署等あり。出石橋を産し、又近傍より串柿を出す。町の東北有子山に、出石城址(俗に高城あり)有子山城ともいふ。天正年中山名氏小盗後に此城と改む。の城を移築せしものにして、同八年羽柴秀吉山名氏を亡し、弟秀長を置、秀長大和に移封後、前野長康之に居る。文祿四年小出吉政の領となり。吉政嗣ぎ、徳川氏に至る。其封故の如し。元祿十年小出氏嗣絶え、松平忠勝伊賀守封せらる。寶永三年仙石政新(封三萬石)之に代り、世襲して明治維新に至る。此隔山城址は今町の北神美村大字宮内に在り。出石城の舊



崎郡に至り、城崎川に入る。流程約一〇里出石町より下流舟楫を通ず。

**イツシキ(二色)** 【三重】伊勢國安濃郡安東村の大字。宮家三井氏の祖高安此所に居り、津城主富田氏に仕へたりといふ。其孫高利に至り、商となり、家を興す。

【愛知】三河國幡豆郡の町。西尾町の南二里。知多湖の濱に居り、海内往復の小蒸氣船寄港し、漁業亦盛なり。海邊の風景甚だ佳にして、一色八景の目あり。警察分署(郵便局あり)又縣立水産試験場の一部(一部は知多郡幡豆に置かる)を置き、鯉鱒鰻等の養殖試験を施行す。又郡内第一の産物たる棉は、此地を以て専賣市場となし、平坂港を経て東京地方に輸出せしが、近年外國種の輸入盛なるが爲め、前日の如く多からずといふ。此地は足利氏の時豪族一色氏の居りし所なり。今川記に據れば、一色氏は足利滿義の子滿貞の弟有義を祖とし、大日本史には、足利泰氏七男公深初めて一色を稱せりと記す。合二〇〇八。

●【愛知】三河國南設楽郡に在りし村。明治三十九年風來寺村に合す。

●【静岡】駿河國志太郡和田村の大字。大井川の一派此所より海に入る。古は此川を以て駿遠二國の境界とせり、即ち向原の北界たり。

町、面積二〇方里一六、行政上、出石町及神美、小坂、室垣、合橋、高橋、資母の六村に分ち、郡役所を出石町に置く。戸數二六、合三、七、七、地勢、山岳郡の四境に聳立して險峻を極め、中央の高地は平坦にして稼穡に適す。山岳は丹波郡界に床尾山あり。養父郡に跨り、北に光明山、南に圓成寺峠を起す。東南に三國山あり。丹波丹後に跨る西に登尾峠あり。河流は出石川あり。合橋村にて一水を合せ、出石町の西に下流舟楫の便あり。道路は丹波東街道天田郡より來り、久知出石を経て城崎郡に入る。別に出石町より西南に向ひ、養父市場驛に連るものあり。物産、農産物、米(三萬石)、大豆、蘿蔔、大麻、柿、橘、三萬圓にして、多からざれば、蠶業、牧畜行はれ、殊に牛は但馬牛として世に著る。販賣頭數七四二、林産物、二萬圓、蠶業は朝日、明延の銅鑛(五萬圓)、工産物は酒、醬油、蠶絲及真綿織物、陶磁器(出石焼、柳行李等(三五萬圓)あり。出石の名多く古書に散見し、天日槍の留住し、其子孫の興れる所なり、和名抄伊豆志と註し、小坂、安美、出石、室野、地野、高橋、資母の七郷を載す。

**イツシチトウ** (伊豆七島) 伊豆國の東南なる海上に串列せる島嶼。北緯三三度一三四度七分、東經一三九度一四〇度五分。通例、大島、利島、新島、津島、三宅島、御藏島、八丈島をいひ、東京府の管轄に屬す。諸島皆火山岩より成る。是れ富士山根、

伊豆の火山脈の潛みて水底に入り、所々に噴出せるものにして、其脈延びて七島の最南端なる八丈島より南一二〇哩を隔てたる小笠原島に現はれ、其間南々東の方向に一條の脊梁を海底に作り、以て世界第一の深底と呼ぶる。トスカローなる四千尋以上の深海と、琉球島宋の二千乃至一千尋の深海との分界を成すが如し。而して諸島近傍には岩石起伏し、大島の波浮港の外は諸島に一の港灣なく、且つ風力常に猛烈にして、怒濤激甚なるを以て渡航し易からず。加之海底の勾配頗る急にして、一漚を隔てざるに、水深百尋の差を見ること往々あり。殊に三宅島、新島間は千尋の測量系も尙海底に達せずといふ。凡此諸島間に於ける潮流は、通例北東に向ひ、其速率は一里半より三里に至り、又各季の流行風の爲に往々大激浪を起すことあり。殊に毎年七八月の頃は所謂黒潮の最盛期にして、其速力一時間に六里餘を馳せ、若し之に逆上せんとする時は、七挺櫓を以て二人交々漕ぎ、僅に上進するを得る程なりといふ。彼の三宅八丈間の黒瀬川は、潮流中別に一段高く波立ち走れること人の熟知する所なり。諸島の内陸地を距る最も近きものを大島(下田より海路一八里)最も遠きを八丈島(下田より海路六四里)とし、其他は皆南の方位に散在し、相隔ること遠きは一三里近きは三里に過ぎず。物産は大島、利島、三宅島、御藏島に於ては

陸産を主とし、新島津島は海産に富めり。而して海陸兩産に富めるは大島及八丈島とす。但し各島山茶樹多く産し、島民其種子を採り、精油を搾製す。農産物の主なるものは甘藷にして、各島皆之を産し、産額頗る多し。米は大島、三宅島、八丈島のみ産し、大島は津島島の外皆之を出すも産額甚だ少し。伊豆七島の稱は後世の事なるが如し。保元物語普通本には、大島三宅八丈美計澳の五島とし、同書鎌倉本には、「大島を始としてみわけの島、上津島八丈島みつげ島奥の島、新島三倉島などいふ八の島」と記し、牛井本には奥の島を奥の小島に作り、三倉島を載せずして七の島云々に作れり。當時一定の稱あるにあらざりしを見るべし。但し何時の頃より七島の稱定まりしかば詳ならず。島民の祖先に就きては、往古西南より移住せるものなりといふ。蓋し日本書紀に、「其後少名彥命行至熊野之御時、遂適於常世郷」とある。常世郷は果して何所なりしや、確定し難きも、七島中の口碑に、神代に事代主神并に諸王子が經營に係る遺跡及事代主命が初め津島に着し、新島を経て伊豆の白濱に移り、終に三島明神と崇めらるるに至りしことを傳へ、又紀伊附近にて難破せるものは、常に津島若くは八丈島に漂着することと思ひ合はすれば、祖先は黒潮に乗じて南西より移住せしことを推定するに難からずといふべし。七島の日は、七島

諸島に於て、年合計戸數九百三十三、口數千七百七十餘とあり。海島風土記には、口一萬三千四百餘とあり。百年間に六倍せるなるべし。明治三十年現住戸數五〇九〇、人口男一、一七六〇、女一、二七八〇なり。同四十一一年現住戸數五八八四、人口男一、三〇七一、女一、四〇八九、合計二、七一六〇なり。徳川幕府七島を伊豆代官の所管に置き、賀茂郡に屬せしめしが、明治元年葦山縣の所管となり、十一年一月東京府管下に歸す。其治方は概ね古俗に従ひ、毎島地役人、浦役人、名主ありて諸般の事を掌り、大島八丈島の二島之を統轄す。但古來人民割據して交通せず。徳川氏屢諸島を巡視せしめ、救恤殖産の道を設けしも、各島猶互に交通せず。幕府乃ち江戸に一の島會所を設け、各種の物産を集めて賣捌けり。

**文籍** 伊豆海島風土記、寫本、三冊。伊豆七島志、二冊(秋山章、四野三、伊豆諸島巡回報告、福羽逸人、四冊)、巡島叢抄、寫本、三冊。

**イツシマ(出島)** 陸前國牡鹿郡女川村に屬する島。女川灣の北門を成す。周圍三里、マダス崎との間を出島水道と呼び、其最狹所一鍵、中央水深一八尋あり、島面は低くして、松樹茂り、島の西側に一灣ありて、北に崎島を控へ、其地は水深一尋、泥底にして、從來日本形船の繫泊に最便の地とせり。人口約二〇〇あり。

東郡小泉町の大字。伊豆三島嶼の北一里餘に在り、承和七年伊豆田方郡に置きたる島田郡の遺稱ならんといふ。

**イツシヤクヤク** (二尺屋) 【大分】豊後國北海部郡の村。合二四三。

**イツシヨウチ** (勝地) 【熊本】肥後國球磨郡の村。球磨川の南岸、茶北郡に接せる山村なり。鐵道九州線鹿兒島本線の車驛を置く。人吉を距る七哩二八、總郵便局あり。永國寺は郡中の大刹にして、應永十七年相長前續創建。僧實庭開基。合三三三。

**イツシデン** (一身田) 【三重】伊勢國河藝郡の村。郡の南界に在り。尊修寺所在地なるを以て頗る殷賑なり。警察署、郵便局、鐵道參宮線車驛等あり。一身田の名は荒廢田を勸助ありて、一世に限れる制より出づといふ。尊修寺は眞宗高田派の大本山にして、堂宇壯麗、一に無量壽寺と稱し、親鸞上人一向專修の法統を傳ふ。初め下野國芳賀郡高田に在りしを、寛正六年十世眞惠上人の時此所に移す。十六代徳圓花山院家より入りて、法統を嗣ぎしより、京都實徳の子弟を申し降して相承し、門跡職を稱す。法主は常磐井を氏とし、近年華族に列せらる。合三六九。

**イツソウ** (二湊) 【鹿兒島】大隅國熊毛郡上屋久村の大字。屋久島の北側なる良港にして、鹿兒島を距る九四哩、灣は彎入極めて淺く、口は北西に面す。九州、大島間の避難所は此湊と日本長部灣とあるのみ。港の四方水田御崎に燈臺の設あり。

**イツタ** (伊豆田) 【高知】土佐國幡豆郡の村。合四三三。

**イツチヨウダ** (町田) 【熊本】肥後國天草郡の村。郵便局あり。合三三三。

**イツチヨウタナカ** (町田中) 【山梨】甲斐國東山梨郡日川村の大字。日川重川の笛吹川に入る所。甲州街道の一小驛なり。中學校郵便局あり。石和驛の東北六里。

**イツトウケン** (掛東郡) 【兵庫】播磨國に在りし郡。四境は舊飾西郡、西は舊掛西郡、北は尖栗郡、南は海、掛保川東岸の地なり。東西三三、一八町、南北六、一八町。網干町及香島、新宮、越前、神岡、林田、伊勢太市、龍田、小宅、班鳩、豊田、太田、勝原、大津、石海、旭陽の一六村ありき。明治二十九年掛西郡と合して掛保郡となる。

**イツナサン** (飯綱山) 信濃國上水内郡に在る山。長野市の西北、川中島の正北に時つ休火山なり。圓錐形を成し、火山の特相を呈す。れ噴出後久しきを以て、噴火口著しく崩壞して、其形を存せず。唯火口壁の殘片と覺し、飯綱六〇五九尺頂上に小祠あり。靈仙寺、天狗の三峯、規則に列するあるのみ。噴火洞なく、温泉なく、又熔岩流の山腹に懸るものなく、西北戸隠神社附近の外は、滿山雜草の叢生するを見るのみ。裾野は四方よく發達す。れども東方に於て最も廣く、延長約三里、島居川の豁流及第三紀丘陵と連り、信越國の國道之を經過す。北方は飯綱山、天狗岳の間より大ババといへる一道の隆起を出

其裾延びて戸隠神社の背を拂ひ、墨野山、戸隠前山の嶺と合し、戸隠原を作す。此方面は極めて植物に富み、植物學者の好採集地として知らる。南より西に至れる裾野は、傾斜緩にして平坦、雑草を布けるが如くなれども、稻花川の支流なる楠川に至り、急峻なる周縁を成す。是れ即ち火山裾野に於る特有なり。岩石は其露出多からざれども、往々數多の氣孔空隙を有する黒色鑛質の熔岩を見るべし。是れ複輝石富士岩なり。其他亦飯綱式と呼ぶべき一特種の外觀を異にするものあり。石基はハイアロピッチクにして、長石及輝石の微晶より成り、無色の玻璃を交ふ。其輝石の微晶は數箇の結晶集りて小豆大の一團を成し、同一の距離を隔てて長石微晶間に散在す。山崎直方地質調査報告に據る。山頂に飯綱神社あり。里宮を宇井村大字荒安に置く。相距る一里。延喜式内皇足穂命神社なりといふ。中世修驗者の道場となり、飯綱の法俗に狐遣ひといへる法術を唱へ、愚俗を惑はせり。奇蹟一覽云、峯より北へ十四五町下れば、方十歩許の一濕地あり。此所の土砂渾て粟飯の如く、大麥の割飯に似たり。俗に餓鬼の飯といふ。試みに手に搦して、之を喫するに味麥飯に替る事なく、誠に珍奇のものなり。是物あるに依りて、飯綱と山の名を負ふとぞ、今訛て飯綱と唱ふ。

**イツナミク** (泉南郡) 【大阪】和泉國二郡の一。四境、東及東北は泉北郡、南は紀















鐵一三八萬貫あり。林産物總計五〇萬圓  
内木炭一三萬圓あり。

交通 鐵道、山陰線伯耆の米子より分  
れ安来荒島、梅原、湯江、湯町、湯  
庄原、直江を經、今市に終る。延長三三哩  
一六鐵道、松江市を中心とし、東は伯  
耆國米子、西は周防國山口に達するもの  
を山陰道とし、安来出雲郡湯町、赤松江  
江、今市、白田、備前國の諸郡あり。又松江より  
湯町、赤松江、三谷、掛合、原赤名の諸郡  
を経て備後國に出づるものを廣島街道  
とす。其他美保國街道、隱岐街道等あり。  
海路は伯耆國境を中心とし、北は北陸  
道及北海道、西は美保國、温泉津、濱田を  
經て山陽道諸港及大阪に達す。又隱岐へ  
は汽船の定期航海あり。

沿革 此國神代に於て人口風に繁殖し、  
文化開け、出雲の名太古より聞え、多く古  
蹟を傳ふ神代大己貴命素戔嗚尊始  
て此國を經營す。所謂出雲神代なり。後皇  
孫の尊に譲る。此時天孫日命其子天夷鳥  
命其事に與り、遂に出雲國造の祖となる。  
比波山、黄泉比良坂等は神代の遺蹟なり  
といひ、日本紀に見ゆる根ノ國又は黄泉  
國は今の島根郡にして、黄泉は其東夷見  
島なりといふ。後代國府を意宇郡今の下  
出雲郡に置き、建久年中源頼朝佐々木義  
清を以て守護となし、子孫職を襲ぎ、世々  
神門郡今廣川郡、鹽治郡に居り、孫頼泰  
に至り鹽治氏を稱す。建武年中頼泰の孫  
高直守備を賜ふ。後足利氏に屬す。

延元三年謙に罹りて亡び、尊氏佐々木高  
氏をして守護を兼ねしむ。正平年中山名  
時氏高氏を懲むことあり、其地を掠奪し  
て南朝に歸順し、復た時きて足利義詮に  
降り、因て守護を傳へて、孫滿幸に至る。  
元中の末滿幸あり、守護を奪はれ、尋で  
誅死す。將軍足利義滿再び高氏の孫高詮  
をして兼領せしめ、孫持清に至り、從父尻  
子持久を守護代となし、富田に置く。其孫  
經久に至り職を罷め、鹽治掃部之に代る。  
文明十七年經久鹽治を逐ひ、富田に據り、  
自立して守護と稱し、終に伯耆隱岐を合  
せ、石見備中備後安藝を兼食し、孫晴久  
毛利元就と石見を爭ふ。永祿三年元就大  
舉して富田を攻む。同五年晴久卒し、子義  
久嗣ぎ、僅に富田一城を保つ。九年義久出  
で、降り、尼子氏亡び、國內終に毛利氏に  
歸す。天正十九年豐臣秀吉毛利輝元を命  
じ、中國を割き吉川廣家を興へて富田城  
に居らしむ。關ヶ原後徳川氏全國を奪  
ひ、堀尾吉晴を封じ、松江に治す。寛永十  
一年孫忠晴卒して絶え、十五年松平直政  
(二十二萬六千石)封ぜられ、後廣瀬三萬  
石、母里一萬石の支藩を置く。世襲して  
明治に至る。四年廢藩置縣全國は島根縣  
に屬し、以て今日に至り。此國もと十郡  
ありしが、二十九年島根、意宇、秋鹿三郡  
を合して八東郡、出雲、船越、神門三郡を  
合して廣川郡とせり。

田に在り、豐玉姫命を祀る。讃岐國式内二  
十四座の一社なり。社記云、豐玉姫歸り、萬  
して今の新川を折り愛に垂跡せり。因て  
其河を鰐河といひ、社を鰐河神社と謂ふ  
と、鎌倉塚は眞行寺内に在り、將軍足利義  
植又義村大永元年世を淡路に遷り、三  
年此地に移り、尋で斃す。因て此所に葬る  
といふ。然れども其墓は阿州撫養の岡崎  
城址に在り。恐くは此塚は鎌倉家に關係  
ある名家の跡なるべし。靜塚は字高木に  
在り。源義經の妾靜此地に來り死すと  
傳ふ。然れども其墓は淡路國志賀町の羅  
漢院に在り。恐くは靜所縁のものか追福  
の爲に建てしものなるべし。合志三三。

【愛媛】伊豫國温泉郡石井村  
の大字。松山高知間街道の一驛とす。松  
山を距る南一里二四町。  
【兵庫】但馬國養父郡の村。  
古の糸井郷にして、郡の東端に在り。朝  
來出石二郡に挟まれ、丹波國天田郡に接  
せる山谷とす。大字寺内に山王権現あり、  
延喜式佐伎部比古阿流知命神社にして、  
天日槍夫妻の廟なりといふ。合志三三。  
【新潟】越後國西頸  
城郡の町。郡中第一繁華の地にして、姫  
川の河口に在り。東西六町、南北一四町。  
郡役所警察署、區裁判所、中學校、郡立女  
子職業學校、郵便局等あり。北陸街道の  
要地にして、新潟市を距る四二里、直江  
津を距る一里。居民多く海産物を製し  
て、信濃地方に出す。物産に有名な

陽志二冊、黒澤長顯等撰。出雲石  
見隱岐三國土性圖(商務省) 出雲國  
イツモノミサキヤマ(出雲御崎山) 出雲國  
出雲半島の西部に在る山。二に出雲山  
又は御崎山といふ。其西端は日御崎なり。  
其高峯を彌山及鼻高山といふ。杵築大社  
の東に聳ゆ。

【栃木】下野國下都賀郡寺  
尾村の大字。足利郡佐野地方より上郡賀  
郡鹿沼地方に出づる山路に當り、羽澤、  
本飯、嶮等の峻坂あり。此地に出流山、手  
院といふ觀音堂あり。勝道上人開基と傳  
へ、坂東十七番の札所なり。堂邊岩窟頗る  
奇なり。洞内に鐘乳石より成れる觀音等  
の像あり。  
【出灰山】山城國乙訓郡に  
在る山。大原野村大字出灰に屬す。  
【津山】(泉崎) 琉球國泉崎を見よ。  
【伊豆】(京都) 山城國豐後郡の村。其  
西部を玉水町、北を上井手、南を石垣、中  
央を井手といふ。著名なる井堤の玉水の  
所在地なり。古の玉水の井は路傍のもの  
にあらず。今の井より北方橋東の小藪の  
下に在りしものなりといふ。又玉水町の  
北端に玉井寺あり。庭の井を玉井と名く  
れども、橋諸兄の愛せしといふ古蹟には  
あらず。井堤左大臣(橋諸兄)の別館地は  
玉川の南三町許、字石垣、六角井、岡田の  
邊なるべしといふ。又井手寺址は玉水町  
より二町許、藥師堂大門等の字ある地な  
りといふ。合志三三。井堤玉川、玉水を見

【大阪】攝津國豐能郡秦野村の古  
名。●(詳馬)上野國群馬郡上郊村の大  
字。和名抄井出郷の遺稱とす。萬葉集、い  
かほるの八坂の井出にたつぬしのあら  
はるまでもされなされてば」と詠める  
も此所ならんといふ説あれど、此歌の井  
出は堰堤の義にして、橋名大沼邊のこと  
ならんといふ。  
【巖手】陸中江刺郡の村。盛  
街道の一小站なり。合志三三。  
【出沙島】 琉球國島尻郡渡  
名喜島北端の西方に在る島。極めて平圓  
なる二頂あり。阿且樹に蔽はれ、高一七  
尺。島の北端は平低なる砂濱をなし、農家  
二棟あり。島周石花礁を繞らし、小舟と雖  
も着岸する事難し。(水路誌)  
【東京】武藏國に在  
る古戰場。建武二年七月北條二時時行の  
信州より鎌倉に攻入りし時、足利直義の  
出で拒ぎし所なり。其地後世詳ならず。今  
南多摩郡町田大字水町田に出づる澤の  
小字あり。地形また兵馬馳驅に適す。此地  
ならんとすること信に近し。  
【井堤玉川】 山城國豐  
後郡井出村に在る小流。玉水町の傍を流れ  
て水津川に入る。平時は流水なく、河床却  
て平地より高きこと一丈。土俗水無川と  
いふ。此川古來榊葉及蛙を以て有名なれ  
ども、今は共に其跡を絶てり。  
【伊豆】(京都) 山城國豐後郡の村。其  
西部を玉水町、北を上井手、南を石垣、中  
央を井手といふ。著名なる井堤の玉水の  
所在地なり。古の玉水の井は路傍のもの  
にあらず。今の井より北方橋東の小藪の  
下に在りしものなりといふ。又玉水町の  
北端に玉井寺あり。庭の井を玉井と名く  
れども、橋諸兄の愛せしといふ古蹟には  
あらず。井堤左大臣(橋諸兄)の別館地は  
玉川の南三町許、字石垣、六角井、岡田の  
邊なるべしといふ。又井手寺址は玉水町  
より二町許、藥師堂大門等の字ある地な  
りといふ。合志三三。井堤玉川、玉水を見

東氏は工藤氏の分流にして、持野氏と同  
祖なり。源頼朝兵を擧ぐるや、伊東祐親之  
を拒み平氏に與みして誅せらる。其族工  
藤祐親は頼朝に應じ、鎌倉に仕へて榮え  
たり。伊東温泉は清少納言の枕草子に載  
せ、古來有名なり。もとは猪戸、和田の二  
源泉なりしが、近年各所に湧出し、致須  
美松原の二區の如き最も盛にして、今は  
其數二十餘に上る。温度皆一〇〇度以上。  
鹽類泉なり。葛見神社は延喜式内の古社  
なり。合志三三。

イデミノハマ 出見濱 攝津國東成郡住  
吉神社の西海濱。住吉高燈籠のある所な  
り。舊曆三月三日住吉の沙干とて、頗る賑  
はし。又舊曆六月十四日には御輿洗とて  
諸人湖水に浴する例あり。近年海水浴場  
を設け、住吉の出見濱の柴なかりそ、  
おとめらか赤裳のすそのわけて行かむ  
見む(萬葉集)。  
イデヤマ (井手山) 山城國豐後郡に在る  
山。二に大山又玉岡峰といふ。  
イト(怡土) 【福岡】筑前國糸島郡の村。郡  
の東南隅なる山村なり。早良郡界の高祖  
山に怡土城、太宰府の鎮城址あるより村  
名起る。高祖山に原田氏代々の居城あり。  
其城は怡土の城址を修めしものといふ。  
(高祖山の條參照) 大字高來寺は弘安四  
年元來寇の時、高麗人の首を斬りて此  
地に埋め、寺を立て供養せるより高麗寺  
と名けしが、今は其寺絶えて地名とな  
れりと言傳ふ。又此地に染井山靈鷲寺と  
て聖武天皇の勅願、清實上人建立の大寺  
ありしが、後世廢頓して、今僅に一草堂を  
存す。大字瑞梅寺にはもと、瑞梅寺あり。康  
暦元年乙丸種周、楊井道寂の協力して創  
建せるものといふ。此地陶谷間に在りて  
風景頗る佳なり。合志三八。

イト(井戸) 【香川】讃岐國木田郡の村。阿  
波街道に當り、北に白山の丘陵横はる。古  
の井門郷の地なり。和爾、波神、社、字熊  
部、隆叙、聖三。

イトイカワ (糸魚川) 【新潟】越後國西頸  
城郡の町。郡中第一繁華の地にして、姫  
川の河口に在り。東西六町、南北一四町。  
郡役所警察署、區裁判所、中學校、郡立女  
子職業學校、郵便局等あり。北陸街道の  
要地にして、新潟市を距る四二里、直江  
津を距る一里。居民多く海産物を製し  
て、信濃地方に出す。物産に有名な

イトイカワ (糸魚川) 【新潟】越後國西頸  
城郡の町。郡中第一繁華の地にして、姫  
川の河口に在り。東西六町、南北一四町。  
郡役所警察署、區裁判所、中學校、郡立女  
子職業學校、郵便局等あり。北陸街道の  
要地にして、新潟市を距る四二里、直江  
津を距る一里。居民多く海産物を製し  
て、信濃地方に出す。物産に有名な

イトウ (伊東) 【靜岡】伊豆國田方郡の町。  
明治三十九年町となる。伊豆半島東側の  
海濱、熱海の南五里に在り。温泉及び海水  
浴場ありて、近年來遊する者多し。警察分  
署、郵便局等あり。居民多く漁業に従事  
す。此地は中世伊東氏の居りし所なり。伊

イトウ (伊東) 【靜岡】伊豆國田方郡の町。  
明治三十九年町となる。伊豆半島東側の  
海濱、熱海の南五里に在り。温泉及び海水  
浴場ありて、近年來遊する者多し。警察分  
署、郵便局等あり。居民多く漁業に従事  
す。此地は中世伊東氏の居りし所なり。伊







イナ

國寶飯郡に在りし村、明治三十九年小坂井村に合す。郡の西南端美濃に近き所に在り。戦國の頃本多經助正忠此所に居り、松平清康を擁護し、其子忠俊は家康に従ひ功あり。忠俊の子忠次に至り大名となり、子孫近江膳所の城主たり。家康嘗て此城に在りし時、城主花ヶ池といふ小池の葵の葉を取り、着を盛りて献じたるを吉例とし、徳川氏の定紋とせりと傳ふ。又所謂三河萬歳及大神樂といふは此地より出づるを元祖とすといふ。蓋し徳川氏の祖の吉例に因みて特に保護を加へしなるべし。伊奈街道は東海道より來り小坂井にて分れ、牛久保町を過ぎ、豊川町に於て木街道を横きり北に向ふ。

イナ(伊南) 【福島】岩代國南會津郡の村。伊南は舊郷名にして、藩政の頃古町組といへるに同じ、即ち今の大宮伊南大川、檜枝岐の四村(舊二十三村)を統べたり。天正年中河原田盛次首名家に従ひ、此地を領し、今の古町に館を構へ居たりき。イナ(稻) 【千葉】安房國安房郡野村の大字。北條町の東、大貫山の西北麓とす。里見氏の古城址あり。初祖義實初白濱に城砦を構へしが、地南偏に在るを以て、新城を此に築き、成義・義通・義豊相繼ぎて此所に居り、安房及二總を領せり。義頼の時館山に移る。●【滋賀】近江國愛知郡の村(合三三)。

イナウ

出ず。此石は中生紀の粘板岩にして、東京へも送りて販賣せられ、墓碑數石等に用ひらる(合三三)。

イナウシカワ(稻牛川) 【北海】十勝國足寄郡に在る川。足寄川の支流なり。原名イナウシ川。イナウラ(伊奈浦) 對馬國上島の西側に在る灣。數澳を成し、伊奈、檜瀧鹿見の諸村之に沿ふ。イナエ(稻枝) 【滋賀】近江國愛知郡の村(合三三)。

イナオ

削りかけにして幣帛に代へ、險所を過ぐる毎に之を捧げて行路の安全を祈るを常とす。此名所々に在り。●【北海】後志國奥尻島の北端なる岬。水路誌云、一低角なれども、岬端より内方約五里に小圓丘あるを以て、北西南東より望めば頗る顯著なりとす。燈臺あり、三等回轉白色にして、十五秒時毎に一閃光を發し、光一八里に達す。岬の西側は偏南風を避くるに宜し。●【北海】後志國岩内郡岩内町の西北角。船舶は其東北陸に碇泊す。

イナオカキタ(稻岡北) 【岡山】美作國久米郡に在りし村。明治三十七年加美村に入る。イナオカミナミ(稻岡南) 【岡山】美作國久米郡の村。郡の南方、引削川の水源地にして、引削川の北に當り、鐵道中國線の誕生寺停車場あり。約八里にして津山に達す。誕生寺あり。此地は源空(圓光大師)の故郷にして、寺は彼の父母の爲に創設したるを、後人號を立てたるものと云ふ。天正年間宇喜多氏深く日蓮宗を信じ、遂に領内に命じて悉く改宗せしめ、拒む者は逐ふ。獨り誕生寺の僧深譽風せず。此に於て日蓮宗徒二百餘人亂入し、堂宇を破壊して去る。宇喜多氏亡び、深譽京都知恩院に請ひ、堂宇を修營せり。一流の溪水松林を環り、境内風光頗る閑雅なり。(合三三)イナオサキ(稻穂崎) 【北海】渡島國茅部郡落部村の南東に在る岬。内浦灣に斗出

イナカ

に攻落さる(合三三)。

イナカマ(稻鹿) 【京都】山城國相樂郡笠置村の字。大字。有市に屬す。炭酸冷泉出づ。透明無臭にして、少しく刺戟收斂の味あり。腸胃病、泌尿器加答兒等に効あり。イナガヤ(井長谷) 【愛知】尾張國中島郡に在りし村。明治三十九年大字井畑は手代田村に、儀長は明治村に、其他は平和村に入る。イナガワ(稲川) 【福島】岩代國河沼郡の舊郷名。ニナガハの轉訛なり。八十二村を統べ、青津坂下、牛野、野澤の四組に互れり。佐原十郎左衛門義連の孫、嶋川景義の所領なりしならんといふ。寛文年中までは河沼全部を稻河郡と稱し、會津四郡の一とせり。此地名の擴がるなるべし。イナカワ(猪名川) 攝津國に在る川。或は嶋川に作り、一に池田川といふ。水源、豊能郡飯尾山、大路次川といひ、西郷村大字柏原にて、栗栖山田の二水を容れ、南流して川邊郡に入り、東谷村大字岡崎にて、倉垣川を合せ、一庫川といふ。西南流して多田川を合せ、豊能郡の境に沿ふて、久安寺川を入れ、南下して川邊郡岡田村大字田能に至り、深川を分ち、共に南流して神崎川に注ぐ。流程一里餘。湖約二町。

イナキ

イナキ(稻木) 【三重】伊勢國飯前郡清代村の大字。此地より壺屋草といふ擬草紙を出す。天明年中此村の人壺屋清兵衛の創製といひ、初は多く煙草入に充てしが、近年種々精巧の品を製し、産額毎年數萬圓に上るといふ。古き狂歌に、「夕立やいせの稻木の煙草入、ふるなる光るつよいかみなり」。

イナク

イナク(稻草) 【廣島】備後國甲奴郡の村。一に田房といふ。郡の北偏にして、田房川に沿ひ、郵便局あり。戦國の頃田總氏の居りし城址あり。意加美神社は、高麗神を祀る。此神初め舊蘇那寶蘇山に垂跡せしが、後此地に遷り、長久年間社殿を再興すといふ。郷社なれども郡中の名祠なり。(合三三)イナクマ(稻熊) 【愛知】三河國額田郡岡崎町の大字。岡崎市の東郊とす。式内稻荷神社あり。景行天皇の皇子五十狹城入彦命を祀る。命は三河長谷部直の祖なり。イナクラ(稻倉) 【岡山】備中國小田郡の村(合三三)。

イナコ

イナコ(猪名湖) 信濃國松原湖の一名。

イナサ

イナサ(伊那里) 【長野】信濃國上伊那郡の村(合三三)。



在る山。長崎港の西北に聳ゆる消火山に  
して高二八七尺。夕陽の映するにより  
景色變幻するを以て俗に七化といふ。  
イナサワ(稲澤)「稲澤」を見よ。  
イナシキゲン(稲敷郡)【茨城】常陸國十  
一郡の一。四境北の西半は新治郡。西は  
筑波郡。南は下總國北相馬。印旛。香取三  
郡。東は北に向ひ斜に霞浦に面す。東西九  
里三二町。南北五里三〇町。周圍二九里一  
八町。面積二八方里一六。行政上、江戸崎  
龍ヶ崎の二町及君賀沼里。奥野朝日君  
原。阿見。鳩崎。木原。舟島。安中。浮島。大宮  
生板。源清田。長竿。柴崎。根本。長戸。八原。  
岡田。駒屋。牛久。壱崎。太田。高田。大須賀。  
伊崎。阿波。古渡。金江津。十倉島。本新島の  
三二村に分ち、郡役所を江戸崎町に置く。  
最盛(六萬三〇三三) 地勢、郡の大部は  
第四紀古層の臺地より成り、高原多く、  
唯南偏利根川の沿岸附近、郡の中央小  
野川(舊信本、河内の郡界)の兩岸及霞浦  
の沿岸に豐饒の平地あり。道路は陸前濱  
街道の西部を南北に通じ、鐵道常磐線  
亦之に添ふて走る。佐貫。牛久。荒川沖の  
三車驛あり。又佐貫驛より龍ヶ崎まで輕  
便鐵道の設あり。霞浦は舟楫、漁業の利に  
富み、水陸の便多し。産物の主なるものは  
農産物米(一六萬石)・麥(六萬石) 其他大  
豆。小豆。粟。蕎麥。甘藷。蘿蔔。牛蒡。實。棉。桑。  
菓。果。實。繭。水。産。物。三。萬。圓。工。業。品。は。蠶。絲。  
(四二萬圓)を主とし、織物。酒。類。醬。油。あ  
り。稻敷は和名抄信太郎の郷名にして、

上古大道を通じれば、多く古歌に稻敷  
里と詠まれたり。明治二十九年信太郎  
(東中家の二村を除き)河内郡(小野川村  
を除き)を合して新に郡名を立つ。  
イナスイタキ(伊奈守比邊)大和國吉野郡  
下北山村大字大瀬に在る。瀧高一六丈。幅  
一間。  
イナセ(稲瀬)【巖手】陸中國江刺郡の村。  
北上川の岸なり。稲瀬ノ渡といふは西行  
法師が「陸奥の門岡山のほととぎす、い  
なせの渡かけてなくらん」と詠みしより  
名高し。但し古の渡津は十餘町を距る。瀧  
ツキ郎といへる地なりといふ。白河七三。  
イナダ(稲田)【京都】山城國相樂郡の村。  
白河七三。  
イナダ(稲田)【大阪】河内國中河内郡楠根  
村の大字。附近に桃林多し。花時大阪より  
遊客集集す。【神奈川】武藏國橋本郡  
の村。白河三六。  
イナダ(稲田)【兵庫】淡路國三原郡北  
阿萬村の大字。淡路島の麓元なり。此陶器  
は文政年間加集現平の發明に係り、遂に  
邑主稲田氏の開く所となり。官窯となす。  
近年其業益盛大となり、現平焼の名世に  
聞ゆ。【新潟】越後國中頸城郡新道村  
の地名。今上下の二となり、共に其大字  
たり。荒川の東岸にして、高田町と相望  
む。其間に架せる橋を稲田橋といふ。郵  
便局あり。【茨城】常陸國茨城郡西  
山村の大字。式内稲田神社あり。奇稲田  
姫命を祀り、俗に姫之宮と稱す。蓋し上古  
新治國造の其祖を祀りしものなり。今縣  
社に列す。鐵道小山水戸線の車驛あり。

友部驛より六哩二〇鎖。四念寺は東本願  
寺の懸所にして、稲田御坊と稱し、建保五  
年親鸞上人の草創と傳ふ。【福島】岩  
代國岩瀬郡の村。白河六六。  
イナタ(稲多)【熊本】肥後國  
鹿本郡の村。白河六六。  
イナダ(稲多)【福井】越前國吉田郡森田  
村の大字。九頭龍川に沿ひ、北陸本道此所  
を通ず。其對岸を舟橋といひ、往時此間に  
有名なる船橋ありたり。郵便局あり。  
イナタキ(稲瀧) 備後國雙三郡作木村に  
在る。瀧岸傳二〇丈許の奔流なり。  
イナツ(稲津)【岐阜】美濃國土岐郡の村。  
白河三三。  
イナツオンセン(禾津温泉)【岡山】美作  
國眞庭郡湯原村を見よ。  
イナツカワ(稲津川) 但馬國養父郡に在  
る川。明延川・建屋川の合流にして、城崎  
川の支流なり。一に廣谷川ともいふ。  
イナツキ(稲築)【福岡】筑前國嘉穂郡の  
村。大隈町の北に當る。大字鴨生は安閑紀  
に見ゆる鎌倉倉を置きし地にして、大字  
山野には石佛數百あり。五百羅漢を造り  
しものならんといふ。白河四八。  
イナツケ(稲附)【東京】武藏國北豐島郡  
岩淵町の大字。赤羽の西に連る。此地の靜  
勝寺は太田實長の城址に在り。六世の孫  
太田實宗の草創。道灌及其父備中守資清  
の法號に取て靜勝寺と名くといふ。境内  
地形高く、門前に石階四十八級あり。  
イナツサ(稲梓)【静岡】伊豆國賀茂郡の

村。白河三三。  
イナツツミ(稲糞山) 上野國吾妻郡  
越後國南魚沼郡に跨る山。三國峠の南に  
峙つ。所謂越後山系(三國山脈)の一峯に  
して、海拔五三六二尺。溪水は四方川とな  
り、吾妻川に入る。三代實録に、元慶四年  
上野國上稻妻神に従五位下を授けらる  
る事を記す。  
イナツミ(稲糞)【山梨】甲斐國四山梨郡  
の舊庄名。荒川の東西諸村を總べたり。今  
山城村住吉村邊に當る。【山梨】甲斐  
國中巨摩郡の村。白河六六。  
イナトイ(稲戸井)【茨城】下總國北相馬  
郡の村。白河三六。  
イナトミ(稲富)【岐阜】美濃國揖斐郡富  
秋村の大字。飯川の岸にして、良米の産地  
として知らる。米振神社あり。もと大垣藩  
主の崇敬厚く、其祭典の壯麗古雅なるこ  
と、地方稱に見る所なりしといふ。  
イナトミ(伊那富)【長野】信濃國上伊那  
郡の村。白河三六。  
イナトリ(稲取)【静岡】伊豆國賀茂郡の  
村。伊豆半島東側の漁村にして、一港を擁  
す。港は日蓮岬より南西方八哩に在り。幅  
約二哩。灣入約五哩。裏内水深一尋乃至五  
尋。沙底なり。稻取岬南より南東を庇障  
し、南風又は西風には小船の錨地に適す。  
村に警察分署郵便局あり。自治制よく發  
達し、模範村の稱あり。白河三三。  
【文種】稲取村の治績(市川傳吉著)。

イナニワ(稲庭)【秋田】羽後國雄勝郡の  
町。明治三十五年町制を施し、湯澤町の東  
南三里三二町。郵便局あり。有名なる生絲  
の産地にして、製絲場あり。又干温地に名  
あり。俗に此を稲庭といふ。城址あり。  
文治年中、小野寺道綱源頼朝の東征に  
従ひ功あり。四男重道に雄勝の地を賜は  
る。重道乃ち此に居城し、傳へて十六世植  
道に至り、平鹿郡沼館に移る。白河三三。  
イナノ(爲那野) 攝津國猪名川兩岸の舊總  
名。今、豐能河邊二郡に互る。爲那部比古  
神社は豐能郡野村大字白之島に在り。  
「しながとり爲那のふしはら」とひわた  
る。しきの羽音は「おもしろきかな」(拾遺  
集神樂歌)「あやししくしに返す秋  
かな、猪名の笠原さして行くとも」(元永  
歌合、法性寺開白)。

山の西麓、鳥取市の東に在る山村なり。白  
河三三。  
イナバカワ(稲葉川) 美濃國に在る長良  
川の古名。●豐後國直入郡に在る川。水  
源九重山。久住川の稱あり。東流して、飛  
田川と呼ぶ。竹田町に至り、玉来川と合し、  
大野川となる。流程八里二町。景行紀に、  
直入縣福野野の地に三土蜘蛛あり。皆皇  
命に従はず。天皇遂に石室土蜘蛛を襲ひ、  
稲葉川上に破り、悉く其黨を殺すといふ  
は是なりといふ。  
イナバタン(稲葉郡)【岐阜】美濃國十五  
郡の一。四境北は武儀山縣二郡。東は加  
茂郡。西は本巢安八二郡。南は境川及木  
曾川によりて、羽島郡及尾張國丹羽郡と  
界し。郡の中央に岐阜市あり。面積一一  
方里七六。行政上、加納町及本莊三三島  
鏡島市橋日置江佐波鶴西郡南長森  
北長森厚見日野那加更本前宮鷺沼  
各務藤原岩芥見木田黒野方縣常磐  
鷺山長良則武の二八村に分ち、郡役所  
を岐阜市に置く。●美濃國白河三三。地  
勢、本郡は西濃低地の北部を占め、地勢自  
ら二に分る。東北部は一部に丘陵列り、西  
南部は平坦にして、長良川、境川合流の間  
に在り。所謂加納輪中及島輪中を成し、人  
家稠密、農耕の業頗る盛なり。木曾川に沿  
ふて各務野あり。もと荒野なりしが、今稍  
開墾に就けり。道路は東山道東より來り、  
郡を横斷して、本巢郡に入り、鐵道東海  
線は南より來り、加納町の北を走り、西折

して大垣に通ず。物産、農産物の主なるも  
のは甘藷(一五四萬貫)及蘿蔔(三七二萬  
貫)就中干大根にして、共に縣下の最多  
額なり。工産物には織物(縣下第二、一九  
三萬圓)・雨傘(八二萬圓)を第一とし、傘は  
縣總額の三分二を占む。其他米(八萬石)  
・麥(六萬石)・大豆。胡蘿蔔。菜種。柰。柰。生  
絲。和紙。瓦。酒類。醬油。味噌等なり。本郡  
は明治二十九年厚見各務二郡の全部及  
方縣郡の大部分(合渡村。四郷村を除く)  
を合置せるものなり。  
イナバノクニ(因幡國)【鳥取】山陰道  
の一國。四境東は但馬國。西は伯耆國。東  
南の一隅は播磨國。西南は美作國。北は一  
帶日本海。東西二六里一三町。南北一八里  
七町。面積四九方里九七。行政上、鳥取市  
及岩美。八頭。氣高の三郡に分ち、鳥取縣  
に隸す。●白河三三。白河六六。  
【地勢】地形稍方正、東南、西の三面山岳  
圍繞し、其餘波延びて國の中部に至り、次  
第に低下して丘陵狀を成す。從て國內の  
河流は概ね國の中部に集合し、北流す。海  
濱一帶砂地多く、平坦肥沃の地は僅に千  
代川下流沿岸附近に在るのみ。此平野は  
第四紀層より成れども、甚だ廣からず。其  
北縁の海岸に、砂丘多く、其西部に湖山地  
を作る。平野の東部には鳥取市あり。  
【山系】國の西南部及南部は中國山脈に  
屬し、主に古生層及花崗岩より成り、所々  
富士岩支武岩の露出あり。此山脈の高峰  
は多く國境上に起り、日本海に注ぐ千代

川と瀬戸内海に入る。大野川千種川及東  
大川との分水嶺を成す。其主なるものは  
因幡。伯耆。美作の界に三國ヶ山(四四四  
八尺)雲母ヶ山(四二五三三尺)あり。皆花崗  
岩より成る。是より東南に走り、八木嶺・  
嶺所嶺共に三四三二尺・黒岩山(三五六  
四尺)龍山(三九六三三尺)となり、那岐山(五  
二六〇尺)を起す。是より山脈は東北に向  
ひ、志月坂嶺(一八九七尺)・沖山となる。  
國の西部即ち千代川以西の山岳は、主に  
流紋岩富士岩及支武岩より成り、花崗岩  
の露出せる所あり。又山麓は多く第三紀  
層より成る。而して國境の主脈には著し  
き高峯なく、滑石峠(一九二尺)川上峠  
(一〇五五尺)鉢伏山(四七八尺)あるに  
過ぎざれども、三國ヶ山より東北に走れ  
るものには鷺峯山(三三〇六尺)高山(三  
九四六尺)の秀峯あり。國の東部は主とし  
て第三紀層及之を貫ける流紋岩・富士岩  
及支武岩より成り、所々に古き火成岩の  
露出あり。其主要なる山脈は、國境に沿ふ  
て北北西に走り、但馬諸川との分水嶺を  
成す。其高峯には因幡。但馬。播磨の界に  
三國山(三三〇〇尺)あり。其西北に水ノ  
山群峯(富士岩)あり。其中に菅野山(五四  
四五尺)陣鉢山(四二五七尺)を起し、更に  
其北方には佛頂山・扇ノ山(四六八六尺)  
を起し、漸く低下して蒲生嶺(一四四五  
尺)となり、終に火吹鼻となりて海に盡  
く。以上國境の三山脈より出づる支脈國  
中に延互し、平野は千代川下流沿岸の地



のみのみ。國中の水は中央に集り、千代川(下流賀露川)となり、正北に流れて日本海に入る。流程二里下流は舟楫の便多く、河口には賀露港あり。然れども河口の中央には土砂の沈積甚しきを以て、屢渡漑を要す。其支流中、大なるは八束川野坂川袋川とす。其他千代川の東に岩本川(二)に蒲生川、流程三里、西に青谷川、河内川あれども皆小流なり。

湖沼 大なるを湖山池とす。周圍三里餘、其他多湖沼山等の小池あり。

海岸 極めて出入に乏しく、殊に中部は出入絶えて無き低平なる沙線にて、海岸には砂丘よく發達し、其内方に二三の潟湖を作る。國の東部及西部の海岸には所に懸崖を作り、東部には花崗岩より成れる半島、海波に浸蝕せられて分離せる小島數多あり。港灣には僅に賀露、田後、網代の三港あれども、其港にあらず。

温泉 所々に湧出す。其主なるものを岩井吉岡、正條の諸泉とす。又八頭郡明治村に鹹泉あり。

氣象 東南西の三方山脈にて圍まれ、北方海に瀕するを以て、寒暑共に酷烈に、且つ日本海に面する國の例として、冬季は陰鬱の日多く、且つ國內山地多きを以て、寒冷の地多し。明治三十八年鳥取市に於て、平均氣温七月二七度、五月二三日五、雨雪總量二七〇耗。雨天は一九六日、三月二十三日は就れども二十日以上

に及べり。初霜初雪共に十二月初旬、終雪は三月中旬、終霜は四月初旬なり。

産業 産業は農を主とし、間々樵業に従事するものあり。商工業振はず蓋し交通の不便なるに因るなり。物産の主なるものは、農産物米二八萬石(七萬石)、其他大豆小豆甘藷馬鈴薯芋里芋蘿蔔大麻葉藍三極繭牧畜は稍行はれ、現在牛一、六七四頭、馬二四頭を有す。林産物一五萬圓、漁獲物一七萬圓、工業品は蠶絲四〇萬圓、織物紙織等あり。

交通 山陰道但馬國美都郡より來り、蒲生岩井浦宮細川、鳥取、松原、青谷を経て伯耆國に入る。美作街道(二)に智頭街道鳥取より起り、圓通寺、用瀬、智頭、歸を経て美作國に入り、播磨街道(二)に若櫻街道は鳥取より東南に向ひ、東大路、安井若櫻、落折を経て播磨國に入る。鐵道は山陰線、西は伯耆國、出雲國に通じ、東は岩美に至り、近く但馬國に入りて播磨線に連絡せんとす。國內延長二五哩三二、其間に岩美、鹽見、鳥取、湖山、資木、濱村、青谷の七驛あり。

沿革 因幡は古史に稻羽に作る。蓋し稻庭の義なり。國郡制置の初七郡に分つ。後世に至り邑美法美岩井八上八束智頭高草氣多の八郡あり。明治二十九年合して前記の三郡とす。古國府を法美郡に置く。建武中興の時和長年を因幡伯耆の守護となす。興國元年足利尊氏山名時氏を二國の守護とす。正平八年時氏歸順し、

尋で復た足利義隆に降り、守護たる事故の如く、三子氏冬に傳ふ。嘉吉三年氏冬の孫熊貴赤松の亂に死して嗣なく、持豐の三子勝豐後を承けて、布城に治し、其曾孫誠通天文年間鳥取に築きて之に居る。既にして宗家結豐と號を生じ、戦て敗死す。子幼なるを以て家臣和を結豐に入れ、結豐の弟豐定をして國內を監せしめ、布城に置く。豐定卒し、子豐代り立つ。永祿年中家臣武田高信誠通の二子を弑して鳥取城に據る。豐定之を伐て克たず、元龜二年豐定卒す。弟豐國立ち、天正二年元龜二年に合して、高信を誅す。既にして毛利氏來り攻め、豐國終に毛利氏に屬す。八年豐臣秀吉來りて鳥取を圍む。豐國出でて秀吉に投す。山名氏十二世、凡そ二百六十年、豐國後徳川氏に仕へ、邑を但馬村岡に受く。然れども其遺臣猶毛利氏に屬し、吉川經家を奉じて之に據る。九年秀吉之を降れ、悉く本州を定め、宮部繼潤を鳥取に、龜井茲矩を鹿野に封す。慶長五年徳川氏繼潤の子定行を陸奥に調し、池田長吉を鳥取に、山崎家盛を若櫻に封す。元和三年鳥取若櫻鹿野の三藩を他國に徙し、池田長政を因幡伯耆に封す。寛永年中光政備前に徙り、從弟光仲代りて二國を領し、子仲澄、清定を典叙。若狹に分封し、凡て三藩となす。明治維新鳥取に合せ、鳥取縣を置き、九年廢して、鳥取縣に隸し、十四年復た鳥取縣を置くに及び其所屬となり、今日に至り。

因幡國史談(金居小太郎撰) 因幡志、二豐安倍惟親、豐宅、イナハシ(稻橋) 【愛知】三河國北設樂郡の村、美濃、信濃の間に介在せる山村にして、信州飯田街道に當り、郵便局あり。明川驛の東三里とす。此地に炭酸礦泉出づ、温度約五三度(六三三)。

イナハシ(稻橋) 【宮城】磐城國に在る和歌の名所、互理郡蓬隈村に屬し、今稻乾場といふ。延喜式の安福麻河伯神社此地に在り。

イナハシ(稻橋) 【美濃】美濃國に在る金華山の名。●因幡國岩美郡の中央に在る山、因幡山にも作り、又宇倍山ともいふ。山脈東西に亘る事數里、其頂上は高原を成す。在原平が、立わかれ稻粟の山の峯に生ふる、まつときかば今歸り、むしと味みしは、行平國守として山下の國府に在りし時の事なり。此山古來多く詞藻に入る。

イナハラ(稻原) 【和歌山】紀伊國日高郡の村(百三三)。

イナフクミヤマ(稻倉山) 上野國北北樂郡下仁田町の南に峙つ山。海拔三八〇〇尺。山上に稻倉神社あり。一説に披鉢大神第二の鎮座地なりといふ。

イナブチ(稻淵) 【奈良】大和國高市郡高市村の大字。嵯峨南淵にも作る。飛鳥川の上流にして古歌に名高き南淵山あり。此山に接して細川山あり。中大兄皇子の中臣鎌足と共に學べる南淵先生の住居

主顯秀の築きしものにて、瀨波城とも呼べり。天正九年佐々成政の陥る所となる。風穴は其の周圍に白砂を吹き上げ、一の樹木を見ず、常に風々の聲あり。直徑四間許、其深淵るべからずといふ。百三三ハイナミ(印南) 【和歌山】紀伊國日高郡の町。明治三十三年町制を施し、紀伊街道に當り、海濱に在り。御坊町へ三里、田邊町へ五里、郵便局あり(百三三)。

イナミツマ(印南郡) 南郡島を見よ。イナミツ(印南郡) 播磨國加古郡より明石郡に跨る原野、南東は明石川、北西は加古川に至る。方三里。丘陵起伏、池塘散在す。近世大略開墾せられ、印南新村、母里村、加古新村、天満新村等となり。萬葉集に、稻日野不飲見野伊奈美野等種々なる。稻日野もゆき過ぎかてに思へれば心戀しき可古の鳥見ゆ。萬葉集。不飲見野の淺茅おしなべさめる夜の、氣長くしあれば家し忍びゆ。同。狩人の尋る鹿はいなび野に、あはてのみこそあらまほしけれ。後撰集。讀人不知。

イナミヤ(稻部) 【千葉】安房國安房郡の村(百三三)。

イナムラ(稻村) 相模國鎌倉郡鎌倉町の西南端に斗出する險崖。由井ヶ濱と七里ヶ濱との分界を成し、其脈北に亘りて靈山崎、極樂寺、長谷山となる。其岬端今は絶壁直に海に没し、徑路の通すべしなすといへども、往時は岬下一條の砂濱を通せしもの、如し。元弘三年五

も曾て此所に在り、今神明塚と稱するも、のほ其墓なるべしといふ。

イナフネ(稻舟) 【山形】羽前國最上郡の村(百三三)。

イナベ(稻部) 【三重】伊勢國員辨郡の村。員辨氏の本據にして、攝津の猪名部を移せるものといふ。猪名部、神あり。又大字大木は員辨三郎行綱の居りし所と傳ふ(百三三)。

イナベ(稻部) 【伊勢】伊勢國員辨郡に在る川。水源、篠立山。相場川、玉川、小山川、山田川、坂本川、青川、源太川等の發流を合せ、七和村の東に至り、桑名郡に入り、伊勢海に注ぐ。流程約九里。古は星川と呼び、近世は下流を町屋川と呼ぶ。

イナベ(稻部) 【三重】伊勢國十郡の一。四境、東は桑名郡、南は三重郡、西は近江國愛知、犬上二郡、北は美濃國養老、海津二郡、東西五里、南北五里、三三町、面積一〇方里七四行政上、久米大長、梅戸井三里丹生川、石橋、治田、東藤原西藤原、白瀬、立田、中里、十社、阿下喜、山郷、笠田、大泉原、大泉、稻部、神田、七和の二一村に分ち、郡役所を大泉原村に置く。長六、八、四、八、地勢、美濃國境には養老山脈あり。近江境には御池岳、藤原岳、龍ヶ岳三、七、五、二、尺等あり。其脈東及南に亘りて郡を圍繞し、別境を形づく。郡内の水集りて員辨川となりて、東南に決し、桑名郡に入る。餘隙の地なれば名色なし。道路は近江の小椋谷及美濃の多良谷よ

り桑名地方に出づる徑路を通ず。産業は農を主とし、蠶業亦行はる。物産は、農産物米(七萬石)、多甘藷菜種、葉藍紫雲英、果實、製茶、繭、林産物、四萬圓、工業物、六一萬圓、清酒、蠶絲、漆、石炭あり。員辨は猪名部にて、雄略天皇の時物部大連目が朝日郡といふ賊を誅し、所領の攝津猪名部を移せるに起るといふ。和名抄爲奈倍と註し、石加野摩美耶笠間久米の五郷を載す。

イナボ(稻保) 【愛知】尾張國中島郡に在りし村。明治三十九年大字に保は蒔安賀村後大和村に、其他は稻澤町に合す。

イナボ(稻保) 【北海】稻穂崎を見よ。

イナボトウケ(稻穂崎) 【北海】稻穂崎を見よ。

イナボヤマ(稻穂山) 【樺太】「稻穂山」を見よ。

イナミ(印南) 【宮山】越中國東礪波郡の町。郡の稍中央に在りて、郡役所、警察署、郵便局等あり。五箇山中の咽喉に位置し、其貨物の賣買皆此地に於て行はる。産物は絹布、落雁等あり。落雁は殊に精其千里究と銘し、文明年中板倉氏の創むる所といふ。井波はもと稻見又は伊波に作る。明徳五年木願寺五代禪如上人此地に下向し、道場を建てしに湧泉ありしかば、瑞泉寺と名け、村をも井波と改むといふ。瑞泉寺は今大谷派の別院にて、結構宏莊なり。井波城址は一撥兵亂の頃瑞泉寺

イナフ

イナホ

イナミ

イナム

イナフ

イナホ

イナミ

イナム

イナフ

イナホ

イナミ

イナム



詳ならず。邑樂郡板倉沼などにやあらんとし。今伊奈其の村名を沼邊に立つ。イナリ(稲荷)【京都】鐵道京阪線の一車馬、稲荷山を見よ。●【茨城】常陸國東茨城郡の村。白三六。●【岡山】中國鐵道の一車馬備中國吉備郡眞金村に屬す岡山より五哩二四鎮。

イナリ(飯生)【島根】出雲國能義郡能義村の大字。稲荷神社あり。風土記の意字。郡食師社是なりといふ。

イナリ(稲成)【和歌山】紀伊國四半郡の村。田邊町の北に接す。蝦蟇岩といふ奇石あり。形状蟾蜍の如く。大三、四丈。其前に觀音洞あり。白二六。

イナリ(新湯)【新潟】越後國北蒲原郡紫雲寺村の大字。紫雲寺新湯地。首邑。郵便局あり。新田町の北二里。

イナリ(丸城)【新潟】越後國北蒲原郡紫雲寺村の大字。紫雲寺新湯地。首邑。郵便局あり。新田町の北二里。

イナリ(稲荷山)【山形】山形國紀伊郡深草山の北に在る山。松茸の産を以て名あり。

イナリ(高頂)【山形】山形國三上郡の村。高頂山(三上峰)といふ。山西に有名な稲荷神社あり。社前の街を稲荷町と稱し。京都より伏見に通ずる大路に當り。茶店櫛比。伏見人形の販賣店櫛比。是より北方に連る稲荷停車場は社前に在り。稲荷神社は官幣大社にして境内廣く。社殿宏壯。本社若宮。拜殿。輪馬堂。御輿藏。寶庫。御供。樓門等あり。祭神は倉稻魂命。素戔鳴尊。大市比賣神にして。元明天皇和銅四年の垂跡に係り。初今の社地の東方約一八、九町を隔て。三箇峰に鎮座せしが。延暦八年藤原時平社殿を修造し。永享十年今の地に遷るといふ。例祭は毎年五月七日執行す。社の後山は俗に御山と唱へ。攝社末社等峰巒谷の間に在り。之を巡拜するを御山廻りと稱す。

イナワシロ(猪苗代)【福島】岩代國耶麻郡の町。猪苗代湖の北。磐梯山の南麓なる一市街にして。もと若松支城の城下なり。警察分署。郵便局。鐵道。岩越線。停車場あり。若松市より一六哩二五鎮。猪苗代城址は龜ヶ城といひ。中世佐原大炊助經連の築城といふ。子孫相襲之に居り。耶麻郡の牛を領せしが。何の頃よりか。吾名氏の臣下の如くなれり。天正年中。彈正盛國其子盛胤と陳あり。吾名義廣盛國を疎遠しければ。盛國之を恨み。天正十七年。伊達勢を引入れ。其身は伊達家に屬せり。十八年。蒲生氏郷會津に封ぜられし時。其臣町野左近を城代とし。二萬八千石を與ふ。上杉氏の時は。今井源左衛門八千石。蒲生

秀行は關十兵衛八千石。加藤氏の時は堀部主膳(一萬石)を城代とし。寛永二十年。松平正之封に就きてより。舊により。城代を置き。明治維新に至る。磐梯神社は式内の古社なり。永く荒廢せしを萬治年中。松平正之再興す。白三〇。

イナワシロ(猪苗代湖) 岩代國に在る湖。耶麻安積北會津三郡に圍まれ。周圍一三、九町。近江の琵琶湖常陸の霞ヶ浦に亞ぎ。本邦第三の大湖なり。其水面は海拔約一六五〇尺にして。會津平原より高きこと約九〇尺。東西。南三方は始原代の岩石及第三紀層の山脈によりて圍まれ。北には磐梯山時。東北に長瀬川注入す。此川の口は堆砂長く湖中に斗出し。數百尺の沖に於ても深き三尺内外に過ぎず。此堆洲の南は深く灣入し。其以南は山脚急斜を成して水面に没す。排水口は西北に在り。戸ノ口と呼ばれ。此より日橋川となりて西流し。急湍を成して會津平原に走る。湖底の最深點は中央若くは其以南に在るべしといふ。此湖は大同年元。俄に生じたりと口碑に傳ふ。地學者は湖底の泥土腐蝕の度少きに徴し。有史以後の成生ならんと説けり。湖畔風景畫くが如し。戸ノ口より山瀉まで四里餘の間。汽船を通ず。會津風土記云。白鳥雁鴨の類來り浴す。鮭魚あめますを産す。又まると云魚あり。春夏之際之を漁して多く賣き出す。鮭魚尤美なり(中略)又春水の時す。たちと竹を編み。周五尺餘の

輪とし。夜々舟を泛べ。松を燃し。鮭魚を捕ふ。之をかり鮭といふ。●猪苗代。水工事は近年の大事なり。湖水を引き。安積郡に灌漑するものにして。其排水口は耶麻郡山瀉に在り。明治十二年。起工。同十五年竣工。其延長十有五里。灌漑の面積五千餘町に及ぶ。元來安積郡の大部は青梁山脈の東側に在り。第四紀古層の高地より成り。對面原。廣谷原。大藏原。大槻原。四十櫃原。牛庭原等の原野相連り。極めて水利に乏しきを以て。長く荒蕪に附せられしが。此工事竣工以來。曠野忽ち肥沃の田圃と化し。穀桑の利大なるのみならず。工業亦隨て興り。紡績製絲。精米の諸工場は。皆此疏水より發動する電力に賴る。郡山町の如きは殊に俄に商業の發展を來たし。勢將に福島を凌ぐんとす。

イナシ(伊南)【島根】石見國那賀郡の村。白二九。

イナシ(大居)【静岡】遠江國周智郡の村。秋葉山と本宮山との谷間。氣田川に沿へる地なり。もと郷名にして。又乾に作り。氣田。熊切。砂川諸村に互りたり。中世天野氏の本地とせし所にして。大字堀之内に大居城址あり。堀之内は其城下町なり。天野氏の建てたる瑞雲院あり。二俣町の東北三里とす。白三九。

イヌイ(乾)【岐阜】美濃國武儀郡の村。郵便局あり。白三三。

イヌイ(ガワ)【福井】越前國大

野郡の村(白三六) 大和國吉野郡の西部に在る山。紀伊國伊都郡に接す。

イヌウシカミイタケ(神威岳)【北海】石狩天鹽三國の境に峙つ山。

イヌカイ(天狗)【長野】信濃國東筑摩郡松本町。本郷村。岡田村邊の古名。即ち和名抄。辛天狗の地にして。上古天養氏の住みし所とす。後高麗人來り住せしより。安曇の天養と區別して。辛天の稱起るといへり。●【大分】豐後國大野郡の町。明治三十六年町制を施し。日向街道に當り。大野川を控へ。郡中三重町に次ぐ繁華の地にして。郡内北部諸村の貨物皆此地に於て集散す。大分郡戸次村へ三里。越前町へ五里の間。舟楫の便あり。大分町を距る六里二七町。郵便局あり。白三七。

イヌカイオンセン(天狗温泉) 信濃國東筑摩郡本郷村大字。淺間を見よ。

イヌカイガワ(天狗川) 豐後國に在る大野川の一。名。

イヌカウラ(大ヶ浦)【長崎】對馬國上縣郡に在りし村。明治四十一年仁田村に入る。

イヌカケ(天掛)【千葉】安房國安房郡平群村の大字。平久里川の上流に沿ふ。此に遠き柿とて。子實逆生すと稱する柿樹あり。老樹は明治初年枯れ。今は根より生ぜし。葉なりといふ。傳云。源賴朝石橋山より遁れて此を過しとき。柿製の鞭を地に挿せしより生ぜり。大雲院に里見義豐天

妻の墓あり。

イヌガタケ(天岳) 豐前國上郡下毛郡に跨る英彦山の一支。高三五二五尺。樹木多き深山なり。山頂に近き湖水の傍に大洞あり。米菩提山伏の行場なりといふ。

イヌカミガワ(天川) 近江國犬上郡に在る川。水源二あり。一は愛知郡界なる箕川。二は三國岳近江美濃伊勢の交界。其箕川嶺より發するものは北西流し。三國岳より發するものは南西流し。二流川相に會し。北西流して平野に出で。高宮の西を過ぎて琵琶湖に入る。流程六里。一に高宮川の稱あり。

イヌカミダケ(天太郎)【滋賀】近江國十郡の一。四境。北は坂田郡。東は美濃國養老郡。伊勢國員辨郡。南は愛知郡。西は琵琶湖。東西三、五町。南北三、二、八町。面積一、二方里。八九。行政上。彦根町及北青柳。南青柳。松原。磯田。福満。青波。千本河瀬。龜山。豊郷。高宮。四甲。東甲。東大瀨。多賀。久徳。日夏。岸谷。脇ヶ畑の一九村に分ち。郡役所を彦根町に置く。白三三。●八、九、九。地勢。郡の東境に靈仙岳。三國岳等時。靈仙の山脚漸く湖畔に逼る所に。堺入江あり。其隘所を通ずるを中山道とす。此所は東山北陸二道を扼せる無双の要害なれば。古は佐和山城あり。後徳川氏彦根城を築き。其重臣を置きて。之を鎮せしめたり。犬上川及芦川(善利川)東境の山中に發し。西北流して琵琶湖に入る。此二川下流の沿岸は沖積

層より成り。平坦肥沃なり。鐵道は東海道線北より來り。彦根河瀬を経て南走す。別に近江線彦根にて分岐し。西南走して關西線に連る。本郡は國內屈指の蠶業地にして。漆器の産出は國內に冠たり。麻織物亦名あり。物産は農産物。米(八萬石)。麥(二萬石)。大豆。桑。繭(三六萬圓)。林産物。用材あり。工業品。蠶絲(三六萬圓)。織物(一五萬圓)。麻布を主とす。漆器(二二萬圓)。製品は佛壇。算盤。長持。其他裝飾品あり。犬上は古書物上に作る。日本武尊の子稻依別王の子孫繁榮せる地なり。和名抄以奴加三と訓じ。神戶。田可。沼波。高宮。尼子。高真。清水。安食。實田。青根の一〇郷及驛家を載す。其驛家(古の鳥籠驛。中世の小野驛)は後北に移りて。坂田郡に入る。今の鳥居本是なり。

イヌカミダケ(狗神岳)【北海】渡島國茅部郡に在る山。高三四四二尺。

イヌカワ(天川)【山形】羽前國東置賜郡の村。白三三。

イヌグ(天來)【島根】隱岐國周智郡に在りし村。明治三十七年東郷村に入る。

イヌケンタキ(天狗淵) 大隅國始良郡牧園村に在る瀧。霧島山中の溪水相集り。西北に向て落つ。高一八丈。飛泉綿を飛すが如く。其音雷の如し。薩日隔三國第一の大瀧と稱す。

イヌサキ(天押) 丹後國竹野郡の一角。

イヌサリトウケ(天狹峠) 美作國眞庭郡八束村大字。下田より伯耆國東伯郡矢

送村大字山口に通ずる山路。

イヌシマ(天島) 備前國邑久郡朝日村の南一。兒島灣口に在る島。周圍一里七町。人家あり。島中に巨岩あり。形犬に似たり。島民。天石大明神と號す。島の東に沖ノ波島。西に沖ノ竹子島といふ小島あり。

イヌソトバ(天卒都婆)【宮城】磐城國刈田郡白川村の大字。天卒都婆と呼ぶ石あり。高五尺。横三尺五寸。其何たるを詳にせず。

イヌチシヨウシ(天地城址)【岐阜】美濃國加茂郡蘇原村。赤河を見よ。

イヌツカ(天塚)【福岡】筑後國三浦郡の村。白三七。

イヌナキガワ(天鳴川) 筑前國に在る遠賀川の一。支源。水源。鞍手郡吉川村の犬鳴山。東北流して。福丸に至り。山口。笠松。八木山の諸川を合せ。東流して。龍徳に至り。東北折して。遠賀川に入る。延長約五里。下流若宮川の稱あり。

イヌナキサン(天鳴山) 紀伊和泉國境連山の一峰。和泉國泉南郡大土村に屬す。高五一〇尺。餘絶壁削るが如し。其山頂を燈明岳といふ。山中に兩界塔。辨天。小槻。奥。千丈。布曳の七瀧あり。總稱して七寶瀧といふ。布曳最も大にして。高三六丈。幅三尺。下流は皆大井關川に入る。九條植通此所に。思ひきや七のたからの瀧に來て。六のこりを清むべしと。山中に七寶瀧寺あり。大土村大字。大木の東二〇町とす。岨崖危峻を攀ちて。達す。役小角



の開基本尊は不動明王天授年中志一上人の再建といふ。其溪山の美は實に一州に冠たりと稱す。和泉式部此所にて、山里に築られざりけり夜もすがら、松吹風に驚かれつゝ。

イヌナキヤマ(大鳴山) 筑前國鞍手郡の西部に在る山。相屋郡を割し、熊峰、鉢峠、札峠の峻嶺あり。高約一九八〇尺。此山を輪ゆれば相屋郡久原村に達す。立花山城の裏なり。

イヌボウカサキ(大吠ヶ崎) 下總國銚子半島の東端なる岬。又大房ヶ崎、大坊ヶ崎に作る。太平洋に斗出し、断崖絶壁を成し、岬下は岩石多く、餘脈海中に延びて暗礁となる。怒濤岩石に激し、飛沫烟の如く、壯觀を極む。此岬は本邦有名岬角にして、本州の東海岸に於ては、此岬と金華山とを著明なりとす。岬上に燈臺あり。高九丈。海抜一六丈八尺。燈火は旋轉白色にして、晴天光達一九里。水路誌云、大吠崎

は大東崎の北東東三十三里に在り、下總國最東端の陸頭に於て、其頂に愛宕山と稱する多樹峯あり。高二四九呎。海上より望めば極めて顯著なり。此陸頭は四箇に分れ、最西角を犬若鼻、南東角を長崎鼻、最東角を大吠崎、北東角を女夫ヶ鼻といふ。該陸頭の南岸は、赤土を以て上層を厚く蔽ひたる黒色の險崖(高六〇呎乃至一三〇呎)にして、距濱約四哩の所まで礫脈を擴張し、小舟と雖通航し難し。此礫脈の外端に三哩と稱する高四呎の一岩あり。長崎鼻は鼻端に雀岩と稱する黒色の尖岩(十九呎)を有する。卑低の岩角にして、夫より三哩半間險灘を延び、該陸頭の外面濱即ち東岸は、長崎鼻より北方に走る。三哩にして女夫ヶ鼻に至り、亂形にして三哩乃至四哩の所まで岩壁を擴張す。而して女夫ヶ鼻より海岸は北西に折れて利根川に至る。

イヌボエ(大吠) 長崎 對馬國下縣郡に在りし村。明治四十一年船越村に入る。イヌマ(伊沼) 甲斐國南巨摩郡の村。イヌメ(犬目) 山梨 甲斐國北部留郡大目村の字。甲州街道に當り、猿橋より二里半なる一小驛とす。山中に白瀧あり。高四丈餘。傍に不動堂あり。イヌヤマ(大山) 愛知 尾張國丹羽郡の町。郡の北境木曾川の南岸に在り。名古屋を距る七里六町。尾州侯の家老成瀬氏の居りし所にして、一時積置と改めしが、後

復た大山に復す。産物に大山焼と稱す。陶器、蕎麥酒、葡萄酒あり。大山城址は木曾川に臨める丘上に在り。林頭今尙巍然たる天守閣を望むべし。永享年中斯波入道元勳の築く所にして、織田廣近を置きて之を守らしむ。天文年中津田信清居り。織田信長と隙あり。城を退去す。信長乃ち池田信輝に與ふ。關ヶ原役西軍の將石川光吉之を守る。役後小笠原吉次、徳川忠吉の徳に賜はる。封一萬七千石。慶長十二年下總佐倉へ移封。平岩親吉之に代り。封十萬石。徳川義直の傳を兼ねたり。十六年親吉病死。嗣なく。除封。成瀬正成之に代り。世襲して明治維新に至る。涼しきを見せ、動くや城の松(文章) 禪宗妙心寺派瑞泉寺は應永二十二年創建。近郷第一の大刹なり。境内十勝の目あり。文籍 大山大山壯年會(豐) 大山里語記(寫本十卷)。

イヌヤ(稲野) 兵庫 攝津國川邊郡の村。古の兒屋郷の地なり。今大字に、長野の名存す。昆陽寺、長岡池等皆此所に在り。昆陽は山崎街道の驛次にして、伊丹町より十餘町。昆陽寺は大字寺本に在り。眞言宗にして、眞禰山と號す。天平五年僧行基開創。行基田を墾き、池を造り、院家に施入し、寡孤痲疾を救治し、終に此所に寂す。攝州第一の名刹なり。天平年中兵火に罹り、後僅に再建す。華嚴堂、開山堂、大日堂

イヌサワ(稻澤) 愛知 尾張國中島郡の町。美濃街道に當り、舊稱を稻葉といふ。清須驛より二里。萩原驛へ一里。郡役所警察分署、稅務署、郵便局等あり。合二五三。元政の身延紀行に、里の名の稻葉かりほす。秋過て、すゝめ寂しき小田の朝霧。イネノ(稻野) 兵庫 攝津國川邊郡の村。古の兒屋郷の地なり。今大字に、長野の名存す。昆陽寺、長岡池等皆此所に在り。昆陽は山崎街道の驛次にして、伊丹町より十餘町。昆陽寺は大字寺本に在り。眞言宗にして、眞禰山と號す。天平五年僧行基開創。行基田を墾き、池を造り、院家に施入し、寡孤痲疾を救治し、終に此所に寂す。攝州第一の名刹なり。天平年中兵火に罹り、後僅に再建す。華嚴堂、開山堂、大日堂

イヌカシラ(井之頭池) 武藏國北多摩郡武藏野村大字半田に在る池。舊神田上水の源頭とす。將軍徳川家康の時始めて之を掘りしに、清水七所より湧出せしかば、七井ノ池と稱せり。秀忠の時引いて江戸の飲料水とし、目白臺まで溝を穿つこと五里。小川町神田御殿へかけ、神田上水と呼ぶ。家光此邊遊覽の折、此池は江戸のほとりの井の頭なりと上意ありしより、今の名に改むといへり。池畔樹木鬱蒼。池中に辨才天の祠あり。鐵道中央線の吉祥寺驛より僅に二町。

イヌカ(井ノ口) 神奈川 相模國足柄上郡に在りし村。明治四十一年中井村に入る。松田村の東二里。中郡に接す。饗登明神の祠あり。文明十八年道與准后此社に詣て、天か下守らんとす。饗登明神に來宿る饗登の森。滋賀 近江國伊香郡北富水村の大字。淺井氏の勇將井之口正義氏の居りし所なり。其女は淺

イヌクシ(猪之串) 大分 豐後國南海部郡蒲江村の大字。郡の東南偏日向灘に向へる一港を擁す。港口に屋形島あり。水深一〇尋乃至七尋。泥底にして泊舟に適す。イヌクチ(井ノ口) 富山 越中國東礪波郡の村。城端井波二町の間に在り。中世家族井口氏の邑にして、其城址は大字池尻に在り。一に蛇喰城とも呼べり。井口氏の祖は利仁將軍なりといふ。廣島 安藝國佐伯郡の村。島 安藝國佐伯郡の村。イヌクチ(井ノ口) 神奈川 相模國足柄上郡に在りし村。明治四十一年中井村に入る。松田村の東二里。中郡に接す。饗登明神の祠あり。文明十八年道與准后此社に詣て、天か下守らんとす。饗登明神に來宿る饗登の森。滋賀 近江國伊香郡北富水村の大字。淺井氏の勇將井之口正義氏の居りし所なり。其女は淺

イヌカ(井ノ口) 神奈川 相模國足柄上郡に在りし村。明治四十一年中井村に入る。松田村の東二里。中郡に接す。饗登明神の祠あり。文明十八年道與准后此社に詣て、天か下守らんとす。饗登明神に來宿る饗登の森。滋賀 近江國伊香郡北富水村の大字。淺井氏の勇將井之口正義氏の居りし所なり。其女は淺

觀音堂主水堂、講堂等あり。主水堂は天平九年菟着流行の時、行基修法の靈蹟なりとて、今尙秘水を出す。高師直の塚といふもの大字山田に在り。イヌマキヤマ(稻嶺山) 備前國赤松郡の東北に在る山。吉井川の西岸に峙つ。イネモシリ(一) 北海 千島國色丹島の東部に在る灣。港口東に向ひ、偏東風の外避泊するを得べし。灣内水深六尋餘。砂底なり。但し岩礁多く、錨地を狭む。イノ(伊納) 北海 石狩國上川郡蘆花村に在る鐵道停車場。旭川驛へ六哩二五鐵。神居古澤驛へ五哩二八鐵。アイヌ名イノベツ。漁人の假小屋ある川の義なり。略してイノといふ。イノ(井野) 茨城 下總國北相馬郡の村。取手町の北に接す。本多作左衛門重次の墓あり。重次剛直、諱を受け、上總古井戸に屏居し、後此所に移り、慶長元年病死すといふ。重次の弟重玄の墓亦同所に在り。合云 島根 石見國那賀郡の村。大麻山の南麓なり。居民農業の間暇に砂鐵を採集す。砂鐵を出す所は村の北部にして、花園岩、石英斑岩並に石英粗面岩より成り、荒蕪の地なれども、村の中央の野山ヶ岳と稱する禿山のみは、土地極めて肥沃にして、古來肥料を施すことなくして多量の收穫あり。俚俗大人ノ尿とも、大屎山ともいふ。太古に巨人あり。流山と大麻山とに跨り、脱糞せる所なれば、肥料を用ひずして自ら肥えたりと言傳ふ。地質は

支武岩の風化せるものなり。イノ(伊野) 島根 出雲國八束郡の村。舊秋鹿郡の西端にして、鏡川郡界に接す。古の伊野郷の地なり。合云 高知 土佐國吾川郡の町。仁淀川の東岸に沿ひ、松山街道に當る。高知市を距る三里七町。同市より電車を通じ、水陸の便あり。郡役所警察署、郵便局等あり。製紙業甚だ盛なり。此地に有名なる杉木神社あり。俗に伊野の大黒と稱し、賽人の來りて福を祈るもの多し。イノウ(伊能) 千葉 下總國香取郡大須賀村の大字。佐原町の西南約三里の一小市街なり。大須賀神社、舊祭田三十五町。長興寺、寺領二十石あり。伊能景能創建。景能は豐後の人。緒方氏なり。地頭を以て此所に居り、終に氏とす。郵便局あり。イノウ(稻生) 三重 伊勢國河野郡の村。白子町の西に接す。伊奈富神社あり。延喜式の古社にして、保食神、大國道命を祀る。境内躑躅多く、花時遊覽する者少からず。合云 愛知 尾張國西春日井郡庄内村の大字。庄内川の左岸なり。其北なる大堤を稻生堤といひ、昔は春時野遊の人酒肴を携へ、既席を設けて遊樂せり。山形 羽前國四田川郡の村。イノウエ(井上) 山梨 甲斐國東八代郡錦村の字。和名抄井上郷の遺稱とす。其東は黒駒村なり。童謡に、甲斐の黒駒井上そたち、羽はなれど日に千里、又此地

の地、其洞穴中に觀世音を安置す。太古穴居の地なりといふ。長野 信濃國上高井郡の村。千曲川の東岸に近し。信濃源氏の一流井上氏の居りし所とす。井上氏は水鏡二年武田氏に破られて亡ぶ。淨運寺は眞宗の大道場にして、不亂坊といひしが、今淨土宗なり。又淨光寺とて、親鸞の徒善性比丘の建てたる寺ありしが、天平年中兵火に罹り、慶長七年會津に再建すといふ。石川 加賀國河北郡の村。伊豆國賀茂郡の村。舊郷名なり。下田町の北に接す。此地より各種の凝灰岩を伐出し、諸國に運輸す。伊豆石之なり。イノウサワ(井ノ口) 伊豆國賀茂郡に在る川。水源二あり。一は、邊發羅山、一は大群山。二水合して、稻生澤川といふ。南に落ちて下田港に注ぐ。流程約五里。下流一里舟楫を通ず。イノウチ(井ノ内谷) 徳島 阿波國三好郡の村。イノウラ(井ノ口) 肥前國大村郡の水の佐保澤に通ずる二水道の村。南岸は瀬川村、北岸は針尾島なり。長三里。幅は狭き所二、三〇間に過ぎず。春時大潮の時、潮流狂奔壯觀を極む。イノウ(飯尾) 徳島 阿波國麻植郡西尾村の大字。吉野川の南岸とす。足利氏の頃飯尾氏の居邑なり。飯尾氏は三善姓にして、天正の頃三善常房書及和歌を善くす。

イヌカ(井ノ口) 神奈川 相模國足柄上郡に在りし村。明治四十一年中井村に入る。松田村の東二里。中郡に接す。饗登明神の祠あり。文明十八年道與准后此社に詣て、天か下守らんとす。饗登明神に來宿る饗登の森。滋賀 近江國伊香郡北富水村の大字。淺井氏の勇將井之口正義氏の居りし所なり。其女は淺







て水戸に至り、多賀郡の海濱に出で福島縣に入る。縣道には水戸を基點とし、榎倉道百川道宇都宮道栃木道銚子道千葉道等あり。鐵道は亦水戸を基點として、土浦線三八哩五〇鎮、磐城線四〇哩四五鎮、小山線三九哩、太田線二哩一〇鎮あり。別に佐貫龍ヶ崎間二哩六四鎮鐵道東北本線、大宮、白川間古河を經過す。五哩一五鎮、水戸、那珂川間の貨物用六二鎮あり。河流は利根、那珂、久慈、鬼怒の諸川及霞浦北浦共に舟楫の便あり。

【教育】 小學校は尋常四八九尋常高等二〇三、高等五八、就學歩合は、百人中男九八人、女九人、四三、中學六校、水戸、太田、土浦、龍ヶ崎、下妻、水海道、師範學校及女子師範學校各一、水戸、高等女學校二、水戸、土浦、農學校一、東茨城郡常磐村、商業學校一、水戸、圖書館二、同。

【行政及財政】 租稅負擔、國稅四九一萬圓、縣稅一三三萬圓、市町村稅一一九萬圓、合計七四四萬圓、國稅の主なるものは地租三三五萬圓、所得稅三三三萬圓、營業稅三四萬圓、酒稅一五四萬圓、鹽稅二一萬圓、等縣歲入一九六萬圓、其他市町村の分を合せて、地方歲入三六六萬圓、別に地方債三三三萬圓あり。縣吏八一七、郡吏二八〇、市吏三七、町村吏五九七〇人、(明治三〇年)。

【郡邑】 水戸市(八三、七三三)、東茨城郡磯濱町(三、六三六)、西茨城郡笠間町(六、三六六)、大井町(五、〇三三)、那珂郡常陸町(三、六三六)、平磯町(七、七五七)、久慈郡太田町(六、三六六)、行方郡潮來町(四、〇三三)。

船敷郡龍ヶ崎町(三、七三三)、新治郡石岡町(三、七三三)、土浦町(三、〇三三)、眞壁郡下妻町(五、〇三三)、眞壁町(七、七五七)、下館町(三、〇三三)、結城郡結城町(三、〇三三)、水海道町(五、〇三三)、猿島郡古河町(三、〇三三)。

【名所舊蹟社寺】 常磐公園、水戸公園、以上水戸、西山、太田、筑波山、大洗、以上東茨城郡、關城址、眞壁郡、岩井、猿島郡、鹿島神社、鹿島郡、酒列磯前社、那珂郡。

【沿革】 明治維新の際、常陸に水戸、大井、笠間、下館、下妻、松岡、若森、土浦、石岡、志筑、牛久保、龍ヶ崎、麻生、松川の十四藩、下總に磐城、古河の二藩あり。後藩を改め縣となす。明治四年水戸以下松岡に至る六縣を合せて茨城縣を置き、若森以下松岡に至る八縣を合せて新治縣を置き、下總の二縣は印旛縣に屬し、次で千葉縣に入る。八年新治縣を廢し、其所管及千葉縣の下總六郡を合して三郡となる。翌二十八年及三十二年に千葉縣界に關し小異動あり。要は利根川水流の移動より生ずる川の左右を被是交換せるなり。

【文籍】 茨城縣案内河原井之助、(明治三〇年)、茨城縣志、茨城縣廳編、(明治三〇年)、茨城縣統計書、常陸全國下總國北部土性圖地質調査所編、(明治三〇年)。

【イハラ】 イハラキムエン、(茨城縣無煙炭山) 常陸國に在る炭山、多賀郡華川村北中郷村に在り。鐵道常磐線磯原驛より西北一里半に在り。坑口より磯原驛まで馬車鐵

道を敷設し、運輸に便す。明治四十一年、鐵道六五、九二四一坪、使用鐵夫五〇一人、女工一七一人、産額五、九九九〇佛囉、價格二五萬圓なり。(本邦鐵業一斑)。

【イハラ】 (鹿原郡) 【静岡】 駿河國五郡の一、四境、東は富士郡、北は甲斐國南巨摩郡、西は安倍郡、南は一帶駿河灣、面積一七方里七四。行政上、與津、由比、蒲原、土川、江尻の五町及内房、松野、小島、兩河内、庵原、神師、飯田、辻、高部、西奈の一〇村に分ち、郡役所を與津町に置く。(三、七三三、三七三三)。

【イハラ】 (鹿原郡) 筑前國系島郡に在る山、怡土村に屬す。瑞梅寺山ともいふ。イハラ(掛斐) 【岐阜】 美濃國掛斐郡の町、舊稱三輪。郡の首邑にして、岐阜を距る五里。郡役所警察署稅務署郵便局等あり。掛斐城址は土岐賴康の弟掛斐出羽守賴雄の築ける所といふ。天文十一年より十六年まで土岐賴房居る。後堀池氏居り、天正十一年稻葉氏の略する所となる。關ヶ原役西尾光教軍功あり。此地三五五石を賜はり、新に平地に築城して居る。元和九年政照の時、封萬治年中、關田將監善長此地五千石を賜はり、陣屋を置き、世襲して明治維新に至る。町に三輪神社、松林寺(寺内に西尾光教同照政の墓あり)、大興寺(應安年中創建、明應年中土岐

治二十九年池田郡及大野郡の大部を合せて建てたる新稱とす。郡名は掛斐川の水源なるを以てなり。イビヤシマ(伊平屋島) 琉球國伊平屋島中の主島、沖繩島運天港より西北二二哩、周圍八里九町、其最高峯を賀陽岳といひ、高九六三尺、島の南端に近く野甫島あり。島内に島尻我喜屋田名の諸村落あり。島尻郡に屬す。明人は此島を葉壁山と稱す。(三、七三三、三七三三)。

【イハラ】 (鹿原郡) 筑前國系島郡に在る山、怡土村に屬す。瑞梅寺山ともいふ。イハラ(掛斐) 【岐阜】 美濃國掛斐郡の町、舊稱三輪。郡の首邑にして、岐阜を距る五里。郡役所警察署稅務署郵便局等あり。掛斐城址は土岐賴康の弟掛斐出羽守賴雄の築ける所といふ。天文十一年より十六年まで土岐賴房居る。後堀池氏居り、天正十一年稻葉氏の略する所となる。關ヶ原役西尾光教軍功あり。此地三五五石を賜はり、新に平地に築城して居る。元和九年政照の時、封萬治年中、關田將監善長此地五千石を賜はり、陣屋を置き、世襲して明治維新に至る。町に三輪神社、松林寺(寺内に西尾光教同照政の墓あり)、大興寺(應安年中創建、明應年中土岐

物合計一萬圓、工産物は蠶絲、織物、瓦、木製品、鐵製品等あり。鹿原はもと鹿原に作り、其訓もイハラなりき。何時の頃よりイハラに訛り、庵字を用ひ、正保圖以來鹿原を以て公用と定めらる。和名抄は伊保波良と訓じ、西奈河名大井、鹿原、蒲原、息津の六郷に分てり。

【イハラ】 (山梨) 甲斐國中巨摩郡五明村の字、南巨摩郡界に接し、駿河信濃の往還に當る。イハラソネ(茨曾根) 【新潟】 越後國中蒲原郡の村、(三、七三三、三七三三)。

【イハラ】 (和歌山) 紀伊國那賀郡土岩出村の大字。往時根來の市場にして、古市辻の名を存す。イハラヤマ(非原山) 筑前國系島郡に在る山、怡土村に屬す。瑞梅寺山ともいふ。イビ(掛斐) 【岐阜】 美濃國掛斐郡の町、舊稱三輪。郡の首邑にして、岐阜を距る五里。郡役所警察署稅務署郵便局等あり。掛斐城址は土岐賴康の弟掛斐出羽守賴雄の築ける所といふ。天文十一年より十六年まで土岐賴房居る。後堀池氏居り、天正十一年稻葉氏の略する所となる。關ヶ原役西尾光教軍功あり。此地三五五石を賜はり、新に平地に築城して居る。元和九年政照の時、封萬治年中、關田將監善長此地五千石を賜はり、陣屋を置き、世襲して明治維新に至る。町に三輪神社、松林寺(寺内に西尾光教同照政の墓あり)、大興寺(應安年中創建、明應年中土岐

りてより附會せるものにて、而も伊吹山に此地を距る二里餘に在り。イブキシマ(伊吹島) 讃岐國三豐郡觀音寺町の西三里餘の海上に在る小島、島内飲料水に乏し、居民の風俗言語稍異れり。イブキヤマ(伊吹山) 下野國下都賀郡に在る山、吹上村に屬し、栃木を距る西北一里餘の岡阜なり。多く艾草を産す。世に伊吹文といふは美濃近江の界なる伊吹にあらすして此なりといふ。枕草紙卷十二に、「まこと下野にくたるといひける人に」とありて、「おもひたにかいらぬ山のさし草、たれかふきの里はつけしそ。是は下野の伊吹なり。●近江美濃二國に跨る高山、騰吹又は伊服岐に作る。海拔四三〇〇尺、江北の鎮山と稱す。北は山脈遠く越前に互り、南は壁立して、山下に中山道を通す。佐々木氏近江の守護となり、此山腹に館を置き、管治三百年に及びたり。山中藥草多し、殊に伊吹艾は其名高し。此山は日本武尊登陸の事ありしより、其名甚だ著る。摩東征より還り、此山に荒神ありと聞き、銀を尾張の宮簀媛の家に置き、伊吹山に至る。山神化して大蛇となり、道に當る、摩之を跨ぎて過き、其毒を受け、終に伊勢に至りて斃すと傳ふ。伊吹神社は山の西南麓、近江國坂井郡伊吹村大字伊吹及東麓、美濃國不破郡岩手村大字伊吹の二所に祀る。蓋し伊吹部といへる古部族の氏神なり。大蛇を祀るといふは、日本武尊の事ありてより附

頼登再興、寺號は掛斐頼雄の法號に因るといふあり。(三、七三三、三七三三)。

【イビ】 (掛斐川) 美濃國に在る川、水源、掛斐郡冠ヶ岳の南麓、廣瀬川を合せ、掛斐郡の中部を東南流し、掛斐町の南に於て、柏川を入れ、養老郡笠間村船着に至り、更に杭瀬、牧田の二川を併せ、南流して、桑名の海に入る。流程約三〇里、掛斐郡久瀬村東横山より始めて舟を通す。此川近年まで上流は大橋川を以て、長良川の水を受け、下流は油島に至りて、木曾川に通せり。凡そ掛斐、長良、木曾の三川は、四瀧水害の根本なるを以て、徳川幕府治水に意を用ひ、掛斐の木曾川と合流する所には、長堤を出して、木曾川の水の進入を拒ぎ、又平時流出の水量を節せんが爲め、水底に石を疊めり、之を洗堰と名け、其上流安八郡福東村鹽喰の邊には、大樋管を埋伏せり、之を樋の森伏越といひ、大橋川にも亦洗堰を設けたり。然れども近時水源森林濫伐と、焼畑耕作の行はるゝに因り、土砂の流出甚だしく、大雨至れば忽ち氾濫し、殊に木川の水害甚だししとす。此に於て明治二十年以降、大工事を起し、三川を分流せしめ、大橋及油島の堰を塞ぎ、堤防を起す。三十四年に至りて成る。木曾川(參照) 掛斐川は、一に伊尾川に作り、安八郡の東に於ては、多く、久川又は、澤渡川と呼ぶ。其舊河道は掛斐郡池田村杉野の西より、同村上田の東を経て、今の杭瀬川に入りしが、明徳年中出水ありて今

の形勢に變ぜりといふ。往昔は不破郡赤阪より、稻葉郡加納に至る五里の間は、舟渡にて、赤阪七里ノ渡の稱あり。蓋し當時は堤防の設なく、出水毎に溢水氾濫し、旅人は舟にて往來せるもの、如し、其堤防を築き、河道を定めしは、天正以降なるべしといふ。

【イビケン】 (掛斐郡) 【岐阜】 美濃國十五郡の一、四境、北は越前國南條、今立、大野三郡、東は本巢郡、南は安八、不破二郡、西は近江國坂田、淺井、伊香三郡、面積四三方里、一三行政上、掛斐町及清水、豐水、北方、橫藏、長瀬、谷波、大野、西郡、鶯宮、川合、徳山、春日、木郷、八幡、池田、養基、宮地、小島、坂内、久瀬の二二村に分ち、郡役所を掛斐町に置く。(三、七三三、三七三三)。

地勢、本郡は美濃の西北偏にして、南北に長く、山岳は北より西に互りて重疊し、越前近江に連り、所謂、山谷を成し、土地僻遠、耕地開けず、交通極めて不便なり。河流は廣瀬川及柏川其間に發し、合して掛斐川となる。郡の東より南は所謂、美濃平野に連り、人家稠密、農耕の業盛なり。物産は山地より炭、茶、段之木、紙を出し、東南部より米を産す。稻富米は殊に其名著る。掛斐川の點亦著名にして、房島の築にて獲る所、年々五萬尾を下らずといふ。農産物の主なるものは、米八萬七千石、麥(四萬五千石)、其他大豆、甘藷、里芋、蘿蔔、茄子、蒟蒻あり。工業は茶紙、瓦、石灰、酒、醬油、麥粉、干澱粉等なり。掛斐は明

イビカ

イビク

イビヤ

イブキ

イブキ







郷に分てり明治二十九年揖東揖西二郡を合して揖保の稱を復す。

【文籍】兵庫縣揖保郡是揖町村是同郡役所置。

イボナイ(伊保内)【巖手】陸中九戸郡の村。陸奥新井田川の上流に沿へる一小站なり。郵便局あり。白濁云。

イボヤマ(粒山)【兵庫】播磨國揖保郡に在る山。揖保川の北。揖保川の東に在り。高二三〇尺の小丘なり。天日槍の古事に因り名くといふ。郡名の起る所にして式内。天照神社あり。

イボヤマ(伊保山)【兵庫】播磨國印南郡に在る山。伊保村に屬す。其別峰を龍山といふ。二峰孤立して他に連接せず。

イマ(今)【新潟】越後國南蒲原郡の町。三國街道三條。長岡間の小驛にして、郵便局等あり。昔三島郡(山東郡)郷本の伊那胡山の下に在りしを移せしなりといふ。戊辰の役長岡藩兵の官軍と激戦せし地なり。白濁云。

イマ(今)【愛知】三河國碧海郡に在りし村。明治三十九年安城町に入る。【岡山】備前國御津郡の村。白石川に沿へる地にして、中古以來兒島灣江線の退きて生ぜる地なり。大字今村に今村宮あり。黒住教會の本社にして、社殿莊麗。地方稱に見る所なり。黒住教は安永年中大字中野の人。黒住左京宗の開きし所にして、日神崇拝を其教旨とす。白濁云。

イマイ(今井)【東京】武藏國南葛飾郡瑞穂村の大字。江戸川西岸に沿ふ。高野の親等を守る織田氏齋藤新吾を遣はし之を攻めしが志を得ずして兵を班す。

イマイヅミ(今和泉)【鹿兒島】薩摩國揖宿郡の村。指宿村の西北にして、下方馬の産地なり。今和泉の名は延享年中中國主島津繼豐(舍弟忠郷)をして出水島津を再興せしめ、和泉氏と號せしめ此地を興へしに因る。白濁云。

イマイヅミ(今泉川)【陸前國氣仙郡】に在る川。水源、陸中界の山中。南流して矢作川を容れ高田町に至り海に入る。イマエ(今江)【石川】加賀國能美郡に在りし村。明治四十年御幸村に入る。今江湯の東南岸。北陸街道小松月津間の小驛なり。此地に御幸塚あり。二郡の要衝に居り、小松城備はらざる以前は諸將必争の地たり。天正三年織田信長加賀に入りし時此地に陣し、慶長五年前田利長又此を取りて小本大聖寺の間を斷ちたり。

イマエ(今江)【石川】加賀國能美郡に在りし村。明治四十年御幸村に入る。今江湯の東南岸。北陸街道小松月津間の小驛なり。此地に御幸塚あり。二郡の要衝に居り、小松城備はらざる以前は諸將必争の地たり。天正三年織田信長加賀に入りし時此地に陣し、慶長五年前田利長又此を取りて小本大聖寺の間を斷ちたり。

イマエ(今江)【石川】加賀國能美郡に在りし村。明治四十年御幸村に入る。今江湯の東南岸。北陸街道小松月津間の小驛なり。此地に御幸塚あり。二郡の要衝に居り、小松城備はらざる以前は諸將必争の地たり。天正三年織田信長加賀に入りし時此地に陣し、慶長五年前田利長又此を取りて小本大聖寺の間を斷ちたり。

イマエ(今江)【石川】加賀國能美郡に在りし村。明治四十年御幸村に入る。今江湯の東南岸。北陸街道小松月津間の小驛なり。此地に御幸塚あり。二郡の要衝に居り、小松城備はらざる以前は諸將必争の地たり。天正三年織田信長加賀に入りし時此地に陣し、慶長五年前田利長又此を取りて小本大聖寺の間を斷ちたり。

イマエ(今江)【石川】加賀國能美郡に在りし村。明治四十年御幸村に入る。今江湯の東南岸。北陸街道小松月津間の小驛なり。此地に御幸塚あり。二郡の要衝に居り、小松城備はらざる以前は諸將必争の地たり。天正三年織田信長加賀に入りし時此地に陣し、慶長五年前田利長又此を取りて小本大聖寺の間を斷ちたり。

イマエ(今江)【石川】加賀國能美郡に在りし村。明治四十年御幸村に入る。今江湯の東南岸。北陸街道小松月津間の小驛なり。此地に御幸塚あり。二郡の要衝に居り、小松城備はらざる以前は諸將必争の地たり。天正三年織田信長加賀に入りし時此地に陣し、慶長五年前田利長又此を取りて小本大聖寺の間を斷ちたり。

イマエ(今江)【石川】加賀國能美郡に在りし村。明治四十年御幸村に入る。今江湯の東南岸。北陸街道小松月津間の小驛なり。此地に御幸塚あり。二郡の要衝に居り、小松城備はらざる以前は諸將必争の地たり。天正三年織田信長加賀に入りし時此地に陣し、慶長五年前田利長又此を取りて小本大聖寺の間を斷ちたり。

一古村にして東路土産に記せる淨興寺及親鸞の遺蹟明福寺あり。【新潟】越後國西頸城郡の村。白濁云。

【群馬】上野國新田郡世良田村の大字。中世兒玉黨の一派今居氏之に居る。【群馬】上野國新田郡世良田村の大字。後東西に分れ、今四今井のみ残り。新田又太郎政氏の季子十郎惟氏之に居り、今井氏を稱す。【奈良】大和國高市郡の町。古の雲梯郷の一部にして、八木町に接す。郡中小繁華の地なり。其近村は大和耕の産地にして、市中機織業者多し。此地は戦國の頃一向宗の僧兵部なる者の開きたる地にして、筒井順慶攻取ること能はず。織田豊臣二氏の頃も尙之を領せりとす。白濁云。

イマイセ(今伊勢)【愛知】尾張國中島郡の村。明治三十九年馬寄神戶、開明三村を合せて新設。白濁云。

イマイチ(今市)【埼玉】武藏國大里郡男衾村の大字。比企郡の高見と相接す。一村なりしが、何時の頃にか分れしなり。【岡山】備前國小田郡の村。白濁云。

イマイサキ(今井崎)【大隅】大島郡の北側に斗出せる岬。蒲生崎と相對して笠利灣を擁す。

イマイセ(今伊勢)【愛知】尾張國中島郡の村。明治三十九年馬寄神戶、開明三村を合せて新設。白濁云。

イマイチ(今市)【埼玉】武藏國大里郡男衾村の大字。比企郡の高見と相接す。一村なりしが、何時の頃にか分れしなり。【岡山】備前國小田郡の村。白濁云。

イマイサキ(今井崎)【大隅】大島郡の北側に斗出せる岬。蒲生崎と相對して笠利灣を擁す。

イマイセ(今伊勢)【愛知】尾張國中島郡の村。明治三十九年馬寄神戶、開明三村を合せて新設。白濁云。

イマイチ(今市)【埼玉】武藏國大里郡男衾村の大字。比企郡の高見と相接す。一村なりしが、何時の頃にか分れしなり。【岡山】備前國小田郡の村。白濁云。

イマイサキ(今井崎)【大隅】大島郡の北側に斗出せる岬。蒲生崎と相對して笠利灣を擁す。

イマイセ(今伊勢)【愛知】尾張國中島郡の村。明治三十九年馬寄神戶、開明三村を合せて新設。白濁云。

イマイチ(今市)【埼玉】武藏國大里郡男衾村の大字。比企郡の高見と相接す。一村なりしが、何時の頃にか分れしなり。【岡山】備前國小田郡の村。白濁云。

イマイサキ(今井崎)【大隅】大島郡の北側に斗出せる岬。蒲生崎と相對して笠利灣を擁す。

イマイセ(今伊勢)【愛知】尾張國中島郡の村。明治三十九年馬寄神戶、開明三村を合せて新設。白濁云。

上州に至る往還俗に鎌倉道に當れり。【栃木】下野國上都賀郡の町。日光山の咽喉に當り、日光足尾栗山邊貨物の供給地に當り、且つ往時は今市宿と稱し日光參詣の者概し此地を経由せしを以て繁華の地なり。區裁列所。警察署。郵便局等あり。今市停車場は宇都宮より二〇哩七九鎮。此所より四十分の急勾配を以て日光に向ふ。縣社二宮神社あり。二宮尊徳を祀る。尊徳晩年徳川幕府の爲に日光社領の經濟を理め、安政三年日光官舎に卒す。乃ち此地に葬る。社に接して如來寺あり。境内に山椒の大木あり。白濁云。

【島根】出雲國簸川郡の町。郡の中心にして、高瀬川斐伊川の分流に沿ひ、山陰道の驛次なり。出雲西部貨物の集散地にして、郡役所。警察署。區裁列所。高等女學校。郵便局等あり。居民銀細工及土偶の製作に従事する者多し。松江を距る八里一〇町。杵築町を距る二里二町。白濁云。

【島根】石見國那賀郡の村。郡の東偏に在り。濱田廣島間街道の驛次にして、郵便局あり。濱田より六里九町。松江より四里四町。白濁云。

【大分】豊後國大野郡の村。大分川の支流七瀬川上游の地に在り。御座岳の西谷とす。野津原驛の西南二里久住驛の東北五里。白濁云。

イマイヅミ(今泉)【東京】武藏國荏原郡矢口村の大字。多摩川の岸に在り。此地の延命寺は鶴之木光明寺。二世寂菴長曉上人の開基なり。後上人樹樹白旗郷に遺る。因て其流を白旗流と呼ぶといふ。

【神奈川】相模國中郡南秦野村の大字。永享十二年一色伊豫守鎌倉を逐電し、此所に在りと聞き、鎌倉管領兵を遣はして之を討たせければ復た遁れて行方を知らずと鎌倉大草紙に見ゆ。【新潟】越後國中魚沼郡に在りし村。明治三十四年水澤村に入る。【群馬】上野國山田郡の地名。後東西に分れ、東今泉のみ残り、今毛里田村の大字たり。戦國の頃横瀬郡に此地に居りしといふ。曹源寺は新田義重の養女神壽姫の開基と傳へ、惠心僧都作彌陀如來を安置す。本堂は三重造りにして、頗る莊嚴なり。境内の觀音堂は秩父坂東第三十三番の札所なり。【静岡】駿河國富士郡の村。吉原町の北に接す。戦國の頃善徳寺といふ大刹あり。もと駿河六所淺間神社の別當職にして、今川義元も幼時承芳と稱して此に居りし事あり。元和三年家康の棺を久能より日光に移す時、此に宿次せし事あり。後廢絶す。此村の平家越といふ所は、治承四年平家が水禽の羽音に驚きて潰走せし地なりといふ。地勢に合はず。今の加島村の地といふ説信に近し。白濁云。

【陸前】一關より長阪大原の諸驛を経て此所に至るを今泉街道といふ。道路平坦ならず。【富山】越中國上新川郡堀川村の大字。城址あり。元龜二年白鳥秋貞之に據り、後越後勢の奪ふ所となり。河田島

共今泉郡といへり。肩輪王の墓。櫻木南丘。蘇我蝦夷入鹿の墓。今木の双墓。齊明帝皇孫建王の墓。城谷上墓あり。

イマキ(今木)【奈良】大和國吉野郡大淀村の大字。下瀬の上方に在り。上古は今の南葛城郡葛村及高市郡越智岡坂合等と

イマキ(今木)【奈良】大和國吉野郡大淀村の大字。下瀬の上方に在り。上古は今の南葛城郡葛村及高市郡越智岡坂合等と

イマキ(今木)【奈良】大和國吉野郡大淀村の大字。下瀬の上方に在り。上古は今の南葛城郡葛村及高市郡越智岡坂合等と

イマキ(今木)【奈良】大和國吉野郡大淀村の大字。下瀬の上方に在り。上古は今の南葛城郡葛村及高市郡越智岡坂合等と

イマキ(今木)【奈良】大和國吉野郡大淀村の大字。下瀬の上方に在り。上古は今の南葛城郡葛村及高市郡越智岡坂合等と

イマキ(今木)【奈良】大和國吉野郡大淀村の大字。下瀬の上方に在り。上古は今の南葛城郡葛村及高市郡越智岡坂合等と

イマキ(今木)【奈良】大和國吉野郡大淀村の大字。下瀬の上方に在り。上古は今の南葛城郡葛村及高市郡越智岡坂合等と

【栃木】下野國河内郡羽黒村の大字。郵便局あり。【長野】信濃國更級郡の村。白濁云。

イマジユク(今宿)【神奈川】相模國高座郡鶴ヶ嶺村の大字。相模川の渡津に當る。古の懷鳥宿の遺稱なりといふ。今此所より對岸の馬入に橋梁を架す。【埼玉】武藏國比企郡の村。越後川を隔て、入間郡と對す。近郷の木材薪材を東京附近に出す河岸場ありて積賑へり。松山町の西南二里。白濁云。

【岐阜】美濃國安八郡三城村の大字。大垣町の東北に接し、中世は一小驛なり。【山口】長門國厚狹郡厚西村大字厚狹の古名。【福岡】筑前國糸島郡の村。郡の東北隅にして、長垂山を負ひ、福岡灣に臨み、早良郡に接す。唐津街道の宿驛にして、經濟驛より一里一六町。郵便局あり。白濁云。

イマジヨウ(今庄)【福岡】越前國南條郡の村。福井より來る街道此所にて分岐し、一は折ノ木嶺を経て近江に入り、一は木ノ芽嶺を経て敦賀に通ず。今鐵道車驛あり。敦賀を距る一六哩六三鎮。福井を距る二一哩五八鎮。郵便局あり。鶴生絲を産す。白濁云。

イマス(今須)【岐阜】美濃國不破郡の村。中山道の一驛にして、關ヶ原柏原二驛の間とす。古書に居登に作る。長江秀景入道行阿承久の軍功により此地を賜はり、徒り居り、與市元景に至り、應仁年中齋藤氏に滅ぼさる。城址は今の妙應寺の地とい

イマジユク(今宿)【神奈川】相模國高座郡鶴ヶ嶺村の大字。相模川の渡津に當る。古の懷鳥宿の遺稱なりといふ。今此所より對岸の馬入に橋梁を架す。【埼玉】武藏國比企郡の村。越後川を隔て、入間郡と對す。近郷の木材薪材を東京附近に出す河岸場ありて積賑へり。松山町の西南二里。白濁云。

【岐阜】美濃國安八郡三城村の大字。大垣町の東北に接し、中世は一小驛なり。【山口】長門國厚狹郡厚西村大字厚狹の古名。【福岡】筑前國糸島郡の村。郡の東北隅にして、長垂山を負ひ、福岡灣に臨み、早良郡に接す。唐津街道の宿驛にして、經濟驛より一里一六町。郵便局あり。白濁云。

イマジヨウ(今庄)【福岡】越前國南條郡の村。福井より來る街道此所にて分岐し、一は折ノ木嶺を経て近江に入り、一は木ノ芽嶺を経て敦賀に通ず。今鐵道車驛あり。敦賀を距る一六哩六三鎮。福井を距る二一哩五八鎮。郵便局あり。鶴生絲を産す。白濁云。

イマス(今須)【岐阜】美濃國不破郡の村。中山道の一驛にして、關ヶ原柏原二驛の間とす。古書に居登に作る。長江秀景入道行阿承久の軍功により此地を賜はり、徒り居り、與市元景に至り、應仁年中齋藤氏に滅ぼさる。城址は今の妙應寺の地とい

イマジユク(今宿)【神奈川】相模國高座郡鶴ヶ嶺村の大字。相模川の渡津に當る。古の懷鳥宿の遺稱なりといふ。今此所より對岸の馬入に橋梁を架す。【埼玉】武藏國比企郡の村。越後川を隔て、入間郡と對す。近郷の木材薪材を東京附近に出す河岸場ありて積賑へり。松山町の西南二里。白濁云。

【岐阜】美濃國安八郡三城村の大字。大垣町の東北に接し、中世は一小驛なり。【山口】長門國厚狹郡厚西村大字厚狹の古名。【福岡】筑前國糸島郡の村。郡の東北隅にして、長垂山を負ひ、福岡灣に臨み、早良郡に接す。唐津街道の宿驛にして、經濟驛より一里一六町。郵便局あり。白濁云。

イマジヨウ(今庄)【福岡】越前國南條郡の村。福井より來る街道此所にて分岐し、一は折ノ木嶺を経て近江に入り、一は木ノ芽嶺を経て敦賀に通ず。今鐵道車驛あり。敦賀を距る一六哩六三鎮。福井を距る二一哩五八鎮。郵便局あり。鶴生絲を産す。白濁云。

イマス(今須)【岐阜】美濃國不破郡の村。中山道の一驛にして、關ヶ原柏原二驛の間とす。古書に居登に作る。長江秀景入道行阿承久の軍功により此地を賜はり、徒り居り、與市元景に至り、應仁年中齋藤氏に滅ぼさる。城址は今の妙應寺の地とい

イマジユク(今宿)【神奈川】相模國高座郡鶴ヶ嶺村の大字。相模川の渡津に當る。古の懷鳥宿の遺稱なりといふ。今此所より對岸の馬入に橋梁を架す。【埼玉】武藏國比企郡の村。越後川を隔て、入間郡と對す。近郷の木材薪材を東京附近に出す河岸場ありて積賑へり。松山町の西南二里。白濁云。

【岐阜】美濃國安八郡三城村の大字。大垣町の東北に接し、中世は一小驛なり。【山口】長門國厚狹郡厚西村大字厚狹の古名。【福岡】筑前國糸島郡の村。郡の東北隅にして、長垂山を負ひ、福岡灣に臨み、早良郡に接す。唐津街道の宿驛にして、經濟驛より一里一六町。郵便局あり。白濁云。



ふた、應寺は青飯山と號し、西美濃曹洞宗の總本山、元伏見宮の祈願所といふ。正平年中今須城主長江重景其母の菩提の爲に建立近世寺領二十石、聖蓮寺は宇平井に在り、八房梅、御杖の桂木等親鸞上人の遺蹟を傳ふ、弘仁年中開基、八幡山と號す、重返版は何時の世にか不破ノ關屋の荒れし横見を參れとて、勅使を下されしに、里人斯と聞き、俄に之を修理せしかば、勅使遂に其由を聞き、今は興なしとて、車を返せし所と言傳ふ、百三三。

イマスノウケ(伊増峠) 美濃國不破郡今須と關ヶ原との間なる横嶺、中山道の一險なり、嶺は今須に向ひ急峻なれども、關ヶ原よりは頗る緩なり、古書に不破山と記し、中世専ら不破の中山と稱す、萬葉集に和射美能嶺とあるも是なりといふ、秋は猶月にや人のとまららん、關屋はあれし不破の中山(藤葉集)。

イマダ(今田) 【長野】信濃國下伊那郡龍江村の大字、天龍川の左岸に沿ふ、徳川幕府の初伊那郡士井上淡路守五千石の陣屋ありし所と傳ふ。

イマダチ(今立) 【福井】越前國八郎郡の一、四境東は大野郡、南は南條郡及美濃國揖斐郡、西は丹生郡、北は足羽郡、東四里、南北九里二〇町、面積三一方里、行政上、鯖江町及北日野味真野北新莊、國高、新橋江、舟津、神明、中河片、上國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマド(今戸) 【東京】武藏國、東京市淺草區を見よ。

イマトミ(今宮) 【福井】若狹國遠敷郡の村、小濱町の東南郊にして、南川之を貫流し、東は北川に至る、大字府中は古國府のありし所といふ、大字野代の岩屋觀音堂は寺を妙樂寺と呼び、弘法大師建設のままと言傳ふ、大字青井の高成寺は曆年中足利尊氏の建立、大字伏原の發心寺は武田元光の建立といふ、百三三。

イマノウラ(今浦) 【大浦湖】を見よ。

北中山南中山、粟田部岡本、服間河和田、上池田下池田の一七村に分ち、郡役所を鯖江町に置く、(一七五、一七六、一七九) 地勢、郡の北境には文珠山、一乘山あり、東に延びて部子山となり、南美濃國界の冠嶽に連り、其脈南條郡界の田倉坂日野岳となる、此間總て山岳圍繞し、西北日野川の沿岸に至り、僅に平地を見る、郡の中央には又一帶の山嶺ありて、地勢を東西に分つ、東部は所謂池田谷にして、全く別境を成し、足羽川の水源たり、道路は北陸本道及鐵道北陸線郡の西北偏を通じ、鯖江驛を過ぎ、南は武生町、北は福井町に至る、又池田谷を通じて、南條郡宅倉に出づる山徑あり、郡の生産は工業を第一とし、農業に次ぎ、林業復た之に次ぐ、農産物の主なるものは米(二萬石)、大豆、蘿蔔、蕪(二八萬圓)、林産物、二九萬圓、工業品の主要なるものは織物(二三八萬圓)、蠶絲、和紙、礦産物等、畜産物、四萬圓、其他、水産物、礦産物、其共に一萬圓に達せず、本郡は弘仁十四年丹生郡を割きて置きしものにて、和名抄伊萬太千と註し、舟津、大屋、味真、中山、服部、勝部、酒井、曾博、芹川の九郷を載す、後東西二郡に分ち、更に今西郡今東郡の稱あり、正保圖は今西郡今東郡と記す、寛文年中復舊、イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

國武庫郡の村、西ノ宮町の東なる海村にして、相距ること五町、酒造家多く、灘目郷風指の富邑なり、今海濱に入船する爲め、小渠を設く、(百三三) ●(滋賀) 近江國高島郡の町、明治三十九年町となる、郡中最も繁華の地にして、琵琶湖に沿へる西近江路の要驛なり、越前路若狹路此所に分る、郡役所警察署郵便局等あり、文祿二年豊臣氏より前田氏に賜はりし以來、近世まで金澤藩の領邑なりき、(百三三) ●(島根) 隱岐國周吉郡に在りし村、明治三十七年磯村に入る、島後の南濱にして、西郷町と一嶺を以て相隔つ、國司塚といふ古墳あり、何時の頃にか磯村ありし時、國司某南天を瞻望して死せる所と言ひ傳ふ、●(廣島) 備後國沼隈郡の村、松水海頭に在り、中國街道の驛次なり、水越驛より一里二三町、尾道市へ二里、劍神社あり、新羅王子某の寶劍を祀るといふ、(百三三) ●(山口) 周防國玖珂郡麻里布村の大字、中世には岩國の埠頭なりしといふ、●(福岡) 筑前國糸島郡の村、福岡灣の西岸に沿ふ、毘沙門岳東に峙ち、半島形を成して、殘島に對す、博多灣埋塞以前は唐船多く來着せる事後の長崎の如くなりしといふ、平重盛病める時此所に唐醫來り居れば療治せよと、清盛より言遣はせし事、盛衰記に見え、又文永八年蒙古の使者趙長弼等此所に着し、膠狀を呈せり、此地は古の登志郷の地にして、登志明神、社及登山山尊願あり、(百三三) ●

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

【大分】豊前國下毛郡櫻洲村の大字、宇佐郡に接せる海村にして、鐵道九州線の今津驛及郵便局あり、小港灣を擁す。●【熊本】肥後國天草郡の村、(百三三) ●【伊豆】伊豆國天草郡の村、(百三三) ●【千葉】上總國市原郡千種村の大字、もと久吉郷といへり、崎崎町の北に接せる海村とす、此近海より出づるマカ貝は大にして美味なり、春日神社は字花ノ木に在り、仁徳天皇の時田道將軍の創祀する所と傳ふ、西に接して田道の墓といふものあり、一に瓶塚と呼ぶ、驚神社は宇宮前に在り、天日鷲命を祀る、毎歲十二月初西の日祭事を行ふ、俗に西ノ市と呼ぶ。

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津

イマツ(今津) 【京都】山城國紀伊郡下島羽村即ち草津の古名、●(大阪) 河内國北河内郡に在りし村、明治三十五年播津國東成郡榎木村に合す。●(兵庫) 播津



めて多し、但時に暴漲して水害をなすことあり、道路は北陸街道新見郡より入り、小杉町高岡市を経て西礪波郡に入り、能登沿海路は新見郡四方町より入り、新渡伏木を経て氷見郡氷見町に達し、是より能登の七尾に通ず。鐵道は北陸線西礪波郡より入り、大門、小杉に車庫を置く。別

より一側に激瀉を生ずることあり。イメカサキ(伊米ヶ崎) 【新潟】越後國南魚沼郡の村(台三ヶ)。イモアライ(一口) 【京都】山城國久世郡御牧村北部の地名、東鑑には芋洗と記す。昔は淀一口の要害といへり。三方沼にて一方に入口ある故一口と書する由、昔は是より三栖紀伊郡横大路村に舟渡あり。

イモクベ(井目戸) 【北海】膽振國勇拂郡の村、鶴川の東岸なり、アイヌ語イモクベ(陷阱の餌を置く所の義なり、台四〇)イモクボ(芋窪) 【東京】武蔵國北多摩郡の村(台三〇)。イモセ(五百瀬) 【奈良】大和國吉野郡十津川村の大字、往古は芋瀬に作る。太平記に芋瀬莊司あり、芋瀬川此所に發源す。

妹山ありしが、何れの世にか離子長者と一へる富家あり。妹山の地に樓閣を構へたれば、是を長者屋敷と呼びて、終に妹山の名を失ひ、果は吉野の背山が深着せりなど唱ふるに至れりと言傳ふ。又古歌に妹背山と詠めるも此地なれども、大和國吉野郡にも同名を存し、古來二所并び世に著る。或は吉野なるは妹山にて、紀伊なるは兄山なるを、何れも妹山山の稱を冠せたるならんともいふ。孝德天皇大化改新の時畿内の境域を定め、南自紀伊兄山以來畿内と、日本書紀に記せるを見れば、當時伊都郡は大倭國に屬し、もの

地名部の南部なる深山中に在りて、飯山の麓菅生より祖谷川松尾川といふに沿ひ、土佐國境の有瀬に至る大豁谷を占め、南北七里、東西一三里、高二四〇〇尺以上。今東祖谷山、西祖谷山の二村に分れ、東祖谷山は人口五三三、大枝に郵便局あり、西祖谷山は人口五三八、東末に郵便局あり、交通極めて不便なるを以て、自ら別境を成し、風俗言語大に他に異れり。土地寒冷なれども穀類を産す。殊に山生の茶と葉煙草とは他に輸出するに至る。但し煙草は概ね三好郡辻町(井川村)に送りて之を製す。祖谷川の兩岸は絶壁にして橋梁を架すべからず、因て白蔓を編みて兩岸の樹木に繋ぎ、往來を通ず。之を蔓橋といひ、數所あり。其大なるものを善徳橋といふ、長三三間、高三〇餘尋、最も著名なり。祖谷は古語に伊屋に作る。祖谷をイヤと訓むは祖のオヤをイヤに轉じて使用せるなりと云ふ説あり。昔は三好郡に屬ししが、蜂須賀氏の初世寛文年中といふより美馬郡に入る。俗に此地を開きしとき、之を天地陰陽に形り、東西に分ち、東は月敷を表はし、十二名とし、西は二十四季に形り、二十四名に分ち、故に三十六村落あり。今に至るまで皆村に名の字を付すといふ。舊家七家あり、阿波國司小笠原の血胤と稱す。今も之を御屋敷と呼ぶ。往昔平家遠族の隠れし地にして、安徳天皇も此地に崩御ありしといふ説を傳ふ。古社古物等多く、諸家

に多く、建武正平頃の古文書を藏す。細川氏の四國を徇ふるや、此地のみ征服すること能はず。蜂須賀氏の時力めて舊慣により、緩慢するに止めたりといふ。【文籍】祖谷紀行(高木菊武撰)。イヤイケ(居屋池) 美作國吉田郡高田村大森に在る池。イヤウネヤマ(彌敷山) 石見國美濃郡那賀郡及安藝國山縣郡に跨る山。土俗石見の中央にして、國內の鎮山なりと稱す。イヤカワ(祖谷川) 阿波國に在る川、又松尾川ともいふ。水源、美馬郡祖谷山中。西流して三好郡に入り、北折して吉野川に入る。流程一三里、中途に琵琶瀧なり。イヤタカ(彌高) 【滋賀】近江國坂田郡伊吹村の大字、伊吹山中に在りて、伊吹四寺の一なる彌高寺のある所なり。此寺昔は三百坊ありしが、今僅に六坊を存す。イヤダカ(彌高) 【備前】備中國小田郡三谷村に在る銅山、元文年間の開坑。其後中絶し、明治十九年再び開坑す。イヤダカ(彌高) 備中國吉備郡の西南隅に在る山、山頂平坦廣潤なり。土俗彌高千疊と稱す。イヤタニタキ(彌谷瀧) 備後國御調郡上河邊村大字三郎丸に在る瀧、高一〇丈、幅三間、岩に倚りて落つ。落ちて復た流れ出づるに、水の形舟に似たり。俗に木船乙船など呼ぶ。其上に方六丈許の巨岩あり、岩上に龍王祠を置き、此邊樹木多く、景勝の地とす。菅茶山の詩あり。

イヤタニヤマ(彌谷山) 彌谷山を見。イヤトミ(彌富) 【愛知】尾張國海西郡の町、明治三十六年町制を施す。木曾川の傍川鍋田川を分派する所に居り、鐵道尾西線一ノ宮より津島を経て來るの關西線(名古屋より伊勢に至る)に會する所に於て、車庫及郡役所警察署、税務署、前ヶ須郵便局等あり。人口三三三。イヤマ(飯山) 【神奈川】相模國愛甲郡小點村の大字、古語には井山に作り、又湯山とも記せり。昔は毛利莊の首邑なりしもの、如く、金剛寺と呼ぶ大刹ありしが、今僅に觀音堂を殘す。イヤマ(井山) 和泉國「井關嶺」を見。イヤマ(亥山) 越前國大野郡大野町に近き丘陵、又居山に作る。今山王堂山と呼ぶ。延元四年新田氏の將堀口氏政の據れる城址あり。朝倉氏の時式部太輔景鏡居れり。イヤマトウケ(井山峠) 三河國北設楽郡の北部に在る峠、海拔三四九八尺。花園岩より成る。イユイチバ(伊由市場) 【兵庫】但馬國朝來郡中川村の大字、和名抄伊由郷の遺稱。イヨカ(伊豫ヶ嶽) 安房國安房郡に在る山、平群村に屬し、勝山町の東北、保田町の東南に時つ。海拔一一一五尺。山頂の眺望國內第一なり。絶頂に少彦名命の一小祠あり。イヨカワ(伊豫川) 伊豫國宇摩郡に在る川、銅山川又は金砂川ともいふ。阿波國三

好郡を経て、吉野川に入る。流程一九里一六町、阿波國經過三里。イヨク(伊與久) 【群馬】上野國佐波舊佐位郡采女村の大字、古五十九に作る。イヨクマ(彌熊) 【愛媛】伊豫國越智郡日高村大字高橋の字、昔彌熊六郎行恒、紀伊より熊野権現を勧請して彌熊権現と崇めしといふ。其後廢絶せしが、寛文九年今治侯夢に神告を得て再建すといふ。イヨクン(伊豫郡) 【愛媛】伊豫國十二郡の一。四境、東及北は温泉郡、南は上浮穴、喜多二郡、西は海東四七三〇町、南北六里一八町、面積一三万三〇三。行政上郡中町及原町、郡部廣田中山、佐禮谷上灘下灘、南山崎、北山崎、郡中南伊豫、北伊豫、岡田、松前の一四村に分ち、郡役所を郡中町に置く。戸數一四三、六百八十四。地勢、郡の東部及南部は山岳重疊し、彌ヶ森、北ヶ森、陣ヶ森、野ヶ森等あり。西北部は平坦肥沃にして、重信川温泉郡の堺を成して海に注ぐ。道路は宇和街道、温泉郡より來り、郡中を過ぎ、南喜多郡に入る。又郡中町より東に分れ、土佐街道に合する郡中街道あり。伊豫鐵道線松山市より來り、郡中に達す。社寺は伊豫豆比古神社及金蓮寺等あり。産物は米、九萬石、麥、四萬石、大豆、甘藷、蘿蔔、檜、樟、楠、林産物(二五萬石)、漁獲物(六萬圓)、織物(二五萬圓)、蠶(二二萬圓)、下駄、瓦、あり。紙部の陶器は著名なれども、産額未詳。伊豫郡は上古伊餘に作り、久米淨穴の諸郡



も一時此郡に属せしもの、如し。和名抄は臨田前河、石田神戶、餘戸の六郷を載す。元禄十三年村高帳には、三十四村二萬四千十一石と記す。明治二十九年郡の垣生、余土の二村(重信川以北を割きて温泉郡に合せ、舊下浮穴郡の原町部、廣田、出淵、中山佐禮谷上灘下灘の八村を合す。

イヨノ(伊豫灘、碓氷灘)を見よ。  
イヨノ(伊豫國)【愛媛】四國西北部の一國。東は僅に讃岐國、阿波國南方一帶山脈を以て土佐國に隣りし、西は豊後水道、北は伊豫灘及備後灘に面す。東四四二里、西四四二里、南三三九里、北三三九里、行政上、松山市及宇摩、新居、周桑、越智、温泉、上浮穴、伊豫、喜多、四字和、東字和、北字和、南字和の一二郡に分ち、愛媛縣の所管とし、縣廳を松山市に置く。面積、六百七十九・四四二。

地勢 東北より西南に延長し、二大嶺中央に分出す。沿海は延長二百餘里に互り、其間嶺脈頗る多く、島嶼羅列す。一帯の山脈東北より西南に互りて、自然に國界を成し、其中央より二派を出す。一は北走して大角、波妻の二岬に盡き、道前道後の平野を分ち、一は西南に赴き佐田岬に盡く、國內依て三部に分る。道前は東伊豫にして、宇摩、新居、周桑、越智の四郡之に屬し、道後は所謂中伊豫にして、温泉、上浮穴、伊豫の三郡をいひ、南部は宇和郡にして、喜多郡亦之に入る。三部の

中、中伊豫最も開け、人口多く、産業盛なり。地質は道前道後地方は多く砂地に於て、其他は概ね粘土より成り、全國概ね肥沃にして耕作に適す。  
山系 土佐の國境最も險峻にして、所謂四國の脊梁を成し、石植山最も高く、海拔六四〇〇尺に達す。其脈東に延くものは、寒平山、瓶森山、笹ヶ峰、三傍示山となりて阿波讃岐の境を成し、西南に走るものは黒瀧山、唐岩崎、夢切坂、鬼ヶ城山となり、南字和郡の海に盡く、餘脈の國內に連互するもの、東部に豊受山、法皇山、黒森山、權現山、三ヶ森山あり、東部中部の界には、面木山、三方森山、福見山あり、中部には前司ヶ森、龜ヶ城、北ヶ森、陣ヶ森、水無山、大川山、雨乞ヶ森等あり。上浮穴郡の如きは殆ど連峯の間に在り。西部に在るものは神南山、耳取山、杭瀬山、大野山、吉森山、五在所山、戸紙ヶ森等あり、高き概ね三〇〇〇尺以上なり。

水系 河流は概ね源を國境の山中に發し、西若くは北に流れて海に入る。其大なるものを脈川といふ。其他金生川、加茂川、中山川、吉野川、重信川等あれども、皆流程一〇里に満たず。其他阿波に入るもの一條、銅山川といひ、吉野川に合す。土佐に入るもの二條、北字和郡に在り、廣見川、牧川あり。  
海岸 風曲極めて多く、宇和諸郡沿岸の如きは極めて亂雑なる出入を成す。唯伊豫及喜多二郡の伊豫灘に面する所は風

曲少し、岬角の有名なるを余木崎、佛岬、宮崎鼻、波妻崎、佐田岬、由良岬とす。佐田岬は西方に突出し、豊後水道の北口を成す。宮崎鼻と波妻崎との間を鹽灘といひ、三津濱より佐田岬の間を伊豫灘(碓氷灘ともいふ)と呼び、佐田岬以南は豊後水道なり。  
島嶼 極めて多く、越智郡の海上に在るを三島群島といふ。安藝備後の諸島と紛錯し、其間に花栗瀬戸、伯方瀬戸、大下瀬戸等あり。其大島と陸地との間は來島海峡なり。温泉郡の海上には、忽那群島、興居島あり。宇和郡海上には、大島、戸島、日振島、九島等あり。  
礦山 亦甚だ多し、其多くは銅鐵を産す。別子銅山の如きは海内屈指の真坑と稱す。其他地味、鹿路、銚石、元山、唐谷、寺野、金山、大峯、高浦、長坂、柳谷、平岩、日土宮内の諸坑あり。安賀母尼坑は市之川を第一とし、大水、黒森、鈴尾、西條の諸坑あり。滿備は概ね平古辻の諸坑より出づ。  
礦泉 亦甚だ多し、但し道後温泉の外は悉く冷泉にして、多く硫化水素臭を帯ぶ。【氣象】氣象區劃第二區に屬し、松山市に湖候所あり。東豫は氣象學者の所謂瀬戸内海區に屬するを以て、温度高く、空氣乾燥し、晴天多く、雨量少し、之に反して宇和四郡の如く、外海に面する地方は、本邦中雨多き部に屬す。氣温は概して温暖にして、嚴寒と雖も零下に降ること稀なり。但し山間殊に別子、久万山の如きは

冬時氷點以下に降るを常とす。明治四十一年松山に於て最高氣温攝氏三四度五、最低零以下三度八、別子に於ては最高二八度一、最低零以下九度四、一年平均松山に於て一六度三、別子に於て九度八。  
産業 國內山多く、山地七分平地三分の割合なれども、生業の主なるものは農業なり。漁業、商工業之に亞ぐ。又國內鐵山に富めるを以て鐵業に従事するもの少なからず。農業は重信川の流域、高繩中島及以東の沿岸平野、脈川の谷等に行はれ、河岸平地の外は、多く畑地にして、麥、豆、粟、甘藷、三稔等の産あり。農産物は米(九三萬七千石)、麥(五七萬四千石)、温泉越智を主とす。大豆、小豆、粟、玉蜀黍、蕎麥、甘藷(三四一萬貫)、甘藷(二九萬貫)、馬鈴薯(大、中、小、計一萬貫)、芋(一七三萬貫)、棗(一萬貫)、三稔(八七萬貫)、栗(八萬貫)あり。就中、苹果、蜜柑は重要物産なり。農産製造物は砂糖、蠶絲、茶にして、砂糖は宇摩郡鹽絲は喜多郡茶は上浮穴郡を第一とす。牧畜の主なるものは牛にして、各郡何れも一干頭以上を數ふ。馬は現在百萬頭を越ゆ。林業は森林面積三二萬町歩、四國に於て高知縣に亞ぐ。主産地は高知縣に接せる上浮穴、喜多、東字和、北字和、温泉、新居の諸郡にして、杉、扁柏を主とし、用材(六七萬圓)、薪炭材(六二萬圓)あり。水産は八幡濱地方を中心とし、是より以南の海岸、高繩中島の沿岸之に

及中國地方に輸出す。市中には松山、春書及清酒の産あり。宇和島は附近の木綿織物の集散地にして、此地より中國、九州、東海諸地方に輸出せらる。  
交通 鐵道は伊豫鐵道線あり、松山市を中心とし、四方に放出して、道後平野の各地を連絡す。延長二六哩、別に別子、銅山より、東は高松(鐵道)に至るもの、西は四宇和郡八幡濱に至るものを國道とし、其他縣道に、阿波街道、立川街道、新居濱街道、西條街道、生川街道、小松街道、波止街道(以上東部)、土佐街道、今治街道、高濱街道、道後街道、堀江街道、小田街道、長濱街道、若宮街道、以上中部)、宇和島街道、宇和街道、邊邊街道、深浦街道、宿毛街道、吉野街道、以上南部)あり。水運には大坂、宿毛線(大坂より讃岐の高松、多度津を経て、此國の今治、高濱、長濱を経て九州の守江、日出、別府、大分、佐賀、福岡を経て再び國內に入り、川ノ石八幡濱、吉田、宇和島、深浦を経て、土佐の宿毛に至る。大坂内海線(大坂より神戸、高松、多度津を経て、國內の今治、高濱、長濱を経て、九州の別府、大分、佐賀、福岡を経て、土佐の呂を経て、日向の内海に至る。大坂門司線(大坂より神戸、高松、多度津、今治、高濱を経て、門司に至る。宇島高濱線(宇島、吳音、三津濱、高濱を連絡す)を主とし、其他三津濱、高濱より備後の尾道に至るもの、新居濱より讃岐の諸港を経て神

戸、大坂に至るもの、宇和島より九州の佐賀、門司に至るもの等あり。  
教育 小學校尋常四三三尋常高等一四三、高等三三、就學歩合は、百人中男九八、女六八、女九六、六七なり。中學校五、松山、宇和島、大洲、西條、今治、師範學校一(松山)、高等女學校三、郡立一(松山)、和島、今治、大洲、農業學校一(温泉)、道後、後村、商業學校二(松山、八幡濱)、郡立農林學校一(宇摩)、郡立三島、郡立農學校一(新居)、郡中、中萩、郡立農學校二(周桑、郡福岡)、東字和、郡中、郡立水産農學校一(南字和、郡御莊村)。  
行政及財政 租稅負擔額、國稅五〇三萬圓、縣稅一〇九萬圓、市町村稅一、一九萬圓、國稅の主なるもの、地租一、五二萬圓、所得稅三、五五萬圓、營業稅二、二萬圓、酒稅二、四萬圓、鹽稅一、一萬圓、縣入一、三八萬圓、縣出二、二五七、二四、八、市町村吏三七八二人、郡會 松山市(四三三)、温泉郡(三津濱、町(二〇七)、越智郡(今治、町(二六七)、波止、町(二〇七)、新居郡(新居、町(六六)、宇摩郡(川、町(六六)、三島町(三島)、伊豫郡(中、町(五五)、西字和、八幡濱、町(五五)、北字和、郡宇和島町(三三三)。  
名所舊蹟社寺 羅漢洞(上浮穴、郡浮穴、村)和歌の名所、入野、熱田、津津、尾崎、腰折、山城、川之江、西條、府中、今治、高繩、松山、大洲、宇和島、社寺、大山、祇園、國幣、中社、越智郡、大三島、石植神社、縣社、周桑郡

石植山(伊豫神社、縣社、伊豫郡、北伊豫村、伊佐、縣社、溫泉郡、道後、阿沼、美神社、縣社、溫泉郡、和氣神社、郡社、宇和島、大山寺、溫泉郡、和氣村、仙龍寺、宇摩郡、新立村、大寶寺(上浮穴、郡菅生村)、出石寺(喜多郡、豐茂村)、又四國八十八番札所の内、四十番より六十五番まであり。  
沿革 此國は最も早く開けし地にして、伊弉諾伊弉册の二尊、二名州、四國の古名を經營ありし時、愛比賣の名を命じ給へり。又伊豫の名は神代卷に伊豫二名洲を生むと載せ、由來する事古し、古事記に神八井耳命伊與國造の祖とあり。國造本記に據れば、尙小市、怒麻、風速、久味の四國あり、其他御村別(和氣郡、宇和別、二國あり、國郡制置の際之を改更し、和名抄は宇摩、新居、周桑、桑村、越智、濃霧、風早、和氣、温泉、久米、上浮穴、伊豫、喜多、宇和の十四郡を載す。明治十三年、上浮穴を上下に分ち、宇和を東、西南北に四分せるより、總て一八郡あり。二十九年、大に郡の廢合を行ひ、周布、桑村を合して、周桑郡とし、久米、風早、和氣を温泉郡に、野間郡を越智郡に合せ、下浮穴を廢して、一部を温泉郡に、一部を伊豫郡に合せり。景行天皇の時、武甕槌別王を國守に封ぜられ、成務天皇の時、速後上命を國造とし、持統天皇の時、田中法麻呂を伊豫總領國司とす。天慶年中、伊豫權純友叛き、海陸を掠む。源經基、權遠保等其征伐に従事して功あり。經基、伊豫守に任じ、遠保、宇和郡司となる。

一七二







め天然の地形を利用し築造せるものに  
して其堤防は長九三間、門一三あり  
堅固無双の稱ありしが明治元年決潰し  
下流人家流失一千、死亡一千人ありしと  
いふ、明治二十四年の大地震にも大破損  
ありしが、今は復舊し、丹羽東春日井  
三郡中三十二大字の灌漑に供せらる。  
イルカハナ(入鹿島) 壹岐島の南角岬上  
平低なれど不毛なるを以て識別し易し。  
岬邊に御山曾根、郷ノ岩等岩嶺あり。

イルサヤマ(入佐山) 但馬國出石郡の名  
所神美村宮内の此隅山の嶺と云ふ、今  
詳ならず、此山を但馬に在りといふは、八  
雲御抄に出て、澤庵和尚は宗鏡寺を入佐  
山と號せしめたり。あつき弓春のくる  
には隔つとも、いるさの山は月そきやけ  
き(曾丹) 梓弓入佐の山の秋霧のあた  
る毎にや色まさるらん(後撰集)。  
イルノ(入野) 【愛媛】伊豫國宇摩郡土居  
村の大字。愛媛面影云、入野村薄多し、池  
渺たる曠野にして、枯残りたる尾花の風  
になびく冬野の景色殊にあはれ深し古  
歌多し、小男鹿の入野のすゝき初尾花  
いつしか妹が手枕にせん、萬葉集新古今、  
誰か爲に入野の枕それながら、まが  
きのすゝきとふ人もなし(玉生集)しば  
し猶影をとめゆふ月夜、入野の尾花  
まねく秋に、西園寺賞季、按ずるに名寄  
に伊豫國の名所とす。然れども萬葉集の  
歌は代匠記に、丹後國竹野郡納野なるべ  
しと云ひ、冠野なるは山城國乙訓郡入野

世は入東入西の稱あり、其分界は大略入  
間川を以てせしもの、如し、和名抄伊留  
末と訓じ、麻羽、大家、高階、郡家、安刀山  
田、廣瀬、餘戸の八郷を載す。後世廣瀬、安  
刀の二郷は高麗郡に入る。  
【文籍】三芳起請寫本(中島孝昌) 入  
間郡高麗郡捕鷲寫本(新井政毅補)。  
イルマノ(入間野) 武藏國に在りし原野。  
武藏野の西邊にして、入間郡に懸る所を  
いへり、入間川の南邊に其名残る。今多  
く開墾に就く、東鑑建久四年の條に、此地  
にて追鳥狩ありし事を記す。  
イルムケブスブリ(一岳) 【北海】石狩國  
空知郡音江村志内村の境に時つ山、高  
二九七〇尺。  
イルレブシ(樺太) 中舟越の舊稱。  
イロウサキ(石室岬) 伊豆國の最南岬、石  
廊崎にも作り、又伊豆崎ともいふ。遙に  
志摩の大王崎と相對し、遠州灘の東角を  
成す岩崖にして、最も識別し易し、岬の南  
東端に燈臺及望樓の設あり。岬の東北東  
約二里間の海岸附近は、露岩暗礁甚だ多  
く、其最も著明なるを養掛岩といひ、高  
一五〇尺なり。附近は危険にして、近づき難  
し、燈臺は第五等不動紅色、高さ海面上一  
八五尺、晴天光達一〇哩。  
イロオ(色尾) 【静岡】遠江國榛原郡の舊  
地名、初倉村湯日の邊なりといふ。井籠、  
伊呂尾等に作り、又イロウ崎とも呼び、往  
時大井川金谷にて河留の時は、此所より  
涉りて藤枝へ出でしといふ。

神社と延喜式に在るに同じ所にて、入野  
の芒と詠めるも、こゝなるべしといへり。  
●【佐賀】肥前國東松浦郡の村(合三三)。  
イルベ(入部) 【福岡】筑前國早良郡の村  
油山の西麓、早良川の東岸なり。其首邑を  
東入部といふ。郵便局あり。大字重留に  
荒平城址あり(合三三)。  
イルマ(入間) 【埼玉】武藏國入間郡の村  
合三三。  
イルマガワ(入間川) 【埼玉】武藏國入間  
郡の町川越市街の西南、入間川の右岸に  
沿へる一小市街にして、郵便局及鐵道川  
越線の停車場あり、川越驛へ五哩五七鎮  
所澤驛へ六哩三鎮、此地は古武藏國多摩  
郡の國府より上野國への官道に當り、兼  
て鎌倉への要路なり、東鑑に、元暦元年  
志水冠者木曾義仲の子入間川原に於て  
失はるゝ事を記し、觀應三年新田足利の  
二軍此所に戦ひし事あり。新田義貞の北  
條高時を鎌倉に討ちしも、此途を取れり。  
又太平記の小手差原合戦のありしも、此  
所なり。文和二年山田清隆、菅原義興、  
の執事となり、基氏を奉じて此地に下向  
入間川殿といへり。蓋し此地を扼して上  
信地方を控制せるなり。後世國府の古道  
廢せられてより形勢一變す(合三三)。  
イルマガワ(入間川) 武藏國に在る川、水  
源、秩父郡、上流を名栗川といふ。成木川  
を合せ、黒須に至り漸く北向し、黒須川  
の稱あり、川越の北に至り、越邊川に合  
し、急に東折して荒川に入る。水源より荒

川の會流まで約一三里、舟運の利に乏し  
けれども、外秩父山中の木材は多く此水  
によりて流下す。古入間川の稱は尙遙  
に下流今荒川を指したり。蓋し當時  
荒川は熊谷驛の北より、今の東山道を通  
ずる高地の東、今の荒川及綾瀬川は其址  
なりを流れて、未は利根川と合したれ  
ば、入間川とは全く水系を異にしたり。其  
現状に變ぜしは寛永以後の事といひ、文  
明年中僧覺惠の紀行にも、利根入間の二  
川落ち合へる所に、かの古き隅田の渡あ  
りと記せるを見て徴すべし。  
イルマク(入間郡) 【埼玉】武藏國二十  
郡の二、四境、北は比企郡、東は北足立  
郡、南は北多摩郡、西は秩父郡、面積三四  
方里、行政上、川越、所澤、豐岡、入間川坂  
戸、越生、飯能の七町及芳野、古谷、南古谷、  
仙波、高階、福岡、大井、鶴ヶ瀬、南郷、宗岡、  
水谷、三芳、柳瀬、松井、富岡、小手指、三ヶ  
島、宮寺、元狹山、金子、東金子、藤澤、入間、  
堀兼、福原、奥宮、日東、大田、田面、山田、  
三芳野、勝呂、入西、大家、川角、毛呂、山根、  
梅岡、山口、吾妻、名郷、鶴ヶ島、高萩、高麗  
川、高麗、東吾野、霞ヶ関、柏原、水富、元加  
治、加治、浦和、原市、南高麗、植木の五五  
村に分ち、郡役所を川越町に置く。戸數五  
突合三三三。地勢、郡の西偏は秩父山  
脈の餘脈蜿蜒し、入間川高麗川、越邊川  
之より出で、郡の北偏に至り荒川と合す。  
西部の外は概し平曠なり。殊に入間川以  
東の地は、南に多摩郡、東に舊新座郡に

度八所に谷槽を設く、湧出盛なり。俗に  
宇治長者の開きしものと云ふ。鳥取市を  
距る五里半、旅店數あり、浴客一年三萬  
人に上る。延喜式御湯神社あり、宇治神社  
は大字宇治に在り、蓋し武内宿禰を祀る。  
中世以降誤て宇治神を以て武内宿禰を  
祭るものとなし、諸書多く宇治を宇治に  
作る。長者屋敷址は宇治より三町許南の  
山際に在り。岸の高八、九間、廣三反許の  
一丘なり。宇治長者の居りし所といふ。長  
者は山城宇治の人、藤原冬忠の二子冬久  
といひ、其母己を愛し、兒を廢するの意あ  
るを知り、伴り狂して家を出で、此所に匿  
れしと言傳ふ(合三三)。  
【文籍】岩井温泉案内記(宮本二郎明監)。  
イワイ(祝) 【山梨】甲斐國東八代郡の村  
合三三。  
イワイガワ(岩井川) 【宮崎】日向國四白  
杵郡の村(合三三)。  
イワイガワ(岩井川) 陸中國に在る川、水  
源、栗駒火山の北側、新湯温泉に至り、東  
折して本湯温泉場を過ぎ、更に東々南に  
轉じ、第三紀層の地に出で、水山、巖美の  
諸邑を經、是より兩岸に多少の平地を作  
り、一關町を過ぎ、北上川に入る。流程一  
一里、其中流巖美近傍に於ては、流紋岩の  
上を流れて、峽流を成し、兩岸絶壁、風景頗  
る奇なり。  
イワイゲン(磐井郡) 【慶手】陸中國に在  
りし郡國の最南に位し、北上川之を貫流  
す。磐井の名は弘仁三年紀に見ゆるを初

河國志太郡相川村より遠江國榛原郡初  
倉村に渡る大井川の舊渡津、古の東海道  
此所に懸れりといふ。  
イロカワ(色川) 【和歌山】紀伊國東牟婁  
郡の村、那智山の西陰にて、太田川の上流  
とす。郵便局あり、平維盛、熊野浦に入水す  
と稱し、密に此地に隠れ、其子孫土着し、  
小松色川川氏を稱すといふ(合三三)。  
イロノハマ(色ノ濱) 【福井】越前國敦  
賀郡に在る名所、松原村浦底浦の海濱な  
り。しほさるにますをの小貝拾ふとて、  
色の濱といふにやあるらん(西行)。  
「さびしきや須磨にからたる濱の秋」芭  
蕉、浪の間や小貝にまじる秋の聲(同)。  
イロハカワ(伊呂波川) 豐前國宇佐郡に  
在る川、水源、麻生村、天津村に至り海に  
入る。流程四里一三町。  
イワ(岩) 【神奈川】相模國足柄下郡の村。  
合二二八。●【岐阜】美濃國稻葉郡の村(合  
二二八) ●【高知】土佐國香美郡の村、山田  
町の南物部川の西岸にして、長岡郡に接  
す。和名抄石村郷の遺稱とす。村の吉祥寺  
は長曾我部盛親、其臣久武親直をして其  
兄親忠を襲殺せしめし所なり。其墓今猶  
存す(合二二八)。  
イワ(井和) 【愛知】尾張國海東郡に在り  
し村、明治三十九年七寶村に入る。  
イワ(維和) 【熊本】肥後國天草郡の村(合  
二二四)。  
イワイ(岩井) 【千葉】安房國安房郡の村  
合二二四。

互り、所謂古の武藏野にして、茫々たる  
原野なりしが、後世次第に開墾に就きし  
も、尙所々に空閑を見る。地質概し第四  
紀古層にして、唯入間川の下流と荒川の  
沿岸とに第四紀新層の沖積地あり。道路  
は川越を中心とし、東に向へば東京道、川  
越街道、西南に向へば甲州道、北に向へ  
ば日光街道あり。鐵道は川越より起り、南  
大塚、入間川、入野、所澤を經、北多摩郡國  
分寺に至り、中央東線に連絡す。又本郡は  
武藏國の中央を占め、古は鎌倉及武藏國  
府より上州信州に至る官道を通じ、たれ  
ば、國內最も重要な地にして、上州及信  
州より關東に兵を出すもの必ず此所に  
懸り、中世歴大會戦あり、足利氏の時に入  
間川に館を置き、後上杉北條の二氏相繼  
で川越城に據り、關東に雄視せり。本郡は  
埼玉縣下に於て物産の多きこと、北足立  
郡に亞ぎ、殊に茶及織物蠶絲は縣下第一  
に居る。農産物の主なるものは、米、九萬  
圓、麥(一六萬石)、大豆、小豆、粟、蕎麥、甘  
藷、馬鈴薯、蘿蔔、胡蘿蔔、牛蒡、葱、茄子、南  
瓜、胡瓜、漬菜、蕪菁、桑葉、柿、栗、蜜柑、其他  
菓、一八〇萬圓あり。林産物、四〇萬圓、工  
業、蠶絲(一七〇萬圓)、織物(一五四萬  
圓)、蠶細工製茶(二五萬圓)、酒、醬油、米糠  
肥料なり。今の入間郡は明治二十九年  
舊入間郡、高麗全部及比企郡の越邊川以  
南(植木村)を合せたるものにて、其舊城  
は高麗郡の爲に中央を挾せられ、形狀  
恰も瓢の如く、二郡の觀をなせり。因て中

イロオ(イワタシ) 伊呂波(静岡) 駿  
河國志太郡相川村より遠江國榛原郡初  
倉村に渡る大井川の舊渡津、古の東海道  
此所に懸れりといふ。  
イロカワ(色川) 【和歌山】紀伊國東牟婁  
郡の村、那智山の西陰にて、太田川の上流  
とす。郵便局あり、平維盛、熊野浦に入水す  
と稱し、密に此地に隠れ、其子孫土着し、  
小松色川川氏を稱すといふ(合三三)。  
イロノハマ(色ノ濱) 【福井】越前國敦  
賀郡に在る名所、松原村浦底浦の海濱な  
り。しほさるにますをの小貝拾ふとて、  
色の濱といふにやあるらん(西行)。  
「さびしきや須磨にからたる濱の秋」芭  
蕉、浪の間や小貝にまじる秋の聲(同)。  
イロハカワ(伊呂波川) 豐前國宇佐郡に  
在る川、水源、麻生村、天津村に至り海に  
入る。流程四里一三町。  
イワ(岩) 【神奈川】相模國足柄下郡の村。  
合二二八。●【岐阜】美濃國稻葉郡の村(合  
二二八) ●【高知】土佐國香美郡の村、山田  
町の南物部川の西岸にして、長岡郡に接  
す。和名抄石村郷の遺稱とす。村の吉祥寺  
は長曾我部盛親、其臣久武親直をして其  
兄親忠を襲殺せしめし所なり。其墓今猶  
存す(合二二八)。  
イワ(井和) 【愛知】尾張國海東郡に在り  
し村、明治三十九年七寶村に入る。  
イワ(維和) 【熊本】肥後國天草郡の村(合  
二二四)。  
イワイ(岩井) 【千葉】安房國安房郡の村  
合二二四。

イロオ(イワタシ) 伊呂波(静岡) 駿  
河國志太郡相川村より遠江國榛原郡初  
倉村に渡る大井川の舊渡津、古の東海道  
此所に懸れりといふ。  
イロカワ(色川) 【和歌山】紀伊國東牟婁  
郡の村、那智山の西陰にて、太田川の上流  
とす。郵便局あり、平維盛、熊野浦に入水す  
と稱し、密に此地に隠れ、其子孫土着し、  
小松色川川氏を稱すといふ(合三三)。  
イロノハマ(色ノ濱) 【福井】越前國敦  
賀郡に在る名所、松原村浦底浦の海濱な  
り。しほさるにますをの小貝拾ふとて、  
色の濱といふにやあるらん(西行)。  
「さびしきや須磨にからたる濱の秋」芭  
蕉、浪の間や小貝にまじる秋の聲(同)。  
イロハカワ(伊呂波川) 豐前國宇佐郡に  
在る川、水源、麻生村、天津村に至り海に  
入る。流程四里一三町。  
イワ(岩) 【神奈川】相模國足柄下郡の村。  
合二二八。●【岐阜】美濃國稻葉郡の村(合  
二二八) ●【高知】土佐國香美郡の村、山田  
町の南物部川の西岸にして、長岡郡に接  
す。和名抄石村郷の遺稱とす。村の吉祥寺  
は長曾我部盛親、其臣久武親直をして其  
兄親忠を襲殺せしめし所なり。其墓今猶  
存す(合二二八)。  
イワ(井和) 【愛知】尾張國海東郡に在り  
し村、明治三十九年七寶村に入る。  
イワ(維和) 【熊本】肥後國天草郡の村(合  
二二四)。  
イワイ(岩井) 【千葉】安房國安房郡の村  
合二二四。

イロオ(イワタシ) 伊呂波(静岡) 駿  
河國志太郡相川村より遠江國榛原郡初  
倉村に渡る大井川の舊渡津、古の東海道  
此所に懸れりといふ。  
イロカワ(色川) 【和歌山】紀伊國東牟婁  
郡の村、那智山の西陰にて、太田川の上流  
とす。郵便局あり、平維盛、熊野浦に入水す  
と稱し、密に此地に隠れ、其子孫土着し、  
小松色川川氏を稱すといふ(合三三)。  
イロノハマ(色ノ濱) 【福井】越前國敦  
賀郡に在る名所、松原村浦底浦の海濱な  
り。しほさるにますをの小貝拾ふとて、  
色の濱といふにやあるらん(西行)。  
「さびしきや須磨にからたる濱の秋」芭  
蕉、浪の間や小貝にまじる秋の聲(同)。  
イロハカワ(伊呂波川) 豐前國宇佐郡に  
在る川、水源、麻生村、天津村に至り海に  
入る。流程四里一三町。  
イワ(岩) 【神奈川】相模國足柄下郡の村。  
合二二八。●【岐阜】美濃國稻葉郡の村(合  
二二八) ●【高知】土佐國香美郡の村、山田  
町の南物部川の西岸にして、長岡郡に接  
す。和名抄石村郷の遺稱とす。村の吉祥寺  
は長曾我部盛親、其臣久武親直をして其  
兄親忠を襲殺せしめし所なり。其墓今猶  
存す(合二二八)。  
イワ(井和) 【愛知】尾張國海東郡に在り  
し村、明治三十九年七寶村に入る。  
イワ(維和) 【熊本】肥後國天草郡の村(合  
二二四)。  
イワイ(岩井) 【千葉】安房國安房郡の村  
合二二四。

イロオ(イワタシ) 伊呂波(静岡) 駿  
河國志太郡相川村より遠江國榛原郡初  
倉村に渡る大井川の舊渡津、古の東海道  
此所に懸れりといふ。  
イロカワ(色川) 【和歌山】紀伊國東牟婁  
郡の村、那智山の西陰にて、太田川の上流  
とす。郵便局あり、平維盛、熊野浦に入水す  
と稱し、密に此地に隠れ、其子孫土着し、  
小松色川川氏を稱すといふ(合三三)。  
イロノハマ(色ノ濱) 【福井】越前國敦  
賀郡に在る名所、松原村浦底浦の海濱な  
り。しほさるにますをの小貝拾ふとて、  
色の濱といふにやあるらん(西行)。  
「さびしきや須磨にからたる濱の秋」芭  
蕉、浪の間や小貝にまじる秋の聲(同)。  
イロハカワ(伊呂波川) 豐前國宇佐郡に  
在る川、水源、麻生村、天津村に至り海に  
入る。流程四里一三町。  
イワ(岩) 【神奈川】相模國足柄下郡の村。  
合二二八。●【岐阜】美濃國稻葉郡の村(合  
二二八) ●【高知】土佐國香美郡の村、山田  
町の南物部川の西岸にして、長岡郡に接  
す。和名抄石村郷の遺稱とす。村の吉祥寺  
は長曾我部盛親、其臣久武親直をして其  
兄親忠を襲殺せしめし所なり。其墓今猶  
存す(合二二八)。  
イワ(井和) 【愛知】尾張國海東郡に在り  
し村、明治三十九年七寶村に入る。  
イワ(維和) 【熊本】肥後國天草郡の村(合  
二二四)。  
イワイ(岩井) 【千葉】安房國安房郡の村  
合二二四。

イロオ(イワタシ) 伊呂波(静岡) 駿  
河國志太郡相川村より遠江國榛原郡初  
倉村に渡る大井川の舊渡津、古の東海道  
此所に懸れりといふ。  
イロカワ(色川) 【和歌山】紀伊國東牟婁  
郡の村、那智山の西陰にて、太田川の上流  
とす。郵便局あり、平維盛、熊野浦に入水す  
と稱し、密に此地に隠れ、其子孫土着し、  
小松色川川氏を稱すといふ(合三三)。  
イロノハマ(色ノ濱) 【福井】越前國敦  
賀郡に在る名所、松原村浦底浦の海濱な  
り。しほさるにますをの小貝拾ふとて、  
色の濱といふにやあるらん(西行)。  
「さびしきや須磨にからたる濱の秋」芭  
蕉、浪の間や小貝にまじる秋の聲(同)。  
イロハカワ(伊呂波川) 豐前國宇佐郡に  
在る川、水源、麻生村、天津村に至り海に  
入る。流程四里一三町。  
イワ(岩) 【神奈川】相模國足柄下郡の村。  
合二二八。●【岐阜】美濃國稻葉郡の村(合  
二二八) ●【高知】土佐國香美郡の村、山田  
町の南物部川の西岸にして、長岡郡に接  
す。和名抄石村郷の遺稱とす。村の吉祥寺  
は長曾我部盛親、其臣久武親直をして其  
兄親忠を襲殺せしめし所なり。其墓今猶  
存す(合二二八)。  
イワ(井和) 【愛知】尾張國海東郡に在り  
し村、明治三十九年七寶村に入る。  
イワ(維和) 【熊本】肥後國天草郡の村(合  
二二四)。  
イワイ(岩井) 【千葉】安房國安房郡の村  
合二二四。

イロオ(イワタシ) 伊呂波(静岡) 駿  
河國志太郡相川村より遠江國榛原郡初  
倉村に渡る大井川の舊渡津、古の東海道  
此所に懸れりといふ。  
イロカワ(色川) 【和歌山】紀伊國東牟婁  
郡の村、那智山の西陰にて、太田川の上流  
とす。郵便局あり、平維盛、熊野浦に入水す  
と稱し、密に此地に隠れ、其子孫土着し、  
小松色川川氏を稱すといふ(合三三)。  
イロノハマ(色ノ濱) 【福井】越前國敦  
賀郡に在る名所、松原村浦底浦の海濱な  
り。しほさるにますをの小貝拾ふとて、  
色の濱といふにやあるらん(西行)。  
「さびしきや須磨にからたる濱の秋」芭  
蕉、浪の間や小貝にまじる秋の聲(同)。  
イロハカワ(伊呂波川) 豐前國宇佐郡に  
在る川、水源、麻生村、天津村に至り海に  
入る。流程四里一三町。  
イワ(岩) 【神奈川】相模國足柄下郡の村。  
合二二八。●【岐阜】美濃國稻葉郡の村(合  
二二八) ●【高知】土佐國香美郡の村、山田  
町の南物部川の西岸にして、長岡郡に接  
す。和名抄石村郷の遺稱とす。村の吉祥寺  
は長曾我部盛親、其臣久武親直をして其  
兄親忠を襲殺せしめし所なり。其墓今猶  
存す(合二二八)。  
イワ(井和) 【愛知】尾張國海東郡に在り  
し村、明治三十九年七寶村に入る。  
イワ(維和) 【熊本】肥後國天草郡の村(合  
二二四)。  
イワイ(岩井) 【千葉】安房國安房郡の村  
合二二四。

イロオ(イワタシ) 伊呂波(静岡) 駿  
河國志太郡相川村より遠江國榛原郡初  
倉村に渡る大井川の舊渡津、古の東海道  
此所に懸れりといふ。  
イロカワ(色川) 【和歌山】紀伊國東牟婁  
郡の村、那智山の西陰にて、太田川の上流  
とす。郵便局あり、平維盛、熊野浦に入水す  
と稱し、密に此地に隠れ、其子孫土着し、  
小松色川川氏を稱すといふ(合三三)。  
イロノハマ(色ノ濱) 【福井】越前國敦  
賀郡に在る名所、松原村浦底浦の海濱な  
り。しほさるにますをの小貝拾ふとて、  
色の濱といふにやあるらん(西行)。  
「さびしきや須磨にからたる濱の秋」芭  
蕉、浪の間や小貝にまじる秋の聲(同)。  
イロハカワ(伊呂波川) 豐前國宇佐郡に  
在る川、水源、麻生村、天津村に至り海に  
入る。流程四里一三町。  
イワ(岩) 【神奈川】相模國足柄下郡の村。  
合二二八。●【岐阜】美濃國稻葉郡の村(合  
二二八) ●【高知】土佐國香美郡の村、山田  
町の南物部川の西岸にして、長岡郡に接  
す。和名抄石村郷の遺稱とす。村の吉祥寺  
は長曾我部盛親、其臣久武親直をして其  
兄親忠を襲殺せしめし所なり。其墓今猶  
存す(合二二八)。  
イワ(井和) 【愛知】尾張國海東郡に在り  
し村、明治三十九年七寶村に入る。  
イワ(維和) 【熊本】肥後國天草郡の村(合  
二二四)。  
イワイ(岩井) 【千葉】安房國安房郡の村  
合二二四。

イロオ(イワタシ) 伊呂波(静岡) 駿  
河國志太郡相川村より遠江國榛原郡初  
倉村に渡る大井川の舊渡津、古の東海道  
此所に懸れりといふ。  
イロカワ(色川) 【和歌山】紀伊國東牟婁  
郡の村、那智山の西陰にて、太田川の上流  
とす。郵便局あり、平維盛、熊野浦に入水す  
と稱し、密に此地に隠れ、其子孫土着し、  
小松色川川氏を稱すといふ(合三三)。  
イロノハマ(色ノ濱) 【福井】越前國敦  
賀郡に在る名所、松原村浦底浦の海濱な  
り。しほさるにますをの小貝拾ふとて、  
色の濱といふにやあるらん(西行)。  
「さびしきや須磨にからたる濱の秋」芭  
蕉、浪の間や小貝にまじる秋の聲(同)。  
イロハカワ(伊呂波川) 豐前國宇佐郡に  
在る川、水源、麻生村、天津村に至り海に  
入る。流程四里一三町。  
イワ(岩) 【神奈川】相模國足柄下郡の村。  
合二二八。●【岐阜】美濃國稻葉郡の村(合  
二二八) ●【高知】土佐國香美郡の村、山田  
町の南物部川の西岸にして、長岡郡に接  
す。和名抄石村郷の遺稱とす。村の吉祥寺  
は長曾我部盛親、其臣久武親直をして其  
兄親忠を襲殺せしめし所なり。其墓今猶  
存す(合二二八)。  
イワ(井和) 【愛知】尾張國海東郡に在り  
し村、明治三十九年七寶村に入る。  
イワ(維和) 【熊本】肥後國天草郡の村(合  
二二四)。  
イワイ(岩井) 【千葉】安房國安房郡の村  
合二二四。

イロオ(イワタシ) 伊呂波(静岡) 駿  
河國志太郡相川村より遠江國榛原郡初  
倉村に渡る大井川の舊渡津、古の東海道  
此所に懸れりといふ。  
イロカワ(色川) 【和歌山】紀伊國東牟婁  
郡の村、那智山の西陰にて、太田川の上流  
とす。郵便局あり、平維盛、熊野浦に入水す  
と稱し、密に此地に隠れ、其子孫土着し、  
小松色川川氏を稱すといふ(合三三)。  
イロノハマ(色ノ濱) 【福井】越前國敦  
賀郡に在る名所、松原村浦底浦の海濱な  
り。しほさるにますをの小貝拾ふとて、  
色の濱といふにやあるらん(西行)。  
「さびしきや須磨にからたる濱の秋」芭  
蕉、浪の間や小貝にまじる秋の聲(同)。  
イロハカワ(伊呂波川) 豐前國宇佐郡に  
在る川、水源、麻生村、天津村に至り海に  
入る。流程四里一三町。  
イワ(岩) 【神奈川】相模國足柄下郡の村。  
合二二八。●【岐阜】美濃國稻葉郡の村(合  
二二八) ●【高知】土佐國香美郡の村、山田  
町の南物部川の西岸にして、長岡郡に接  
す。和名抄石村郷の遺稱とす。村の吉祥寺  
は長曾我部盛親、其臣久武親直をして其  
兄親忠を襲殺せしめし所なり。其墓今猶  
存す(合二二八)。  
イワ(井和) 【愛知】尾張國海東郡に在り  
し村、明治三十九年七寶村に入る。  
イワ(維和) 【熊本】肥後國天草郡の村(合  
二二四)。  
イワイ(岩井) 【千葉】安房國安房郡の村  
合二二四。

イロオ(イワタシ) 伊呂波(静岡) 駿  
河國志太郡相川村より遠江國榛原郡初  
倉村に渡る大井川の舊渡津、古の東海道  
此所に懸れりといふ。  
イロカワ(色川) 【和歌山】紀伊國東牟婁  
郡の村、那智山の西陰にて、太田川の上流  
とす。郵便局あり、平維盛、熊野浦に入水す  
と稱し、密に此地に隠れ、其子孫土着し、  
小松色川川氏を稱すといふ(合三三)。  
イロノハマ(色ノ濱) 【福井】越前國敦  
賀郡に在る名所、松原村浦底浦の海濱な  
り。しほさるにますをの小貝拾ふとて、  
色の濱といふにやあるらん(西行)。  
「さびしきや須磨にからたる濱の秋」芭  
蕉、浪の間や小貝にまじる秋の聲(同)。  
イロハカワ(伊呂波川) 豐前國宇佐郡に  
在る川、水源、麻生村、天津村に至り海に  
入る。流程四里一三町。  
イワ(岩) 【神奈川】相模國足柄下郡の村。  
合二二八。●【岐阜】美濃國稻葉郡の村(合  
二二八) ●【高知】土佐國香美郡の村、山田  
町の南物部川の西岸にして、長岡郡に接  
す。和名抄石村郷の遺稱とす。村の吉祥寺  
は長曾我部盛親、其臣久武親直をして其  
兄親忠を襲殺せしめし所なり。其墓今猶  
存す(合二二八)。  
イワ(井和) 【愛知】尾張國海東郡に在り  
し村、明治三十九年七寶村に入る。  
イワ(維和) 【熊本】肥後國天草郡の村(合  
二二四)。  
イワイ(岩井) 【千葉】安房國安房郡の村  
合二二四。

イロオ(イワタシ) 伊呂波(静岡) 駿  
河國志太郡相川村より遠江國榛原郡初  
倉村に渡る大井川の舊渡津、古の東海道  
此所に懸れりといふ。  
イロカワ(色川) 【和歌山】紀伊國東牟婁  
郡の村、那智山の西陰にて、太田川の上流  
とす。郵便局あり、平維盛、熊野浦に入水す  
と稱し、密に此地に隠れ、其子孫土着し、  
小松色川川氏を稱すといふ(合三三)。  
イロノハマ(色ノ濱) 【福井】越前國敦  
賀郡に在る名所、松原村浦底浦の海濱な  
り。しほさるにますをの小貝拾ふとて、  
色の濱といふにやあるらん(西行)。  
「さびしきや須磨にからたる濱の秋」芭  
蕉、浪の間や小貝にまじる秋の聲(同)。  
イロハカワ(伊呂波川) 豐前國宇佐郡に  
在る川、水源、麻生村、天津村に至り海に  
入る。流程四里一三町。  
イワ(岩) 【神奈川】相模國足柄下郡の村。  
合二二八。●【岐阜】美濃國稻葉郡の村(合  
二二八) ●【高知】土佐國香美郡の村、山田  
町の南物部川の西岸にして、長岡郡に接  
す。和名抄石村郷の遺稱とす。村の吉祥寺  
は長曾我部盛親、其臣久武親直をして其  
兄親忠を襲殺せしめし所なり。其墓今猶  
存す(合二二八)。  
イワ(井和) 【愛知】尾張國海東郡に在り  
し村、明治三十九年七寶村に入る。  
イワ(維和) 【熊本】肥後國天草郡の村(合  
二二四)。  
イワイ(岩井) 【千葉】安房國安房郡の村  
合二二四。

イロオ(イワタシ) 伊呂波(静岡) 駿  
河國志太郡相川村より遠江國榛原郡初  
倉村に渡る大井川の舊渡津、古の東海道  
此所に懸れりといふ。  
イロカワ(色川) 【和歌山】紀伊國東牟婁  
郡の村、那智山の西陰にて、太田川の上流  
とす。郵便局あり、平維盛、熊野浦に入水す  
と稱し、密に此地に隠れ、其子孫土着し、  
小松色川川氏を稱すといふ(合三三)。  
イロノハマ(色ノ濱) 【福井】越前國敦  
賀郡に在る名所、松原村浦底浦の海濱な  
り。しほさるにますをの小貝拾ふとて、  
色の濱といふにやあるらん(西行)。  
「さびしきや須磨にからたる濱の秋」芭  
蕉、浪の間や小貝にまじる秋の聲(同)。  
イロハカワ(伊呂波川) 豐前國宇佐郡に  
在る川、水源、麻生村、天津村に至り海に  
入る。流程四里一三町。  
イワ(岩) 【神奈川】相模國足柄下郡の村。  
合二二八。●【岐阜】美濃國稻葉郡の村(合  
二二八) ●【高知】土佐國香美郡の村、山田  
町の南物部川の西岸にして、長岡郡に接  
す。和名抄石村郷の遺稱とす。村の吉祥寺  
は長曾我部盛親、其臣久武親直をして其  
兄親忠を襲殺せしめし所なり。其墓今猶  
存す(合二二八)。  
イワ(井和) 【愛知】尾張國海東郡に在り  
し村、明治三十九年七寶村に入る。  
イワ(維和) 【熊本】肥後國天草郡の村(合  
二二四)。  
イワイ(岩井) 【千葉】安房國安房郡の村  
合二二四。

イロオ(イワタシ) 伊呂波(静岡) 駿  
河國志太郡相川村より遠江國榛原郡初  
倉村に渡る大井川の舊渡津、古の東海道  
此所に懸れりといふ。  
イロカワ(色川) 【和歌山】紀伊國東牟婁  
郡の村、那智山の西陰にて、太田川の上流  
とす。郵便局あり、平維盛、熊野浦に入水す  
と稱し、密に此地に隠れ、其子孫土着し、  
小松色川川氏を稱すといふ(合三三)。  
イロノハマ(色ノ濱) 【福井】越前國敦  
賀郡に在る名所、松原村浦底浦の海濱な  
り。しほさるにますをの小貝拾ふとて、  
色の濱といふにやあるらん(西行)。  
「さびしきや須磨にからたる濱の秋」芭  
蕉、浪の間や小貝にまじる秋の聲(同)。  
イロハカワ(伊呂波川) 豐前國宇佐郡に  
在る川、水源、麻生村、天津村に至り海に  
入る。流程四里一三町。  
イワ(岩) 【神奈川】相模國足柄下郡の村。  
合二二八。●【岐阜】美濃國稻葉郡の村(合  
二二八) ●【高知】土佐國香美郡の村、山田  
町の南物部川の西岸にして、長岡郡に接  
す。和名抄石村郷の遺稱とす。村の吉祥寺  
は長曾我部盛親、其臣久武親直をして其  
兄親忠を襲殺せしめし所なり。其墓今猶  
存す(合二二八)。  
イワ(井和) 【愛知】尾張國海東郡に在り  
し村、明治三十九年七寶村に入る。  
イワ(維和) 【熊本】肥後國天草郡の村(合  
二二四)。  
イワイ(岩井) 【千葉】安房國安房郡の村  
合二二四。

イロオ(イワタシ) 伊呂波(静岡) 駿  
河國志太郡相川村より遠江國榛原郡初  
倉村に渡る大井川の舊渡津、古の東海道  
此所に懸れりといふ。  
イロカワ(色川) 【和歌山】紀伊國東牟婁  
郡の村、那智山の西陰にて、太田川の上流  
とす。郵便局あり、平維盛、熊野浦に入水す  
と稱し、密に此地に隠れ、其子孫土着し、  
小松色川川氏を稱すといふ(合三三)。  
イロノハマ(色ノ濱) 【福井】越前國敦  
賀郡に在る名所、松原村浦底浦の海濱な  
り。しほさるにますをの小貝拾ふとて、  
色の濱といふにやあるらん(西行)。  
「さびしきや須磨にからたる濱の秋」芭  
蕉、浪の間や小貝にまじる秋の聲(同)。  
イロハカワ(伊呂波川) 豐前國宇佐郡に  
在る川、水源、麻生村、天津村に至り海に  
入る。流程四里一三町。  
イワ(岩) 【神奈川】相模國足柄下郡の村。  
合二二八。●【岐阜







脈の東西兩側は幾多の溪流ありて、分水嶺と直角を成せる山脊數多を作れども、皆大ならず。此中稍著しきものは、關ヶ井岳(二七六二尺)蓬田山(二六四〇尺)三株山(二七六二尺)蓬田山(三〇七五尺)矢大神山(三七四二尺)大瀧根山(三七〇七尺)檜山(三八一尺)五十人山(二八一八尺)移ヶ岳(三二五〇尺)等南より順次連互して磐城岩代の界なる天王山(三三三七尺)及び、公太石山、放鹿山、木下龍木山となり、靈山(二八六四尺)に至り、其北門松山の北に於て、阿武隈川の横斷する所となる。門松山の東には一支脈ありて、伊具互理の郡界を成し、鹿嶺山(三三三三尺)五社壇山等あり。國の西北隅に藏王火山あり。陸前羽後に跨り、國內第一の高山なり。南北二座ありて、双子火山の狀を成し、北なるは熊野岳(六四八一尺)馬ノ脊(刈田嶽)六〇三二尺、其火口壁を成し、中央火口丘なる五色山、爆裂火口湖なる御釜(藏王沼)濁火口湖あり。此山明治二十八年爆裂せし事あり。南なるは前鳥帽子(四七九八尺)後鳥帽子(五三三六尺)北屏風(五四五八尺)南屏風(御前岳)其火口壁を成し、其中に馬ノ神水引入道の二中央火口丘あり。南藏王の東に、大刈田嶽(二九七〇尺)と呼ぶ一小火山あり。此火山の附近所々に温泉湧出す。其著しきは遠刈田、鎌先等とす。陸前界には青根峯々の諸峯あり。

故に河流は奔放して外洋に入り、大なるものなし。稍著しきを鮫川、夏井川、木戸川、諸戸川、小瀧川、新田川、眞野川、宇多川とす。片麻岩、晶質岩、花崗岩の臺地を経て、第三紀層の丘陵地に出で、兩岸に狭長なる第四紀新層の地を開く。阿武隈山脈の西には阿武隈川、四白河郡に發し、北して磐城岩代の界を成し、岩代國に入り、阿武隈山脈を横斷して再び國內に入り、伊具郡に第四紀新層の平原を造り、刈田郡の水を集めたる白石川を合せ、磐城陸前界を成し、外洋に注ぐ。此川上流には肥沃なる平原を成せども、其大部は岩代國に屬し、磐城に於ては白河附近と伊具郡角田邊とに少許の平野あるのみ。阿武隈山脈の一部多賀山脈と八瀧山脈との間に一縱谷を成せるを久慈川といひ、南走して常陸國に入る。此川一の地を線を示すものなりといふ。

一度至一三度平均一五度内外なれど、阿武隈谷地方は最高三五度乃至三六度、最低零以下一五度乃至一七度、平均一三度乃至一四度なり。但し刈田地方は略海岸地方に等しきが如し、霜は概ね十一月初旬より四月初旬までとし、雪は十一月下旬より四月上旬に至る。風は冬季は北西夏季は南風多し。

穀類に製す。四郡共に糠田あり。相馬郡最も多し。林産物一五八萬圓、丸及角材を出すは石城郡、挽材及木炭は東白河郡を第一とす。鑛産は石炭を第一とし、石城郡には小野田入山、内郷等十數の炭山ありて、採掘高一五、四一七二萬斤。無煙炭一七八萬斤、煙炭二六九七萬斤を出し、別に石城郡に入草松山の二銅山ありて、銅一萬圓を出す。工業品は織物(一〇萬圓)、殊に羽二重を第一とし、相馬郡を主産地とす。其他酒、醬油、陶磁器(相馬燒最も著る)和紙、煉瓦(石城郡、野田田、鹽田)あり。其他白石の紙布三春の菅笠は古來有名なり(前掲)。

郡山岩代國間には別に馬車鐵道の設あり、水路は海岸に真港なきを以て、船舶の出入多からず。河流は阿武隈川の下流約二〇里舟楫の便あり。

白河を南限とし、北は津輕に及びたり。源朝朝之を定し、功臣に其地を分與せしが、國內に領を得しもの、磐城郡に岩城氏あり、南北朝時代に至りては、白河に結城氏、相馬に相馬氏、田村に田村氏あり。北畠顯家の義親王を奉じて、奥羽を經營するや、結城氏は南朝に屬し、最も力を盡したり。戰國の時に至り、磐城平に磐城氏、白河に結城氏、石川に石川氏、田村に田村氏、相馬に相馬氏、刈田に刈田氏あり。是等の諸氏或は常陸の佐竹氏に結び、或は會津の菅名氏に頼り、伊達氏と相争ひしが、伊達政宗次第に之を侵略して、全國殆ど其勢力の下に在り。豊臣秀吉伊達氏の侵地を收むるに及び、刈田伊具互理は舊によりて、其領内とし、相馬岩城兩氏は舊領を購はり、白川石川諸氏は土地を沒收せられ、關ヶ原役後、相馬の二氏封を讓はれ、磐城平を鳥居氏(十萬石)に賜はる。後、慶應義塾あり。徳川幕末に至りては、磐城平安藤氏三萬石、泉本多氏二萬石、湯長谷(内藤氏)一萬五千石、中村(相馬氏)六萬石、白河(阿部氏)十萬石、三春(秋田氏)五萬石、守山(松平氏)二萬石、棚倉戸田氏、五萬石あり。刈田伊具互理は仙臺領たること故の如し。明治維新廢藩置縣、四年平縣後、磐前縣を置き、刈田以下三郡の外、内悉く其所管たりしが、九年廢して之を福島縣に合せ、刈田伊具互理は宮城縣に合せ、以て今日に及びり。

城風土記國書刊行會、續々詳書類從、磐城略記、寫本三卷、大須賀履校補、磐城國南部北土性國地質調査所、イワキヤマ(磐城山) 駿河國に在る薩摩嶺の舊稱、イワキヤマ(岩木山) 陸奥國に在る火山、津輕平原の西南に在り、中津輕、西津輕二郡に跨り、弘前市の西約三里に峙つ、之を東より望むときは、美麗なる圓錐形を成し、外形富士に似たるを以て津輕富士の稱あり。但し山の西北は第三紀層丘陵の爲に裾野の發達を妨げられ、且つ爆裂火口及火口湖等により、山體を損ざれしを以て、體々澤邊より望めば、標式的火山の相を缺くを見る。西南側は傾斜概ね滑かにして、急に山頂に近き所は三五度、東北側は二二度を越へず。是れ外輪山の西南に偏して第二次の噴出起りに因る。山頂は不規則にして三峯より成る。北を巖木山(巖鬼山)又赤倉岳といふ。南を鳥海山、中央を岩木山といふ。巖木山は即ち外輪山の一部にして、山背孤狀を成し、若木山の北東兩面を擁して延互し、南に高く、北に低し。山頂二三の小隆起點あり。海拔各四七四二尺、四五三四尺、四二九六尺あり。其西北は大鳴澤の火口湖に限られ、南方は中央火口丘(岩木山)に被はる。其内側の傾斜は急に、四〇度に達すれども、外側は二〇度内外に過ぎず。火口の内外は今矮樹叢茂し、岩石の露出多からず。熔岩は七流ありて、堅實緻密なる

復雜石富士其大部を占む。岩木山は即ち中央火口丘にして、海拔五二四〇尺、完全なる圓錐形を成し、山頂には噴火口なく、全山一種の熔岩より成る塊狀火山なり。此山は舊火口の南方に偏して噴出したるものにて、舊火口の大部を埋め、外輪山の南壁を破壊し、其熔岩は西南に流下し、高距三三〇〇尺の所に至り、山腹は爆發作用盛に起り、多少原形を損じ、鳥ノ海の爆裂火口、其西南腹に生じ、鳥海山其西に出來たり。鳥海山は岩木山より低きこと四五五尺、爆裂火口の最高縁より高きこと僅に五〇〇尺、岩木山には今爆裂火口と認めべきもの約十一あり。此中外輪に在るものは、柴柄ノ倉荒川ノ倉倉原湯ノ澤、西法寺、赤倉等に於て、捕鯨狀又は馬蹄形の凹地となりて存す。就中赤倉は外輪山の東北に在り、徑一六五尺深三三〇尺に達し、赤倉澤の深谷是より發す。中央火口丘に屬するものは、種蒔苗代、鳥ノ海、赤澤等に於て、種蒔苗代は山頂より四九五尺の所に在りて、現今其底に水を湛へ、其西に鳥ノ海爆裂火口あり。山麓は傾斜次第に緩漫となり、終に廣漠たる裾野を成す。只然ヶ岳の一峯、岩木山の西方に峙ち、西邊より擡げあり、是れ流紋岩より成れる岩頭なり。裾野は南、東、東北の三方に著しく、西方は第三紀層の丘陵の爲に充分の發達を見ず。裾野の終端に平坦なる臺地を作り、所に圓錐形の小隆起あり。是は泥流の終